



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。

CROWN



イラスト目次

イラストから検索

安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

1

FC システム

燃料電池車の特徴・注意など

(主な項目：FC システム)

2

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方

(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

3

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整

(主な項目：キー、ドア、シート、パワーウィンドウ)

4

運転

運転に必要な操作やアドバイス

(主な項目：FC システムの始動のしかた、燃料充てんのしかた)

5

室内装備・機能

室内装備の使い方など

(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

6

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

7

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

(主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

8

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報

(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

9

症状から検索

音から検索

さくいん

燃料電池車で検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	12
検索のしかた	13
イラスト目次	14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	32
ポップアップフード	38

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	41
チャイルドシート	42

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	55
オートアラーム	56

2 FCシステム

2-1. 燃料電池車について

燃料電池車の特徴	60
燃料電池車の注意	64
燃料電池車運転のアドバイス	73

2-2. DC 外部給電システムについて

DC 外部給電システム	75
正常に給電できないときは	83

3 走行に関する情報表示

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	88
計器類	93
マルチインフォメーションディスプレイ	98
ヘッドアップディスプレイ	108

エネルギーモニター／燃費画面／エア ピュリフィケーション画面	112
---	-----

4 運転する前に

4-1. キー

キー	118
デジタルキー	122

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア	125
トランク	131
スマートエントリー&スタートシステム	138

4-3. シートの調整

フロントシート	144
パワーリヤシート	145
ヘッドレスト	148

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	152
デジタルインナーミラー	153
ドアミラー	162

4-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ	164
----------------	-----

4-6. お好み設定

パワーイージーアクセスシステム／ポ ジションメモリー／メモリーコール 機能	167
マイセッティング	170

5 運転

5-1. 運転にあたって

運転にあたって	175
荷物を積むときの注意	181

5-2. 運転のしかた

パワースイッチ	183
シフトポジション	188
方向指示レバー	193
パーキングブレーキ	194
ブレーキホールド	197

ウォーターリリース (H ₂ O スイッチ)	199
-----------------------------------	-----

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	201
AHS (アダプティブハイビームシステム)	204
AHB (オートマチックハイビーム)	207
リヤフォグランプ	210
ワイパー&ウォッシャー	211

5-4. 燃料充てんのしかた

燃料充てん口 (補給口) の開け方	215
-------------------	-----

5-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する (Toyota Safety Sense / アドバ ンスト ドライブ [渋滞時支援] 装 着車)	219
Toyota Safety Sense	222
ドライバーモニター	230
PCS (プリクラッシュセーフティ)	232
LTA (レーントレーシングアシスト)	241
LCA (レーンチェンジアシスト)	246
LDA (レーンディパーチャーアラ ート)	250
PDA (プロアクティブドライビング アシスト)	255
FCTA (フロントクロストラフィック アラート)	260
発進遅れ告知機能	262
RSA (ロードサインアシスト)	264
レーダークルーズコントロール	267
クルーズコントロール	276
ドライバー異常時対応システム	279
アドバンスド ドライブ (渋滞時支援)	282
ITS Connect	286
BSM (ブラインドスポットモニター)	292
後方車両接近告知	298

周辺車両接近時サポート (録画機能、 通報提案機能)	300
後方車両への接近警報	304
セカンダリーコリジョンブレーキ (停 車中後突対応)	306
安心降車アシスト	308
クリアランスソナー	312
RCTA (リヤクロストラフィックア ラート)	319
RCD (リヤカメラディテクション)	324
PKSB (パーキングサポートブレ ーキ)	328
パーキングサポートブレーキ (前後方 静止物 / 周囲静止物)	332
パーキングサポートブレーキ (後方接 近車両)	335
パーキングサポートブレーキ (後方歩 行者)	337
プラスサポート (販売店装着オプショ ン)	338
トヨタチームメイト アドバンス トパーク	343
ドライブモードセレクトスイッチ	376
スノーモード	377
運転を補助する装置	378

5-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	385
--------	-----

6 室内装備・機能

6-1. リヤマルチオペレーションパネ ル

リヤマルチオペレーションパネル	390
-----------------	-----

6-2. エアコンの使い方

ALL AUTO 制御	393
オートエアコン	394
ステアリングヒーター / シートヒ ーター / シートベンチレーション	402

6-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧..... 407

6-4. 収納装備

収納装備一覧..... 410

トランク内装備..... 414

6-5. その他の室内装備の使い方

電動サンシェード..... 415

その他の室内装備..... 417

アクセサリーコンセント
(AC100V・1500W)・非常時給
電システム..... 430

正常にアクセサリーコンセント
(AC100V 1500W) または非常
時給電システムが使用できないとき
は..... 438

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 444

内装の手入れ..... 447

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 450

ガレージジャッキ..... 452

FCユニットルームカバー..... 453

ウォッシャー液の補充..... 455

タイヤについて..... 456

タイヤの交換..... 466

タイヤ空気圧について..... 472

エアコンフィルターの交換..... 473

駆動用電池冷却用吸入口の清掃..... 475

電子キーの電池交換..... 478

ヒューズの点検・交換..... 480

外装のランプの交換..... 483

8 万一の場合には

8-1. まず初めに

故障したときは..... 486

非常点滅灯（ハザードランプ）... 487

発炎筒..... 487

車両を緊急停止するには..... 488

水没・冠水したときは..... 489

車中泊が必要なときは..... 490

8-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 491

警告灯がついたときは..... 496

警告メッセージが表示されたときは
..... 504

パンクしたときは..... 513

FCシステムが始動できないときは
..... 523

キーをなくしたときは..... 524

電子キーが正常に働かないときは
..... 525

補機バッテリーがあがったときは
..... 527

オーバーヒートしたときは..... 532

スタックしたときは..... 536

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル
量など）..... 538

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧..... 541

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 564

9-4. フリー／オープンソフトウェア

フリー／オープンソフトウェア情報
..... 565

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 568

車から音が鳴ったときは（音さくい
ん）..... 570

燃料電池車さくいん..... 573

アルファベット順さくいん..... 575

五十音順さくいん..... 577

1

2

3

4

5

6

7

8

9

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS

エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール
取り付けボルトの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.9 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

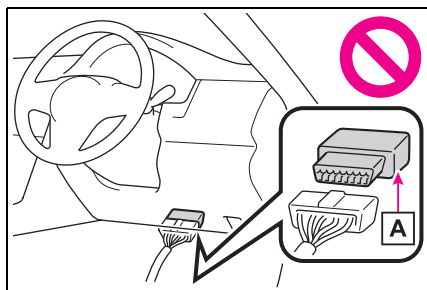
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ^Aなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータ（マルチメディアシステム除く）に記録されるデータ^{※1}

^{※1}グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みま

す）

- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺・ドライバースーパーモニターのカメラ画像）^{※2}

^{※2}車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

● 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- FCシステム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信など）があります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術の

ための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合

- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

□ 知識

車両に記録されている画像データおよびそれに付随する一部のデータは、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録しま

す。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタに比べ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

ソフトウェアアップデートについて

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- FC システム
 - EFI コンピュータ
 - Toyota Safety Sense
 - ABS（アンチロックブレーキシステム）
 - VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）
 - SRS エアバッグ
 - シートベルトプリテンショナー
- 悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販

売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.338）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO₂ 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL：<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

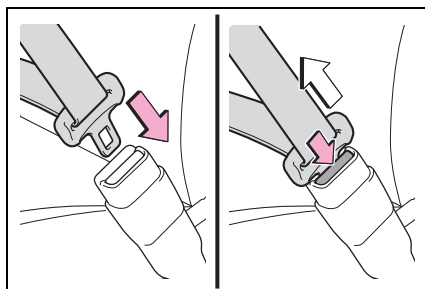
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

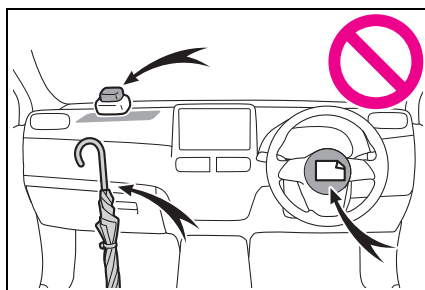
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

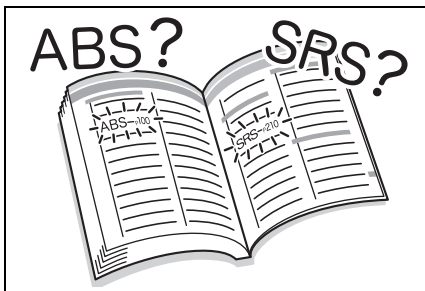


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

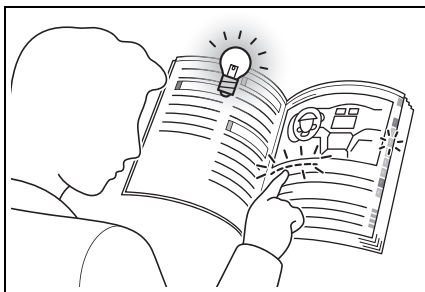
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.577
- アルファベット順さくいん：→P.575



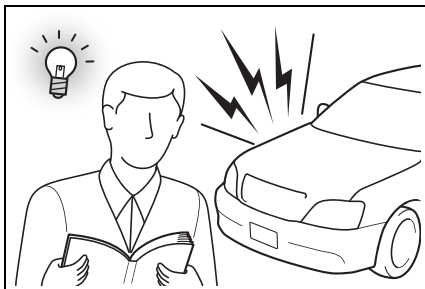
■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.14



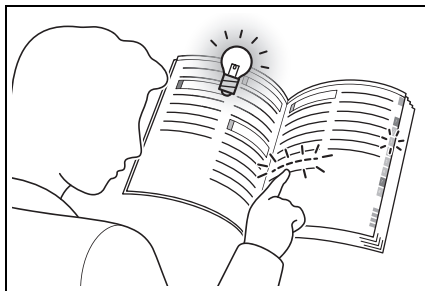
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：→P.568
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.570



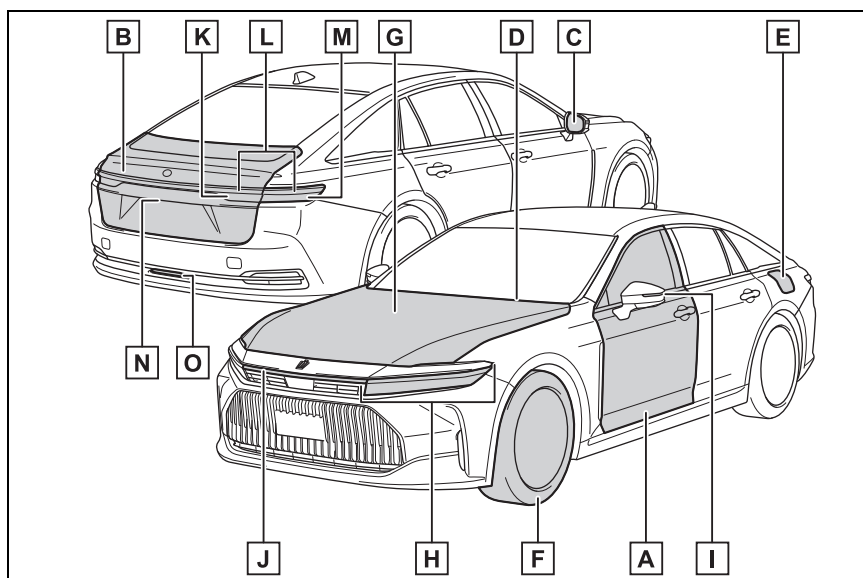
■ タイトルから探す

- 目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A	ドア	P.125
	施錠／解錠	P.125
	ドアガラスの開閉	P.164
	メカニカルキーでの施錠／解錠	P.525
	警告ブザー	P.129
B	トランク	P.131
	車内から開ける	P.133
	車外から開ける	P.134
	メカニカルキーで開ける	P.525
	警告ブザー	P.129
C	ドアミラー	P.162
	鏡面の角度調整	P.162
	ミラーの格納	P.163
	調整位置の登録	P.167
	曇りを取る（ミラーヒーター）	P.395

D	ワイパー	P.211
	冬季の注意.....	P.385
	凍結防止（ウインドシールドデアイサー）.....	P.398
	洗車時の注意.....	P.446
E	燃料充てん扉	P.215
	燃料充てん方法.....	P.215
	燃料の種類・燃料タンク容量.....	P.538
F	タイヤ	P.456
	サイズ・空気圧.....	P.540
	冬用タイヤ・タイヤチェーン.....	P.385
	点検・ローテーション・空気圧警報システム.....	P.456
	パンク時の対処.....	P.513
G	ボンネット	P.450
	開け方.....	P.450
	FC ユニットルームカバー.....	P.453
	オーバーヒート時の対処.....	P.532
	警告メッセージ.....	P.504

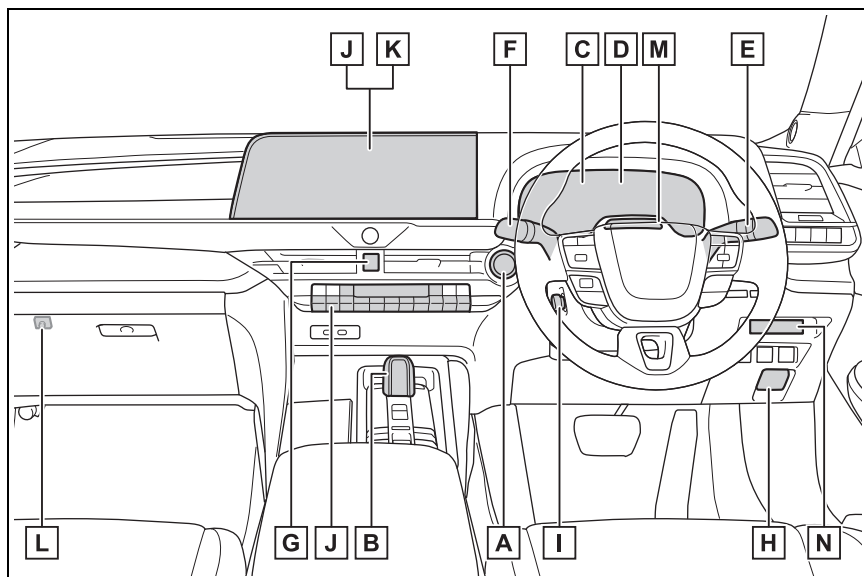
走行に関わる外装のランプ

（交換について：P.483）

H	ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト	P.201
	方向指示灯.....	P.193
I	方向指示灯	P.193
J	LED デイライト・車幅灯	P.201
K	尾灯	P.201
	方向指示灯.....	P.193
L	尾灯	P.201
M	尾灯	P.201
	方向指示灯.....	P.193
	制動灯	

N	番号灯	P.201
O	リヤフォグランプ	P.210
	後退灯	
	シフトポジションを R にする	P.188

■ インstrumentパネル

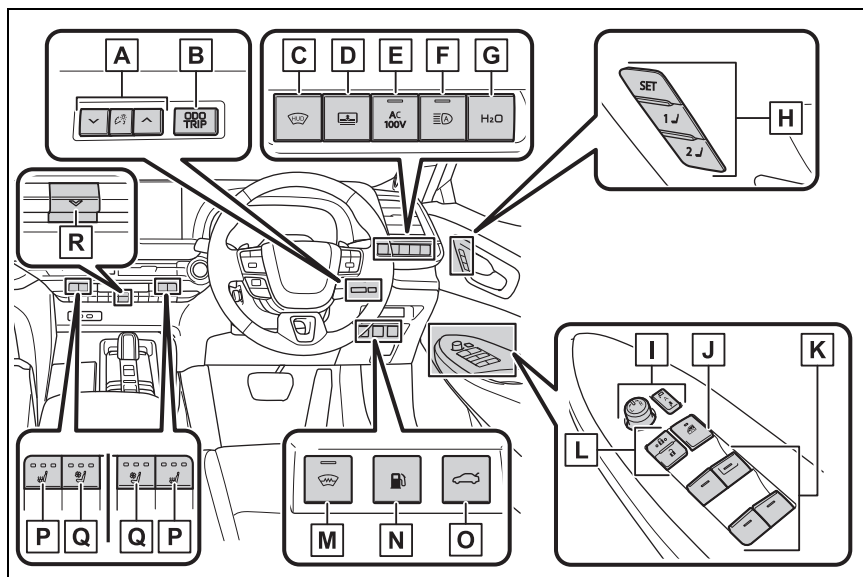


- A** パワースイッチ P.183
 FCシステムの始動・モード切りかえ P.183, 187
 FCシステムの緊急停止 P.488
 FCシステムが始動できないときの対処 P.523
 警告メッセージ P.185, 504
- B** シフトレバー P.188
 シフトポジションの切りかえ P.189
 けん引時の注意 P.491
- C** メーター P.93
 見方・明るさの調整 P.93, 97
 警告灯／表示灯 P.88
 警告灯点灯時の対処 P.496
- D** マルチインフォメーションディスプレイ P.98
 表示内容 P.98
 エネルギーモニター P.112

警告メッセージ表示時の対処	P.504
E 方向指示レバー	P.193
ランプスイッチ	P.201
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト	P.201
リヤフォグランプ	P.210
F ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.211
使い方	P.211
ウォッシャー液の補充	P.455
警告メッセージ	P.505
G 非常点滅灯スイッチ	P.487
H ボンネット解除レバー	P.450
I ハンドル位置調整スイッチ	P.152
調整方法	P.152
調整位置の登録	P.167
J オートエアコン	P.394
操作方法	P.394
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）	P.395
K オーディオ ※	
音楽を聴く ※	
L トランクオープナーメインスイッチ	P.137
M ドライバーモニターカメラ	P.230
N ETC2.0 システム ※	

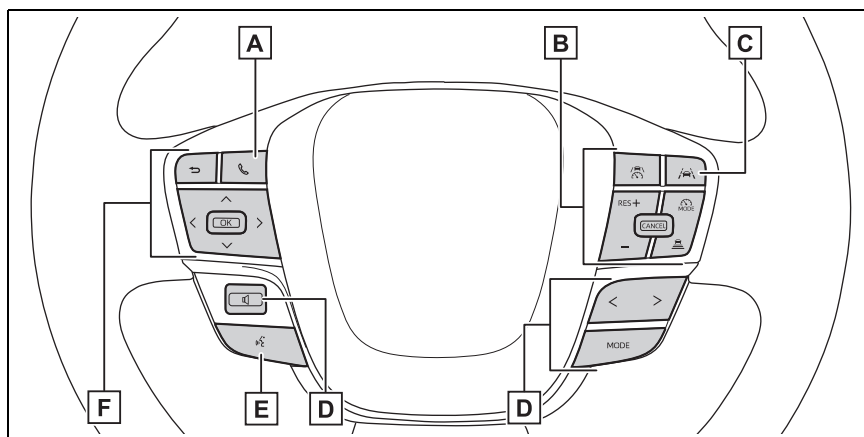
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ スイッチ類



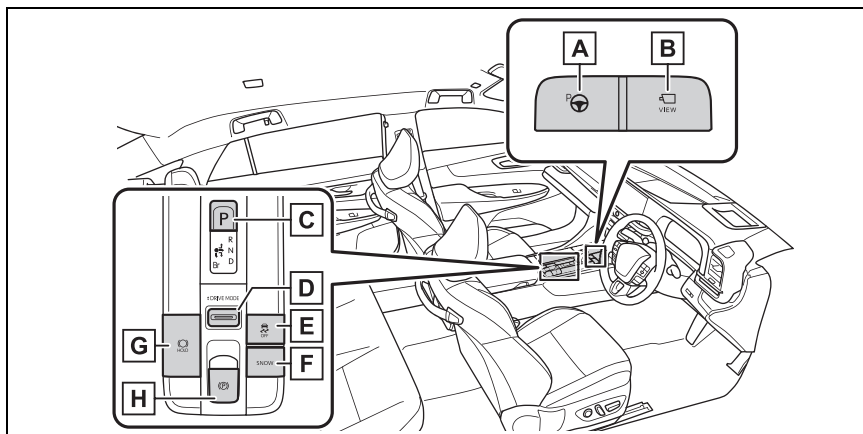
- A** インストルメントパネル照度調整スイッチ P.97
- B** ODO TRIP スイッチ P.96
- C** ヘッドアップディスプレイスイッチ P.110
- D** リヤサンシェードスイッチ P.426
- E** AC100V スイッチ P.431
- F** アダプティブハイビームシステムスイッチ P.205
 オートマチックハイビームスイッチ P.207
- G** H₂O スイッチ P.199
- H** ポジションメモリースイッチ P.168
- I** ドアミラースイッチ P.162
- J** ウィンドウロックスイッチ P.166
- K** パワーウィンドウスイッチ P.164
- L** ドアロックスイッチ P.128

M	ウインドシールドデアイサースイッチ	P.398
N	燃料充てん扉オープナースイッチ	P.216
O	トランクオープナースイッチ	P.133
P	フロントシートヒータースイッチ	P.404
Q	シートベンチレーションスイッチ	P.404
R	ステアリングヒータースイッチ	P.403



A	電話スイッチ ※	
B	クルーズコントロールスイッチ	
	レーダークルーズコントロール	P.267
	クルーズコントロール	P.276
C	LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ	P.241
D	オーディオ操作スイッチ ※	
E	トークスイッチ ※	
F	メーター操作スイッチ	P.99

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A アドバンストパーク（駐車支援システム）メインスイッチ..... P.351

B カメラスイッチ ※

C P ポジションスイッチ..... P.189

D ドライブモードセレクトスイッチ..... P.376

E VSC OFF スイッチ..... P.379

F スノーモードスイッチ..... P.377

G ブレーキホールドスイッチ..... P.197

H パーキングブレーキスイッチ..... P.194

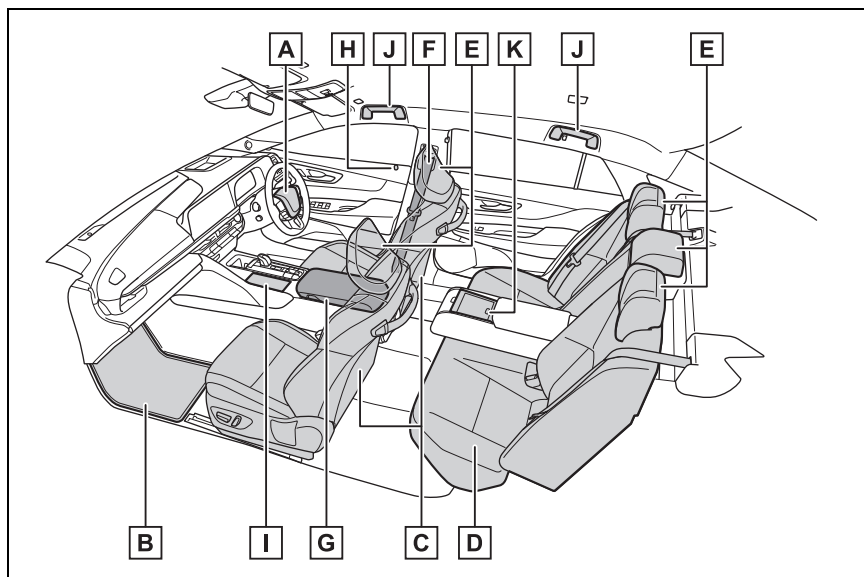
かける・解除する..... P.194

冬季の注意..... P.386

警告ブザー・警告メッセージ..... P.195, 496, 505

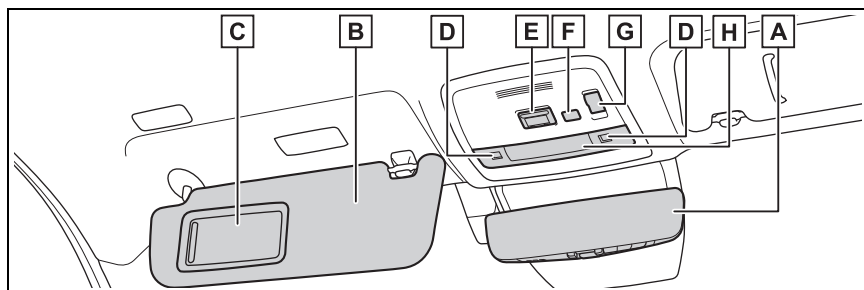
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



A	SRS エアバッグ	P.32
B	フロアマット	P.26
C	フロントシート	P.144
D	リヤシート	P.145
E	ヘッドレスト	P.148
F	シートベルト	P.29
G	コンソールボックス	P.411
H	ドアロックボタン	P.128
I	カップホルダー	P.411
J	アシストグリップ	P.427
K	リヤマルチオペレーションパネル	P.390

■天井



A	デジタルインナーミラー.....	P.153
B	サンバイザー ※ ¹	P.417
C	バニティミラー.....	P.417
D	パーソナルランプ.....	P.409
E	ヘルプネットスイッチパネル ※ ²	
F	インテリアランプドア連動スイッチ.....	P.408
G	電動サンシェードスイッチ★.....	P.415
H	インテリアランプ.....	P.408

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.44)



※²別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 26

安全なドライブのために 27

シートベルト 29

SRS エアバッグ 32

ポップアップフード 38

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 41

チャイルドシート 42

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 55

オートアラーム 56

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

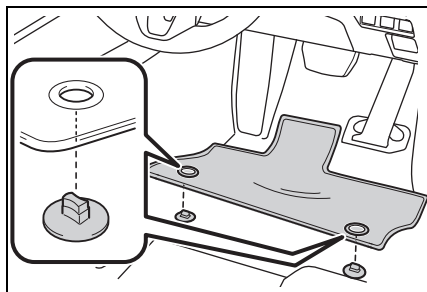
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

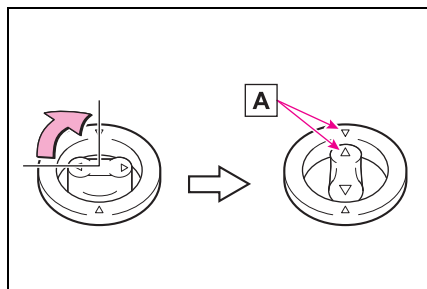
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク**A**を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

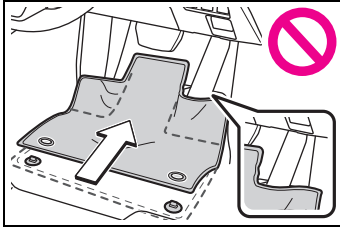
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

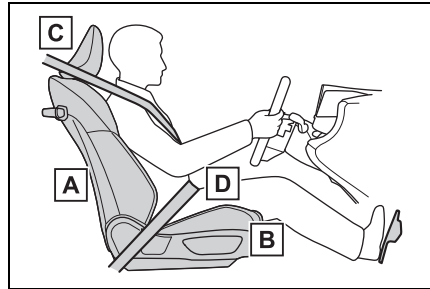


- FC システム停止およびシフトポジションがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.144）
- B** ペダルがしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.144）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.148）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.30）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にもものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.42)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、デジタルインナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.153, 162)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

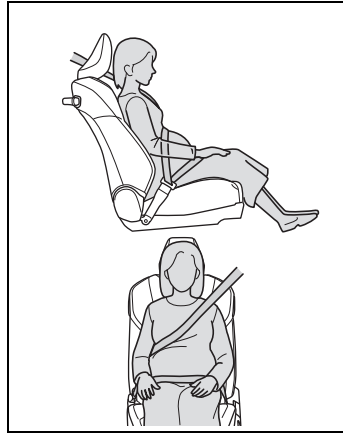
■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→P.52

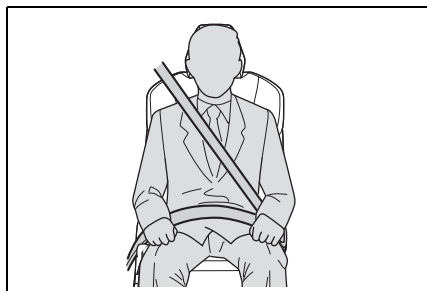
■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

警告

- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

知識

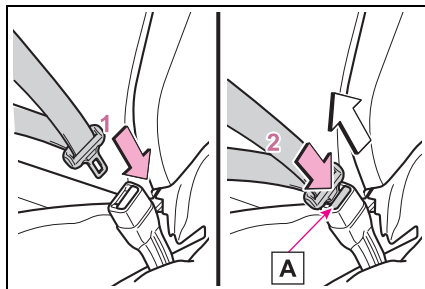
■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.42)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの

着用のしかたに従ってください。
(→P.29)

着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

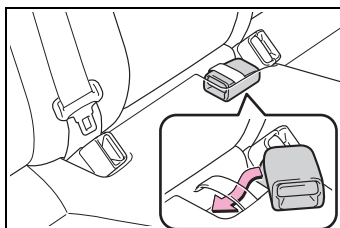
知識

■ シートベルトロックの解除方法

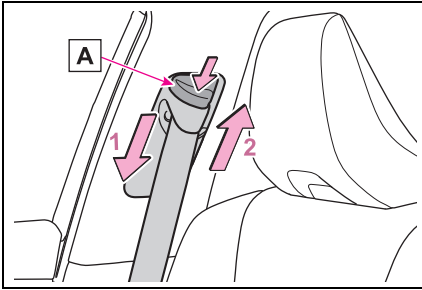
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



シートベルトの高さ調節（フロント席）

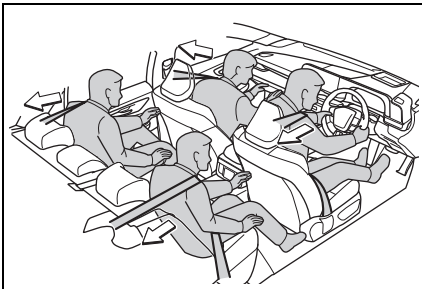


- 1 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを下げる
- 2 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

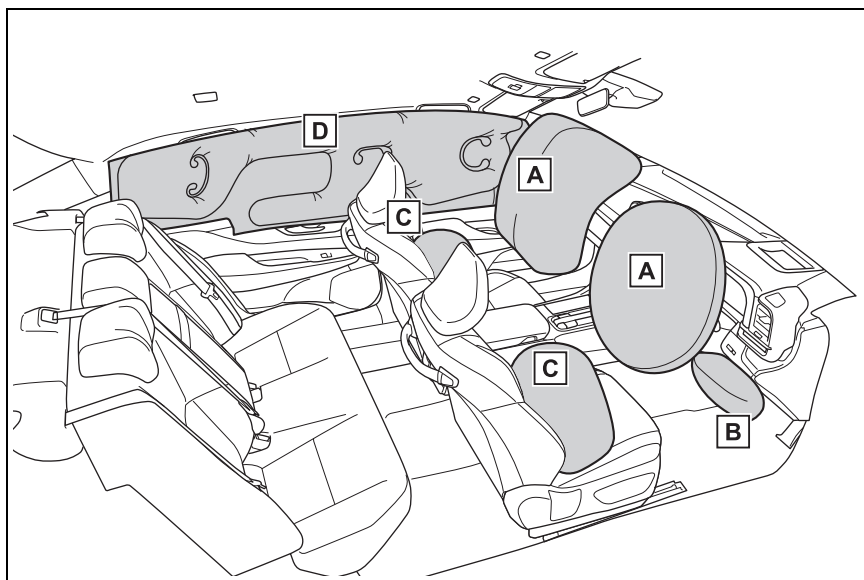
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



- A** フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）
運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和
- B** SRS ニーエアバッグ
運転者の衝撃緩和を補助
- C** SRS サイドエアバッグ
フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和
- D** SRS カーテンシールドエアバッグ
フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグ周辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- FC システムと水素供給を停止します。（→P.71）
- すべてのドアが解錠されます。（→P.127）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.379）
- 室内灯が自動で点灯します。（→P.408）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.487）
- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに回答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
 - ・ SRS エアバッグが作動した
 - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
 - ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ 正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定

値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ

- 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

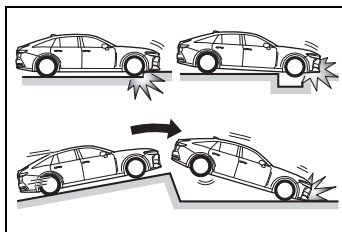
- 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
 - ・ シートベルトプリテンショナー
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
 - ・ SRS サイドエアバッグ
 - ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

■ 車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

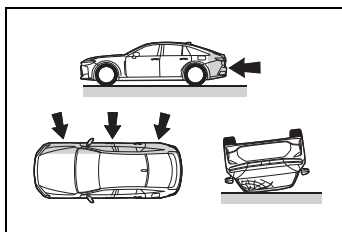
- 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
 - ・ フロント SRS エアバッグ
 - ・ SRS ニーエアバッグ
 - ・ SRS サイドエアバッグ
 - ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



■ SRS エアバッグが作動しないとき

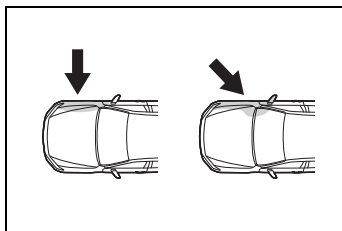
- 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



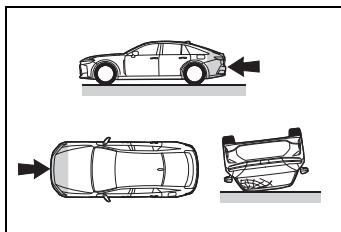
- 次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

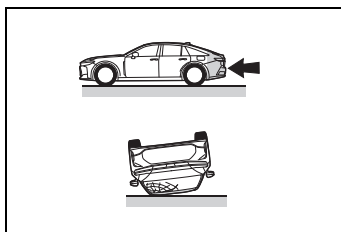


- 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS サイドエアバッグ



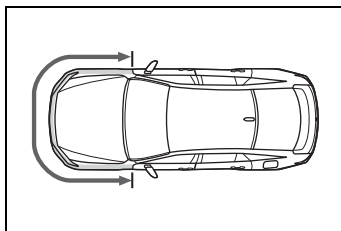
- 次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

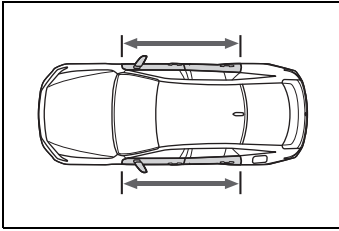
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ

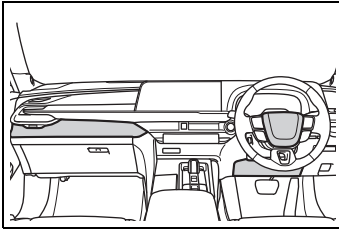


- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

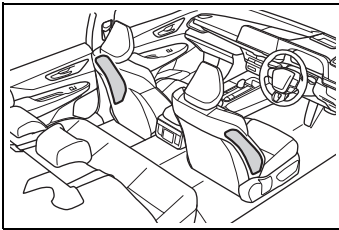
- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



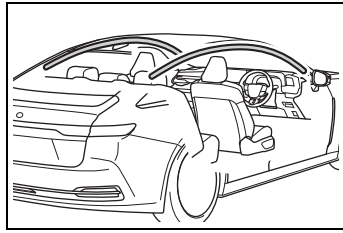
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー一部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



⚠ 警告

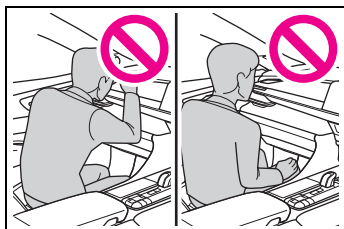
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

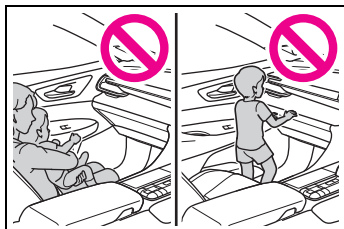
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.42)

警告

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



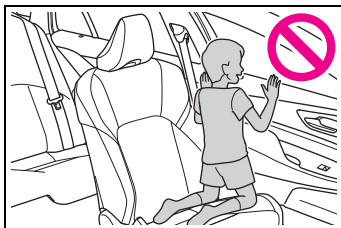
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



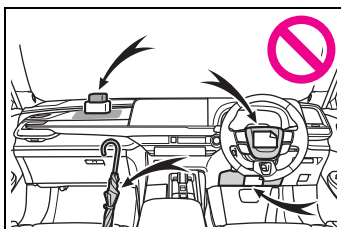
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リアピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



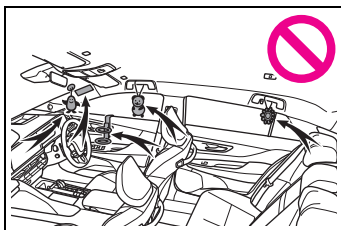
- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリアピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く →P.516)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ シート
 - ・ シート表皮
 - ・ フロントピラー
 - ・ センターピラー
 - ・ リヤピラー
 - ・ ルーフサイドレール
 - ・ フロントドアパネル
 - ・ フロントドアトリム
 - ・ フロントドアスピーカー
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
 - ・ 車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
- サスペンションの改造

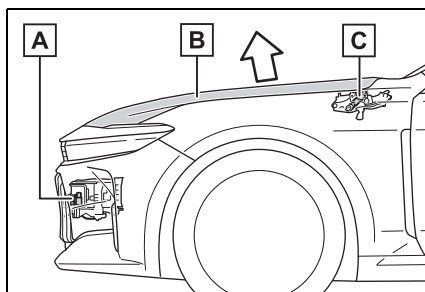
⚠ 警告

- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げ、FC ユニットルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

作動速度範囲での走行時に、歩行者やその他の物体と前方向から衝突したとき、フロントバンパー裏にあるセンサーが衝突を感知し作動します。

システムの構成部品

- A** センサー
- B** ボンネット
- C** リフター

📖 知識**■ ポップアップフードについて**

- 廃車するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

■ 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって歩行者・自転車運転者との衝突の可能性が高

いと判断されたとき、ポップアップフードの作動準備を整えます。

■ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）
- その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
 - ・ 縁石に衝突したとき
 - ・ 深い溝や穴に落ち込んだとき
 - ・ ジャンプして地面にぶつけたとき
 - ・ 駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

■ポップアップフードが作動しにくいとき

- 走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいいため、作動しないことがあります。また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。
- 車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません。

- 横たわっている人に衝突したとき
- 作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき
- 横方向や後部から衝撃を受けたとき

- 横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります）

⚠ 警告

■ポップアップフードが作動したとき

- ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。また、ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。
- ポップアップフードが作動したあとはトヨタ販売店で交換してください。なお、車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。
- ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ポップアップフードについて

- ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前にボンネットが閉まっていることを必ず確認してください。

 注意

- 4 輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにものを取り付けしないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
(→P.42)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター (→P.130) ・ウィンドウロックスイッチ (→P.166) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→P.42)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。
トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.42

チャイルドシートを使用するとき：P.43

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.45

チャイルドシートの取り付け方法：P.50

・ シートベルトで固定する：P.51

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.52
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.54

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
(→P.45)

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

 警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- **チャイルドシートについて**
次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.45）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

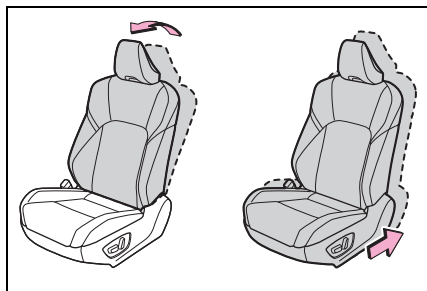
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは**■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき**

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- シートをいちばんうしろに下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

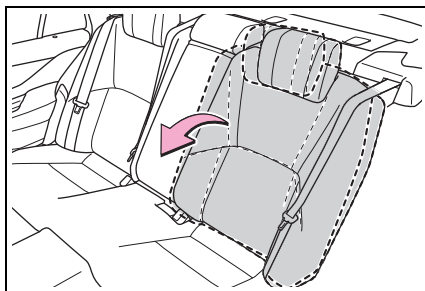


■ リヤシートにチャイルドシートを取り付けるとき

リヤシートにチャイルドシートを取り付ける場合には、リヤシートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 外側席に取り付けるときは、背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

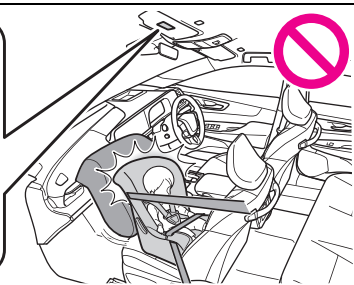
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けな

いでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

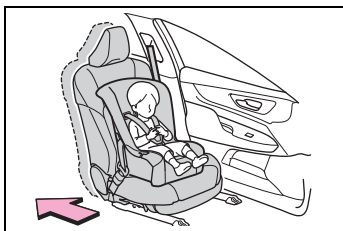
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠ 警告

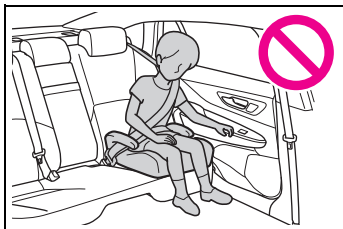


警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

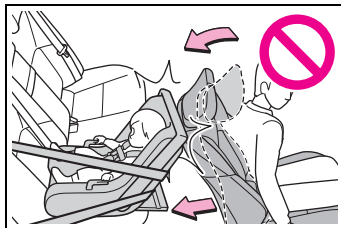


- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.47）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。

（→P.49）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

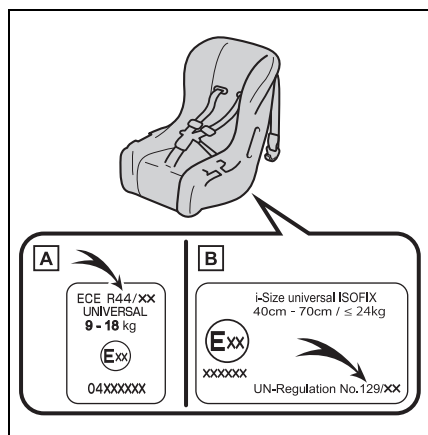
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN (ECE) R44 認可マーク

※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN (ECE) R129 認可マーク

※²

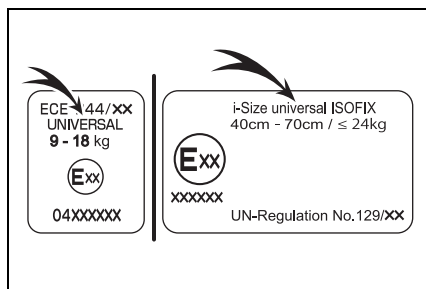
対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリを確認する

チャイルドシートのカテゴリが次のどのカテゴリに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

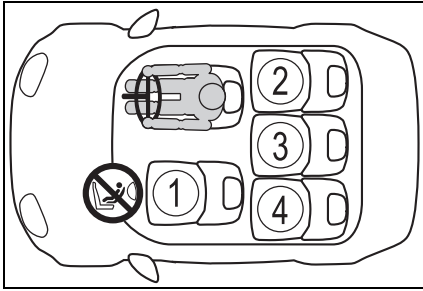
- ・ユニバーサル「universal (汎用)」
- ・セミユニバーサル「semi-universal (準汎用)」
- ・リストラクティッド「restricted (限定)」
- ・ビークルスペシフィック「vehiclespecific (特定車両)」



※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※² 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	UF※4
② ※5	U L i Anchor
③	U
④ ※5	U L i Anchor

U

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリのチャイルドシートに適しています。

UF

車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリのチャイルドシートに適しています。

L

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.49）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

Anchor

トップテザーアンカレッジが装備されています。

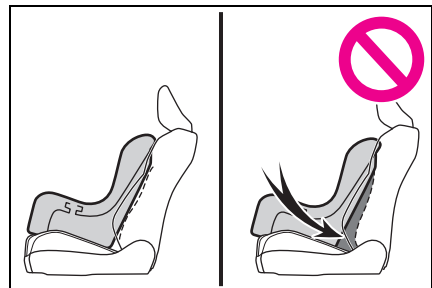
No i

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてくださ

い。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

※5ヘッドレストをいちばん下まで下げてください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2	×	R1, R2X, R2
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	B2, B3 シートベルト固定のみ	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

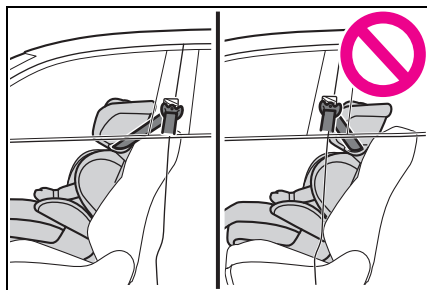
推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する 向き	着座位置			
			①	②	③	④
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm (体重：～13kg)	後向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上かつ、 身長：76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	×	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100～150cm (体重：15～36kg)	前向きのみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときには、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルト

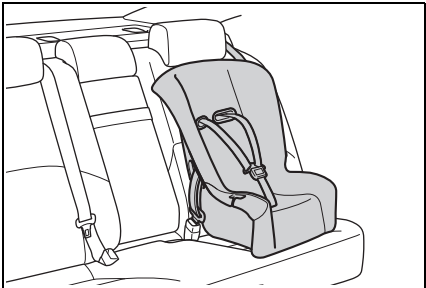
ガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

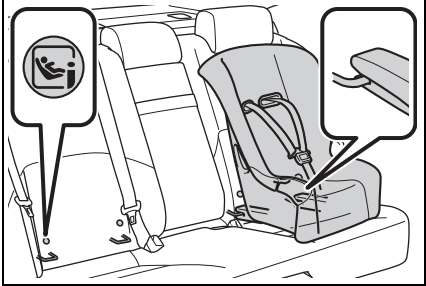
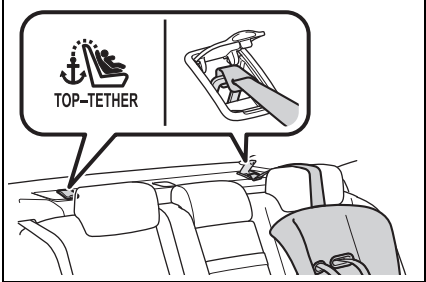


- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.51

	固定方法	ページ
ISOFIX ロアアンカレッジ で固定する		P.52
テザーベルトを固定する		P.54

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.45, 47）

1 シートを調整する

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.43）

外側席にチャイルドシートを取り付ける

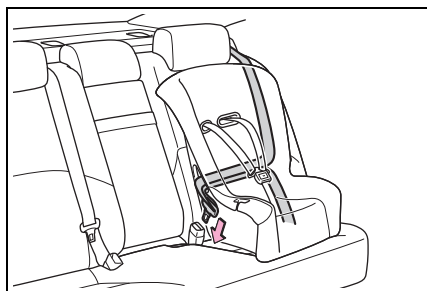
場合は、リヤシートを正しく調整してください。（→P.44）

2 リヤシート：ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.148）

3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

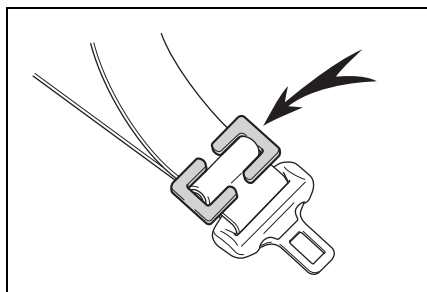
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシート

にしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.52）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

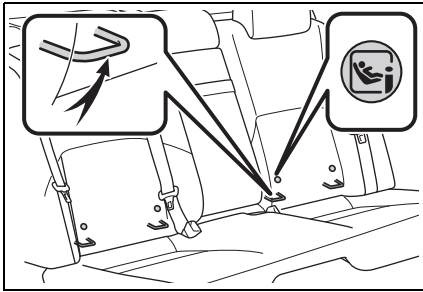
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロ

アアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています)



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.45, 47)

1 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

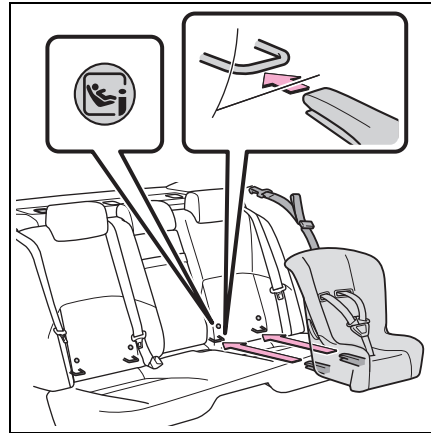
2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P.148)

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルド

シートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→P.52)

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

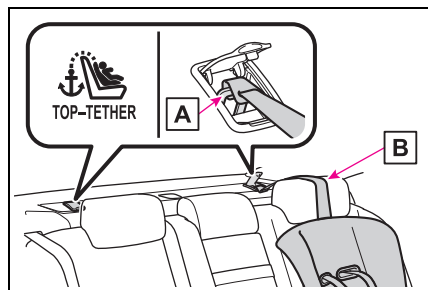
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

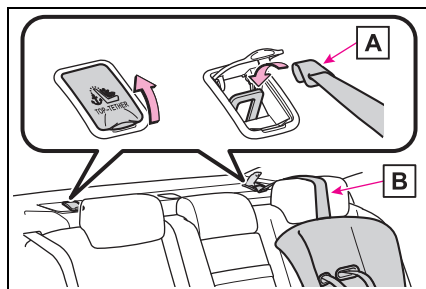
■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P.148)
- 2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認しま

す。(→P.52)



A フック

B テザーベルト

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

⚠ 注意

■ トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

イモバイザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外では FC システムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

れているとき

- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

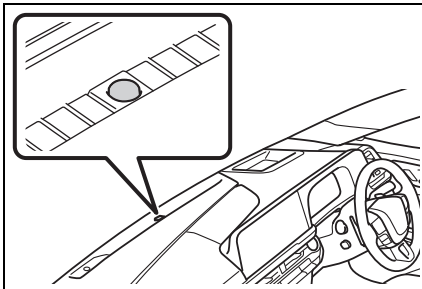
■ イモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



📖 知識

■ メンテナンスについて

イモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆わ

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
 - ボンネットが開けられたとき
- T-Connect サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。
- 詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

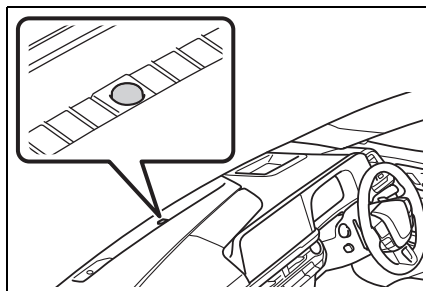
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには
ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン

を使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、FC システムを始動する（数秒後に解除・停止します）

□ 知識

■ オートアラームの設定について

トランク、ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ T-Connect（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れをご指定の E メールア

ドレスやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

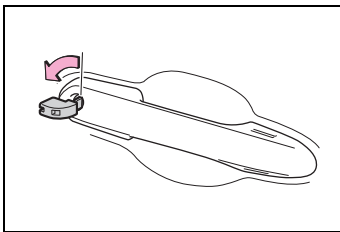
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

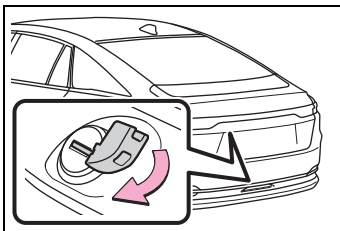
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

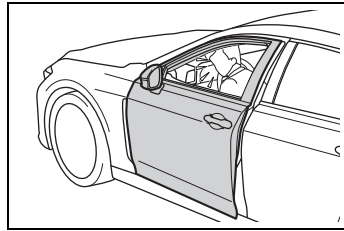
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



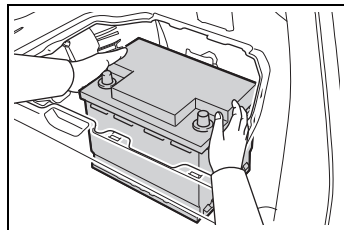
- メカニカルキーを使ってトランクを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで、補機バッテリーの充電や交換をしたとき (→P.527)



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.542)

⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. 燃料電池車について

燃料電池車の特徴 60

燃料電池車の注意 64

燃料電池車運転のアドバイス 73

2-2. DC 外部給電システムについて

DC 外部給電システム 75

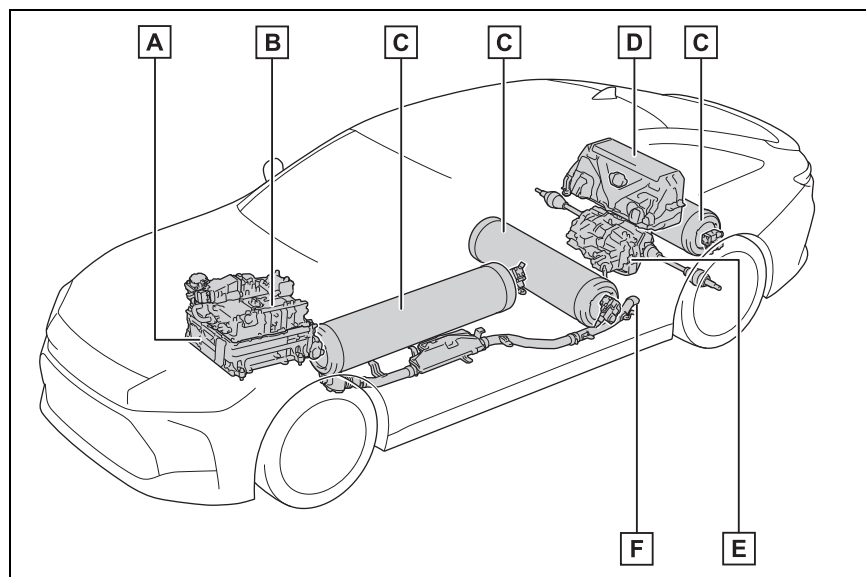
正常に給電できないときは 83

燃料電池車の特徴

燃料電池車は、FC スタックで水素と酸素の化学反応によって発電された電気と、駆動用電池に蓄えられた電気を効率よく使用して、電気モーターで走行します。

燃料は H_2 （圧縮水素ガス）を使用するので、走行中に排出するのは水や水蒸気のみです。 CO_2 （二酸化炭素）や NO_x （窒素酸化物）といった排気ガスを出さない、環境にやさしい車両です。

燃料電池車固有部品について



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** FC スタック（燃料電池）
- B** FC 昇圧コンバータ・補機インバータ
- C** 水素タンク
- D** 駆動用電池
- E** 電気モーター（駆動モーター）
- F** 排気排水管



知識

■ 燃料電池車特有の音と振動

燃料電池車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。

燃料電池車は、いろいろな状況で次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

なお、聞こえ方は、使用環境や状況により異なる場合があります。

聞こえる音の例	音の意味
“コン”、“カン”、“カチン”	リレー、水素タンクのバルブの作動音です。 FCシステム始動時や停止時に聞こえる場合があります。
“コン”、“カタン”	パーキングロックがはまる音です。 Pポジションスイッチを押したとき、またはFCシステム停止時に聞こえる場合があります。
“シュー”、“キュー”	燃料が流れる際の気流音・作動音です。 燃料充てん時に聞こえる場合があります。
“ウィーン”、“ウー”、“シュー”、“サー”	ポンプなどの回転機の作動音です。 特に、FCシステム始動時、発進時、給電時、H ₂ Oスイッチを押したときに聞こえる場合があります。 Brモード時、またはレーダークルーズコントロールでの減速時には音が大きくなる場合があります。
“ヒューン”、“キーン”	電気モーターの回転に伴う音です。 特に加速時、減速時に聞こえる場合があります。
“シャー”、“カッ”、“シュー”	水や空気を排出する音です。 寒冷時は凍結防止のため駐車中に音がする場合があります。 停車中、FCシステム停止時、または駐車中に聞こえる場合があります。
“ブーン”	冷却ファンの作動音です。 特に給電時に聞こえる場合があります。

■ メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は

必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じてFCスタック・駆動用電池などの回収

を行っていますので、ご協力ください。

走行について

電気モーターならではの力強く滑らかな発進・加速が可能です。

特別な操作は不要でガソリン車と同様に走行できます。(→P.175)

エンジン音もなく静かな車のため、燃料電池車固有部品の作動音が聞こえる場合があります。(→P.61)



知識

■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、減速力を得ることができます。

- シフトポジションが D で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションが D で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ 駆動用電池の充電について

FC スタックの発電による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、FC システムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→P.529

■ 燃料電池車特有の音と振動について

燃料電池車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であるこ

とに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションを P にしてください。

FC システムについて

寒冷時は、始動性向上のため寒冷時特有のシステム作動になる場合があります。(→P.183)

作動音 (→P.61)、排水処理 (→P.186) などが通常と異なりますが、異常ではありません。

燃料充てん（燃料補給）について

燃料の圧縮水素ガスは、水素ステーションで充てんできます。

燃料充てん口（補給口）の開け方 (→P.215)

車両接近通報装置

燃料電池車は、従来の車両と違いエンジン音がありません。走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。



知識

■ 車両接近通報装置について

- 次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。
 - ・ 周囲の騒音が大きい場合
 - ・ 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

- 次の状態のとき、音圧と音色が変化することがあります。
 - ・ 炎天下または寒冷地に長時間駐車した場合
 - ・ 高圧洗浄機の水がスピーカーに直接かかった場合
 - ・ スピーカーの前面に泥・雪・氷などが付着したり、スピーカーの全体が凍結したりした場合

■ 車速連動制御について

音量と音色は車速に連動して変化します。

■ フェードイン／フェードアウト制御について

音の鳴り始めは音量が徐々に大きくなり、音が止まるときは音量が徐々に小さくなります。

■ 後退時の制御について

車両後方まで音が届くように、後退時は音量が大きくなります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「車両接近通報装置故障 販売店で点検を受けてください」が表示されたとき

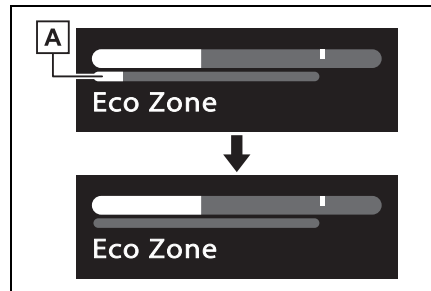
車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

先読みエコドライブ (先読み減速支援)

本システムは走行の状況をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。先読みエコドライブの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- ナビゲーションシステムに登録された先読み減速支援地点に車両が近づくと、マルチインフォメーションディスプレイ上のエ

コアクセルガイド (→P.101) の「アクセル操作の目安」**A** の表示が消え、余分な加速をし続けないように支援します。



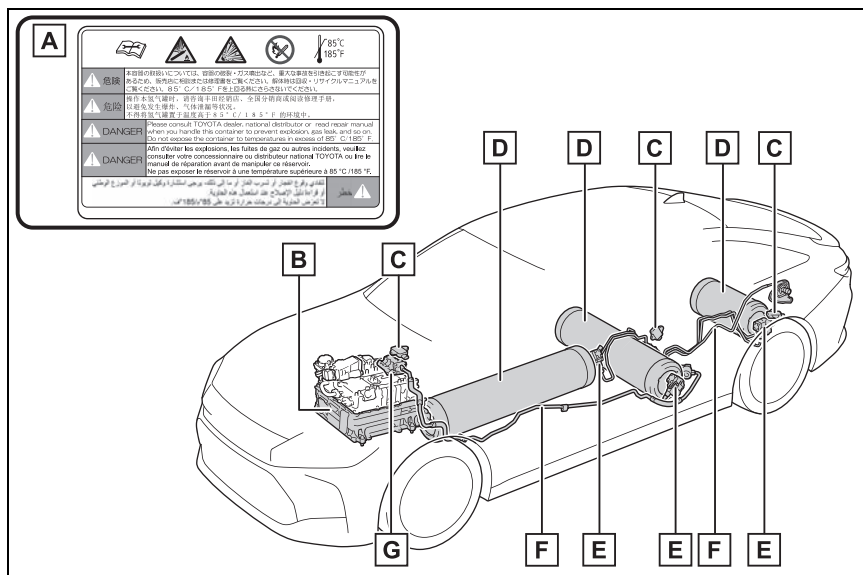
- アクセルペダルを離れたあとに、走行状況に応じて回生ブレーキ力を高め、より効率的に駆動用電池を充電します。

燃料電池車の注意

システムの構成部品

■ 水素関係部位について

燃料電池車には、水素タンク（70MPa）・FC スタック・水素配管などの水素関係部位があります。高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。



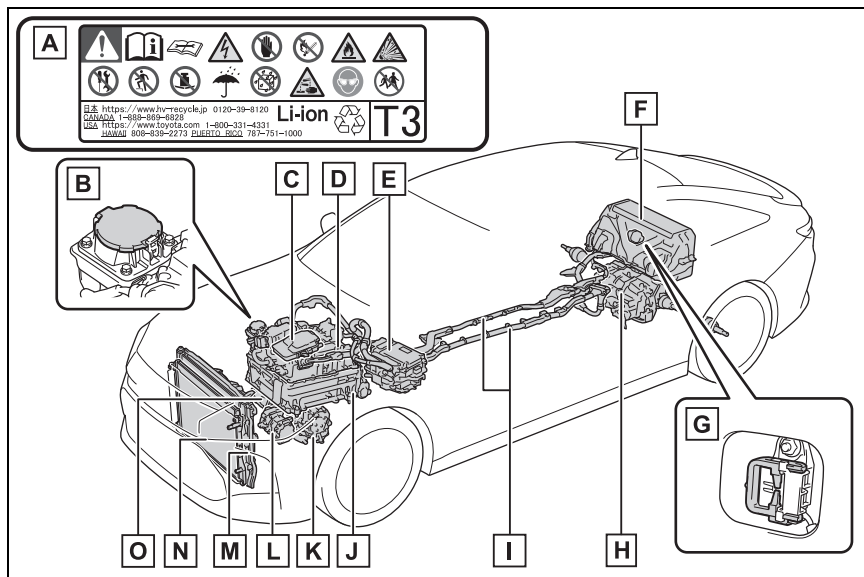
イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** ラベル
- B** FC スタック（燃料電池・水素ポンプ）
- C** 水素ディテクタ（検知器）
- D** 水素タンク
- E** 水素タンクバルブ
- F** 水素配管
- G** 水素供給ユニット

■ 高電圧部位・高電圧配線・高温部位について

燃料電池車には、FC スタック・駆動用電池・パワーコントロールユニット・FC 昇圧コンバータ・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなど

の高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位があります。高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** ラベル
- B** 外部給電アウトレット
- C** 水加熱ヒーター
- D** FC 昇圧コンバータ・補機インバータ
- E** パワーコントロールユニット
- F** 駆動用電池
- G** サービスプラグ
- H** 電気モーター（駆動モーター）
- I** 高電圧ケーブル（オレンジ色）
- J** FC スタック（燃料電池・水素ポンプ）
- K** エアコンプレッサ
- L** エアコンコンプレッサー
- M** FC スタック冷却用ラジエーター

N インバーター冷却用ラジエーター

O FC ウォーターポンプ



■ マルチインフォメーションディスプレイに「水素漏れ検知 販売店で点検」が表示されたときは

少量の水素ガスもれのおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「水素漏れによりシステム停止 安全な場所に停車して取扱書を確認」が表示されたときは

- 水素ガスもれのおそれがあります。

水素ガスもれやその他の異常に気付いたとき：→P.69

- エアコンが自動的に停止します。

■ 燃料切れになったとき

燃料切れで FC システムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.498）が消灯するまで充電してから再始動してください。少量の充電では始動できない場合があります。

■ FC スタックについて

- 使用環境により、出力は低下しますが走行への影響はほとんどありません。
- 次のような状況では、通常使用時と比べて早めに出力が低下する場合があります。
 - ・ 高濃度粉じんの場所で使い続ける
 - ・ 火山、温泉地などの高い硫黄濃度の場所を使い続ける
 - ・ 高い濃度のシンナー・塗料などの有機溶剤・アンモニア臭などのアミン系物質・塩素系物質（潮風・融雪剤など）が存在する場所で使い続ける
 - ・ エアクリーナフィルター内に海水が浸入したとき

エアクリーナフィルターの交換および周辺の清掃をおすすめします。トヨタ販売店で点検を受けてください

- ・ FC システムの始動停止回数が過度に多い場合
- ・ 氷点下での使用期間が過度に多い場合
- ・ ISO-14687 に準拠しない、不純物が多い水素ガスを充電した場合
- ・ 高出力運転が連続し、その回数が過度に多い場合

■ 水素タンクについて

- 水素タンクは、車両の燃料である圧縮水素ガスを水素ステーションで高圧充電してためておく容器です。
- 水素タンクは法律により充電可能期限が定められています。燃料充電扉の裏側・ボンネットの裏側に明記される充電可能期限を過ぎる場合は、水素タンクを交換する必要があります。
- 水素タンクまたは水素タンクバルブを廃棄するときは、法律に従い処分する必要があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 高圧ガス・水素タンクの喪失・盗難時の順守事項
 - ・ 燃料電池車が盗難された場合、管轄の警察官へ被害届を必ず提出をしてください。
 - ・ その際に、盗難された車両が高圧ガスを充電するための容器を搭載していることを、警察官に必ず伝えてください。

■ FC スタック用冷却水について

- 高電圧である FC スタックを安全に冷却するために、FC スタック用冷却水は絶縁性の高い専用品を使用しています。
- FC スタック用冷却水の補充・交換は、トヨタ販売店にご相談ください。

■イオンフィルタについて

- FC スタック用冷却水の絶縁性を常に維持するために、FC スタック用冷却水の経路にはイオンフィルタが設置されています。
- イオンフィルタは定期的な交換が必要となります。イオンフィルタの交換時期になると、マルチインフォメーションディスプレイに「イオンフィルタ交換時期販売店で交換」が表示されます。メッセージが表示されたら、すみやかにトヨタ販売店で交換してください。
- イオンフィルタを交換したときは、メンテナンス情報のリセットを次の手順で実施してください。

- 1 マルチインフォメーションディスプレイのを選択する (→P.103)
- 2 「 車両設定」を選択する
- 3 「イオン交換器」を選択する
- 4 「はい」を選択する

■排気排水管について

- 走行後、パワースイッチを OFF にして FC システムを停止 (→P.185) したときに排気排水管から排水されます。車両後方に立つと水がかかることがありますので注意してください。
- 車庫や立体駐車場で排水量を少なくしたい場合は、駐車する前にスイッチ操作で排水することが可能です。(→P.199)
- 寒冷時に排気排水管から排出される白霧は水蒸気ですので異常ではありません。風向きなどによっては、車両側面から白霧が出ることがあります。気になる場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 排気排水管が異物でふさがれると FC システムが停止することがあります。
- 寒冷時、以下の状況では白霧が排出さ

れることがあります。システム保護のための水蒸気排出であり、異常ではありません。

- ・燃料充てん後など、フューエルリッドを開けてから数十分経過した場合
- ・パワースイッチを OFF にしてから数時間経過した場合

■水素ディテクタ（検知器）について

パワースイッチを ON にすると、水素ガスものの検知を開始します。

■出力制限について

出力が制限されたときは、電気モーターに供給される電力が制限されるため、アクセルペダルを踏んでも車速があがらなかったり、減速することがあります。安全な走行速度が維持できない場合は、走行車線から離れた安全な場所に停車してください。

- 急加速・急減速のくり返し、上り坂での連続走行、高地での高負荷連続走行などによって冷却水の温度が高くなったときは、マルチインフォメーションディスプレイに「FC システム高温 出力制限中です」が表示され、出力が制限されることがあります。冷却水が正常な温度にもどれば出力制限は解除されます。(→P.504)
 - 燃料残量警告灯が点灯したあとに、しばらく走行していると走行可能な距離を伸ばすため出力が制限されることがあります。この状態になると残りわずかしき走行できません。すぐに圧縮水素ガスを充てんしてください。
 - 寒冷時は、通常よりも早く燃料残量警告灯が点灯し、出力が制限されることがあります。
- ## ■電磁波について
- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■ 極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が

■ 水素ガスの特性

- 水素ガスはガソリンにくらべて着火しやすいですが、空気にくらべて軽く拡散しやすいので、外部にもれた場合でもすぐに燃焼可能な濃度より薄くなる特徴があります。
- 水素ガスは下記に示す特性を理解した上で正しく使用すれば、ガソリンや天然ガスなどと同様に危険な燃料ではありません。

著しく低くなっている場合（およそ -30℃以下）、FC システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ 適合宣言（駆動用電池）

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

	水素ガス	LPG（液化石油ガス）	ガソリン
空気中での状態	気体（空気より軽い）	気体（空気より重い）	液体。揮発後は気体（空気より重い）
着火しやすさ	ガソリンにくらべて着火しやすい	ガソリンと同程度	－
たまりやすさ	・ 上方に拡散し、開放空間ではすぐに安全な濃度に薄まる ・ 衣服などに付着しない	・ 地面、床に広がる ・ 衣服などに付着しない	・ 地面、床に広がる ・ 衣服などに付着する
発見しやすさ	・ 無色・無臭の気体のため、色や臭いでの発見は難しい ・ ガスがもれる音やマルチインフォメーションディスプレイのメッセージで判別可能	臭い・ ガスがもれる音で判別可能	色・ 臭いで判別可能

■ 水素安全の基本的な考え方

- もらさない

水素配管の接続部分はもれにくさに十分

配慮した設計をしています。車検時には水素配管の接続部分のもれの確認をします。

●検知して止める

- ・水素ディテクタ（検知器）を装着しています。万が一水素ガスがもれた場合は、水素ガスを検知して水素タンクバルブが閉じて、水素ガスのもれが止まります。
- ・衝突センサーを装備しています。衝突を検知したときは、水素タンクバルブが閉じ、水素ガスの大量もれを防止します。

●もれた水素をためない

水素タンクや水素配管などは車室外に配置し、水素ガスがもれた場合も空気に拡散する設計をしています。

●火種を置かない

水素配管の付近には火種になるものを配置しない設計をしています。

 警告

■水素関係部位について

- 改造・架装・分解は絶対にしないでください。
- 床下の水素タンクやFCユニットルーム内のFCスタックおよびこれらを結ぶ部品や水素配管などには水素ガスが充てんされています。これらの部品の取りはずし・分解などを行うと、水素ガスもれの原因になり、車両火災や爆発につながり、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険ですので、絶対にさわらないでください。

■水素ガスもれやその他の異常に気付いたとき

- 大量の水素ガスもれに気付いたときは、パワースイッチをOFFにしていったん車両から離れてください。

水素ガスがもれているときや、異常な箇所が発見できないときなどは、火気を近づけないように、付近の人に救援を求めて監視人をつけるか、火気厳禁を表示して、ただちにトヨタ販売店へ連絡してください。

- 水素ガスがもれる音や、その他の異常に気付いたときは、ただちに安全で風通しのよい場所に停車し、車両から離れてください。
- マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、ただちに安全で風通しのよい場所に停車してください。
- 発炎筒は車両の近くで使用しないでください。車両の近くで使用すると、もれた水素ガスに引火して車両火災になるおそれがあり危険です。（→P.487）

■排気排水管について

- 排気排水管から出てくる水や水蒸気を直接さわらないでください。低温やけどをする可能性があります。
- 排気排水管から生成水が排出されますが、飲料水としての処理はしていませんので、飲まないでください。
- 新車納車後の一定期間や長期放置後などは、まれに排気排水管から臭いが感じられる場合がありますが、異常ではありません。また、臭いは有害ではありませんが、気分を害するおそれがあるため嗅がないでください。

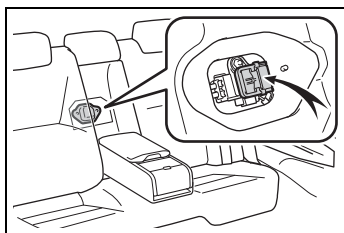
警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はFCユニットルーム内の部品が高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- 駆動用電池にはサービスプラグが設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にする

- 水素ガスもれがないか確認する
水素ガスもれの有無は、水素ガスのもれる音がする・マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されるなどの症状で確認できます。
- 大量の水素ガスもれに気付いたときは、パワースイッチを OFF にしていったん車両から離れる
水素ガスがもれているときや、異常な箇所が発見できないときなどは、火気を近づけないように、付近の人に救援を求めて監視人を付けるか、火気厳禁を表示して、ただちにトヨタ販売店へ連絡してください。
- 発炎筒は車両の近くで使用しない
車両の近くで使用すると、もれた水素ガスに引火して車両火災になるおそれがあり危険です。（→P.487）
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない（→P.64）
- 車室内および車室外にはみ出している電気配線には絶対にさわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 車両火災のときには、水素タンクの破損を軽減するために、水素タンク内の水素ガスが水素タンクバルブから車両右側と車両後方のななめ下に放出されます。車両から離れて、車両の右側や後方に立たないようにしてください。

⚠ 警告

- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火できます。
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 後輪が接地した状態でけん引しない電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあります。(→P.491)

■ 駆動用電池について

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
- ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 駆動用電池について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。

誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ FC スタック用冷却水について

水やほかの種類の冷却水は故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、FC システムを停止して高電圧を遮断します。また、水素タンクバルブにより燃料供給を停止します。

この場合、FC システムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

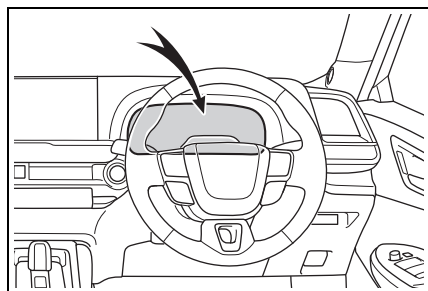
警告メッセージ

FC システムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。(→P.504)

警告メッセージは、マルチイン

フォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

FC システムを再始動できないおそれがあります。

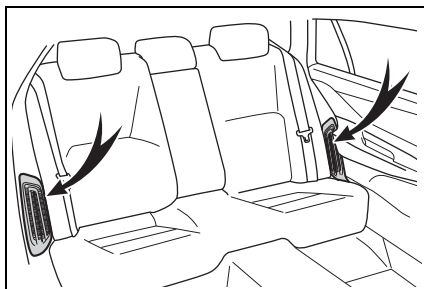
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの左右には駆動用電池冷却用の吸入口があります。

吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバーや荷物などで吸入口をふさがないでください。
駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。
- 吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。(→P.475)
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

燃料電池車運転のアドバイス

経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

FC システムインジケータの利用

マルチインフォメーションディスプレイの FC システムインジケータの表示をエコエリアの範囲に保つことで、走行距離をのばすことが可能です。(→P.95)

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、余分な燃料消費を抑えることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微

前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な燃料消費を抑えることができます。

高出力での運転

燃料電池車は、電気自動車と同様に、急な上り坂や高速走行など高出力での運転時に燃費が悪化します。

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。(→P.376)

エアコンの ON/OFF

- 必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な燃料消費を抑えることができます。夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。冬季：過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。また、シートヒーターやステアリングヒーターの活用も効果的です。(→P.402)
- エコ空調モードを使用することで、エアコンが ON のときでも

燃料消費を抑えることができます。(→P.399)

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

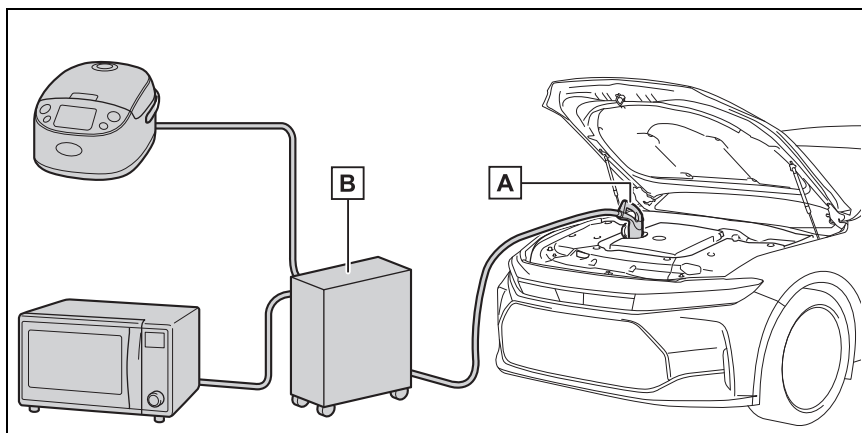
荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

DC 外部給電システム

車両に外部給電器^{※1}を接続することで、車両から外部へ電源供給を行います。^{※2, 3, 4} 車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも電源供給を行うことができます。

DC 外部給電システム



2

FCシステム

A 外部給電アウトレット

B 外部給電器^{※1}

このシステムを使用するには、外部給電器^{※1}が必要です。(車両には付属していません)

^{※1} 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版または V2L DC 版に準拠したもの。

^{※2} 外部給電器が系統連系機能を持つものは、給電できない場合があります。詳しくは外部給電器の販売業者にご相談ください。
車両側の出力定格は DC9kW です。ただし、接続する外部給電器の出力上限以上は出力されません。

^{※3} 急速充電器や V2H 機器を使用して車両の充電はできません。

^{※4} プリウス（プラグインハイブリッド車）などのヴィークルパワーコネクタは接続できません。

警告

■安全にお使いいただくために

- 給電を行うときは本書および接続する外部給電器や使用する電気製品に付属の取り扱い説明書に記載されている注意事項を必ずお守りください。記載されている禁止事項を守らずに給電を行うと思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 外部給電器のコンセントは照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備などに接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- 必ず所定の外部給電器を接続してください。ガイドライン(→P.75)に準拠していない外部給電器を使用すると車両火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■外部給電アウトレットについて

外部給電アウトレットの改造や分解、修理などは絶対にしない

思わぬ故障や事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。修理については、トヨタ販売店にご相談ください。

DC 外部給電作業をする前に

必ず、以下の項目をご確認ください。

- 換気のよい地面が固く平らな場

所に駐車する

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入できます。

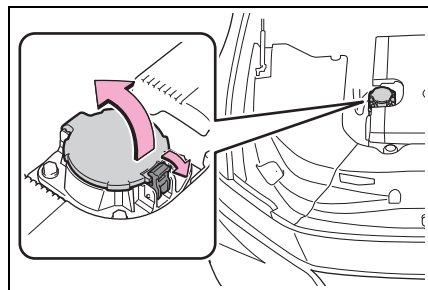
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ヘッドランプを消灯する
- 燃料残量警告灯が点灯していないことを確認する
- パワースイッチを OFF にし、FC システムを停止する

FC システム停止動作中(作動音が消えるまでのあいだ)にパワースイッチを ON にすると、給電が開始しない場合があります。

- 前回の給電停止から 2 分以上時間を置く

DC 外部給電を開始するときは

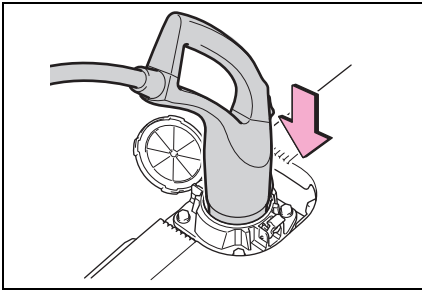
- 1 ボンネットを開く(→P.450)
- 2 外部給電アウトレットのキャップを開ける



- 3 外部給電器の手順に従い、外部給電コネクターを外部給電アウトレットに挿し込む

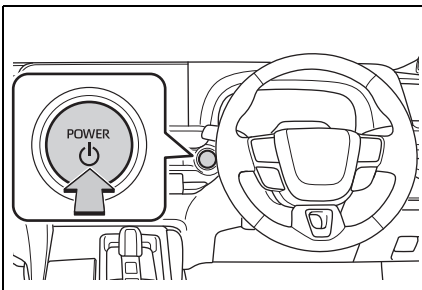
外部給電コネクターを挿し込むときに給電ケーブルがボデーに接触してしまいます。ボデーに傷などつかないようにご注意ください。

外部給電コネクターの形状や取り扱い方法などは、外部給電器のタイプにより異なります。外部給電器の取り扱い説明書に従って、作業を行ってください。



4 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを2回押してパワーONにする

メーターに「パワーON」と表示されていることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、FCシステムが始動してしまい、DC 外部給電システムが使用できません。



5 外部給電器の手順に従い、外部給電器の給電操作をする

特定の外部給電器においては、パワースイッチがOFFになり、給電が停止する場合があります。そのときは、停止から2分以上あけてから、再度3から実施してください。

6 マルチインフォメーションディスプレイに表示される使用上の注意に関する画面を確認し、

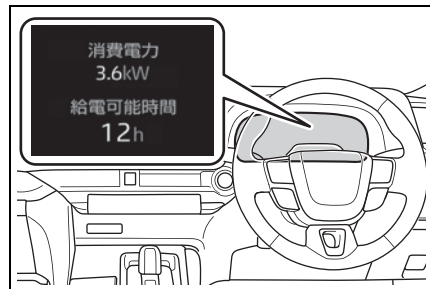
メーター操作スイッチのOKを押す



7 マルチインフォメーションディスプレイに給電状態が表示されます。

給電開始まで数秒かかります。

外部給電器に接続した電気製品を操作して、使用してください。



知識

■ DC 外部給電システムの使用中は

- シフトポジションをPからほかのシフトポジションに切りかえることはできません。
- 外部給電器の定格出力上限以上の電力を使用した場合、外部給電器が出力を制限したり、給電を停止したりするこ

とがあります。

- 車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。
- スマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。
- ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。
- オートアラームは作動しません。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません キーの所在を確認してください」と表示されたりすることがあります。
- 給電開始後しばらくのあいだ、出力を制限する場合があります。車両側定格出力未満で使用していても給電を停止する場合がありますが、異常ではありません。
- 気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。その場合、使用する電気製品を減らしてください。
- DC 外部給電システムの作動中は、冷却ファンの音がすることがあります。
- 走行中はDC 外部給電システムを使用できません。
- 使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- 炎天下などで車内が高温になると、駆動用電池を冷却するために自動的にエアコンが作動します。エアコン作動中はドアとドアガラスを閉めると、効率的に車内を冷却することができます。

このとき、エアコン画面に「電池冷却のため空調一定制御中」が表示され、エア

コン操作スイッチの操作を受け付けなくなります。

駆動用電池が冷却されたあとエアコンは自動的に停止しません。メッセージ表示が消えたあとにエアコン操作スイッチを操作すれば、エアコンを停止することができます。

- 外部給電器に異常があるようなメッセージ（例えば「車両に異常がみつかりました」、「車両故障発生」など）が表示されても、車両の異常ではなく、外部給電器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、外部給電コネクタの端子故障（接点不良）などが考えられます。外部給電器に付属の取り扱い説明書を確認してください。

- 電気製品を接続していない、もしくはは使用していない場合でも、消費電力が表示されることがあります。これは外部給電器本体の消費電力を表示しています。
- 燃料残量が少ないときは給電を停止します。
- 給電中に排気排水管から水が出ることがありますが、異常ではありません。
- DC 外部給電システム使用中はエアコン・アクセサリーコンセント※を使用することができます。

※ 非常時給電システムは使用できません。

■アクセサリーコンセントの使用について

DC 外部給電システムを使用しているときは、車内にあるアクセサリーコンセントからも電源を取り出すことができます。ただし、DC 外部給電システムを車両側定格出力未満で使用している場合でも、DC 外部給電システムの出力を優先させるため、アクセサリーコンセントの出力を停止する場合があります。

アクセサリーコンセントを使用したい場合には、DC 外部給電システムで使用している電気製品を減らし、もう一度 AC100V 電源を ON してください。(→P.430)

使用している電気製品を減らしても、アクセサリーコンセントは自動で復帰しません。

■車から離れるときは

盗難を防ぐためにドアの施錠を確実に確認してください。

■正常に給電できないときは

→P.83

！警告

■DC外部給電システムを使用するときの警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、給電時に車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しない
- FC ユニットルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 可燃物や危険物を車両の近くに置かない
- DC 外部給電システムの使用中は、燃料充てんおよび洗車を行わない
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない

- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わない

- 外部給電コネクタと外部給電アウトレットは、必ず直接接続する

外部給電コネクタと外部給電アウトレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

- 落雷の可能性がある天候のときは DC 外部給電システムを使用しない

使用中、雷に気付いたときには DC 外部給電システムを停止してください。

- 外部給電コネクタ、外部給電アウトレットの端子に金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない

- 外部給電アウトレットの端子がぬれないようにする

- 外部給電コネクタ・外部給電アウトレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する

付着している場合は、外部給電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。

- 車庫内や雪が積もった場所など換気の悪い場所では絶対に使用しない

■車両に給電ケーブルが接続されているとき

- シフトレバーを操作しない

万一、給電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■ DC 外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方をお願いしてください。

- 給電時は、外部給電器、給電ケーブルに近付かないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

- 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

- ものを取るときなどに、トランクルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

注意

■ DC 外部給電システムの故障を防ぐために

- 急速充電器や V2H 機器を使用して車両の充電はできません。

- 外部給電アウトレットのキャップに強い衝撃を与えないでください。

- 外部給電コネクタが損傷するおそれがあるので、使用中はボンネットを閉じないでください。

- 外部給電コネクタを外部給電アウトレットに挿し込むときは、過度の負荷をかけないでください。挿し込み不足の原因になります。

- 給電中に、外部給電コネクタ・給電ケーブルにものを載せたり、引っかけたりしないでください。

- 給電中に、外部給電コネクタ・給電ケーブルを引っ張ったり、過度の負荷をかけないでください。

- 給電中に、外部給電コネクタ・給電ケーブルに異常な発熱を感じたらすぐに使用を中止してください。

■ DC 外部給電システムの使用中は

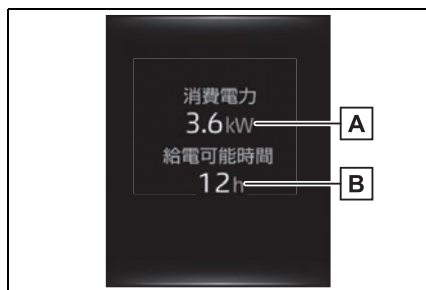
給電ケーブルがボデーに接触すると、ボデーに傷や汚れが付くことがあります。給電ケーブルの取り扱いにご注意ください。

■ 外部給電アウトレットについて

- シールなどを貼り付けない

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしない

給電状態表示



A 外部給電アウトレットにおける
おおよその消費電力

B 現在の消費電力で給電可能なお
およその時間

給電を開始してしばらくのあいだ、給電可能時間が「-h」と表示されます。

使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

DC 外部給電を停止するときは

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする

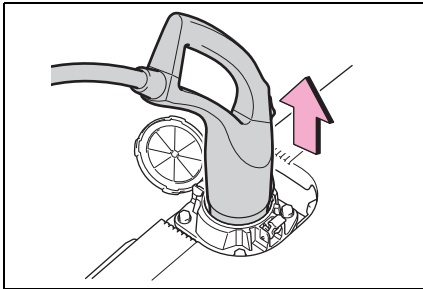
- 2 外部給電器を停止させる

外部給電器の取り扱い手順に従って操作してください。

パワースイッチを OFF にしても給電を停止できます。

- 3 外部給電コネクタのロックを解除し、外部給電コネクタを取りはずす

外部給電コネクタの形状や取り扱い方法は、外部給電器によって異なります。外部給電器の取り扱い手順に従って作業を行ってください。



- 4 外部給電アウトレットのキャップを閉めて、ボンネットを閉じる

車両の状態によっては、次回の FC システム始動に時間がかかることがあります。が異常ではありません。



知識

■ DC 外部給電後に FC システムが始動できなくなったときは

DC 外部給電後のシステム確認が正常に終了しなかった場合は、ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押しても、FC システムを始動できなくなります。

次の手順で外部給電システム確認を実施してください。

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを OFF にする
- 2 外部給電コネクタを取りはずす
- 3 外部給電アウトレットのキャップを閉め、ボンネットを閉じる
- 4 2分間待つ
- 5 パワースイッチを ON にすると、マルチインフォメーションディスプレイに「外部給電システム確認のためボンネットを閉めてください 取扱書を確認」と表示されたのち、「外部給電システム確認中」と表示されます。外部給電システム確認中は、ボンネットを開けないでください。システム確認が終了すると、パワースイッチが自動で OFF になります。
- 6 ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、READY インジケータが点灯することを確認する

外部給電システム確認を実施しても FC システムが始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

■ DC外部給電システムの故障を防ぐために

- 外部給電アウトレットのキャップに強い衝撃を与えないでください。
- 外部給電コネクタを外部給電アウトレットから取りはずすときは、過度の負荷をかけないでください。
- 給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。

**注意****■ 給電後の注意**

- 給電ケーブルがボデーに接触すると、ボデーに傷や汚れがつくことがあります。給電ケーブルの取り扱いにご注意ください。
- 外部給電アウトレットから外部給電コネクタを取りはずしたあとは、必ず外部給電アウトレットのキャップとボンネットを閉める

外部給電アウトレットを開けたまま放置すると、外部給電アウトレットに水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

正常に給電できないときは

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合や、給電作業後にエラーを伝えるメッセージが表示された場合は、次の事項をご確認ください。

DC 外部給電システムが正常に作動しないとき

次の記載を参照してそれぞれ必要な処置を行ってください。

■ 給電が開始されない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクタがしっかりと接続されていない	外部給電コネクタが外部給電アウトレットに確実に接続されているか確認してください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態でパワースイッチを 2 回押して、メーターに「パワー ON」と表示されていることを確認してください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジション表示灯でシフトポジションが P になっていることを確認してください。
燃料の残量が不足している	燃料の残量を確認し、残量が少なくなっているときは、燃料充てんしてください。
開始操作が適切でない	外部給電器によっては、開始操作が通常の手順と異なるものがあります。外部給電器の製造業者または販売業者にご確認ください。
外部給電器に異常が発生している (→P.75)	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適切な処置を行ってください。
外部給電器の電源が OFF になっている	
前回給電停止から時間をあけずに給電を行った	給電後、パワースイッチが OFF の状態で、2 分待ってから再度開始操作 (→P.76) を行ってください。
前回使用時に正常終了していない	DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに「外部給電システム確認のため ボンネットを閉めてください 取扱書を確認」が表示されたときの手順に従い、処置してください。(→P.85) その後、再度開始操作を行ってください。

考えられる原因	対処方法
車両が出力を制限している	給電開始操作後、約 15 秒間は車両が出力を制限する場合があります。使用する電気製品を減らして、再度給電開始操作を行ってください。
FC システムの温度が極端に低い	外部給電器によっては、FC システム暖機中に作動停止するものがあります。FC システム暖機の作動音が停止後、再度開始操作を行ってください。
駆動用電池の温度が極端に低いまたは高い	FC システムを始動し、エアコンで車室内の温度を十分に暖めるか冷ましてから、開始操作(→P.76)を行ってください。車を走行させて FC システムを暖機することで暖めることもできます。
その他	「DC 外部給電作業をする前に」(→P.76)を確認し、再度開始操作を行ってください。

■ 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
外部給電器の電源が何らかの理由で OFF になっている	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適切な処置を行ってください。
車両の出力を超過する電気製品を使用している	使用する電気製品を減らして、再度開始操作を行ってください。
車両が出力を制限している	給電開始操作後、約 15 秒間は車両が出力を制限する場合があります。使用する電気製品を減らして、再度給電開始操作を行ってください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適切な処置を行ってください。

■ 使用後、FC システムが始動しない

考えられる原因	対処方法
車両に外部給電器が接続されている	外部給電器の取り扱い説明書に従って、外部給電コネクタを取りはずしてください。
前回使用時に正常終了していない	DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに「外部給電システム確認のため ボンネットを閉めてください 取扱書を確認」が表示されたときの手順に従い、処置してください。(→P.85)

■ 給電終了後、外部給電コネクタがはずれない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクタが何らかの理由でロックされている	外部給電器の取り扱い説明書に従って、適切な処置を行ってください。

給電に関するメッセージが表示されたときは

DC 外部給電後にパワースイッチを ON にするか、FC システムを始動すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 「外部給電システム確認のためボンネットを閉めてください 取扱書を確認」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
DC 外部給電時のシステム確認が正常に終了しなかった	システム確認が正常に終了するまで、FC システムを始動できなくなります。P.81 の記載に従って、システム確認を実施してください。

■ 「外部給電器の要因により給電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部給電器が故障している	外部給電器の製造業者または販売業者にご確認ください。
外部給電器の非常停止操作をした	本メッセージが表示されますが、異常ではありません。
ガイドライン（→P.75）に準拠していない外部給電器を使用した	ガイドライン（→P.75）に準拠している外部給電器で給電してください。

■ 「使用電力が許容値を超えたため給電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
車両の定格出力 9kW をこえる電気製品を使用した	使用する電気製品を減らしてから、再度、開始操作を行ってください。

■ 「燃料の残量低下により給電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
燃料残量が少なくなった	燃料充てん後、再度、開始操作を行ってください。

■「給電コネクタ接続により FC システム停止 取扱書を確認」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
FC システム始動中、外部給電アウトレットに外部給電コネクタを接続した	外部給電アウトレットから外部給電コネクタを取りはずしてください。

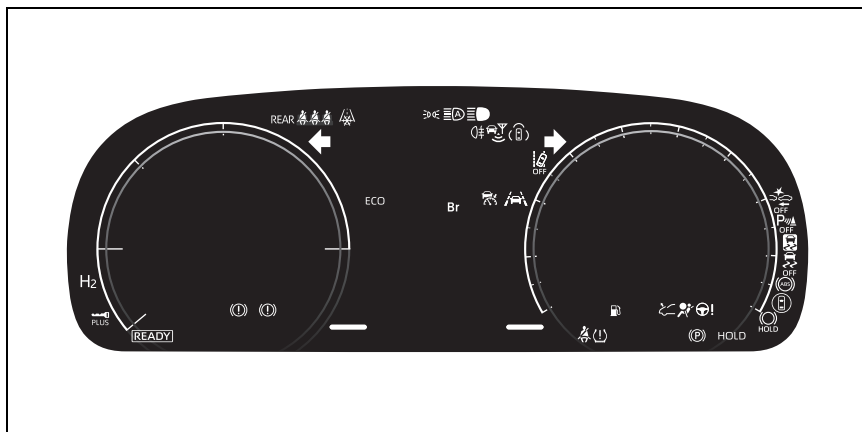
■「給電コネクタ接続により始動できません 取扱書を確認」と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
FC システム始動時に、外部給電アウトレットに外部給電コネクタが接続されている	外部給電アウトレットから外部給電コネクタを取りはずしてから再度、FC システムを始動してください。

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	88
計器類	93
マルチインフォメーションディスプレイ	98
ヘッドアップディスプレイ	108
エネルギーモニター／燃費画面／エ アピュリフィケーション画面	112

▶ タイプ 3



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

-  H₂ 警告灯 ※¹ (→P.496)
-  ブレーキ警告灯 ※¹ (→P.496)
(赤色)
-  ブレーキ警告灯 ※¹ (→P.496)
(黄色)
-  高水温警告灯 (→P.496)
(赤色)
-  充電警告灯 ※² (→P.497)
-  FC システム過熱警告灯 ※² (→P.497)
-  SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 ※¹ (→P.497)
-  ポップアップフード警告灯 ※¹ (→P.497)
-  ABS & ブレーキアシスト警告灯 ※¹ (→P.497)

-  ペダル誤操作警告灯 ※² (→P.498)
-  パワーステアリング警告灯 ※¹ (→P.498)
(赤色)
-  パワーステアリング警告灯 ※¹ (→P.498)
(黄色)
-  燃料残量警告灯 (→P.498)
-  運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 (→P.498)
-  リヤ席シートベルト非着用警告灯 (→P.499)
-  リヤ席シートベルト非着用警告灯 (→P.499)
-  タイヤ空気圧警告灯 ※¹ (→P.499)
-  PCS 警告灯 ※¹ (→P.499)
-  LTA 表示灯 (→P.499)
(黄色)



LDA 表示灯 (→P.500)
(黄色)



PDA 表示灯 (→P.500)
(黄色)



クルーズコントロール表示灯
(→P.500)
(黄色)



レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.500)
(黄色)



運転支援情報表示灯 ※¹
(→P.501)



クリアランスソナー OFF 表示灯 ※¹ (→P.501)



スリップ表示灯 ※¹
(→P.501)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.502)
(点滅)



ブレーキホールド作動表示灯
※¹ (→P.502)
(点滅)

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または FC システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

■ FC システムや構成部品への損傷を防ぐために

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、FC システムを確認してください。(→P.532)

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.193)



尾灯表示灯 (→P.201)



ハイビーム表示灯
(→P.204)



AHS 表示灯 (→P.205)



リヤフォグランプ表示灯
(→P.210)



低水温表示灯 ※¹ (→P.92)
(青色)



PCS 警告灯 ※^{2, 3}
(→P.232)



(白色)

LTA 表示灯 (→P.244)



(緑色)

LTA 表示灯 (→P.244)



(黄色点滅)

LTA 表示灯 (→P.244)



(緑色)

LDA 表示灯 (→P.253)



(黄色点滅)

LDA 表示灯 (→P.253)



OFF

LDA OFF 表示灯 ※3
(→P.253)

(白色)

PDA 表示灯 (→P.258)



(緑色)

PDA 表示灯 (→P.258)



(白色)

クルーズコントロール表示灯
(→P.278)

(緑色)

クルーズコントロール表示灯
(→P.278)

(白色)

レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.269)



(緑色)

レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.269)

運転支援情報表示灯 ※2, 3
(→P.294, 309, 320, 325, 329)

ドアミラーインジケー

ター ※5 (→P.292, 320)



OFF

クリアランスソナー OFF 表
示灯 ※2, 3 (→P.312)クリアランスソナー検知表示
灯 ※7 (→P.312)

(点滅)

スリップ表示灯 ※2
(→P.379)

OFF

VSC OFF 表示灯 ※2, 3
(→P.380)スマートエントリー&スター
トシステム表示灯 ※4
(→P.183)

READY

READY インジケター
(→P.183)

(P)

パーキングブレーキ表示灯
(→P.194)

HOLD

ブレーキホールドスタンバイ
表示灯 ※2 (→P.197)

HOLD

ブレーキホールド作動表示灯
※2 (→P.197)

/

低温表示灯 ※6 (→P.96)



ITS

ITS Connect アイコン
(→P.287)

ITS

ITS Connect アイコン
(→P.287)

ITS

ITS Connect アイコン
(→P.287)

PLUS

プラスサポート表示灯★
(→P.339)

—

制動灯表示灯
(→P.92)

Br

Br モード表示灯 (→P.192)



ECO

エコドライブモード表示灯
(→P.376)

Rr COMF

コンフォートモード表示灯
(→P.376)

SPORT

スポーツモード表示灯
(→P.376)



カスタムモード表示灯
(→P.376)



スノーモード表示灯
(→P.377)

- ※¹冷却水温が低いとき点灯します。
- ※²作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または FC システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※³システムが OFF のときに点灯します。
- ※⁴メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- ※⁵ドアミラーに表示されます。
- ※⁶外気温が約 3° C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。
- ※⁷マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車



知識

■ クリアランスソナー OFF 表示灯について

マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、クリアランスソナー機能の ON / OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

■ 制動灯表示灯について

ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

■ 低水温表示灯について

冷却水温が低いとき点灯します。

計器類

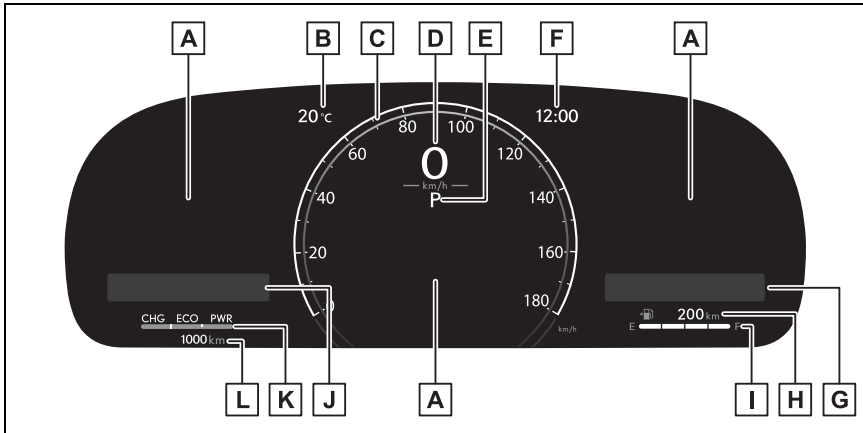
走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

■ 計器類の位置

メーター表示のタイプを選択することができます。(→P.103)

▶ タイプ1 / タイプ2



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.98)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.504)

B 外気温 (→P.96)

C アナログメーター (タイプ2のみ)

お好みのメーターに変更することができます。(→P.103)

アナログスピードメーター：

車両の走行速度を示します。

FC システムインジケーター：

FC システムの出力や回生レベルを示します。(→P.95)

D デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

E シフトポジション表示 (→P.188)

F 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G ウィジェット（オーディオシステム連携表示）

オーディオシステム連携表示の一部を簡易表示します。（→P.102）

コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。（→P.100）

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.95）

I 燃料計

燃料残量を示します。

J ウィジェット（燃費グラフ）

燃費グラフの一部を簡易表示します。（→P.100）

コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。（→P.100）

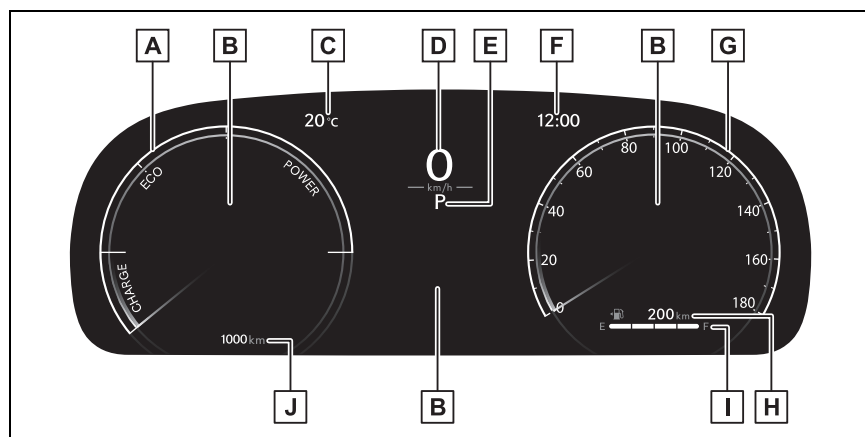
K FC システムインジケーター

FC システムの出力や回生レベルを示します。（→P.95）

アナログメーターで FC システムインジケーターを選択しているときは非表示になります。

L オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.96）

▶ タイプ 3



A FC システムインジケーター

FC システムの出力や回生レベルを示します。（→P.95）

B マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.98)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.504)

C 外気温 (→P.96)

D デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

E シフトポジション表示 (→P.188)

F 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G アナログスピードメーター

車両の走行速度を示します。

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。(→P.95)

I 燃料計

燃料残量を示します。

J オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.96)

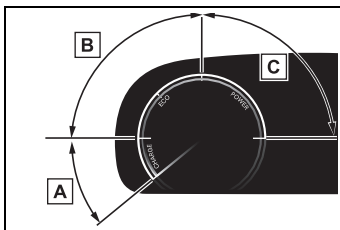


知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■FC システムインジケーター



A チャージエリア

回生 ※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B エコエリア

エコ運転 (環境に配慮した走行) をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

C パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、FC システムインジケーターは作動しません。

● READY インジケーターが点灯していないとき

● シフトポジションが D または Br モード以外するとき

■航続可能距離について

● 運転履歴から学習した燃費と現在の燃

料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

- システムの電力消費により、走行していなくても航続可能距離が減少する場合があります。
- 次の場合に、航続可能距離が“---km”と表示されます。
 - ・ 燃料残量を計算しているとき（短時間）
 - ・ 燃料残量計が“E”まで到達したとき
 - ・ 航続可能距離が計算できない異常が発生したとき
- エアコンの作動中は航続可能距離の横にが表示され、エアコンを使用した場合の航続可能距離にかかります。

■ 外気温表示について

- 外気温を $-40^{\circ}\text{C} \sim 60^{\circ}\text{C}$ のあいだで表示します。
- 外気温が約 3°C 以下のときは、外気温表示の横にが点滅し、そのあと点灯します。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “---” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.98

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイ

ので、計器類の表示を変更できます。（→P.103）

⚠ 警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

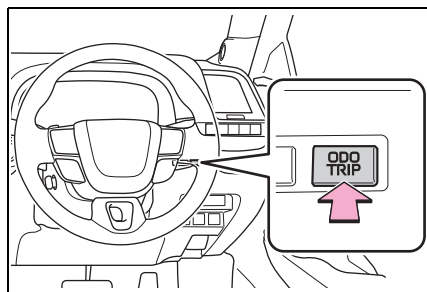
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



知識

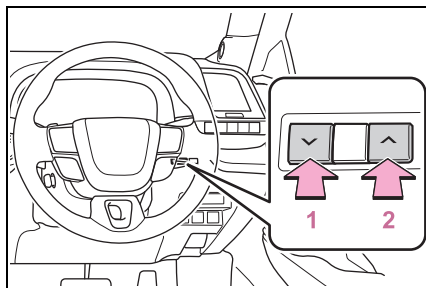
■ 音声対話サービスでのオドメーター／トリップメーター操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、オドメーター・トリップメーターの表示を切りかえることができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



- 1 暗くする
- 2 明るくする

知識

■ メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

昼照度と夜照度は、次のときに切りかわります。

- 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

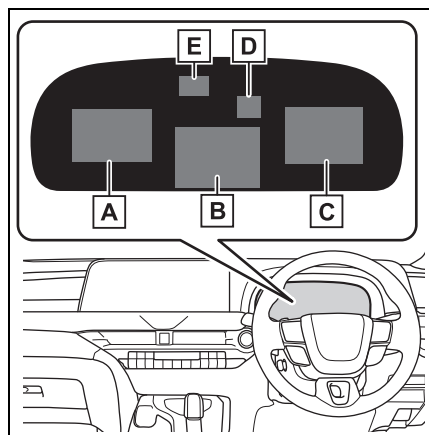
- 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更することもできます。

ディスプレイの表示

マルチインフォメーションディスプレイの各エリアには、次の情報が表示されます。



- A** コンテンツ表示エリア (左)
- B** コンテンツ表示エリア (中央)
- C** コンテンツ表示エリア (右)
- D** 運転支援システム情報表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を選択している場合は、表示されません。

- E** RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.264)

■ コンテンツ表示エリア (中央)

- 運転支援システム情報 (→P.102)
- 地図表示 (→P.102)
- 設定 (→P.103)
- 警告メッセージ
- ブランク (→P.103)

■ コンテンツ表示エリア (左／右)

- 燃費グラフ (→P.100)
- エコアクセルガイド／エコジャッジ (→P.100)
- 運転支援システム情報 (→P.102)
- ナビゲーションシステム連携表示 (→P.102)
- オーディオシステム連携表示 (→P.102)
- ドライブインフォメーション (→P.102)
- エネルギーモニター (→P.112)
- タイヤ空気圧 (→P.103)
- ブランク (→P.103)

□ 知識

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ 走行モードを切りかえたとき

選択したモードに従って、マルチイン

フォメーションディスプレイの背景色が変化します。(→P.376)

警告

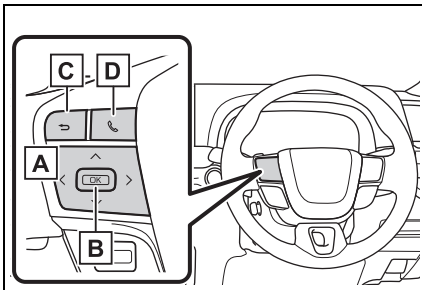
■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

→P.96

メーター操作スイッチ



A </> : ページの切りかえ・カーソル移動

^/∨ : 表示項目の切りかえ・ページ送り

B 短押し : 決定

長押し : リセット・詳細項目表示・カーソル表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参

照してください。

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って表示を切りかえることができます。

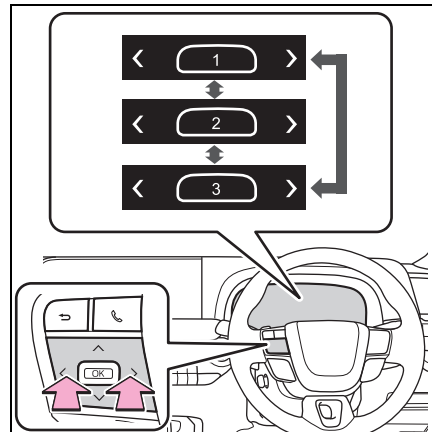
■ メーター表示タイプの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの⚙️から、メーター表示タイプを切りかえることができます。(→P.103)

■ ページの切りかえ

3 エリアのコンテンツ表示を、3 ページ分の組み合わせから選択することができます。

< または > を押してページを切りかえます。



■ コンテンツ表示項目の切りかえ

コンテンツ表示エリア（左／中央／右）の項目を切りかえることができます。

- 1 メーター操作スイッチのOK を長押しして、コンテンツ表示エ

リア（中央）にカーソルを表示させる

2 < または > を押してカーソルを移動し、コンテンツ表示エリアを選択する

3 ^ または v を押して表示項目を選択する

■ コンテンツ表示項目の表示／非表示

コンテンツ表示エリア（左／右）の項目の表示／非表示を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの OK を長押しして、コンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる

2 < または > を押してカーソルを移動し、コンテンツ表示エリアを選択する

3 コンテンツ表示エリア（左）：
< を押してコンテンツ一覧を表示させる
コンテンツ表示エリア（右）：
> を押してコンテンツ一覧を表示させる

4 ^ または v を押して項目を選択する

5 OK を押して、各項目の表示／非表示を選択する

燃費グラフ



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

始動後・リセット間のうち、いずれかの平均燃費を表示します。※1, 2, 3

⚙️ 画面の「燃費グラフ」で選択した燃費が表示されます。（→P.103）

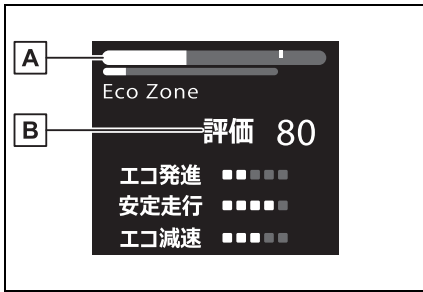
※1 表示される燃費は参考として利用してください。

※2 始動後平均燃費は、FC システムを始動するたびに、表示がリセットされます。

※3 リセット間平均燃費の表示中に OK を押し続けると、リセットされます。

エコアクセルガイド／エコジャッジ

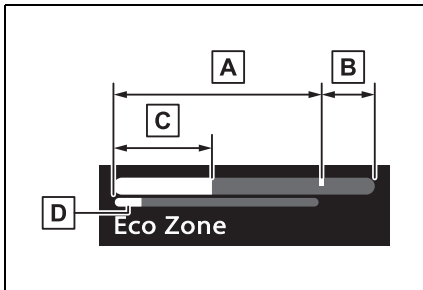
走行状況に適したアクセル操作の目安や、走行状況を評価して採点結果を表示します。



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

■ エコアクセルガイドの見方



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

C 現状のアクセル開度

D アクセル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリアの下側に青く表示されます。

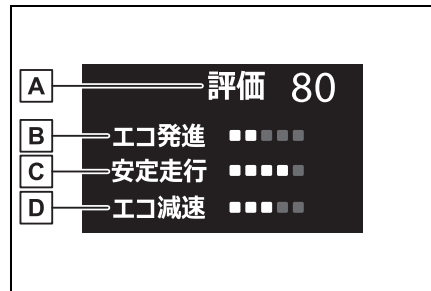
エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、よ

り容易に行えます。

■ エコジャッジの見方

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ減速）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。



A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ減速の状況

走行中は 3 つの走行状況がそれぞれのアイコンで表示されます。

各採点項目のゲージは、それぞれ次の意味を示しています。

状況	表示
未評価	■■■■■
評価が低い	■ ■■■■
評価が高い	■■■■■

発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

エコジャッジは発進するたびにリ

セットされ、新たに評価が開始されます。



知識

■エコアクセルガイド／エコジャッジの作動条件

次の場合、エコジャッジとエコアクセルガイドの作動が停止します。

- FC システムインジケーターが作動していないとき
- レーダークルーズコントロールを使用しているとき
- クルーズコントロールを使用しているとき

■運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.241）
- LCA（レーンチェンジアシスト）（→P.246）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.250）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.255）
- レーダークルーズコントロール（→P.267）
- クルーズコントロール（→P.276）

■地図表示

ナビゲーションシステムと連携して、地図情報を表示します。OK を押すごとに表示の大きさを切りかえることができます。

■ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して、次の情報を表示します。

- 目的地案内
- レーン（車線）案内
- コンパス

■オーディオシステム連携表示

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

■ドライブインフォメーション

■ドライブインフォメーション

「ドライブインフォ項目選択」の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に2つ、表示させることができます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ・ 平均車速：FC システム始動後の平均車速を表示※
- ・ 走行距離：FC システム始動後の走行距離を表示※
- ・ 走行時間：FC システム始動後の経過時間を表示※

※ FC システムを始動するたびに、表示がリセットされます。

■トリップインフォメーション

「TRIP A 項目選択」「TRIP B 項目選択」の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に2つ、表示させることができます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示 ※
- ・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示 ※
- ・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示 ※

※ OK を押し続けるとリセットされます。

タイヤ空気圧

→P.458

エネルギーモニター

→P.112

ブランク (非表示)

マルチインフォメーションディスプレイにブランク画面を表示します。

設定について

メーター操作スイッチを操作してご希望の項目を選択することで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 設定変更のしかた

- 1 メーター操作スイッチのOK を長押しして、コンテンツ表示エリア (中央) にカーソルを表示させる
- 2 メーター操作スイッチの▲または▼を押して[⚙]を選択する

- 3 メーター操作スイッチの▲または▼を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動する

機能のON / OFF やブザー音量などを設定する項目では、OK を押すたびに機能のON / OFF、または調整値が切りかわります。

機能の作動内容を変更できる項目では、

OK を押し続けることで、設定画面を表示できます。設定画面が表示されたら、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定します。

- 4 設定が完了したら、メーター操作スイッチの[⬅]を押す

■ ヘッドアップディスプレイ (→P.108)

ヘッドアップディスプレイの設定を変更することができます。

■ [🚦]LDA (レーンディパーチャアラート) (→P.250)

次の設定を変更することができます。

● 機能のON / OFF

レーンディパーチャアラートの作動 / 非作動を変更することができます。

● 低車速支援

低車速支援機能の作動 / 非作動を変更することができます。

● 警報手段

警報の手段を変更することができます。

● 警報タイミング

車線逸脱警報機能の作動タイミングを変更することができます。

■ BSM (ブラインドスポットモニター) (→P.292)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

ブラインドスポットモニターの作動／非作動を変更することができます。

● 支援タイミング

接近車両の検知を知らせるタイミングを変更することができます。

● 明るさ

ドアミラーインジケーター (→P.292) の明るさを変更することができます。

● ブザー警報

ブラインドスポットモニター作動時のブザー警報の作動／非作動を変更することができます。

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.232)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

プリクラッシュセーフティの作動／非作動を変更することができます。

● 警報タイミング

衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

■ PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.255)

● 機能の ON / OFF

プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動を変更することができます。

● 支援タイミング

ブレーキやハンドル操作を支援する感度

を変更することができます。

● SA (操舵アシスト) 機能の ON/OFF

操舵アシストの作動／非作動を変更することができます。

● DA (減速アシスト) 機能の ON / OFF

減速アシストの作動／非作動を変更することができます。

● OAA (障害物先読みアシスト) 機能の ON / OFF

障害物先読みアシストの作動／非作動を変更することができます。

■ クリアランスソナー (→P.312)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

クリアランスソナーの作動／非作動を変更することができます。

● 音量

RCTA、RCD、クリアランスソナー機能作動時のブザー音量を変更することができます。

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) (→P.319)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

RCTA 機能の作動／非作動を変更することができます。

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションが R のときは、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

● 音量

RCTA、RCD、クリアランスソナー機能作動時のブザー音量を変更することができます。

■ 後方車両接近告知

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

後方車両接近告知の作動／非作動を変更することができます。

● 支援タイミング

後方車両接近告知の作動タイミングを変更することができます。

■ RCD (リヤカメラディテクション) (→P.324)

RCD 機能の作動／非作動を変更することができます。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.328)

パーキングサポートブレーキ機能の作動／非作動を変更することができます。

■ SEA (安心降車アシスト) (→P.308)

● 機能の ON / OFF

安心降車アシスト機能の作動／非作動を変更することができます。

● 感度

車両／自転車を検知する感度を変更することができます。

● ミラー点灯の ON / OFF

ドアミラーインジケーターの作動／非作動を変更することができます。

■ AVSP (周辺車両接近時サポート)

周辺車両接近時サポートの作動／非作動を変更することができます。

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.264)

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON / OFF

ロードサインアシストの作動／非作動を変更することができます。

● 告知手段

最高速度・赤信号・車両進入禁止の各標識を認識したときの警報方法をそれぞれ変更することができます。

● 告知車速

最高速度標識の認識時、標識が示す制限速度に対して警報を実施する超過速度を変更することができます。

■ 車両設定

● 休憩提案 (→P.252)

LDA の休憩提案機能の作動／非作動を変更することができます。

● アドバンスド ドライブ (渋滞時支援) (→P.282)

アドバンスド ドライブ (渋滞時支援) の作動／非作動を変更することができます。

● LCA (レーンチェンジアシスト) (→P.246)

次の設定を変更することができます。

・ 機能の ON / OFF

レーンチェンジアシストの作動／非作動を変更することができます。

● ITS Connect (→P.286)

ITS Connect の設定を変更することが

できます。

● クルーズ (ITS) (→P.273)

通信利用型レーダークルーズコントロールの作動／非作動を変更することができます。

● クルーズ (→P.267)

レーダークルーズコントロールの設定を変更することができます。

● FCTA (フロントクロストラフィックアラート) (→P.260)

フロントクロストラフィックアラートの設定を変更することができます。

● ハンズフリー (→P.134)

ハンズフリーパワートランクリッドの設定を変更することができます。

● 発進遅れ告知 (→P.262)

発進遅れ告知の設定を変更することができます。

● TPWS (タイヤ空気圧警報システム) 設定 (→P.458)

タイヤ空気圧警報システムの設定を変更することができます。

・ “タイヤ交換”

タイヤ空気圧バルブ／送信機固有の ID コードをタイヤ空気圧警報システムに登録する場合に選択します。(→P.462)

・ “タイヤローテーション”

タイヤローテーションを行った後にタイヤの位置を登録する場合に選択します。(→P.460)

・ “タイヤ空気圧設定”

タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する場合に選択します。(→P.461)

・ “単位設定”

タイヤ空気圧の単位を選択することができます。(→P.458)

● ナビ連動排水

排水量の設定を変更することができます。(→P.199)

● イオン交換器

イオンフィルタのメンテナンス情報がリセットされます。(→P.67)

● リヤシートリマインダー (→P.127)

リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を変更することができます。

● 後退速度抑制 (→P.180)

後退速度の抑制制御 (ドライブスタートコントロール) の作動／非作動を変更することができます。

● ドライバーモニター (→P.230)

ドライバーモニターの設定を変更することができます。

● ストップランプ

制動灯表示灯の作動／非作動を変更することができます。(→P.92)

■ 表示設定

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● メータータイプ (→P.88)

メーター表示のタイプを選択することができます。

● メーターデザイン

メーター表示のデザインを選択することができます。

● アナログメーター切りかえ

アナログメーター (→P.93) に表示する項目を選択することができます。

メーター表示タイプによっては、項目が非表示になります。

● 燃費グラフ

燃費グラフ（→P.100）に表示する平均燃費の種類を選択することができます。

● FC インジケーター

アクセル操作の目安（→P.100）の表示／非表示を変更することができます。

● ドライブインフォメーション

ドライブインフォメーション（→P.102）に表示する項目の種類を選択することができます。

● 割込表示

割り込み表示される項目の表示／非表示を、項目ごとに変更することができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。



知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。



注意

■ **ディスプレイの設定を変更するとき**
補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に FC システムが作動している状態で実施してください。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作する

ことで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとにヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

ランプスイッチが AUTO のとき：このとき“はい”を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

パワースイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき“はい”を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき“はい”を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。



知識

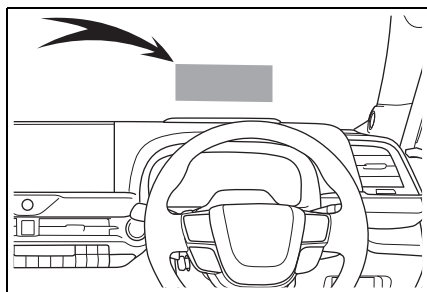
■ カスタマイズ機能

提案サービス機能の作動／非作動を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.542）

ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

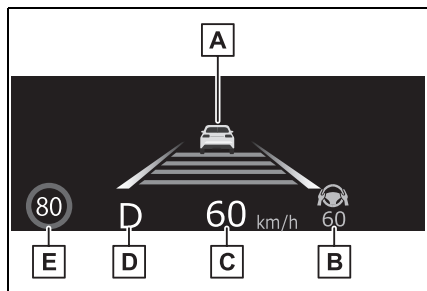
ディスプレイの表示



ヘッドアップディスプレイ表示のタイプを変更することができます。(→P.110)

表示内容は、走行状況・走行モードやヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示されます。

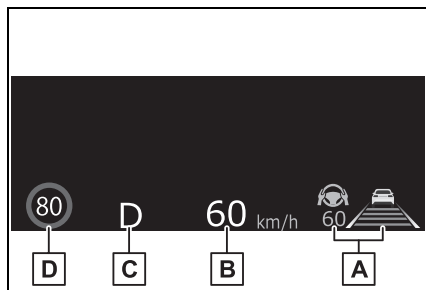
■ フル



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

- A** 運転支援システム表示エリア (→P.110) / ナビゲーションシステム連携表示エリア / FCシステムインジケータ表示エリア (→P.112)
- B** 運転支援システム表示エリア (→P.110)
- C** スピードメーター
- D** シフトポジション表示 (→P.188)
- E** RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.264)

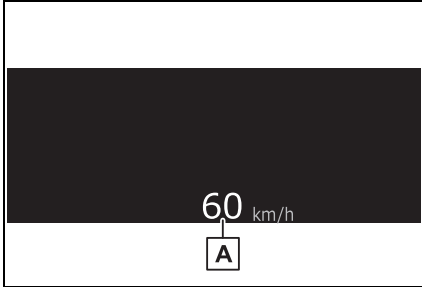
■ スタンダード



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

- A** 運転支援システム表示エリア (→P.110)
- B** スピードメーター
- C** シフトポジション表示 (→P.188)
- D** RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.264)

■ ミニマム



A スピードメーター



知識

■ ヘッドアップディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ 交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■ レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。（レーン情報のある交差点の手前 300m 以内にレーン情報のない交差点がある場合、道路形状が工事等で変更になった場合など）

⚠ 警告

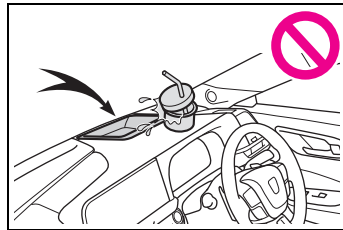
■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ヘッドアップディスプレイ映写部について

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。

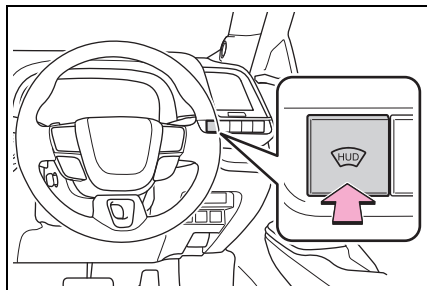


- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

ヘッドアップディスプレイスイッチを押すと表示／非表示が切りかわります。



■ ヘッドアップディスプレイの設定

マルチインフォメーションディスプレイのから、次の設定を変更することができます。(→P.103)

● 表示タイプ

ヘッドアップディスプレイ表示のタイプ(→P.108)を変更することができます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。



知識

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■ 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイのによる明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.167)

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

■ 音声対話サービスでのヘッドアップディスプレイ操作について★

音声対話サービスを使用して、ヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に FC システムが始動している状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.241)
- LCA (レーンチェンジアシス

ト) (→P.246)

- LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.250)
- PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.255)
- FCTA (フロントクロストラフィックアラート) (→P.260)
- レーダークルーズコントロール (→P.267)
- アドバンスド ドライブ (渋滞時支援) (→P.282)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。

- 交差点名
- 目的地案内
- レーン (車線) 案内

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.232)
- LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.241)
- LCA (レーンチェンジアシス

ト) (→P.246)

- LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.250)
- PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.255)
- FCTA (フロントクロストラフィックアラート) (→P.260)
- 発進遅れ告知機能 (→P.262)
- レーダークルーズコントロール (→P.267)
- ドライバー異常時対応システム (→P.279)
- アドバンスド ドライブ (渋滞時支援) (→P.282)
- ITS Connect (→P.286)
- PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.328)
- ブレーキオーバーライドシステム (→P.176)
- ドライブスタートコントロール (→P.180)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

■ 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。(マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容)

■ ハンズフリー作動表示

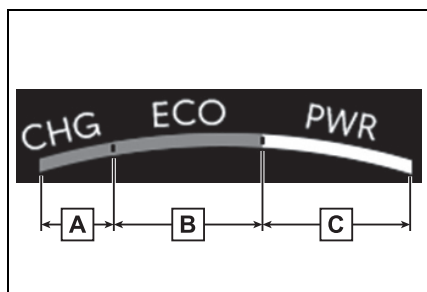
ハンズフリーの作動中に表示されます。

知識

■ 割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

FC システムインジケーター



A チャージエリア

B エコエリア

C パワーエリア

FC システムの出力や回生レベルを示します。詳しくは、P.95 を参照してください。

知識

■ FC システムインジケーターの表示条件

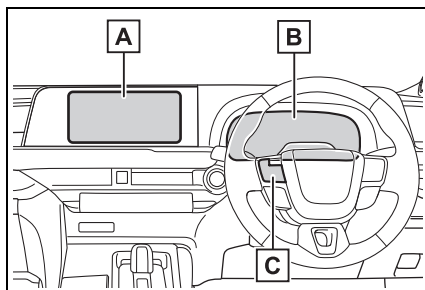
次の条件をすべて満たしているとき FC システムインジケーターが表示されます。

- LTA (レーントレーシングアシスト)、LDA (レーンディパーチャーアラート)、レーダークルーズコントロールが OFF のとき
- ヘッドアップディスプレイをフル表示 (→P.108) しているとき
- 走行モードがスポーツモード以外のとき

エネルギーモニター／燃費画面／エアピュリフィケーション画面

FC システムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディアディスプレイに表示します。

システムの構成部品



A マルチメディアディスプレイ

B マルチインフォメーションディスプレイ

C メーター操作スイッチ

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、FC システムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチを使用してマルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニターを表示させる

マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリア（左／右）に表示させることができます。

マルチインフォメーションディスプレイの操作方法については、P.99 を参照してください。

▶ マルチメディアディスプレイ

メインメニューの  にタッチし、サブメニューの「エネルギーフロー」にタッチする

マルチメディアディスプレイの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 表示について

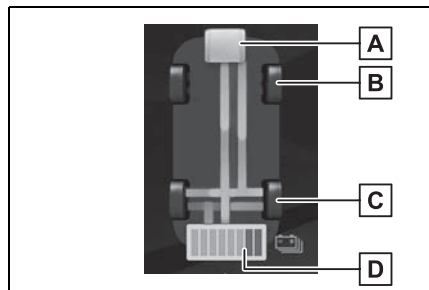
エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

黄：電気エネルギーを使用しているとき

▶ マルチインフォメーションディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

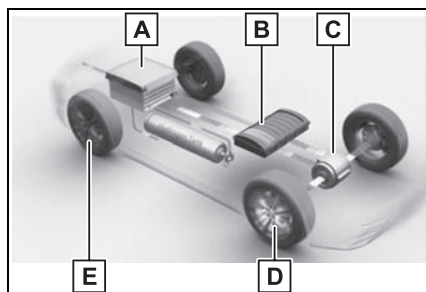
A FC スタック

B フロントタイヤ

C リヤタイヤ

D 駆動用電池

▶ マルチメディアディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A FC スタック

B 駆動用電池

C 電気モーター

D リヤタイヤ

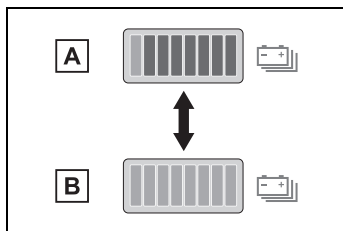
E フロントタイヤ

□ 知識

■ 駆動用電池の表示について

駆動用電池の残量に応じて、8 段階で表示されます。

- 図は例として、マルチインフォメーションディスプレイで説明します。
- 実際の表示内容とは異なる場合があります。
- 電池残量表示の増減と FC システムインジケータの充放電矢印表示は必ずしも一致しない場合がありますが異常ではありません。



A 少ない

B 多い

燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

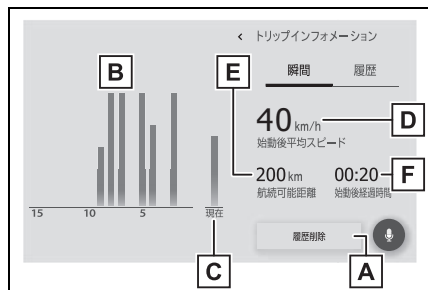
メインメニューの にタッチし、サブメニューの「トリップインフォメーション」にタッチする
マルチメディアディスプレイの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 燃費履歴画面の見方

瞬間燃費画面以外が表示されたときは、「瞬間」にタッチします。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とは一致しない場合があります。



A 履歴削除

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費

(平均燃費)

C 瞬間燃費

D FC システム始動後平均車速

E 航続可能距離

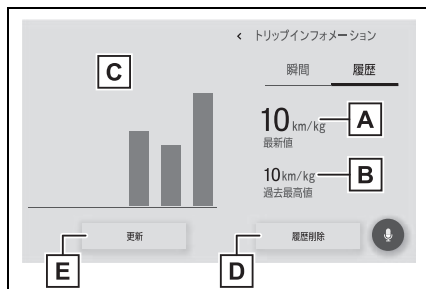
F FC システム始動後経過時間

■ 燃費履歴画面の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、「履歴」にタッチします。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とは一致しない場合があります。



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新



知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で「更新」にタッチすると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

「履歴削除」にタッチすると、燃費データ

がリセットされます。

■ 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、燃費や航続可能距離などの情報を確認することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

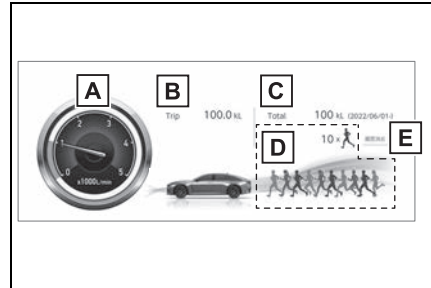
エアピュリフィケーション画面の見方

お客様のアクセル操作や FC システムの作動状態により、FC システムが最適に発電をしますが、このとき FC システムがきれいにした空気量を表示します。

■ 表示のしかた

メインメニューの  にタッチし、サブメニューの「エアピュリフィケーション」にタッチする

■ 表示について



A 瞬間空気清浄量

単位時間あたりの瞬間空気清浄量を表示します。

B 始動後空気清浄量

FC システム始動からの空気清浄積算量を表示します。

C リセット間空気清浄量

リセット後の空気清浄積算量を表示します。

D ランナー表示

リセット間空気清浄積算量に応じてランナーが増加します。

E 履歴消去

今までの履歴を消去します

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■ エアピュリフィケーション内のデータをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、リセット間空気清浄量とランナー表示のデータがリセットされます。

■ ランナー表示について

ランナーが 10 人たまるとランナーマークに吸収されます。

■表示について

- 使用環境（気候、標高など）や発電状態、走行状態によって発電に必要な空気の量が変わるため、実際の空気量とは異なる場合があります。
- 瞬間空気清浄量が微小に動いたり、遅れて動くことがあります、異常ではありません。

4-1. キー

キー 118

デジタルキー 122

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 125

トランク 131

スマートエントリー&スタートシステム 138

4-3. シートの調整

フロントシート 144

パワーリヤシート 145

ヘッドレスト 148

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 152

デジタルインナーミラー 153

ドアミラー 162

4-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ 164

4-6. お好み設定

パワーイーजीアクセスシステム／

ポジションメモリー／メモリー

コール機能 167

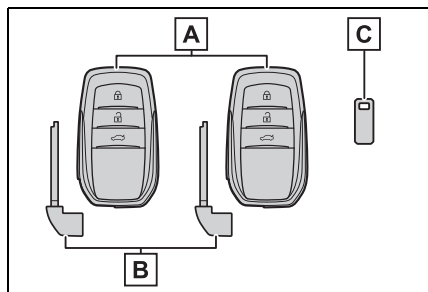
マイセッティング 170

キー

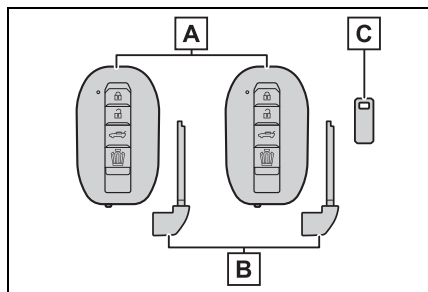
キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。

▶ A タイプ



▶ B タイプ



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.138)
- ・ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート



知識

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが

押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、FC システムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→P.140)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.478)
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーの LED が点灯しない
- 電池はお客様自身で交換することができます (→P.478) が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器
- スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

- 電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをすすめます。(→P.126)

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください”が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。

■電子キーの取り扱いについて

(→P.478)

■電池の交換方法

→P.478

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

00



注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない

- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

- 分解しない

⚠ 注意

- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.525

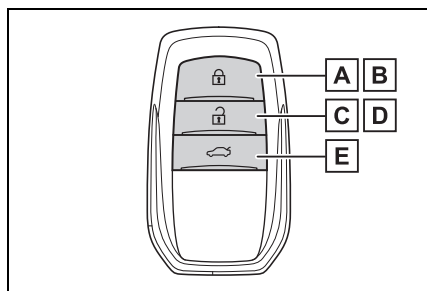
■ 電子キーを紛失したとき

→P.524

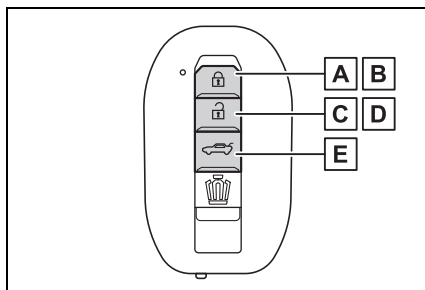
ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。

▶ A タイプ



▶ B タイプ



A 全ドアを施錠する (→P.125)

B ドアガラスを閉める ※
(→P.125)

C 全ドアを解錠する (→P.125)

D ドアガラスを開く ※
(→P.125)

E トランクを開ける (→P.134)

※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

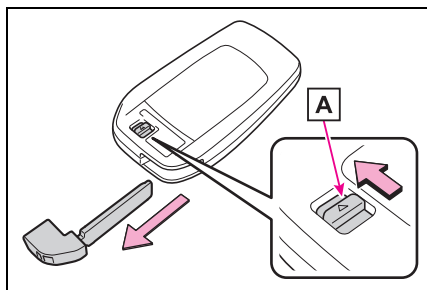
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバー**A**をスライドさせてキーを取り出してください。

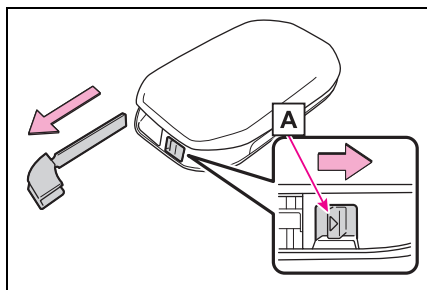
メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P.525)

▶ A タイプ



▶ B タイプ


 知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF (→P.137) にして、グローブボックス (→P.411) を施錠します。

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

→P.524

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。

また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL：https://toyota.jp/digital_key/

QR コード：





■ デジタルキーの取り扱い

JP

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、T-Connect に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はトヨタ販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

- デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください）。そのため、電子キーを常に携帯することを推奨いたします。

- ・ スマートフォンが故障した場合
- ・ スマートフォンとサーバーが通信できない場合
- ・ スマートフォンのバッテリー残量がなくなった場合
- ・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合
- スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。
- デジタルキーは、スマートエントリー&スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。
- 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）
- お客様が車両を売却するときは

デジタルキーを必ず削除してください。

削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

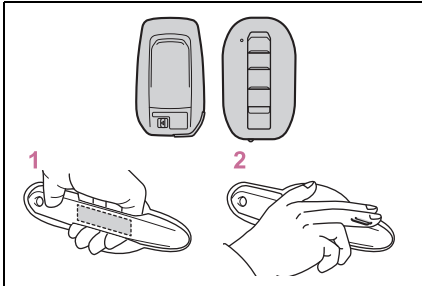
- 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れてください。
- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠や FC システムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、車のディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
- 点検や修理などでトヨタ販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
- デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、スマートエントリー&スタートシステムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ドアハンドルを握って解錠する
ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

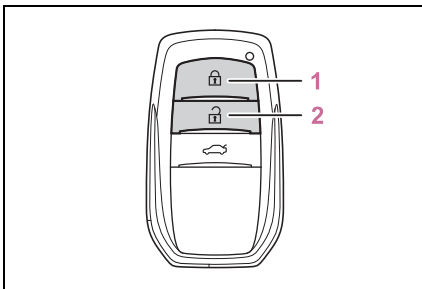
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

▶ A タイプ



1 全ドアを施錠する

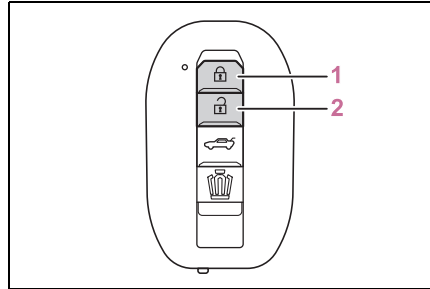
必ず施錠されたことを確認してください。
押し続けるとドアガラスが閉まります。
※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

▶ B タイプ



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。
押し続けるとドアガラスが閉まります。
※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

知識

■ 降車オートロック機能※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。
車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.139）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。(→P.127)

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

● ドアを施錠・解錠する

● FC システムを始動する

■接近時オートアンロック機能※

※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

● すべてのドアが閉まっている

● すべてのドアが施錠されている

■接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドル上側のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、FC システムを始動することで作動可能状態にもどります。

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。切りかえ操作は、車内または車から約 1m 以内の範囲で実施してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、

 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピッピー” (3 回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	助手席のドアハンドル・リヤドアのドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピッピー” (2 回)	ドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.56)

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

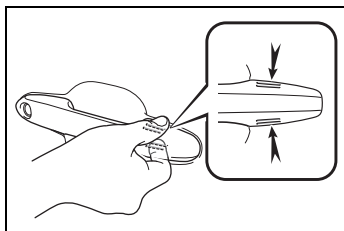
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル上部のロックセンサーで施錠できないとき

上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

次のような場合、半ドア警告ブザーが鳴ります。すべてのドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

●スマートエントリー&スタートシステ

ムで施錠操作をしたときに、施錠しようとしたドア以外のドアが開いていた

- ワイヤレス機能で施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いていた

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.56)

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.140

■スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.525)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.478)

■リヤシートリマインダー機能

- リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、ドアを施錠したときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

パワースイッチを OFF にしてからリヤドアを開けた場合は、ドアを施錠してもリヤシートリマインダー機能は作動しません。

- ・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内に FC システムを始動した
- ・FC システムが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

●リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

●リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。(→P.103)

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することができない場合があります。

ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.525)

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧：→P.545)

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

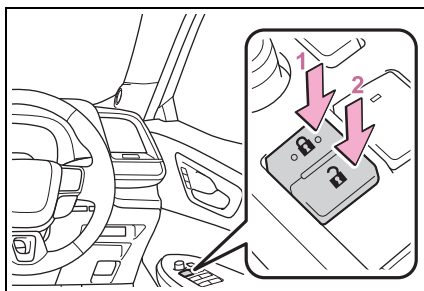
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

■ドアロックスイッチを使用する

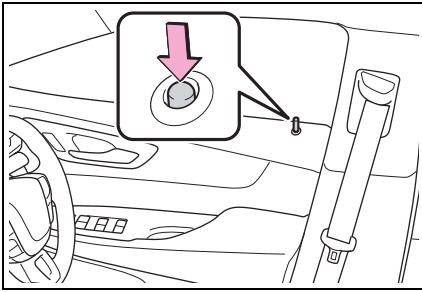


1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



■ ドアハンドルを使って解錠する

▶ 運転席ドア

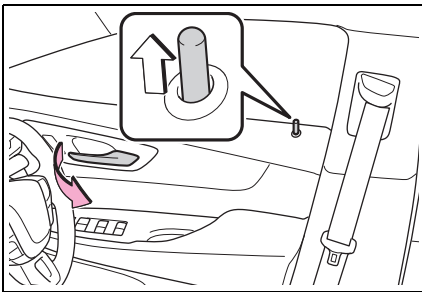
ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。



□ 知識

■ キーを使わずに外側からフロント席を施錠するには

- 1 ドアロックボタンを押し下げる
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや車内に電子キーが放置されていると

きは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■ イーजीークローザー

ドアが半ドア状態になったとき、イーजीークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- パワースイッチが OFF になっていても、イーजीークローザーは作動します。
- 車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イーजीークローザーは作動しません。
- イーजीークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます（ドアロックボタンやチャイルドブロッケクターが施錠側のときを除く）。
- イーजीークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

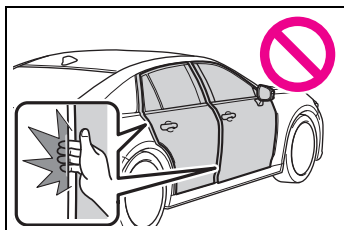
■ 半ドア走行時警告ブザー

全ドア、ボンネットまたはトランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドア、ボンネットまたはトランクがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■ イージークローザーについて

- ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- ドアロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

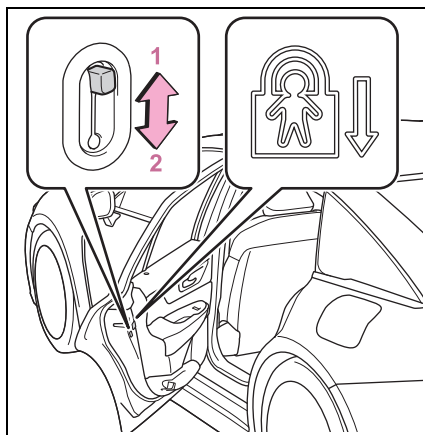
注意

■ イージークローザーの故障を防ぐために

ひんぱんにドアの開閉をくり返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけないでください。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.541を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	FC システム作動中にシフトポジションをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションをPにしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチをOFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

トランク

トランクオープナースイッチやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。
トランククローザーで閉めることもできます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

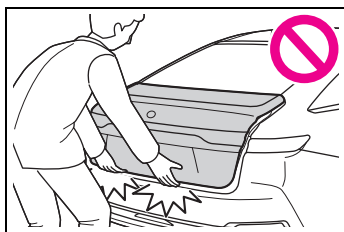
トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。

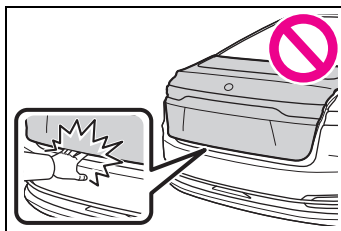
- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。



- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■ イージークローザーについて

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが動き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



■ パワートランクリッドについて

パワートランクリッドの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにトランクリッドが突然閉じる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。

⚠ 警告

- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切りかわり、急にトランクリッドが閉じるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・ FC システム停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたり FC システムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■ ハンズフリーパワートランクリッドについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

リヤバンパーの下スペースが狭い場合は、操作しないでください。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ イージークローザーの故障を防ぐために

イージークローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

■ パワートランクリッドの故障を防ぐために

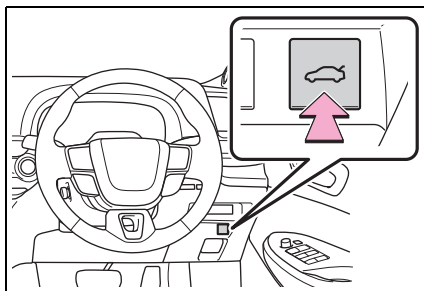
- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や荷物などが乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

トランクを開閉するには

■ トランクオープナースイッチを使用して開く

トランクオープナースイッチを押す

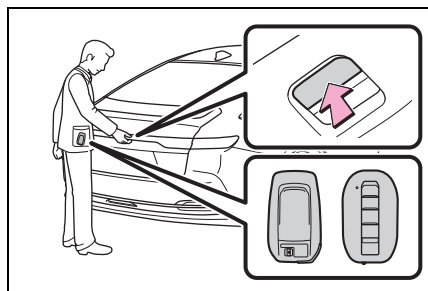


■ スマートエントリー&スタートシステムを使用して開く

電子キーを携帯し、スイッチを押す

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

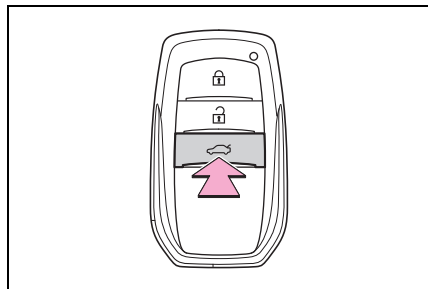
- スマートエントリー&スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- メカニカルキー (→P.525)
- オートドアアンロック機能



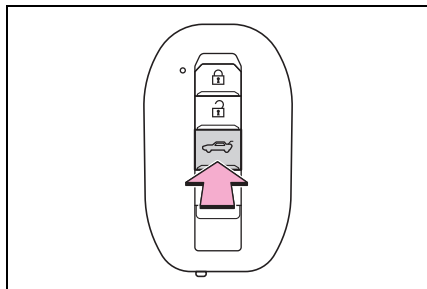
■ ワイヤレス機能を使用して開く

スイッチを押し続ける
ブザーが鳴ります。

▶ A タイプ

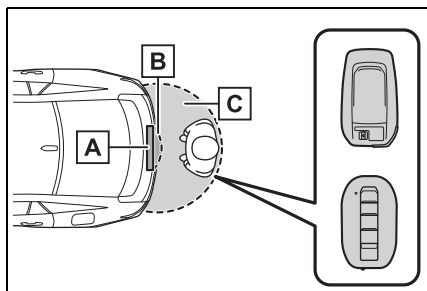


▶ B タイプ



■ ハンズフリーパワートランクリッドを使用して開閉する

- 1 電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 30 ~ 50cm 離れた位置に立つ



[A] キックセンサー

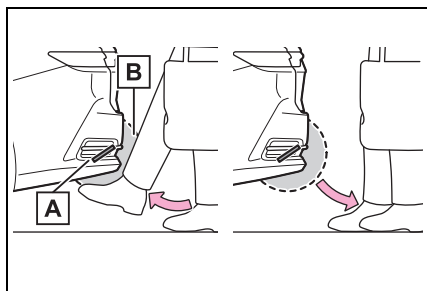
[B] ハンズフリーパワートランクリッド作動検知エリア

[C] スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア (→P.139)

- 2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近付けて引く

- ・ 足を近付けて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
- ・ 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。

- ・ リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
- ・ 車室内またはトランク内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワートランクリッド作動検知エリア

- 3** 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後トランクが自動で全開・全閉します。

トランクが開く途中で再度操作をすると、作動を停止します。

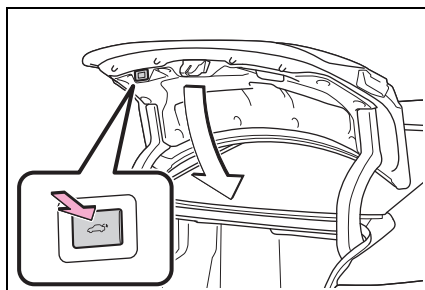
トランクが閉まる途中で再度操作をすると、トランクは再び開きます。

■ トランククローザースイッチを使用して閉じる

スイッチを押す

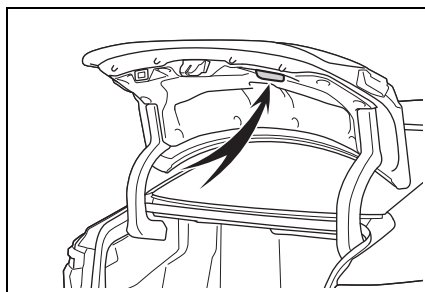
ブザーが鳴り、自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクは再び開きます。



■ トランクグリップを使用して閉じる

トランクグリップを持って、横方向に力かけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉める



知識

■ トランクランプ

- トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。
- パワースイッチが OFF の場合、トランクランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

- パワースイッチが OFF になっても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は動きません。この場合は、車内のトランクオープンスイッチでトランクを開けてください。

■過負荷防止機構

トランクリッドの上に無理な力がかかっているとパワートランクリッドは作動しません。

■落下防止機構

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■挟み込み防止機構

トランクリッドが自動で閉まる途中で異物を挟むと、作動が停止して開きます。

■スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。(→P.525)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.478)

■ハンズフリーパワートランクリッドの作動条件

- ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）の作動の設定が ON のとき

- 電子キーを携帯して作動範囲内にあるとき

■ハンズフリーパワートランクリッドが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワートランクリッドは、次のような状況では作動しないことがあります。

- 足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき
- リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき
リヤバンパーに一定時間ふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

- 人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

- 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき (→P.140)

- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯・鉄板の上などハンズフリーパワートランクリッドの感度をさまたげる電波・ノイズ・金属がある場所に駐車したとき

- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき
- リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき
- リヤバンパーにアクセサリ用品を付けたとき
アクセサリ用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■ハンズフリーパワートランクリッドの誤作動を防ぐために

ハンズフリーパワートランクリッドは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき
- 小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき
- リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体をふれながら車両を横切ったとき
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフリーパワートランクリッドの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリ用品やカーカバーの着脱作業したとき
- けん引されるとき

誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■半ドア走行時警告ブザー

→P.129

■補機バッテリーをはずしたときは

パワートランクリッドが作動しなくなります。トランクを手動で全閉する必要があります。

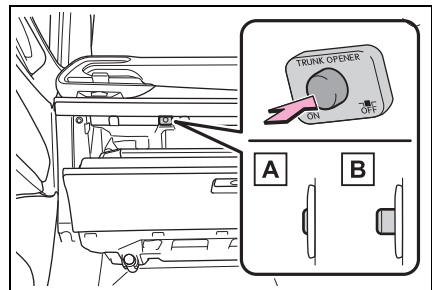
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.547）

荷物の盗難防止などのために

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のトランクオープナーメインスイッチを OFF にする



A ON

B OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー&スタートシステム・ハンズフリーパワートランクリッドでもトランクを開けられなくなります。



■ 駐車場などでキーを預けるときは

→P.121

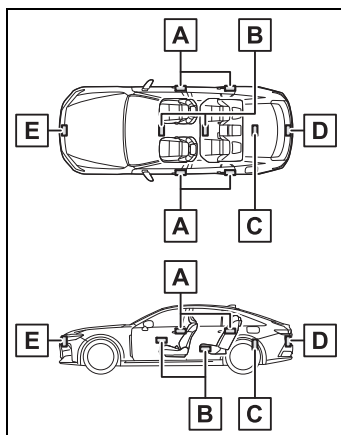
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する (→P.125)
- トランクを開ける (→P.134)
- FC システムを始動する (→P.183)



■ アンテナの位置



A 車外アンテナ

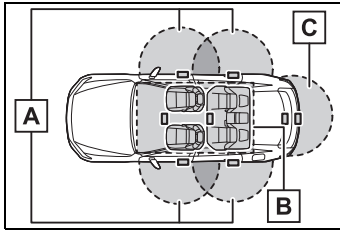
B 車室内アンテナ

C トランク内アンテナ

D トランク外アンテナ

E 車外アンテナ (アドバンストパークリモート機能)

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



■ A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

■ B FC システム始動時またはパワースイッチ切り換え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ C トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

● 車外から警告音が“ピー”と 5 秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる

● 車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを ACC にした（パワースイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。またイルミネテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。
- ・ 車の周辺に一定時間電子キーを放置した
- ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&ス

スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

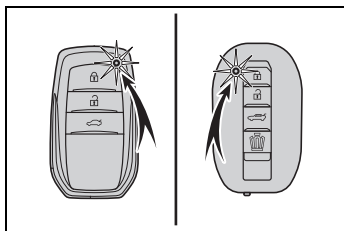
■電子キーを節電モードにするには

- 節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、

 を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステム

は微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

- 電子キーの電池が消耗しているとき
 - 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
 - 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CD や DVD などのメディア
 - 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
 - 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
 - リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
 - 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき
 - コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき
- スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。
- ドアハンドルに電子キーを近付けて操

作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。(→P.120)

また、スマートエントリー&スタートシステムでFCシステムが始動できない場合は、P.526を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・トランクを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
 - ・FCシステム始動時またはパワースウィッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている
 - ・ドア解錠時に電子キーと車両との間を体でさえぎっている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、FCシステムを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗

車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約30秒後に自動で施錠します）

- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できません）
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で2回まで有効です。3回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・キーを車両から約2m以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
 - ・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.140）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■ 降車オートロック機能※についてご留意いただきたいこと

※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

- 車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。(→P.126)

乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

- 洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

- すべてのドアを閉めたあとに次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。

- ・ ブレーキペダルを踏む
- ・ パワースイッチを押す
- ・ 降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉してください。

- 電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

- 降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。

- すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。

- 電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれ

があります。

- 降車オートロック機能を一時的に非作動にする(→P.126)とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。

- ・ いずれかのドアを開ける
- ・ ブレーキペダルを踏む
- ・ パワースイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

- 降車オートロック機能を一時的に非作動にする(→P.126)ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。

- 降車オートロック機能を一時的に非作動にする(→P.126)ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。

- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.546)

- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.140)

■ システムを正しく作動させるために

- 電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

- トランク内に電子キーを置かないでください。

電子キーの場所（トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。（→P.136）

■ 電子キーが正常に働かないときは

- ドア・トランクの施錠・解錠（→P.525）
- FC システムの始動（→P.526）

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.541）

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。（→P.125, 134, 525）
- FC システムの始動・パワースイッチのモード切り替え：→P.526
- FC システムの停止：→P.185

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P.138）から 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

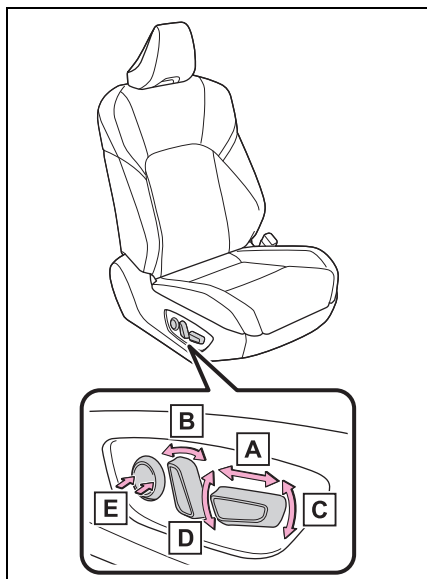
スマートエントリー&スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

フロントシート

シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。(→P.27)

調整するには



- A** 前後位置調整
- B** リクライニング調整
- C** クッション前端の上下調整
- D** シート全体の上下調整
- E** 腰部前後調整
(ランバーサポート) (運転席のみ)



知識

■シートを調整するときは

- 周囲の人やものがシートに挟まれない

よう注意してください。

- ヘッドレストが天井やサンバイザーにあたらないよう注意してください。

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P.167)

■シート位置の自動調整

お好みのシート位置をドライビングポジションメモリーに登録すると自動で調整されます。(→P.167)

⚠ 警告

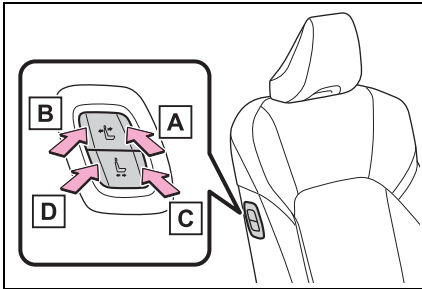
■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側面スイッチ



- A** 背もたれを前に傾ける
- B** 背もたれをうしろに傾ける
- C** シートを前方に動かす
- D** シートを後方に動かす

 警告

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。
足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

 注意

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

パワーリヤシート

 警告

■ シートを調整するとき

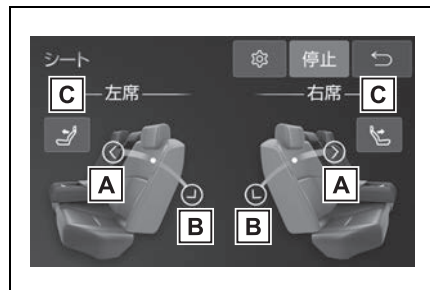
シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

調整するには

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」にタッチする (→P.390)
- 2 ボタンをタッチして調整する



- A** 背もたれを前に傾ける
- B** 背もたれをうしろに傾ける
- C** 背もたれを中立位置にもどす ※

ボタン (A または B) にタッチしているあいだ、シートが作動します。

※ 背もたれが中立位置にもどっているときに「停止」ボタンにタッチすると作動が停止します。

知識

■ シートの調整について

作動中にリヤアームレストを格納すると、作動が停止します。

■ 作動を途中で止めたいときは

リヤマルチオペレーションパネルの

 ボタンを長押し、または 3 回連続で押すと作動を停止させることができます。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.548)

リヤシートリラクゼーションシステム

エアの作動による押圧機能を備えたリラクゼーションシステムが装備されています。リラクゼーションシステム操作画面でコースや作動の強さなどをお好みにより調整することができます。

リラクゼーションシステム操作画面を表示するには、リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「リラクゼーション」にタッチします。(→P.390)



A 操作するシートの選択

B コースの選択

コースにタッチすると作動が開始します。

C 作動の強さ調整

5 段階で調整することができます。

D 作動の停止

シートに乗員がいないときは、リラクゼーションシステムを使用しないでください。

知識

■ リヤシートリラクゼーションシステムについて

● 作動条件

- ・ パワースイッチが ON のとき
- ・ 車室内の温度が高温でないとき
- ・ リヤシートが乗員の重量を検知しているとき、またはリヤシートベルトがバックルに留められているとき

一度シートが重量を検知すると、リヤドアを開閉するか、パワースイッチを OFF にしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

● 自動停止機能

- ・ 作動開始から約 15 分で自動的に停止します。

警告

■ リヤシートリラクゼーションシステムのご使用について

- 妊娠中の方、出産直後の方、静養を要する疾患（心臓疾患）のある方は、使用する前に必ず医師に相談してください。
- お子さまは使用しないでください。
- 食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。

警告

- 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

自動シート作動

次の機能によって、リヤシートが自動で作動します。

■ ドア連動シートリターン機能

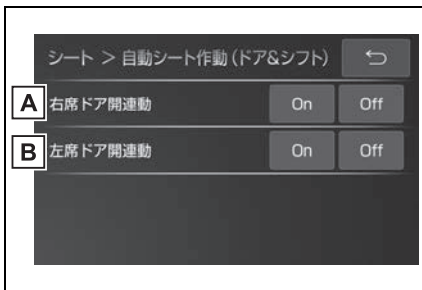
リヤドアを開けると自動的に背もたれが中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

ただし、降車時にリヤアームレストが格納されている場合は作動しません。

■ 自動シート作動の設定変更

リヤドアの開閉に連動してリヤシートの背もたれを自動で作動させるか、させないかを変更することができます。

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で「シート」にタッチする (→P.390)
- 2  にタッチする
- 3 ご希望のボタンにタッチして設定を変更する



- A** 運転席側リヤドアを開けたときのリヤシートの作動

「On」にすると、運転席側のリヤドアを開けたとき、運転席側のリヤシートの背もたれが自動で中立位置にもどります。

- B** 助手席側リヤドアを開けたときのリヤシートの作動

「On」にすると、助手席側のリヤドアを開けたとき、助手席側のリヤシートの背もたれが自動で中立位置にもどります。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

■ 可倒式ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

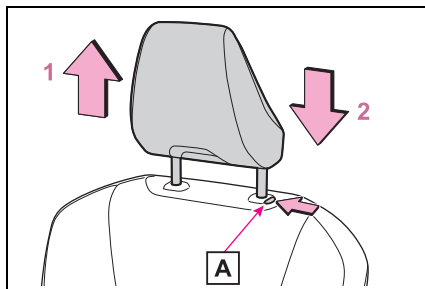
- ヘッドレストを倒したまま助手席に人を乗せて走行しない
- 人を乗せるときは、必ず走行前にヘッドレストを起こして正しい位置に調整する
- ヘッドレストを倒すときは、助手席に人が乗っていないことを確認する
- ヘッドレストを倒すときやもどすときは、ヘッドレストを持って操作する
- ヘッドレストを倒すときやもどすときは、動いている部分に手を近付けない

- ヘッドレストの取りはずし・取り付けについては、トヨタ販売店へご相談ください。

上下調整するには

■ フロント席

- ▶ 可倒式ヘッドレストを除く

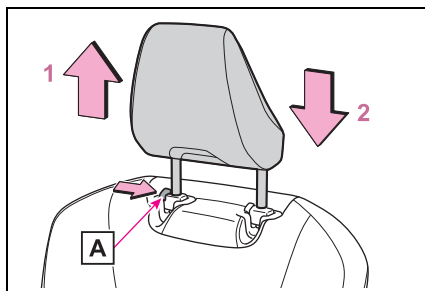


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

- ▶ 可倒式ヘッドレスト

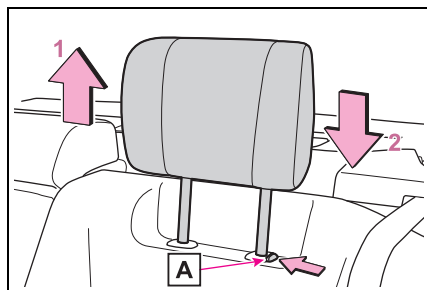


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

■ リヤ席



1 上げる

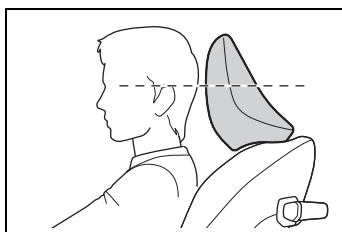
2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。



■ ヘッドレストの高さについて

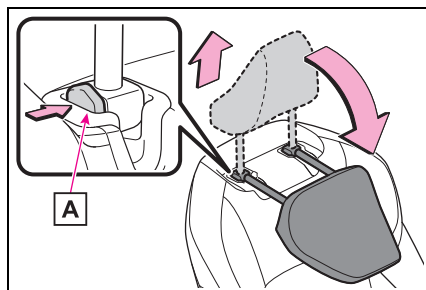
必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



可倒式ヘッドレストを倒す／もどすには

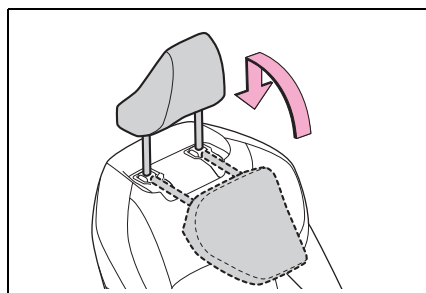
■ 可倒式ヘッドレストを倒すとき

解除ボタン[A]を押しながら、ヘッドレストをロック位置まで引き上げて、前に倒す



■ もとにもどすとき

ヘッドレストを起こし、ロック位置まで押し下げる



■ 可倒式ヘッドレストを倒すとき

シートの位置、角度、高さによっては、ヘッドレストを倒すことができない場合があります。

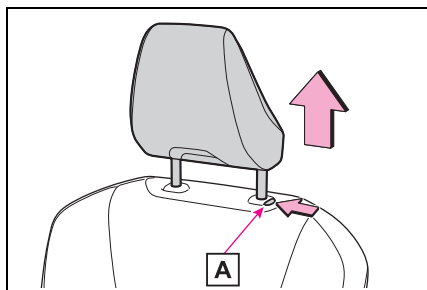
ヘッドレストを取りはずすには

■ フロント席

▶ 可倒式ヘッドレストを除く

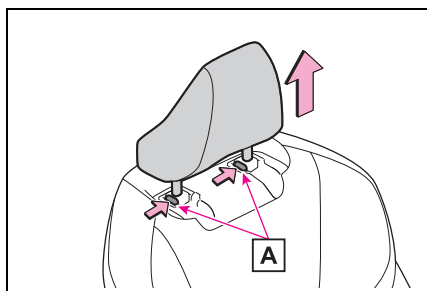
解除ボタン[A]を押しながらヘッドレストを引き上げる

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。(→P.144)



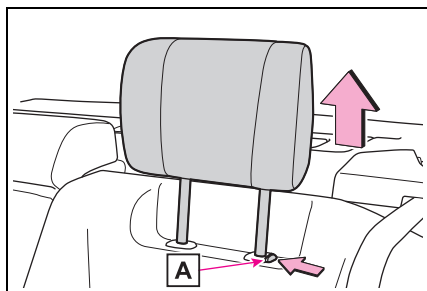
▶ 可倒式ヘッドレスト

左右両方の解除ボタン[A]を押しながらヘッドレストを引き上げる
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度を
かえてください。



■ リヤ席

解除ボタン[A]を押しながら取りはずす



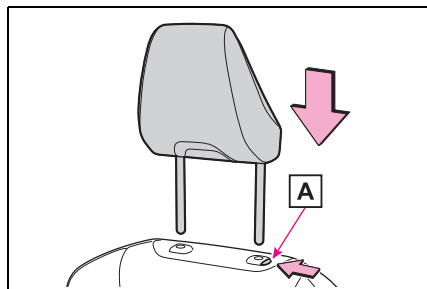
ヘッドレストを取り付けるには

■ フロント席

▶ 可倒式ヘッドレストを除く

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる

さらに下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作してください。

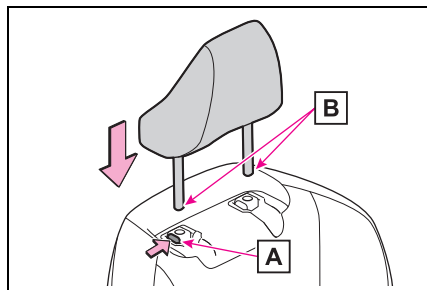


▶ 可倒式ヘッドレスト

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる

さらに下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作してください。

可倒式のヘッドレストには、両側のステータに溝[B]があります。取り付けの前に、可倒式ヘッドレストであることを確認してください。

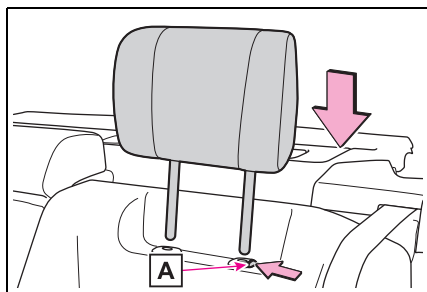


■ リヤ席

ヘッドレストを取り付け穴に合わ

せて、ロック位置まで押し下げる

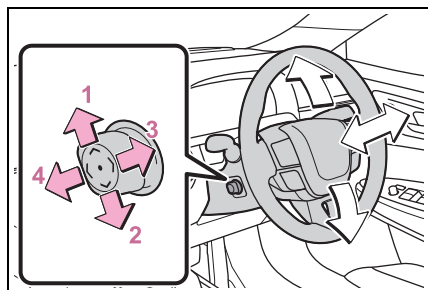
さらに下げるときは、解除ボタン **A** を
押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 手前へ
- 4 前方へ



知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整

好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.168)

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P.167)

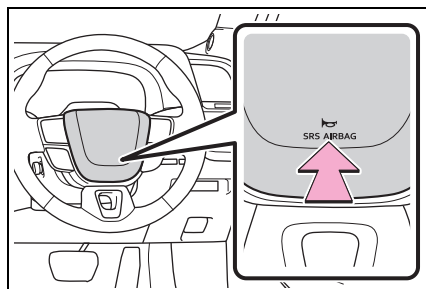
⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります



デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切り替えレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切り換えることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。

また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

車両後方カメラの映像をドライブレコーダーに録画します。
詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

！ 警告

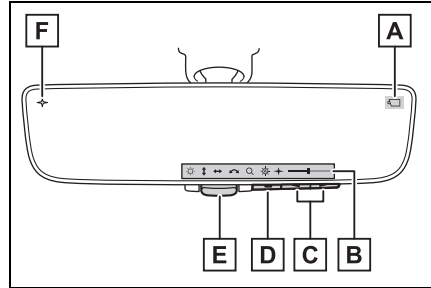
次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.155)
- ・ 鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
- ・ デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



A カメラインジケータ

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン (→P.155)・調整ゲージが表示されます。

C 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

D メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

E 切り替えレバー

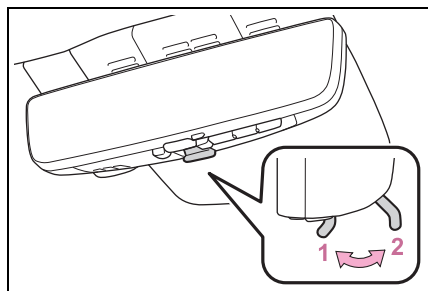
デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切り替えを行います。

F デジタル防眩モードインジケータ

デジタルミラーモード時、防眩機能がONに設定されていることを示します。(→P.155)

モードを切りかえるには

切り換えレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに  が表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



知識

■ デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

パワースイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■ デジタルミラーモードについて

- カメラに水滴やホコリが付いているなどで、ディスプレイに表示される車両後方の状態が見えにくい場合は、カメラ洗浄用のウォッシャー (→P.211) を作動させてください。それでも見えにくい場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- トランクが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずトランクが

閉まっていることを確認してください。

- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、電動サンシェード★を閉めてください。
- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 映像の色と実際の色が異なって見える
 - ・ 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
 - ・ 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

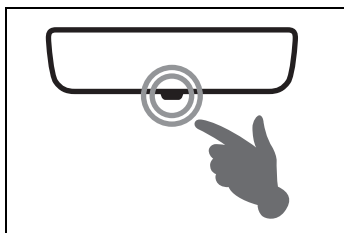
- 体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わずぶらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。切り換えレバーを操作し、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

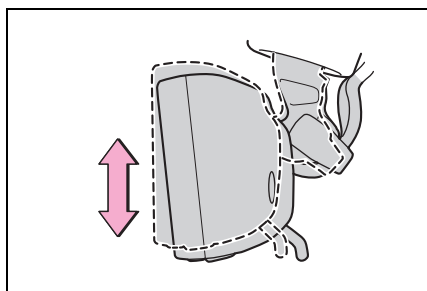


調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

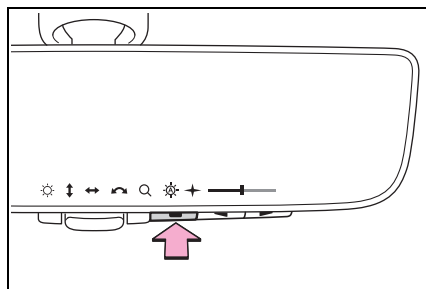


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON / OFF ができます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

3  または  を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。

調整アイコン	設定内容
	自動防眩機能の ON / OFF を切りかえることができます。＊ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	デジタル防眩モードの ON / OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、夜間にディスプレイの表示映像の明るさを抑えて表示し、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑えます。

＊ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

■ 自動防眩機能の ON / OFF 切りかえ（鏡面ミラーモード）

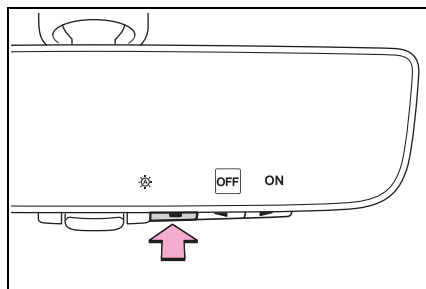
鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON / OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

▶ デジタルミラーモード使用時
→P.155

▶ 鏡面ミラーモード使用時

1 メニュースイッチを押す

設定画面が表示されます。



2  または  を押して、自動防眩機能の ON / OFF を切りかえる

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。

■ 知識

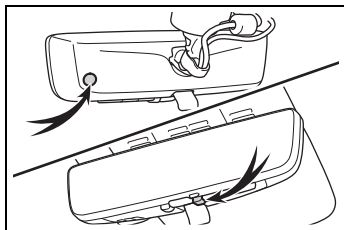
■ ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行くと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわりません。
- デジタル防眩モードは周囲が暗い場所でのみ働き、周囲の照度環境によっては映像の明るさが抑えられず、後続車のヘッドランプのまぶしさが低減できない場合があります。
- デジタル防眩モードを ON にすると、夜のドライブレコーダーへの録画映像

も暗くなります。

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



▲ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

● 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■ 安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

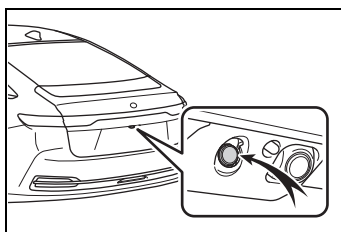
■ カメラのお手入れについて

カメラレンズに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、カメラ洗浄用のウォッシャーでカメラレンズの汚れを流してください。(→P.211)

□ 知識

■ カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



■ ウォッシャー液によるカメラ洗浄について

● カメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液により、車両後方の状態が見えにくくなることがありますので、周

囲の状況に注意して運転してください。

- カメラ洗浄後にウォッシャー液がカメラレンズ面に残った場合、夜間に後方車両のヘッドランプの高さや傾きにより、車両後方の状態が見えにくくなる場合があります。この場合、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- カメラ洗浄をしても、汚れによっては完全にきれいににならない場合があります。
この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。
- カメラ洗浄は、カメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、カメラ周辺に付着した氷や雪などの映り込むものについては、洗浄することができません。

■冷却用のファンについて

デジタルインナーミラー内には、ミラー冷却用のファンがあります。デジタルインナーミラーの使用中は、冷却用のファンの音が聞こえることがあります。

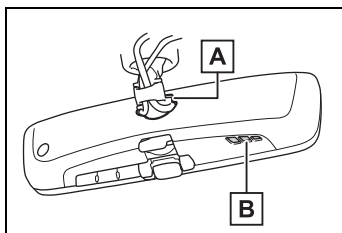


注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

- ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。
- ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ミラー本体の取りはずし・分解・改造はしないでください。

- ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。



A 排気口

B 吸気口

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - ・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、車両後方の状態を鮮明に見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

 注意

- ・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 (天井からの光があたっているときは、電動サンシェード★を閉めてください)
	・ 夜間など暗いところで使用した ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・ カメラ付近の温度が高い、または低い ・ 外気温が低い ・ 雨天時など湿度が高い ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・ 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ・ 排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 (カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください)
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	・ カメラ洗浄用のウォッシャーを作動させ、カメラレンズの汚れを洗浄してください。 (→P.211) ・ 鏡面ミラーモードに切りかえてください。
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	鏡面ミラーモードに切りかえてください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	トランクが完全に閉まっていない	トランクを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に  が表示され、 ディスプレイに表示される映像が暗くなった ディスプレイ上の  が消灯した	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に  が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い (徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます)	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 (ミラーの温度が下がると  が消えます) ミラーの温度が下がっても  が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 (メニュースイッチを約 10 秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

■走行中の留意事項

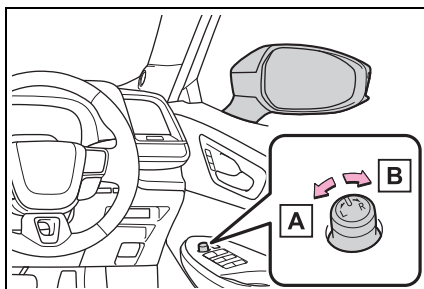
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

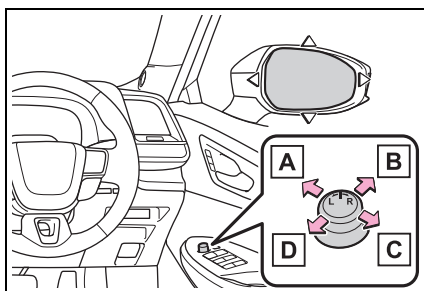
1 調整するミラーを選ぶ



A 左 (L)

B 右 (R)

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ミラーの曇りを取りたいときは

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、

曇りを取ることができます。(→P.395)

■ミラー角度の自動調整

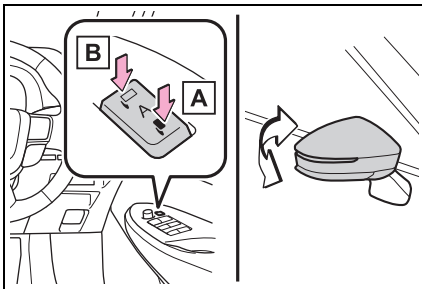
好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.168)

⚠ 警告

■ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには



A ミラーを格納する

B ミラーをもとの位置にもどす
スイッチを中立の位置 (A) にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

□ 知識

■カスタマイズ機能

オート格納の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧: →P.548)

⚠ 警告

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

■後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトポジションを R にした状態で鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトポジションを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時 (シフトポジションが R 以外のとき) の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉 ※
- 3 開ける
- 4 自動全開 ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ FC システム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しくなくなります。

■ 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ドアガラスを開閉することができます（ウィンドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあとと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約4秒以上押し続ける。
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約1秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊（→P.525）
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊（→P.125）
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.56）

＊ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ 窓開警告機能

パワースwitchがOFFでドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

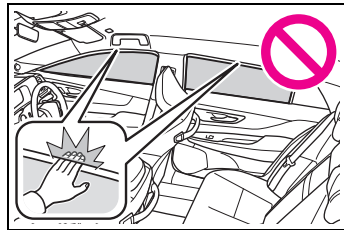
ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.548）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.166）
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースwitchをOFFにし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。

■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

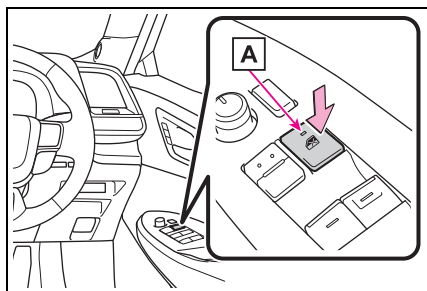
■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケータ **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



■作動条件

パワースイッチが ON のとき

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動でシート・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者（3 パターン）を登録できます。

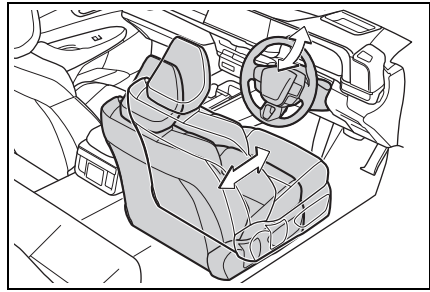
マイセッティングに認証デバイスの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）

マイセッティングについては、P.170 を参照してください。

運転席への乗り降りをしやすくするには（パワーイージーアクセスシステム）

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトポジションを P にする
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- パワースイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

知識

■ パワーイージーアクセスシステムの作動について

- 降車時に、シートの位置が最後方または最上方にあるときやリヤ席に近いときは、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。
- パワーイージーアクセスシステム作動中にシート位置を調整すると、オート作動が停止しマニュアル調整になります。
- 降車時、パワーイージーアクセスシステム作動中または作動後にシート位置を調整すると、乗車時にパワーイージーアクセスシステムは作動しません。

■ 挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

■ カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。

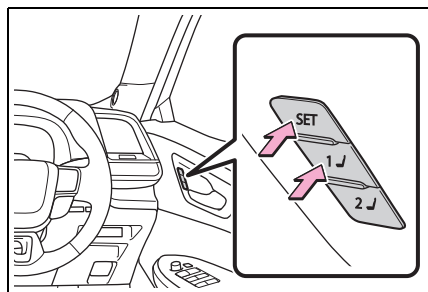
（カスタマイズ一覧：→P.549）

ドライビングポジションをポジションメモリーボタンに登録する／呼び出すには（ポジションメモリー）

■ 登録方法

- 1 シフトポジションが P の位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON にする
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整する
- 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1、2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

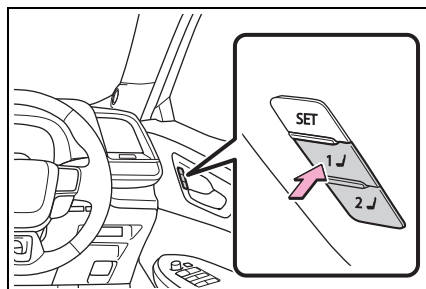
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



■ 呼び出し方法

- 1 シフトポジションが P の位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON にする

- 3 1、2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



□ 知識

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1、2 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）
- ヘッドアップディスプレイの表示位置を調整する（ヘッドアップディスプレイのみ作動停止）

■ 挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

■ 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- ドライビングポジションの登録
- ドライビングポジションの呼び出し（シフトポジションが P の位置にあるときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■登録できるシート位置 (→P.144)

次のシート位置が登録できます。

- 前後位置調整
- リクライニング調整
- クッション前端的上下調整
- シート全体の上下調整

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

！警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには (メモリーコール機能) (運転席のみ)

■マイセッティングを使用してドライバーを特定したとき

マイセッティングに認証デバイスの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

●登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

●呼び出し方法

- 1 運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

電子キーまたは、デジタルキー★で登録された位置を呼び出す場合は、マイセッティングに登録している電子キーまたは、デジタルキー★を携帯してください。

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

- 2 パワースイッチを ACC または ON にする

シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示 (パワースイッチを ON にしたときのみ) が登録したドライビングポジションに動きます。

●解除方法

詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ 挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者3名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動切りかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー

スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。(→P.138)

● デジタルキー★

スマートエントリー＆スタートシステムがデジタルキーを検出することで個人を特定します。(→P.122)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 顔認証システム

ドライバーモニターカメラで登録した顔情報をドアの開閉時に顔認証することで個人を特定します。(→P.230)

顔情報の登録・削除などについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

電子キーまたは、デジタルキー★で個人を特定した場合でも、顔認証による個人の特定が優先されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● Bluetooth® デバイス

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに接続することで個人を特定します。

Bluetooth® 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

電子キーを検出して個人を特定したときは、Bluetooth® 機器での個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジション（メモリーコール機能）

個人が特定されたあとに、次の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションをPにしたとき）のドライビングポジションを再生します。

・電子キーで個人を特定：スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠して運転席ドアを開けます。

- ・デジタルキーで個人を特定：スマートエントリー&スタートシステムで解錠してドアを開けたとき
- ・顔認証システムで個人を特定：ドライバーモニターカメラが顔情報を認証したあとにパワースイッチをACCまたはONにする

● 表示設定※（メーター・ヘッドアップディスプレイ・マルチメディアディスプレイ）

個人が特定されると、前回パワースイッチをOFFにしたときの表示設定を再生します。

● 車両設定※（マルチインフォメーションディスプレイ・マルチメディアディスプレイで設定できる項目）

個人が特定されると、前回パワースイッチをOFFにしたときの車両設定を再生します。

● 走行モード（エコドライブモード・ノーマルモード） (→P.376)

個人が特定されると、前回パワースイッチをOFFにしたときの走行モードを再生します。

※ 一部の設定項目を除く

5-1. 運転にあたって

運転にあたって	175
荷物を積むときの注意	181

5-2. 運転のしかた

パワースイッチ	183
シフトポジション	188
方向指示レバー	193
パーキングブレーキ	194
ブレーキホールド	197
ウォーターリリース (H ₂ O スイッチ)	199

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	201
AHS (アダプティブハイビームシステム)	204
AHB (オートマチックハイビーム)	207
リヤフォグランプ	210
ワイパー&ウォッシャー	211

5-4. 燃料充てんのしかた

燃料充てん口 (補給口) の開け方	215
-------------------------	-----

5-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する (Toyota Safety Sense / アドバンスド ドライブ [渋滞時支援] 装着車)	219
Toyota Safety Sense	222
ドライバーモニター	230
PCS (プリクラッシュセーフティ)	232
LTA (レーントレーシングアシスト)	241

LCA (レーンチェンジアシスト)	246
LDA (レーンディパーチャアラート)	250
PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	255
FCTA (フロントクロストラフィックアラート)	260
発進遅れ告知機能	262
RSA (ロードサインアシスト)	264
レーダークルーズコントロール	267
クルーズコントロール	276
ドライバー異常時対応システム	279
アドバンスド ドライブ (渋滞時支援)	282
ITS Connect	286
BSM (ブラインドスポットモニター)	292
後方車両接近告知	298
周辺車両接近時サポート (録画機能、通報提案機能)	300
後方車両への接近警報	304
セカンダリーコリジョンブレーキ (停車中後突対応)	306
安心降車アシスト	308
クリアランスソナー	312
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	319
RCD (リヤカメラディテクション)	324
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	328
パーキングサポートブレーキ (前後方静止物 / 周囲静止物)	332

パーキングサポートブレーキ（後方 接近車両）	335
パーキングサポートブレーキ（後方 歩行者）	337
プラスサポート（販売店装着オプ ション）	338
トヨタチームメイト アドバンス パーク	343
ドライブモードセレクトスイッチ	376
スノーモード	377
運転を補助する装置	378

5-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	385
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ FC システムを始動する

→P.183

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する (→P.194)

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.195)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。(→P.189)

■ 駐車する

- 1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける (→P.194)
- 3 シフトポジションを P にする (→P.189)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 4 パワースイッチを押して FC システムを停止する
- 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め^{*}を使用してください。

^{*} 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

- 2 パーキングブレーキをかける (→P.194)
- 3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する
- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する (→P.194)

知識

■ 燃費を良くする走り方

燃料電池車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→P.73)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド (→P.100)

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：

エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：

目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：

停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ減速の評価が高くなります。

■FC システム出力の抑制について (ブレーキオーバーライドシステム)

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、FC システム出力を抑制場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

- 燃料電池車は電気モーターで走行するため、エンジン音が無く、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していたとしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
 - 通常走行時は、走行中に FC システムを停止しないでください。走行中に FC システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.488 を参照してください。
 - 急な下り坂では、フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
 - 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・デジタルインナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
 - すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- すべりやすい路面を運転するとき
- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
 - 急激なアクセル操作、シフト操作による回生ブレーキで車が横すべりするなどのおそれがあります。

- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスアクスルにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスアクスルにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスアクスルにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、FC システムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

 警告

- アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するとき、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたりしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、FCシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 仮眠するとき

必ずFCシステムを停止してください。READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを切りかえたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 注意

■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、FCシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.513を参照してください。

⚠ 注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- FC システムが停止する
- 電装品がショートする
- 水の浸入による FC システムの破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- FC システム
- ブレーキの効き具合
- トランスアクスルフルードなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。
その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。
パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、FC システム出力を抑制することがあります。

- R に切りかえたとき ※
- P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるように FC システム出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

□ 知識

■ ドライブスタートコントロールについて

- TRC の作動を停止 (→P.380) すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。

(→P.380)

- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。
- ・パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。（→P.103）
- ・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

 警告

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドルの操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワースイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、FC システムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

FC システムを始動するには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く(→P.194)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。
表示されないと、FC システムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、FC システムを始動できません。FC システムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。(→P.189)

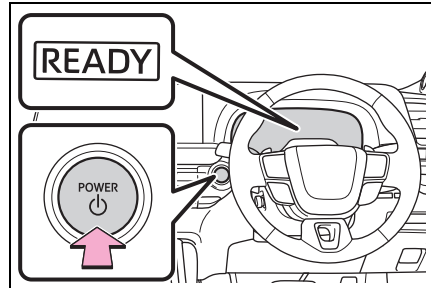
- 3 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、FC システムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
パワースイッチのどのモードからでも

FC システムを始動できます。



- 4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポート★をご使用の方は、P.338 も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パワースイッチ文字照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ文字照明が切りかわります。

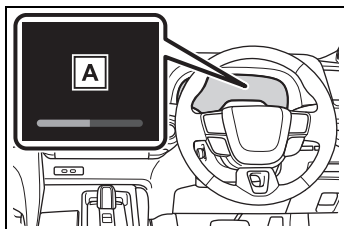
- 運転席または助手席ドアが開いているときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチが OFF のとき、電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ文字照明が点滅します。
- パワースイッチが ACC または ON のときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、パワースイッチ文字照明がしばらく点灯し、その後消灯します。

■寒冷時の FC システム始動について

- 寒冷時に FC システムを始動すると、発

電時の廃熱を利用して FC スタックが急速暖機されます。通常より作動音が大きくなりますが異常ではありません。状況によっては、READY インジケータ点灯後も作動音が一定時間続くことがあります。(→P.61)

- 寒冷時は、READY インジケータが点灯するまでに通常よりも時間がかかることがあります。その場合、マルチインフォメーションディスプレイに FC システム始動進捗状況を表示します。



- A** “FC システム暖機中 完了までおまちください”

- 寒冷時に FC システムを始動する際、マルチインフォメーションディスプレイに“凍結により FC システム停止 安全な場所に停車して取扱書を確認”が表示される場合があります。FC システムが凍結し、始動できない状態となっています。トヨタ販売店に連絡してください。
- FC システムの暖機が完了するまでは、一時的に出力が低下します。
- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ -30℃以下）、FC システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■FC システムが始動しないときは

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P.55)

トヨタ販売店へご連絡ください。

- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。
- メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムで FC システムを始動することができません。FC システムを始動するには、P.526 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合(→P.128)は FC システムを始動できます。
- 燃料充てん扉が開いていると始動できません。閉めてから始動してください。(→P.216)
- 車両の外部給電アウトレットに外部給電コネクターが接続されているときは、FC システムを始動できません。取りはずしてから始動してください。(→P.81)

- 外部給電アウトレットのキャップが開いていると、FC システムを始動できない場合があります。閉めてから始動してください。(→P.81)

■燃料電池車特有の音と振動について

→P.61

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムで FC システムを始動することができません。FC システムを始動するには、P.527 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.118

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.140

■ご留意いただきたいこと

→P.141

■スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“水素充填口を閉じた後 もう一度始動操作をしてください”が表示されたときは

→P.217

■FC システムに異常があるときは

→P.504

■電子キーの電池交換

→P.478

■パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切りかえやFC システムの始動ができない場合があります。
- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、FC システムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.525 を参照してください。

⚠ 警告

■FC システムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■FC システムを始動するとき

もしFC システムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

FC システムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける (→P.194)
- 3 P ポジションスイッチを押す (→P.189)

シフトポジション表示灯がP であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

FC システムが停止し、メーター表示が消えます。(シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています)

- 5 ブレーキペダルから足を離して、メーターの“アクセサリー”や“パワー ON”の表

示が消灯していることを確認する

知識

■寒冷時の FC システム停止について

- 寒冷時に、パワースイッチを押して FC システムを停止したときは、FC スタックの凍結を防止するために排気排水管から通常より長い時間排水されることがあります。
- マルチインフォメーションディスプレイに“FC システム排水処理中 完了後に自動で停止します”と表示されることがありますが、降車して問題ありません。
- FC システムの暖機が完了する前に停止した場合は、さらに長い時間排水されることがあります。
- 排水中は作動音がします。(→P.61)
- 排水中に燃料充てん操作をすることは問題ありません。数十分後に自動的に排水処理が実施され、白霧が出ることがありますが異常ではありません。

■寒冷時の駐車について

- 寒冷時は駐車中に、FC スタックや FC システム配管などの凍結を防止するために、FC システムが停止していても自動で排気排水管から排水されることがあります。同時に水蒸気が排出されることがありますが、異常ではありません。
- 排水中は作動音がします。(→P.61)

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかに

お近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ウォーターリリース (H₂O スイッチ)

→P.199

警告

■緊急時の FC システム停止方法

- 走行中に FC システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.488) ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中に FC システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
 - 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
 - 走行中に FC システムを緊急停止したあと、走行中に FC システムを再始動させる場合は、シフトポジションを N にシフトして、パワースイッチを押してください。
- レスキュー時などの緊急時にシステム停止したい場合は
- レスキュー時などの緊急時にシステム停止したい場合はパワースイッチを 5 秒以上長押ししてください。*
- FC スタックの凍結を防止するために、パワースイッチを押したあと通常より長い時間排水されることがあります。この処理は異常ではありません。

警告

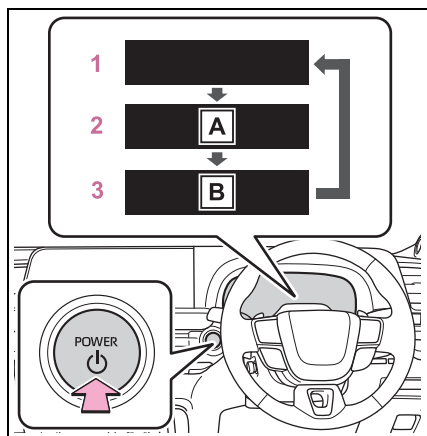
- この操作をすると、次回始動に時間がかかる、もしくは始動できない場合があります。

くり返しこの方法を使用すると出力低下する場合があります。

※ 緊急時以外この方法で FC システムを停止しないでください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



A アクセサリー

B パワー ON

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※

オーディオなどの電装品が使用できます。メーターに“アクセサリ”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。メーターに“パワー ON”が表示されます。

※ カスタマイズメニューで ON / OFF を切りかえることができます。(→P.542)

知識

■ ACC カスタマイズが OFF のとき

- パワースイッチが OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。
- 安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。

■ 自動電源 OFF 機能

- シフトポジションが P にあるとき、数分以上パワースイッチを ACC または ON (FC システムが始動していない状態) のままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
- シフトポジションが P およびパワースイッチが ACC または ON (FC システムが始動していない状態) のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。FC システムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON したまま長時間放置しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- FC システム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- FC システム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“パワーON”の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトポジション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車または FC システムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行

Br モードはシフトポジションではありません。(→P.192)

知識

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■ドライブスタートコントロールについて

→P.180

⚠ 警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作を行わないでください。横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

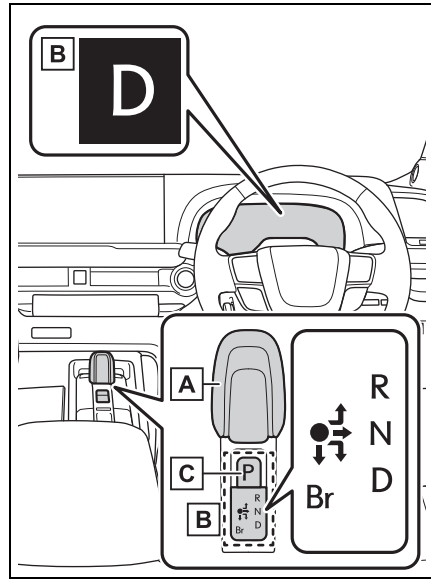
⚠ 注意

■ シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき (→P.505)
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

Nに切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

Brモードへの切りかえは、シフトポジションがDのときのみ可能です。

PからN・D・R、およびN・D・Brモード・RからPへ、またはD・BrモードからR、およびRからDへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。



知識

■ パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

- パワースイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。
- パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。
- READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。
- READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作

すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)

- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを Br モードに切りかえることはできません。

■ シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき
- P または N から Br モードを選択した
- 走行中に、P ポジションスイッチを押した
極低速走行時は、P に切りかわることがあります。

■ シフトポジションが自動的に N に切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- 車両が前進しているときに R を選択した
低速走行時は R に切りかわることがあります。
- 車両が後退しているときに D を選択した
低速走行時は D に切りかわることがあ

ります。

● R から Br モードを選択した

■ 走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■ リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ 自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

● パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※

● シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

- ・ パワースイッチが ON
- ・ 運転席シートベルトを着用していない
- ・ ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

● 走行中に FC システムを緊急停止したあと、停車したとき

● シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。

必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■ シフトポジションが P から切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.527 を参照してください。

 警告

■ シフトレバーについて

● シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■ P ポジションスイッチについて

● 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。

停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

注意

■ シフトポジションの切りかえ操作について

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■ 車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

自動 P ポジション切りかえ機能を作動させずにシフトポジションを N に保持したいときは

- 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切りかえ機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。

- 1 FC システムが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる
- 2 シフトレバーを定位置（●）にもどす
- 3 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する
- 4 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションが N のまま FC システムが停止します。*

ブザーが鳴り、マルチインフォメーショ

ンディスプレイに「N 保持中 解除するには P スイッチを押してください」が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください。
- 必ず FC システムが始動している状態で操作してください。
FC システム停止状態では、シフトポジションを N に保持できない場合があります。

※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

注意

■ 自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

必ず FC システムが始動状態であることを確認してください。FC システム始動状態以外で操作を行うと、P ポジションに切り替わるおそれがあります。

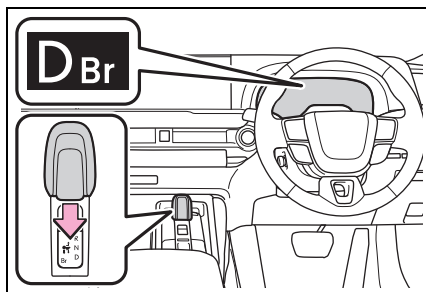
走行モードの選択

→P.376

■ Br モード

下り坂など、強い減速力を必要とする走行に適しています。

Br モードを選択すると、メーター内の Br モード表示灯が点灯します。通常走行モードにもどすときは、アクセルペダルを踏むか、シフトレバーで D ポジションを再選択してください。



知識

■ Br モードについて

駆動用電池の状態によっては、Br モードを使用できない場合があります。この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

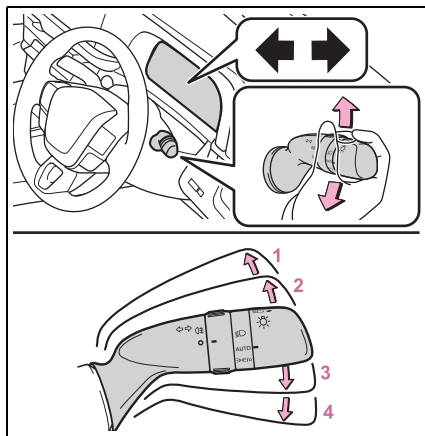
■ Br モード時の音について

→P.61

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）
左側方向指示灯が 5 回点滅します。
- 3 右側へ車線変更（レバーを途中まで動かして離す）
右側方向指示灯が 5 回点滅します。
- 4 右折

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき
トヨタ販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキ

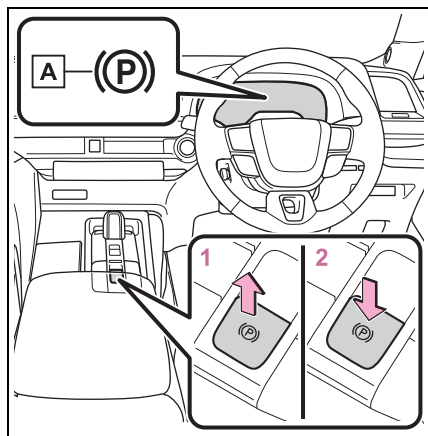
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトポジションの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.195)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.502)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションを P 以外から P にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。(→P.194)

- FC システムを停止すると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯し

ます。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

知識

■ パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■ パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある
- ブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいない
- 運転席のドアが開いている
- 運転席のシートベルトを装着していない
- シフトポジションが P もしくは N 以外の位置にある

（アドバンストパーク作動中はシフトポジションが P のみ。）

- ブレーキ警告灯が消灯している。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください”と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EPB 動作が途中で停止しました”または“EPB 現在使用できません”と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON 以外：約 15 秒間点灯します。

- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■ 駐車するとき

→P.175

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPB がロックされています”が表示されます。(車速が 5km/h をこえたとき)

■ ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.496

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.386



警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけてください。

車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ 補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.527)

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

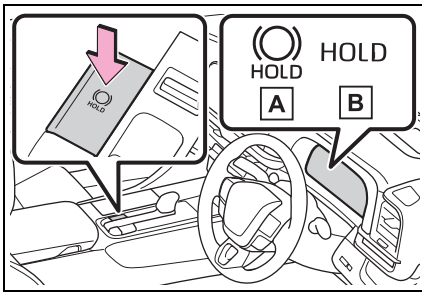
シフトポジションがD・NまたはPでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションがDのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯

A (緑) が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯 **B** (黄) が点灯します。



 知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、“EPB 動作が途中で停止しまし

た” や “EPB 故障 販売店で点検してください” が、表示されている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯 (緑) が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

●パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯 (緑) が消灯したのを確認してからパワースイッチをOFFにしてください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかけたとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。
(→P.194)

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.502

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ウォーターリリース (H₂O スイッチ)

走行後、FC システムを停止すると排気排水管から自動的に排水されます。

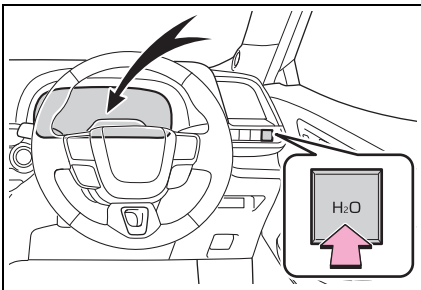
車庫や立体駐車場などで排水量を少なくしたい場合は、駐車する前に排水を行うことができます。

H₂O スイッチ

READY インジケータが点灯している状態で H₂O スイッチを押すと、排水を開始します。

再度スイッチを押すと、排水を中止します。

マルチインフォメーションディスプレイに排水の実行および完了のメッセージが表示されます。



知識

■ 寒冷時のウォーターリリース機能について

次のような場合には、FC システムの自動排水が実施されず、FC スタックや FC システム配管などの凍結により、FC システムが始動できなくなることがあります。

● 氷点下地域に車両を輸送、けん引するとき

● 氷点下地域で補機バッテリー端子をはずして放置するとき

そのため、次の手順で直前にウォーターリリースを実施してください。

1 パワースイッチを ON にし、H₂O スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに“アクティブ排水モードに入りました”のメッセージが表示されたことを確認してください。

2 ブレーキを踏みながらパワースイッチを押し、FC システムを始動する

READY インジケータが点灯していることを確認してください。

3 パワースイッチを押し、FC システムを停止する

ウォーターリリースが自動的に実施されます。(通常の排水よりも長くなります)

■ 駐車時の排水について

ウォーターリリース機能は、駐車時の排水を完全に防ぐものではありません。駐車時の排水量は外気温や走行状態によりかわります。

ウォーターリリース実施後、READY インジケータを点灯したままの状態が続けると、水が生成され、駐車時に排水されることがあります。

ナビ連動排水

ナビゲーションシステムとの連携により、自宅到着前に自動的に排水を行うことができます。マルチインフォメーションディスプレイで設定変更が可能です。(→P.541)

使用するには、ナビ上で自宅の設

定が必要です。詳細は「マルチメディア取扱説明書」を参照ください。

H₂O スイッチ操作時と異なり、排水の実行および完了はマルチインフォメーションディスプレイで通知されません。

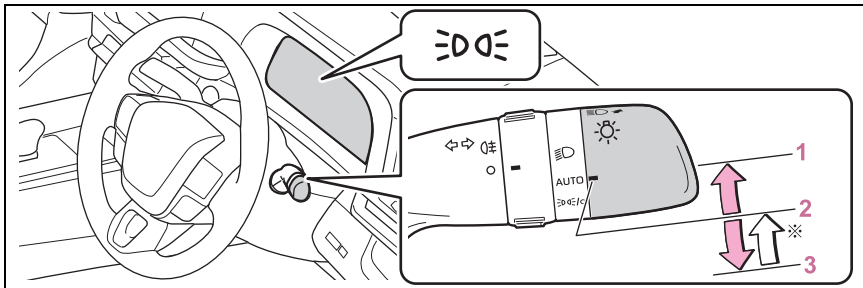
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯／消灯のしかた

■ 点灯する

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3** の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** **AUTO** の位置へもどります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO	LED デイライト (→P.202) が点灯 ※ ²	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ³

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※¹ **3** の状態に切りかえるには、 スイッチを下にまわした状態で約 1 秒保持してから、手を離します。約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は **2** **AUTO** のまま変化しません。

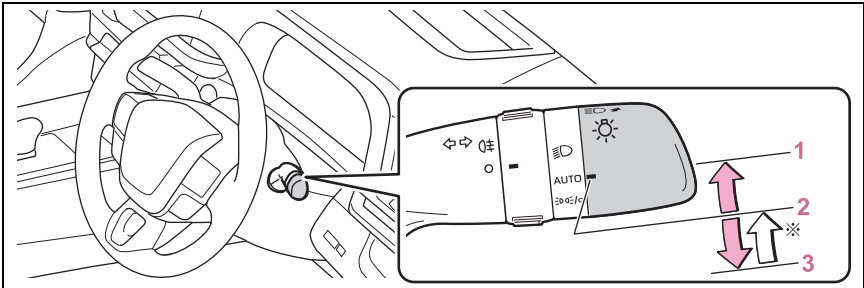
※² 周囲の明るさによって、尾灯・番号灯が自動的に点灯・消灯します。

※³ 停車中から低車速での走行中にのみ、点灯します。ただし、一定の車速をこえるか、走行開始後しばらくすると自動で解除され、**2** **AUTO** での点灯状態にもどります。

■ 消灯する

 スイッチを **3** の位置で 2 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1** または **3** の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを **3** の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へもどります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト (→P.202) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※ シフトポジションが P にある、またはパーキングブレーキがかかっているときに消灯できます。シフトポジションを P 以外にするか、パーキングブレーキを解除すると、消灯状態は解除されます。

 知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ LED デイライト機能

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、FC システム始動後、パーキングブレーキを解除し、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

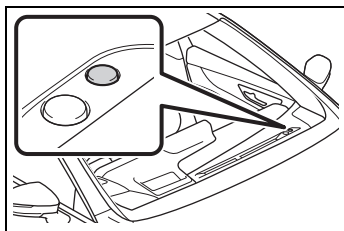
■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウィンドウガラスに貼らないでください。周

困からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを OFF にすると、すべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから

の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が動き約 10 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が動き、約 10 分後すべてのランプが自動消灯します。

● ランプスイッチを操作したとき

● ドアまたはトランクを開閉したとき

■ ドアを解錠するとき（おむかえ照明機能）

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■ ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。*

* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.550）

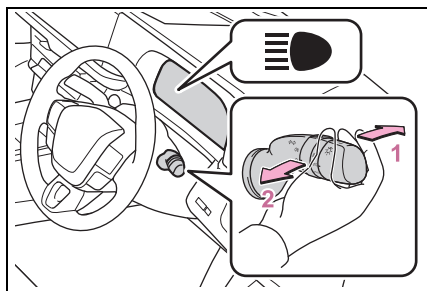


注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AHS (アダプティブハイビームシステム)

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

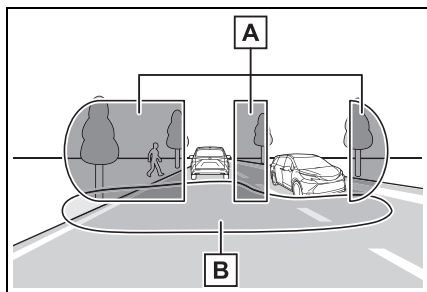
■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.222

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。(遮光ハイビーム)

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



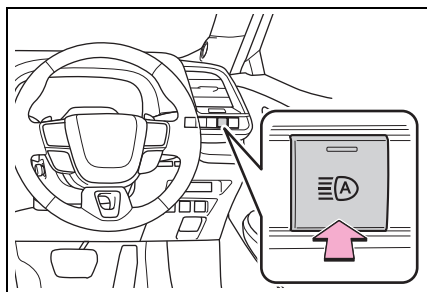
A ハイビームで照らす範囲

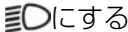
B ロービームで照らす範囲

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

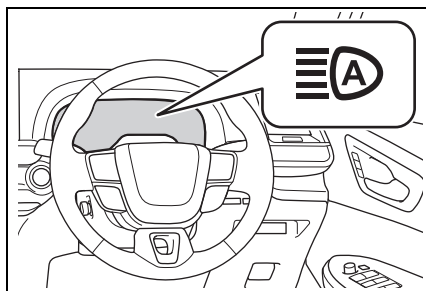
- 1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



- 2 ランプスイッチをAUTOまたは  にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動

し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■ システムの作動条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上 *
 - ・ 車両前方が暗い
- * 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。
- 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がいる
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
 - ・ 車速が約 12km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両の台数が多い
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■ 前方カメラの検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 車両が割り込んできたとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき

- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・前方車両が遠方を走行しているとき
- ・前方車両が無灯火のとき
- ・前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.227
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・前方車両のランプの明るさ
 - ・前方車両の動きや向き
 - ・前方車両との車間距離
 - ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・前方車両が二輪車のとき
 - ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・システムを OFF にする必要があるとき：→P.222
- ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.227

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.550）

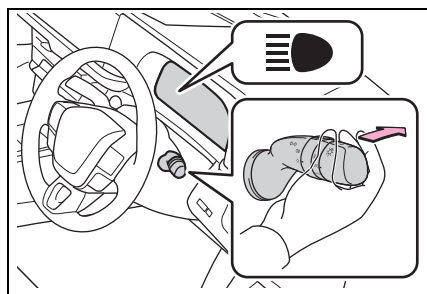
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

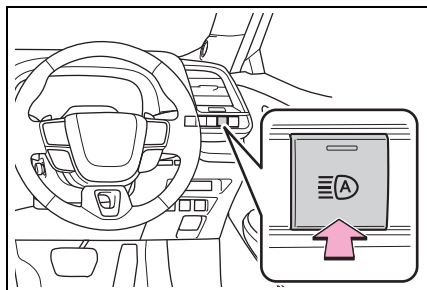


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

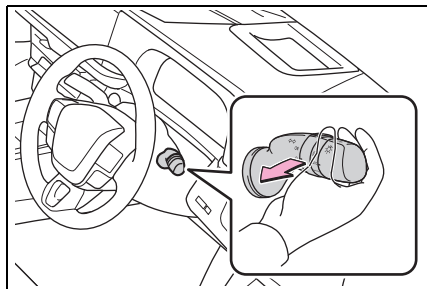


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB (オートマチックハイビーム)

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

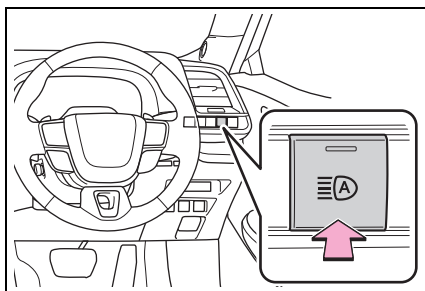
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.222

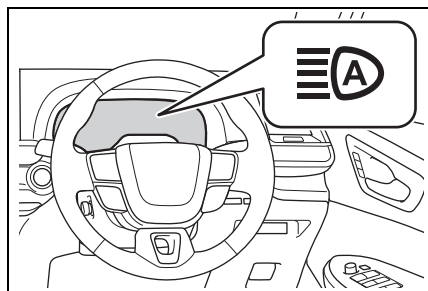
オートマチックハイビームを使うには

1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは ☰Dにする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切り替え条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 車両が割り込んできたとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき

- ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.227

- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両との車間距離
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき

- ・ハイビームの点灯が不適切と思われる
とき、またはほかの運転者・付近の歩
行者の迷惑になると思われるとき
- ・システムを OFF にする必要があると
き：→P.222
- ・センサーが正しく作動しないおそれが
あるとき：→P.227

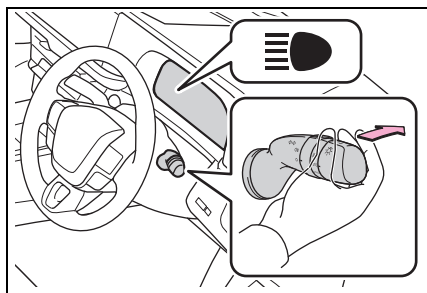
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示
灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、
再度レバーをもとの位置にもどします。

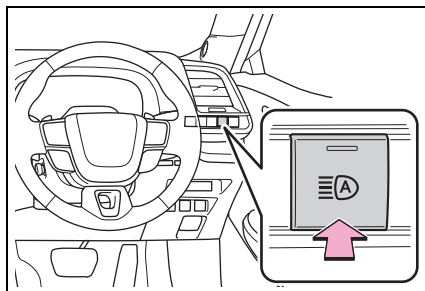


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッ
チを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、
再度オートマチックハイビームスイッチ
を押します。

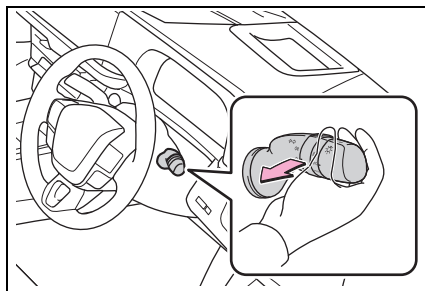


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、
または他の運転者・付近の歩行者
の迷惑になると思われるときに使
用します。

レバーを手前に引き、もとの位置
にもどす

レバーを引いているあいだはハイビーム
が点灯しますが、レバーがもとの位置に
もどるとしばらくのあいだロービームが
点灯します。その後、再度オートマッ
クハイビームが作動します。



リヤフォグランプ

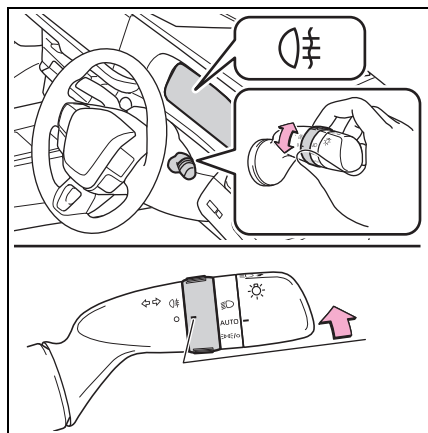
雨や霧などの悪天候下では、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた

リヤフォグランプを点灯する

操作後に手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。



知識

■点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に

使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー&ウォッシャー

レバー操作でワイパーの作動を自動／手動に切り替えたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。



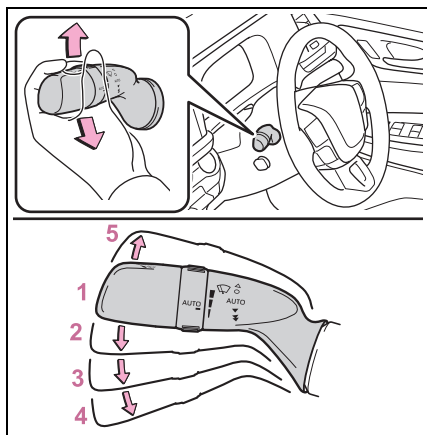
注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

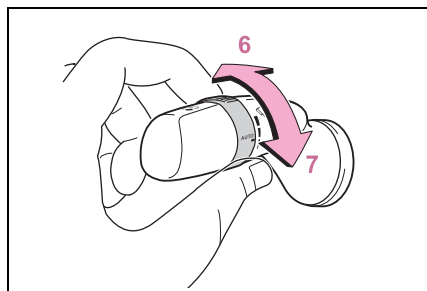


- 1 ○ 停止
- 2 AUTO AUTO モード
- 3 ▼ 低速作動
- 4 ▼▼ 高速作動
- 5 △ 一時作動

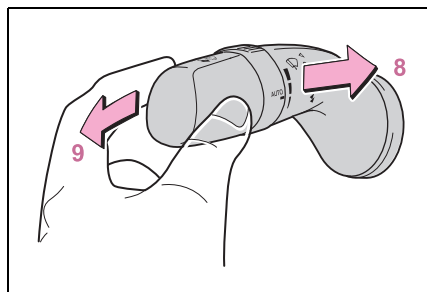
AUTO を選択しているとき、雨滴

量と車速に応じてワイパーが作動します。

AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



- 6 雨滴センサーの感度調整 (高)
- 7 雨滴センサーの感度調整 (低)



- 8  フロントウインドウガラス洗淨用のウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してフロントウインドウガラス洗淨用ウォッシャーが作動します。(ワイパーが数回作動したあと、液だれ防止としてさらにもう 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません)

- 9  カメラ洗淨用のウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すと次のカメラ洗淨用ウォッシャーが作動します。

・ デジタルインナーミラーのカメラ

(→P.157)

- ・パノラミックビューモニターのバックカメラ※
- ・ドライブレコーダーの後方カメラ※

※カメラ洗浄システムについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- ワイパーを 1 回のみ作動
- フロントウインドウガラス洗浄用のウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

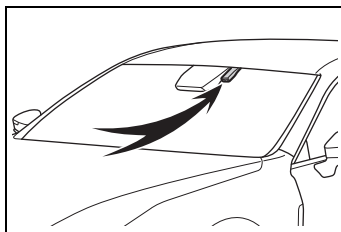
■ 車速による作動への影響

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ 雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチが ON のときにワイパースイッチを **AUTO** にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

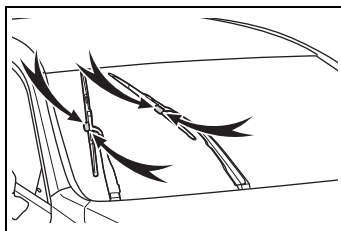
- 雨滴感知センサーの温度が 85℃ 以上または -15℃ 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ フロントドア開連動ワイパー停止機能

AUTO モード選択中にシフトポジションが P にあり、ワイパーが作動しているとき、フロントドアを開けるとワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。



■ 走行中に FC システムを緊急停止したとき

FC システムを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にパワースイッチを ON にすると通常作動

を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.551)

警告

■ AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ フロントウインドウガラス洗浄用ウォッシャーを使用するときの警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ ワイパーアームを立てるとき

ワイパーを積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。(→P.213)
停止位置を切りかえずに立てると、ワイパーアームとボンネットが干渉し、傷が付くおそれがあります。

■ 雨滴感知センサー

フロントウインドウガラスに撥水コーティングを行うと雨滴感知センサーが雨滴量を正確に感知できず、オート作動が正常に作動しないことがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

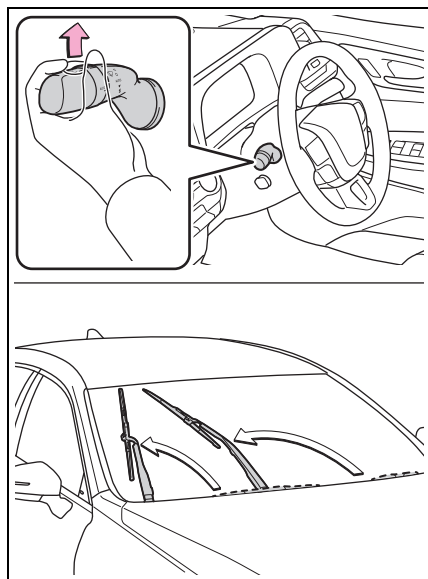
ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

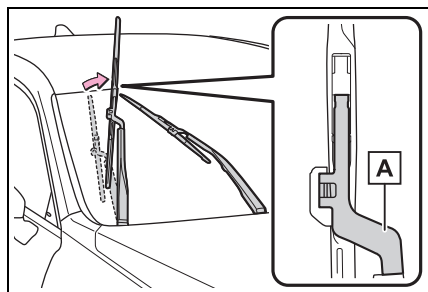
パワースwitchを OFF にしたあと約 45 秒以内に、ワイパースイッチを △ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部 **A** を持ってガラス面から引き上げる



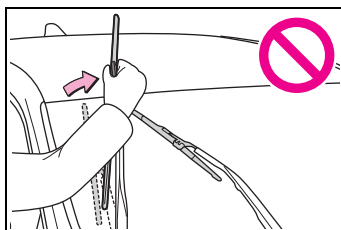
■ ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON にし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。



■ ワイパーを立てるときは

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるとき、ワイパーを立てないでください。この位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



- ワイパーを立てた状態でワイパーを動かさないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

燃料充てん口（補給口）の 開け方

日本国内では、セルフ充てんは
できません。水素ステーション
の係員におまかせください。

- 燃料の圧縮水素ガスは、水素ステーションで充てんできます。
- 水素ステーションの設備によっては、充てん時間や充てん量が異なり、走行可能距離が短くなる場合があります。
- 水素タンクの検査有効期限を過ぎている場合は、水素ステーションで圧縮水素ガスを充てんすることはできません。トヨタ販売店にご相談ください。

充てんする前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- パーキングブレーキをかけてください。
- シフトポジションを P にしてください。
- ヘッドランプなどのスイッチを OFF にしてください。



知識

■ 燃料の種類について

→P.538

■ 最高充てん圧力

通常の使用圧力は 70MPa になります

が、燃料充てん時の一時的な最高圧力（最高充てん圧力）として、87.5MPa もラベルに表示されています。

⚠ 警告

■ 充てんするとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災・爆発を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワースイッチを OFF にして、水素ステーションの係員の指示に従ってください。
- タバコなどの火気を近付けないでください。
- 充てん時、充てんガスが冷たいため、水素ガス充てんノズルや燃料充てん口表面が冷たくなったり、霜がついたりする場合があります。充てん直後は素手で水素ガス充てんノズルや燃料充てん口にさわらないでください。凍傷になる恐れがあります。

⚠ 注意

■ 充てんするとき

- 指定以外の燃料を使用しないでください。故障の原因になります。
- 充てん時、水素ガス充てんノズルにぶらさがったり、大きな力をかけないでください。故障の原因になります。
- 充てん後は必ずキャップを取り付けてください。燃料充てん口内に異物が入ると、故障の原因になります。
- 燃料充てん口の開口部にドライバーなどの鋭利なものを入れないでください。燃料充てん口の損傷により、充てん時に水素ガスがもれるおそれがあります。

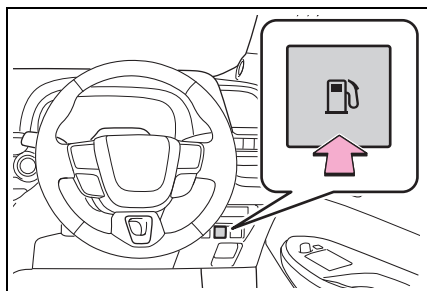
⚠ 注意

- 燃料充てん口に凍結防止剤などを付着させないでください。燃料充てん口内に不純物が入ると、故障の原因になります。
- 充てん時、水滴が付着した水素ガス充てんノズルを使用しないでください。付着した水滴が凍結し、水素ガス充てんノズルが外せなくおそれがあります。

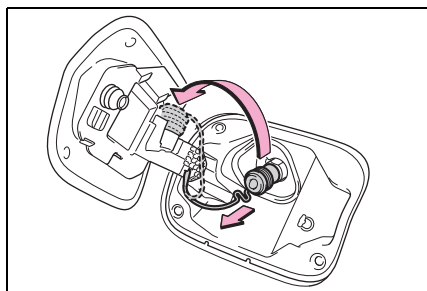
燃料充てん口の開け方

- 1 燃料充てん扉オープナースイッチを押して、ロックを解除する

燃料充てん扉は READY インジケーターが点灯しているときや、パワースwitchが ON のときは、ロックが解除されます。



- 2 キャップをはずして、ホルダーに取り付ける



- 3 燃料充てん作業は、水素ステーションの係員が行います。

📖 知識

■ 燃料充てん扉が開かないとき

トヨタ販売店にご相談ください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“水素充填口は安全な場所でパワースwitchオフ後操作”が表示されたときは

- 1 車両を安全な場所に停車させて、シフトポジションを P にする
- 2 パワースwitchを OFF にする
- 3 燃料充てん扉オープナースイッチを押す

■ 燃料充てん中の音について

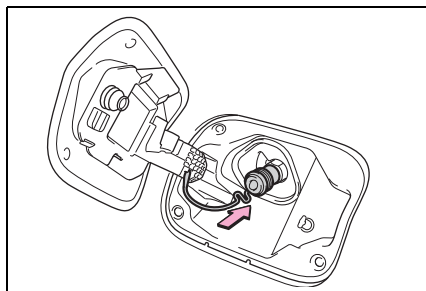
圧縮水素ガス充てんの際、気流音や水素タンクバルブの作動音が聞こえる場合があります。(→P.61)

燃料充てん口の閉め方

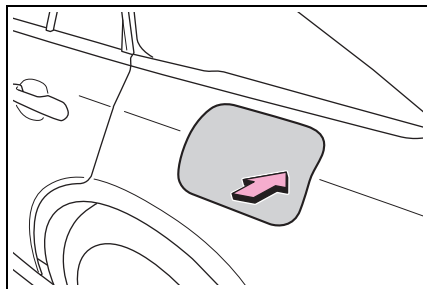
- 1 充てん終了後、水素ガス充てんノズルを燃料充てん口から取りはずす

燃料充てん作業は、水素ステーションの係員が行います。

- 2 キャップを取り付ける



3 燃料充てん扉を閉める



知識

■ 誤操作防止機能について

燃料充てん扉が開いているときは、安全のためFCシステムは始動しません。また、READYインジケータが点灯しているときは、燃料充てん扉は開きません。

同様に、燃料充てん扉が開いている時は非常時給電機能（→P.430）も使用できません。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“水素充填口開検知 安全な場所に停車して閉じてください”が表示されたときは

燃料充てん扉が開いています。安全な場所に駐車して、燃料充てん扉を閉めてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“水素充填口を閉じた後 もう一度始動操作をしてください”が表示されたときは

燃料充てん扉が開いて始動できません。シフトポジションをPにして、パワースイッチをOFFにしてから、以下の手順でもう一度燃料充てん扉を閉めてください。

- 1 キャップが取り付けられているか確認する
- 2 燃料充てん扉を閉める

マルチインフォメーションディスプレイの表示が消えたときは異常ではありません

ん。ただし、表示が続く場合は、センサーの故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

始動操作を5回繰り返す（ブレーキを踏んだ状態でパワースイッチ操作を2秒程度の間隔で9回押す）毎に1回始動できます。車両に水素充てんノズルが接続されていないことを十分確認の上、車両を走行してください。

セルフ充てんをする場合

SAE J2601に準拠した水素ステーションで充てんしてください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

水素ステーションで表示されている注意書きをご確認ください。

■ 充てん時のご注意

2023年11月現在、日本では原則セルフ充てんは許可されていません。特例として、所定の講習を受講された方のみ、許可された車両・場所にて行うことができます。許可された方が充てん作業をする場合は、次のことをお守りください。

- 水素ステーションの供給圧力よりも車両の水素タンク残圧が高い場合は、充てんできません。水素タンク内の水素残量が容量の半分以上ある場合は、H35水素ガス充てん機では充てんできません。満充てんするためにはH70水素ガス充てん機（供給圧力70MPa）を使用してください。
- 水素ステーション設備の不具合で充てんが完了しない場合は、水素ステーションの係員にお知

らせてください。

警告

■ 充てんするとき

- 乗用車向け水素ステーションで充てん作業を行ってください。充てん作業方法は水素ステーションの係員の指示に従ってください。
- 70MPa または 35MPa 乗用車の水素ガス充てんノズルを使用し、商用車専用の水素ガス充てんノズルは使用しないでください。充てん作業方法は水素ステーションの係員の指示に従ってください。
- 充てん前、水素ガス充てんノズルが燃料充てん口に対して、確実にロックしていることを確認し、水素ガス充てんノズルを手前に引いても外れないことを確認してください。水素ガス充てんノズルや車両が故障する原因になります。

注意

■ 充てんするとき

- 充てんが完了しても水素ガス充てんノズルが外れない場合、燃料充てん口が凍結している可能性があります。解凍するまで、しばらくお待ちください。無理に外そうとすると、水素ガス充てんノズルや車両が損傷し、故障の原因になります。
- 車両の燃料充てん口に異変を見受けられた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 水素ガス充てん機や水素ガス充てんノズルに異変を見受けられた場合は、水素ステーションの係員、または水素ガス充てん機に記載されている問合せ先へお知らせください。

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ【渋滞時支援】装着車）

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

■安全にお使いいただくために

- Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense／アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

■ マルチメディアディスプレイ※／スマートフォンでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

- 1 メインメニューの  にタッチする
- 2 “運転支援アップデート” にタッチする

※ マルチメディアのバージョンによっては表示されない場合があります。

■ 自車の Toyota Safety Sense／アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

- 1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR コード
https://manual.toyota.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する



知識

■ デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディアディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。



知識

■ ソフトウェアアップデートについて留意事項

- 一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

- 通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。
- ソフトウェアアップデートに失敗した場合、前のバージョンでシステムを起動します。
- ソフトウェアアップデートの実施中でもToyota Safety Sense／アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）を使用することができます。
- 次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。
 - ・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※
 - ・法規上の問題が発生したとき ※
 - ・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき
- ※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

- ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示
- ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク
- ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。
運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お客様ご自身で動作テストを行わないでください。

対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やバンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき

警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

- AHS (アダプティブハイビームシステム)
→P.204
- AHB (オートマチックハイビーム)
→P.207
- PCS (プリクラッシュセーフティ)
→P.232
- LTA (レーントレーシングアシスト)
→P.241
- LDA (レーンディパーチャーアラート)
→P.250
- LCA (レーンチェンジアシスト)
→P.246
- FCTA (フロントクロストラフィックアラート)
→P.260

■ PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

→P.255

■ 発進遅れ告知機能

→P.262

■ RSA (ロードサインアシスト)

→P.264

■ レーダークルーズコントロール

→P.267

■ クルーズコントロール

→P.276

■ ドライバー異常時対応システム

→P.279

■ ドライバーモニター

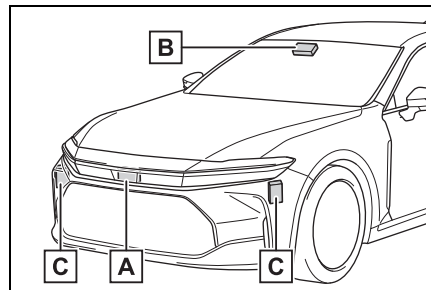
→P.230

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

▶ フロント

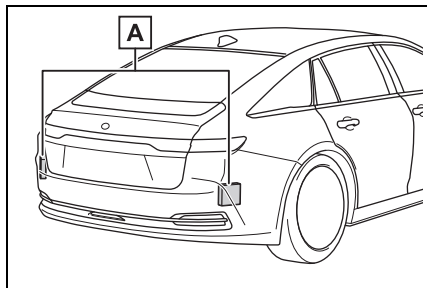


■ A 前方レーダー

■ B 前方カメラ

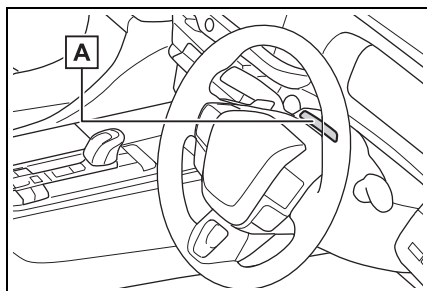
■ C 前側方レーダー

▶ リヤ



A 後側方レーダー

■ 運転者の状態を検出するセンサー



A ドライバーモニターカメラ

⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

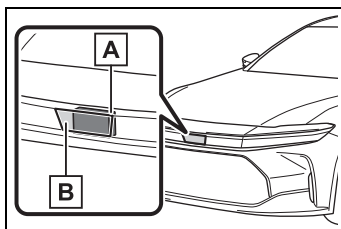
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

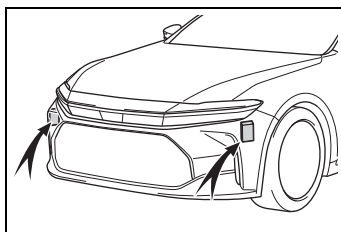
お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

- 前側方レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく



- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

- レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

- レーダーを分解しない

⚠ 警告

- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ レーダーを脱着や交換したとき
 - ・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ ヒーター機能付レーダー専用カバーについて

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

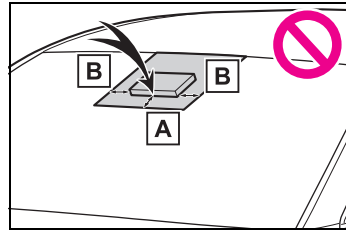
■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

 警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

- 前方カメラを分解しない

- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けけない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ ドライバーモニターカメラの取り扱いについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ドライバーモニターカメラの故障や誤作動によりシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない
強い衝撃を受けると、ドライバーモニターカメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

- ドライバーモニターカメラを分解・改造しない

- ドライバーモニターカメラおよびその周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に液体をかけない

- ドライバーモニターカメラの前にものを置いたり、覆ったりしない

- ドライバーモニターカメラのレンズを傷つけない

- ドライバーモニターカメラのレンズをさわったり、汚したりしない
レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷つけないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。

- お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない

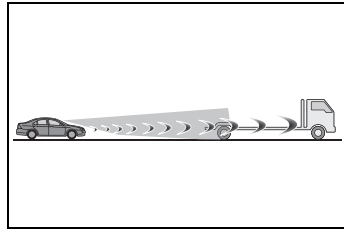
知識

■ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

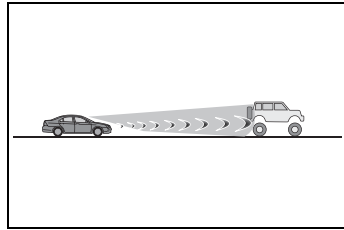
- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
 - ・ トンネル
 - ・ トラス橋
 - ・ 砂利道
 - ・ 轍のある雪道
 - ・ 壁
 - ・ 大型トラック
 - ・ マンホール

- ・ ガードレール
- ・ 鉄板

- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- 対象車両の位置がずれているとき
- 対象車両に雪や泥などが付着しているとき
- 次のような道路を走行しているとき
 - ・ 急なカーブや曲がりくねった道
 - ・ 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が

変化する道

- ・ 左右に傾きのある道
- ・ 路面に深いわだちがある道
- ・ 整備されていない荒れた道
- ・ 起伏や段差が多い道路

● ハンドル操作が不安定なとき

● 車線内での自車の位置が一定でないとき

● 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど

● ホイールアライメントがずれているとき

● 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

● カーブの形状とは異なる経路で走行するとき

● カーブに対して進入速度が過度に高いとき

● 駐車場や車庫、カーエレベータなどに入出するとき

● 駐車場内を走行するとき

● 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

● 風が強いとき

■ 車線を検知できないおそれがあるとき

● 車線の幅が極端に狭い、または広いとき

● 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

● 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

● 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

● 同一車線上に複数の白線があるとき

● 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

● 車線が縁石等の上に引かれているとき

● コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■ システムの一部もしくは全てが作動しないとき

● 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時

● VSC、TRC 等の安全システムが作動時

● VSC、TRC 等の安全システムが OFF のとき

■ ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

● ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

● システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■ ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

● 炎天下での駐車後など、車内が高温のとき

● 強い光（太陽光や後続車のヘッドランプ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき

● 周囲の構造物の影響などで、車内の明るさがひんばんに変化するとき

● 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が運転者の顔にあたっているとき

- 眼鏡・サングラスのレンズに車内や車外からの光が映り込んでいるとき
- 助手席や後席の乗員が身を乗り出すなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲に複数の顔があるとき
- 前に身を乗り出したり、窓から顔を出したりするなど、顔がドライバーモニターカメラの検知範囲から外れているとき
- ハンドルやハンドルを握る手・腕などでドライバーモニターカメラが隠れたとき
- 帽子を被っているとき
- 眼帯を着用しているとき
- 赤外線を通しにくい眼鏡やサングラスをかけているとき
- コンタクトレンズをつけているとき
- マスクを着用しているとき
- 笑ったり、眼を細めたりしているとき
- 眼・鼻・口や、顔の輪郭が隠れているとき
- 眼・鼻・口・顔の輪郭が判定できなくなるような化粧をしているとき
- 眼鏡・サングラスのフレームや髪などで眼が隠れているとき
- 車内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

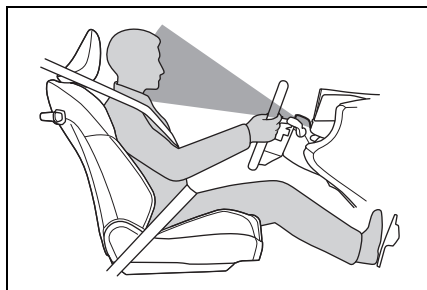
JP 01

ドライバーモニター

基本機能

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の位置・向きや眼の開閉状態を検知し、運転者が周囲の状況を確認し運転操作できる状態であるかシステムが判断します。

ドライバーモニターが正常に作動するためには、ドライバーモニターカメラで運転者の顔全体を撮影する必要があります。ハンドルやシートの位置が高すぎたり、低すぎたりするとドライバーモニターカメラが運転者の顔を一部撮影できず、運転支援システムが一部作動できなかったり、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行ったりすることがあります。



■ 注意喚起

次のようなとき、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行うことがあります。

- 運転者が脇見している／眼を閉じているとシステムが判断したとき
- 運転者の顔が検知できない／姿勢が崩れているとシステムが判断したとき

ハンドル／シートの位置が高すぎたり低すぎたりする場合、ドライバーモニターカメラが運転者の顔全体を認識できず、注意喚起を行うことがあります。メーター全体が見える運転姿勢になるようにハンドル／シートの位置を調整してください。

運転姿勢を調整しても注意喚起が継続するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 顔認証システム

個人特定システムの一機能として、ドライバーモニターは顔認証機能のデバイスとして使われます。

車両での顔認証機能の使い方、他個人特定デバイスとの優先度、連動する車両設定については「マイセッティング」を参照してください。(→P.170)

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- ドライバーモニターは運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ドライバーモニターは運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

□ 知識

■ 注意喚起

車速が低いときは作動しないことがあります。

■ 顔認証システムについて

ドアを開け閉めすると顔認証が開始され

ます。

顔認証システムでは、お客様の顔の特徴情報を数値化し、車両に装備されたコンピュータ内に保存してマイセッティングにおける認証に利用します。

- お客様の顔の画像／動画や音声を保存することはありません。
- 数値化された顔情報はマイセッティングにおける認証以外での用途では使用いたしません。また、顔情報を読み出すことはできず、第三者へ開示または提供されることはありません。
- 顔情報はお客様自身で削除することが可能です。
- 顔情報の取扱いについて、以下項目を同意いただいた上でご利用ください。
 - ・ 顔認証システムは完全な本人認証、照合、識別を保証するものではありません。
 - ・ 顔登録失敗や顔認証失敗が頻発する場合は、ドライバーモニターカメラを清掃または顔情報を登録し直してください。
 - ・ コンピューターに保存した顔情報を読み出したり他の媒体に移行したりすることはできません。消去、部品交換した場合は再度顔情報を登録する必要があります。
 - ・ 消去された顔情報は復元することはできません。再度登録を行う必要があります。

■ 顔認証システムが正しく認識しない場合

本システムは顔の特徴の情報を認証に利用するものです。次の場合、顔登録／認証が正しくできない場合があります。

- 顔の一部（眉、目、鼻、口のいずれか）が隠れている状態
- 眼鏡やサングラス、マスク、マフラー等を着用している
- 正面を向いていない場合

- 髪の毛、ひげ、手、衣服、アクセサリ等で顔の一部が隠れている
- 目を閉じている
- 双子など、顔の特徴情報が極めて似通った非登録者

■ ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.228

ドライバーモニターの設定を変更する

ドライバーモニターの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.551）

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.232）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.240）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 安全にお使いいただくために：
→P.222

■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるときは：→P.222

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

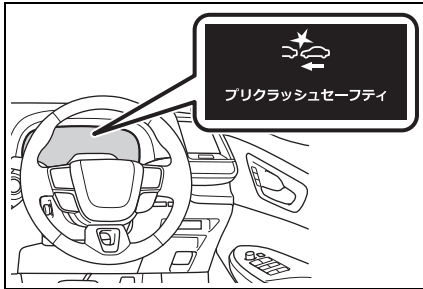
機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回

避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
 - 自車線内に回避するための十分なスペースがある
 - 運転者の回避操舵があった
- 運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。



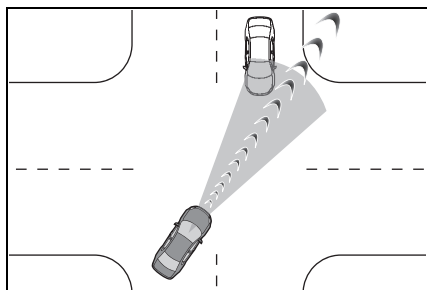
■ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

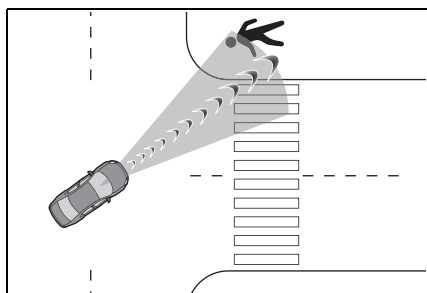
交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車／対向

自動二輪車の進路を横切るとき



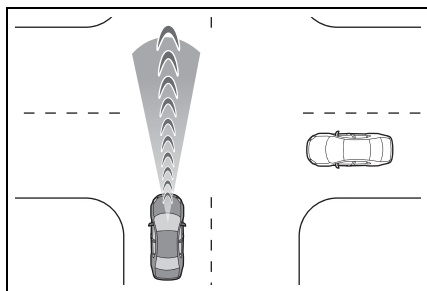
- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

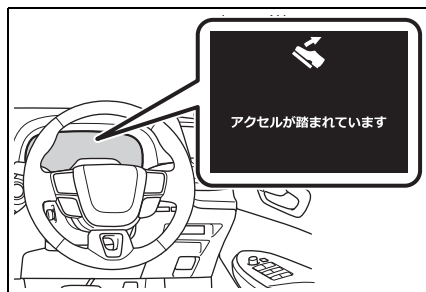
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、FCシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに図で示すアイコンとメッセージを表示します。



■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.378）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

⚠ 警告

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。

 警告

- ブリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■ 緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
- ・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
- ・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。



知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

ブリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、ブリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	アクティブ操舵機能：※ ～ 80km/h	アクティブ操舵機能：※ ～ 80km/h

※ 下限速度：ブリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 40km/h
自転車	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h

● 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60km/h	約 50km/h 以下	約 5 ～ 60km/h

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

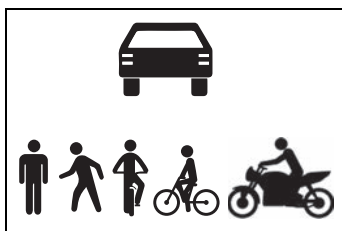
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

図は作動対象として検出する対象のイメージです。

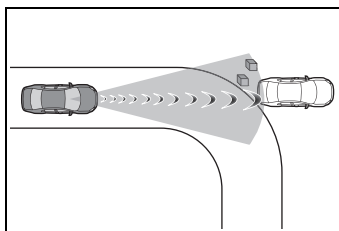


■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

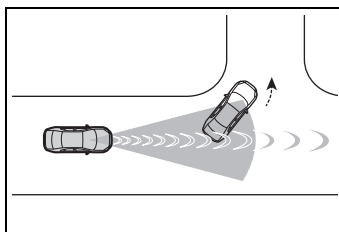
● 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追い越すとき
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき

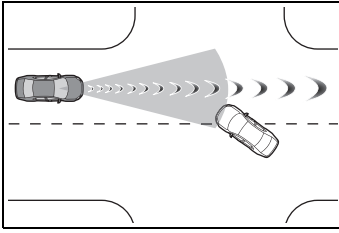
- ・ カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



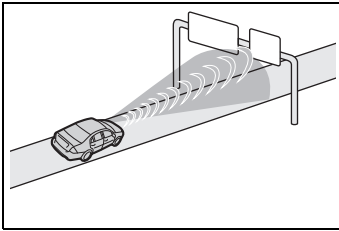
- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



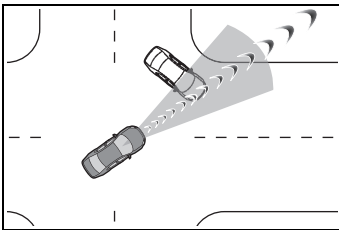
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



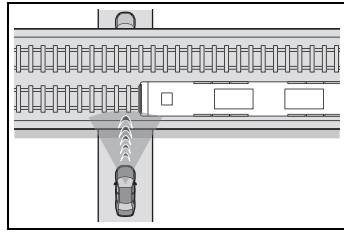
- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車／対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



- ・ 対向車の進路に接近するようにハンド

ルを操作したとき

- ・ 道路上方／下方を移動するものがあるとき

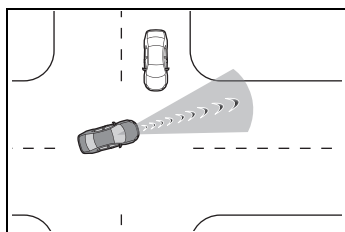


■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

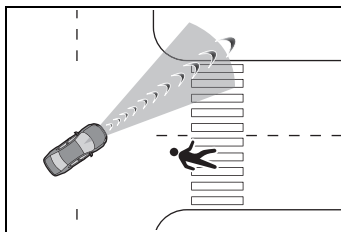
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、

前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）

- ・ 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ FC システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 右折中に、対向車／対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追いつくように前方にでてくるとき



- ・ 交差点で出会い頭に大型トラック／けん引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
 - ・ 作動対象に近づきすぎたとき
 - ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
 - ・ 対向車がいるとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
 - ・ ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
 - ・ 壁が傾いていたり、高さが低いとき
 - ・ 壁がポールなど幅の狭いものとき
 - ・ 壁が生垣など草木のとき
 - ・ 壁に路面などが映りこんでいるとき
 - ・ 自車が壁に斜めに近づくととき

PCS の設定を変更する

- PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.551）

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

- システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- カスタマイズ設定から、PCS の

設定を変更することができます。
(→P.551)

- 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。
 (遅い) を選択した場合、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）はほとんどの場合作動しません。
- 運転者が脇見をしているとシステムが判断した場合は、ユーザー設定に関わらず、衝突警報・緊急時操舵支援が (早い) のタイミングで作動します。
- レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が (早い) のタイミングで作動します。
- アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が (早い) のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

- 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

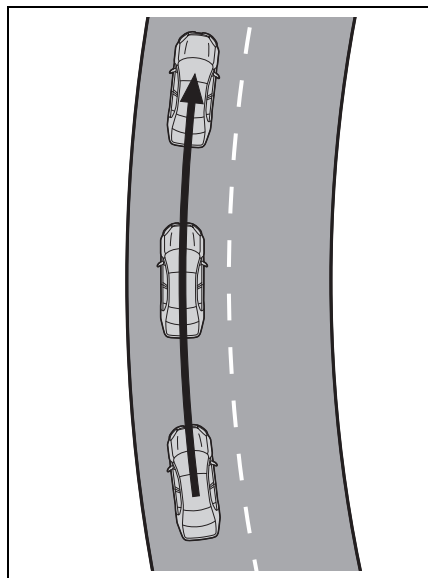
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

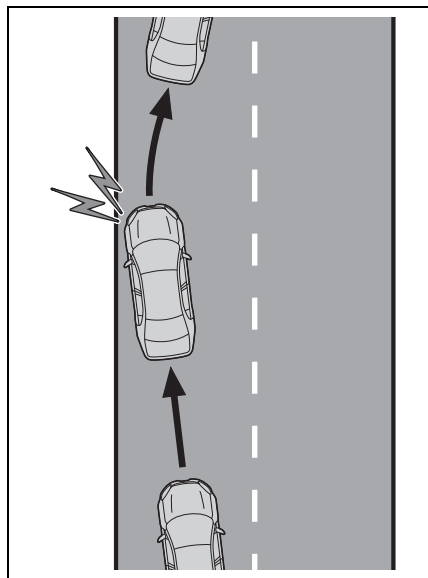
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかりと握り直してください。



- 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



⚠ 警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

📖 知識

■ 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- システムが車線を認識しているとき、または先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールが作動しているとき
- 車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急カーブを走行していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.243）が行われていないとき
- 車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

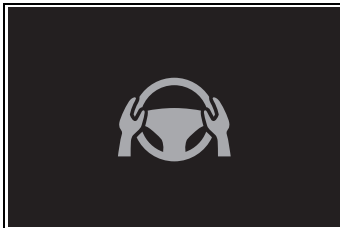
- 機能の作動条件（→P.242）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

- LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。
- 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

- 手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が

続いたときも同様に注意喚起が行われます。

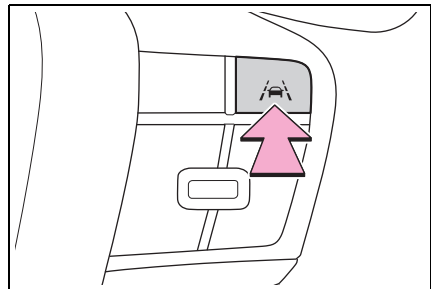
■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。
- 次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
 - ・ハンドルにカバーを取り付けたとき
 - ・運転者が手袋をしているとき
 - ・ハンドルに異物が付着しているとき
 - ・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき
- 次の状況では、手放しをしても手放し運転警告が作動せず、LTA が継続することがあります。
 - ・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
 - ・ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

システムの ON / OFF を変更する

LTA の ON / OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

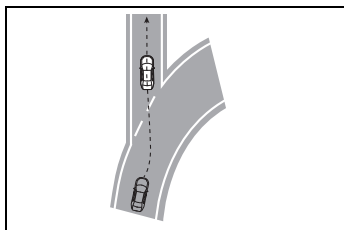


警告

機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

- 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.227
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.228
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.222

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 白色	 灰色／白色	 灰色	LTA がスタンバイ中

表示灯	車線表示	ステアリング アイコン	状態
 緑色	 緑色	 緑色	LTA が作動中
 黄色点滅	 黄色点滅	 緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LCA（レーンチェンジアシスト）

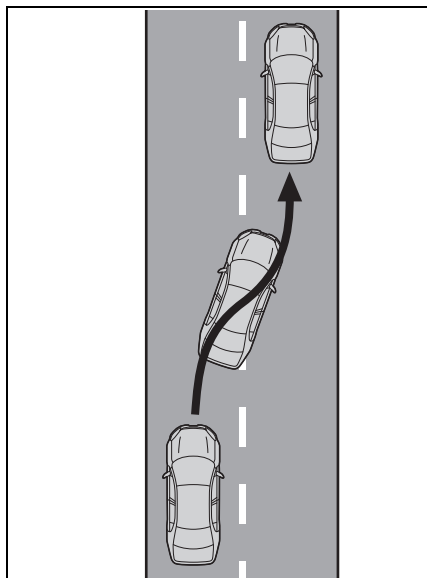
LCA の機能

LTA と連携し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。



⚠ 警告

■ LCA をお使いになる前に

- LCA を過信しないでください。
LCA は自動で運転する装置でも車線変更先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、車線変更してはいけない車線（対向車線、路肩等）に対して LCA を使用しないでください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

📖 知識

■ 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LTA が作動しているとき
- カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを ON に設定したとき
- 自車速度が約 70 ～ 130km/h のとき
- システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき
- システムが車線を変更する側の白線を破線と認識しているとき
- 車線を変更する先に車両が存在しないとき
- ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.243）が行われていないとき
- FC システム始動後、システムが一度で

も車両後方の移動物を検知しているとき

■機能の解除

次のような状況では、LCA が作動途中で解除されることがあります。その際に、ディスプレイの表示およびブザーにより、機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

- 作動条件が満たされなくなった場合
(→P.246)
- システムが車線を認識できなくなったとき
- 方向指示レバーを 2 段目の位置
(→P.247) へ操作したとき
- 方向指示レバーを車線変更をする方向とは逆方向に操作したとき
- 運転者によるハンドルやブレーキ、アクセルなどの操作をシステムが検知したとき
- 手放し運転に対する注意喚起
(→P.247) が行われているとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったときシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかり握ってください。



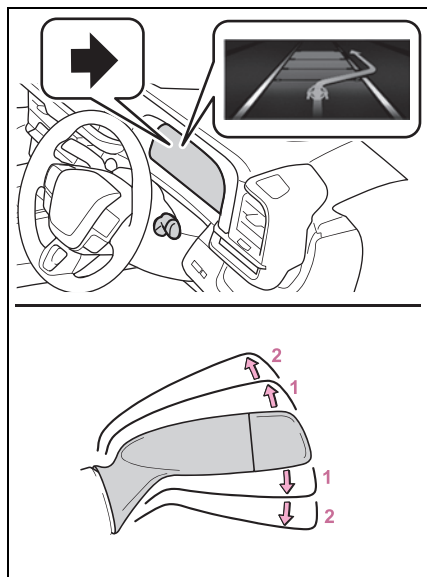
■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。
- 次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
 - ・ ハンドルにカバーを取り付けたとき
 - ・ 運転者が手袋をしているとき
 - ・ ハンドルに異物が付着しているとき
 - ・ 部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき
- 次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LCA が継続することがあります。
 - ・ ハンドルに手以外の物が接触しているとき
 - ・ ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

LCA の作動方法

方向指示レバーを 1 段目の位置で保持すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。

LCA を利用せず方向指示レバーを 1 段目の位置で保持して車線変更する場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF としてください。



1 1 段目：LCA 作動位置

2 2 段目：LCA 非作動位置

⚠ 警告

■ LCA を使用してはいけない状況

- 片側 1 車線の道路を走行しているとき

- 自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

システムの ON / OFF を変更する

LCA の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.552)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LCA の作動状態を示しています。

LCA 表示	ステアリングアイコン	状態
 灰色矢印／緑色線	 緑色	LCA がスタンバイ状態
 青色矢印／白色線		LCA が作動中

LCA 表示	ステアリング アイコン	状態
	 灰色	LCA 作動中に自車に接近してくる車両を検知した
 灰色線	 灰色	LCA 作動中に車線を検知できなくなった

LDA（レーンディパーチャアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

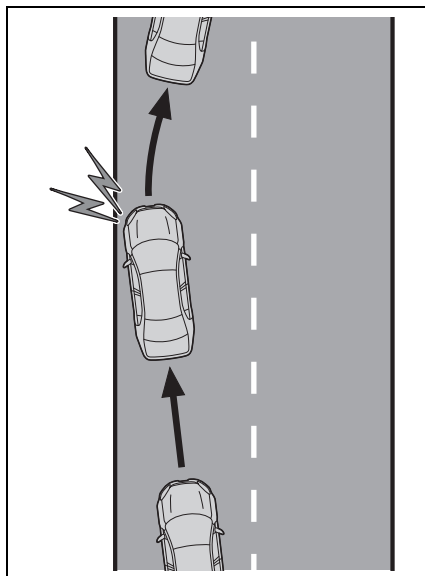
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



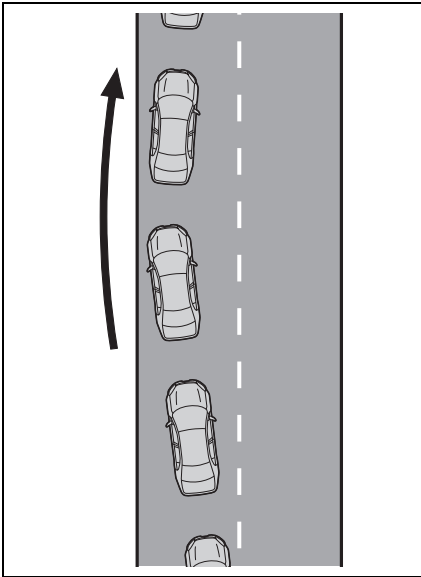
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

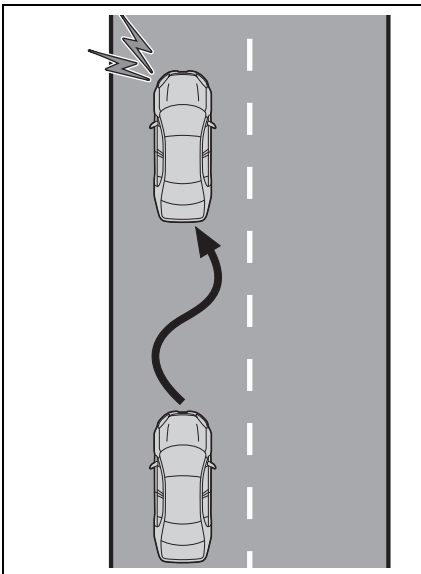
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



⚠ 警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

📖 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

対象が縁石、ガードレールなどの構造物の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。（カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき）

- ・ システムが車線または走路※を認識しているとき（車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

- ・ VSC または TRC を OFF にしていないとき
- ※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件（→P.251）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

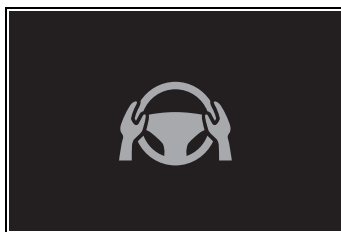
■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

- 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。
- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。
- 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。
- となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- 運転者の状態に応じて、走路逸脱に対する警報、抑制のタイミングが変化します。
- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- ※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの

表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき

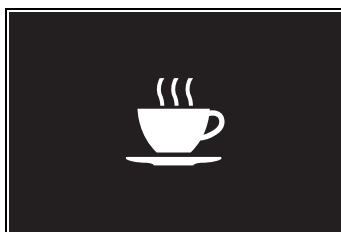
ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

- LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.552）
- カスタマイズ設定から、LDA の

設定を変更することができます。
(→P.552)

⚠ 警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき

- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.228
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.227
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.228
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.222

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している
 黄色点滅	 黄色点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中

表示灯	車線表示	ステアリング アイコン	状態
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
 黄色点滅	 黄色点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.256）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.257）

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.227
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.222

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト（OAA）	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないように、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 ハンドルの支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
減速アシスト（DA）	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト（SA）	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

知識

■システムの作動車速

●道路を横断する作動対象に対する支援

約 30 ～ 60km/h

●道路脇の作動対象に対する支援

約 30 ～ 60km/h

●先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

●カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

●信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30 ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）

●車線に対する操舵支援

約 10 ～ 140km/h

■ システムの作動が停止するとき

● 次のときシステムは作動を停止します。

- ・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
- ・PCSがOFFのとき
- ・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.228
- ・シフトポジションがP、R または N のとき

● 次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します。

- ・車速が約 15km/h 以下のとき
- ・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

● 次のときシステムは作動を停止する場合があります。

- ・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- ・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
- ・車線が検出できなくなった場合
- ・ブレーキ操作を行った場合
- ・アクセル操作を行った場合
- ・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
- ・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

⚠ 警告

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.228
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

● 車線を変更して作動対象などを追いつくとき

● 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

● 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事中コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき

● 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

● 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

● 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき

● 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

● 自車や作動対象がふらついているとき

● 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）

● 作動対象に急接近したとき

● 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

● 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

● 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

● 作動対象が複数重なっているとき

● 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき

● 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

● 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき

警告

- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自転車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きするとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき

- 車線幅が約4m以上あるとき
- 車線幅が約2.5m以下のとき
- FCシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.552）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.552）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

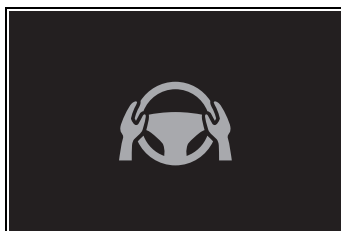
アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	● 白色：作動対象監視中 ● 緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	● 道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ● 操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

知識

■ 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■ 先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。



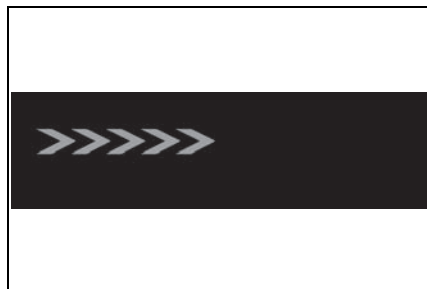
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。

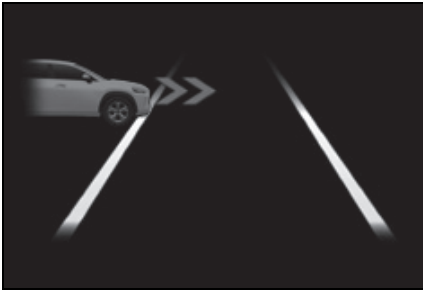
システムの制御

- 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。

・ ヘッドアップディスプレイ



- 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとしてシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。
- ・ マルチインフォメーションディスプレイ



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

知識

■FCTA システムの作動条件

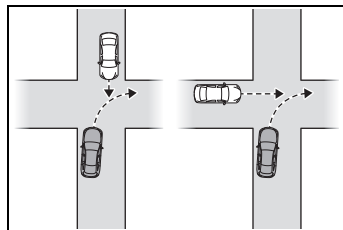
システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- シフトポジションがP・R以外にあるとき
- 自転車速度が約15km/h以下のとき
- 前方を交差する接近車両の速度が約10～60km/hであるとき
- 先行車がないとき
- アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ブレーキを強く踏み込んでいないとき

■検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

- 道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
- 路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき
- 自転車から遠方で車両や歩行者が交差するとき
- 自転車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき
- 自転車や歩行者が歩道を通行しているとき
- 車両や歩行者が自転車から遠ざかるとき
- 交差車両が減速し停止するとき
- 交差車両が自転車直前で右左折するとき
- 歩行者が自転車に接近するとき
- 対向車が右左折するとき
- 交差車両より先に自転車が交差点を通過するとき
- 信号待ち時に交差車両が接近するとき
- 右左折など旋回時に交差車両が存在するとき



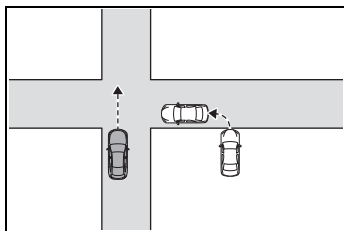
- 前方から車両が接近し、すれちがうとき
- 後方から車両が接近し、追い抜かれるとき
- 自転車が車両や歩行者と並走するとき

- 自車側面に車両や歩行者が接近するとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）



- 交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき
- 交差車両が自車から遠方を交差するとき
- 自車と交差車両のあいだに障害物があるとき
- 複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.227
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.228

FCTA の設定を変更する

- FCTA の作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.553）
- カスタマイズ設定から、FCTA の設定を変更することができます。（→P.553）

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

□ 知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションが N で停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■ 発進遅れ告知機能が正しく作動しないおそれがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき

- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.227

■ 先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 信号機が青にかわっていても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識したとき
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ているとき
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識したとき
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できないとき

システムの ON / OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.553)

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。(→P.553)

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況把握し、安全運転に努めてください。
- RSAは、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行います。支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSAを使用してはいけない状況

- システムをOFFにする必要があるとき：→P.222

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.227

ディスプレイ表示機能

- 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
- 複数の道路標識を表示できます。車の仕様によっては表示される標識が制

限される場合があります。

□ 知識

■標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- システムが標識を認識しているとき
次の状況では、標識の表示が消えることがあります。
- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

- 右左折等により走行する道路が変わったときシステムが判定したとき
- 終わりを示す補助標識を認識したとき

■表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼有的时候
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差点）を走行して

いるとき

- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- 補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき
- 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

- 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとしてシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■告知機能の作動条件

- 速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- ・最高速度を表示しているとき

- 車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・進入禁止標識を2つ以上認識しているとき
- ・進入禁止標識の間を通過するとき

- 赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- ・車速が約20～70km/hのとき
- ・一定以上の減速がないとき
- ・方向指示レバーを操作していないとき
- ・一定以上のハンドル操作をしていないとき
- ・先行車がないとき

■告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。
 - ・右左折等により標識が検知できないとき
 - ・信号機が矢印信号のとき
 - ・信号機が点滅信号のとき
 - ・信号機の底で発光部の一部が隠れているとき
 - ・ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
 - ・停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
 - ・停止線などの路面ペイントがかすれているとき
 - ・停止線に対し信号機が遠くにあるとき

- ・ 交差点間の距離が近いとき
- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
- ・ 標識が通常とは異なる大きさのとき
- ・ 標識や信号機が多数あるとき
- ・ 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
- ・ 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別が付きにくい模様・光源・ペイントがあるとき
- ・ 信号機の灯色が黄色のとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 予告信号があるとき

	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.554)

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

- 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で利用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.272

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

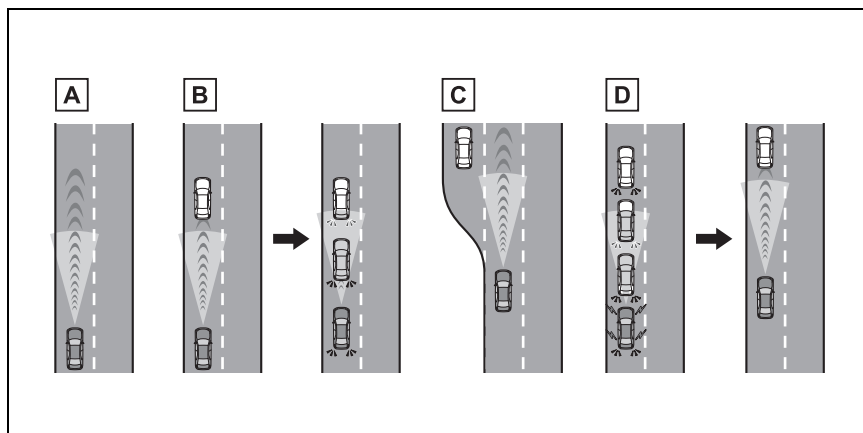
警告

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.227
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.222

基本機能



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行ー追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

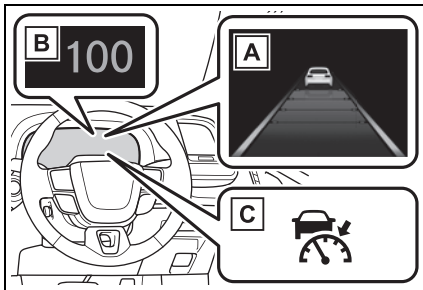
D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、RES スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

高速道路／自動車専用道路の一部を走行中に先行車が停止したときは、続いて停車します。停車してから約 3 分以内に先行車が発進したとシステムが判断すると、ブザーとディスプレイ表示でお知らせし、先行車に続いて発進します。（再発進可能時間延長）

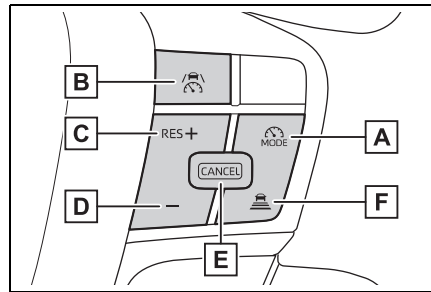
システムの構成部品

■ メーター表示



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

■ 操作スイッチ



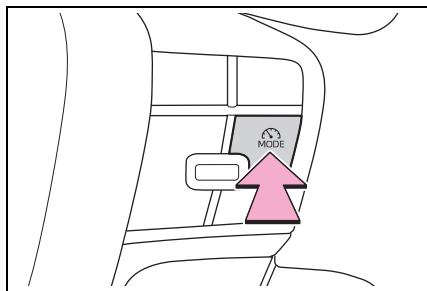
- A** 走行支援モード選択スイッチ
- B** 走行支援スイッチ
- C** + スイッチ、RES スイッチ
- D** - スイッチ
- E** キャンセルスイッチ
- F** 車間距離切りかえスイッチ

レーダークルーズコントロール を使用する

■ 速度を設定する

- 1 走行支援モード選択スイッチを押して、レーダークルーズモードを選択する

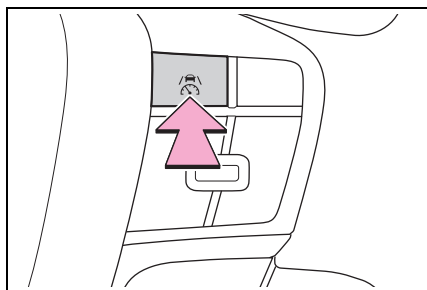
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

スイッチを離れたときの车速で定速走行できます。

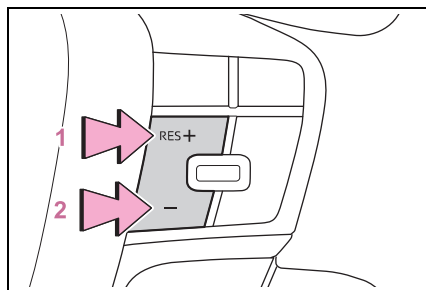


■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで + スイッチま

たは - スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに 1 km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5 km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい车速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

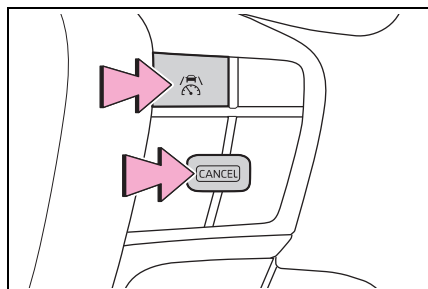
- 2 + スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（制御停車中は、ブレーキペダルを

踏んでも解除されません)

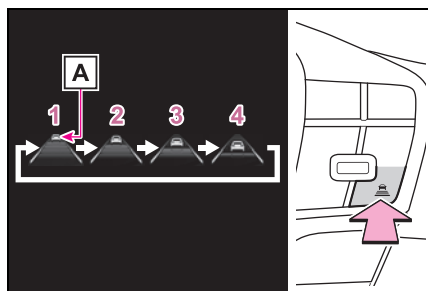


2 制御を復帰させるには、RES スイッチを押す

■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マーク **A** も表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/h の場合）
1	最長	約 70m
2	長	約 60m
3	中	約 45m
4	短	約 30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

■ 設定条件について

- シフトポジションがDのとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
- ・ 車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
- ・ 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に RES スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- Br モードにしたとき
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ 車両が停止したあと約 3 分経過した

自動でパーキングブレーキがかかることがあります。

- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.228

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.222

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.272）も作動しないおそれがあります。

- 割り込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- 自車が車線変更しているとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 先行車が急ブレーキをかけたとき
- 渋滞時等、低速で車線変更したとき

■再発進可能時間延長の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 自動車専用道路など限定された道路を走行中

- 先行車が存在し、システムが先行車を検知できている

- 先行車と自車のあいだに他車が割り込んできていない

- 先行車が入れかわっていない

- クリアランスソナーおよび前側方レーダーが前方の物体を検知していない

- 運転者が前方を向いているとドライバーモニターが判断している

- ハンドルを操作していない

- ブレーキペダルを操作していない

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

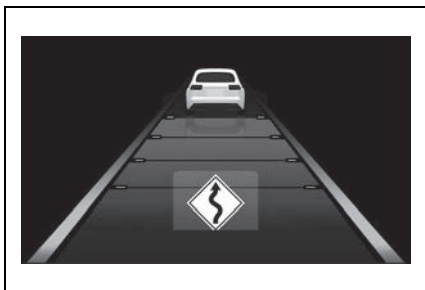
- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

ドライバーモニター連携機能

ドライバーモニターによる注意喚起が表示されている場合、加速を抑制します。

ドライバーモニターによる注意喚起の表示が消えた場合、加速抑制を終了します。

車線変更時の補助機能

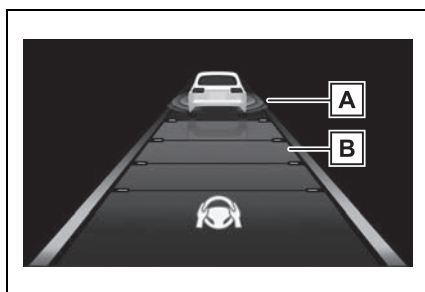
約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

知識

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- 本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
- 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。

必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダークルーズコントロールに切りかわる場合があります。

- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき
- トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

● 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

● 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

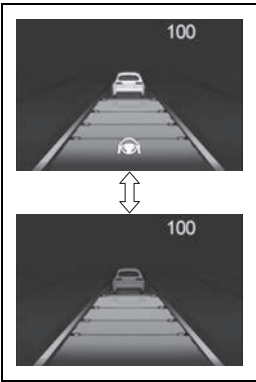
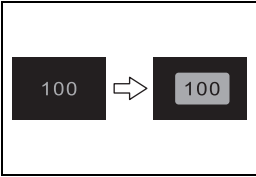
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.554)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示	状態
 緑色		設定車間距離：橙色 点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅 接近警報
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色 アクセルペダルによる加速中
 緑色		設定速度：緑色反転表示 設定速度超過時
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色 制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

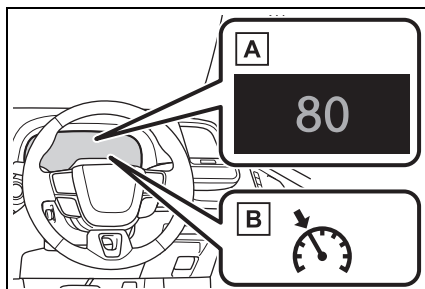
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.222

システムの構成部品

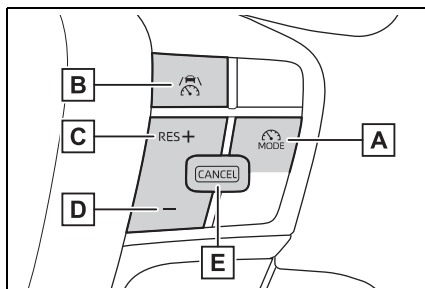
■メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C +スイッチ、RES スイッチ

D -スイッチ

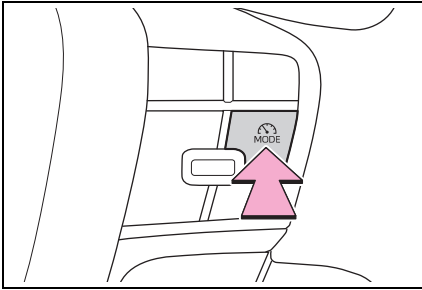
E キャンセルスイッチ

クルーズコントロールを使用する

■速度を設定する

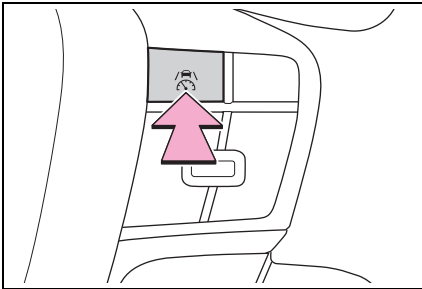
- 1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択する

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2** 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

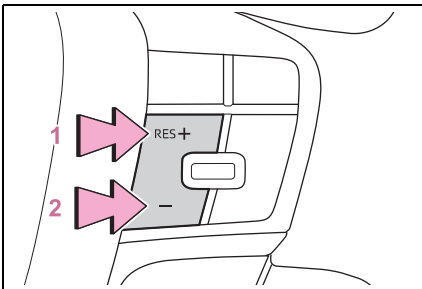
スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで＋スイッチまたは－スイッチを押します。



- 1 速度を上げる

- 2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

- アクセルペダルで設定速度を上げる

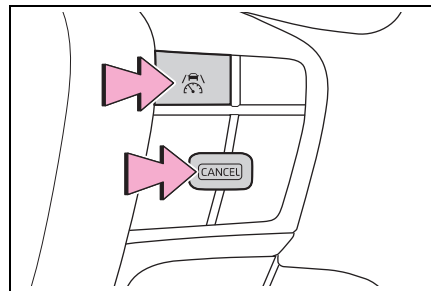
- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

- 2 ＋スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



- 2 制御を復帰させるには、RES スイッチを押す

□ 知識

■ クルーズコントロールの自動解除

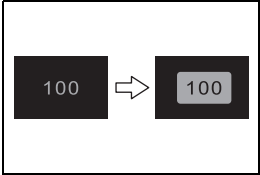
次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- Br モードにしたとき
- パーキングブレーキが作動したとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.228

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色		なし	クルーズコントロール OFF
 緑色		設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）制御中のハンドル保持警告に運転者が反応しない場合も減速・停車します。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。
- ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況：→P.228

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。「警告 1 フェーズ」、「警告 2 フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。

す。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

- システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

- LTA を ON にしているとき

または、アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）制御中のとき

- 自車速が約 50km/h 以上

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）作動中は 50km/h 以下でも作動します。

■ 作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

- LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
- レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき
- ドライバー操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、非常点滅灯スイッチ操作、方向指示レバー操作）
- 自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
- 停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき
- パワースイッチを ON から OFF にしたとき

- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.228

■ 作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからでも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

ドライバー異常の検出状況によっては警告 1 フェーズを経由せず警告 2 フェーズから制御が開始される場合があります。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は続きます。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。



知識

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもFCシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

- LTA
- LCA
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

⚠ 警告

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）は、運転者による状況確認のもと、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線での車線維持・加減速・停車・発進を支援するシステムです。また、緊急時には減速・停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）を支援するセンサー

- 周囲の状況を検出するセンサー（→P.223）
- 運転者の状態を検出するセンサー（→P.224）

知識

- システムの一部もしくは全てが作動しないとき

→P.228

- ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

→P.228

- ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.228

ドライバー異常時対応システム

→P.279

レーダークルーズ再発進可能時間延長

→P.272

渋滞時支援機能

渋滞時支援機能は、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線において運転者による状況確認の下で車線維持・加減速・停車を支援するシステムです。

作動条件をすべて満たした場合、渋滞時支援機能が作動します。

システム作動中はハンドルから手を離すことが可能です。（→P.284）

レーダークルーズコントロール、LTA（レーントレーシングアシスト）の内容をご理解いただいた上で、渋滞時支援機能をお使いください。

サービスエリア／パーキングエリア、料金所などに進入する際や、車線変更時は運転者自身の操作で運転を行ってください。

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

- 渋滞時支援機能は自動で運転するシステムではありません。

本システムは道路の形状・状態・交通状況や運転者の状態に応じて、運転者への情報提供や運転支援を行います。常に周囲の状況を把握した上で、運転者の責任においてシステムを使用してください。

警告

- 渋滞時支援機能は周囲の状況・道路の状態、運転者の状態によっては作動しない、または作動を中断することがあります。また、常に同じ性能を発揮できるものではありません。機能の作動条件をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- 渋滞時支援機能の認識性能・制御性能には限界があるため、システム作動中であっても運転者自身の操作で安全を確保する必要があります。また本システムの操舵アシストは、渋滞中の緩やかな操舵に限定した機能であり、本機能作動中は LDA の逸脱抑制機能は作動しません。何らかの理由で車線を逸脱しそうになった場合は運転者は自らの責任で運転操作してください。
- システムが正常に作動していたとしても、運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 渋滞時支援機能作動中でも運転者での操作が必要となる状況があるため、運転者自身で視界を確保する必要があります。
- 渋滞時支援機能は状況に応じてディスプレイ表示でハンドルの保持を促すことがあります。ハンドルを保持し、運転者自身の操作で安全を確保してください。

- 渋滞時支援機能は、次のものを検出しません。必要に応じて自らハンドル・アクセル・ブレーキなどの操作を回避してください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ 路上落下物
- ・ 車線外（路肩など）にいる車両
- ・ くぼみ・陥没・ひび割れなどの破損した道路
- ・ 工事区間
- ・ 隣接する並走車両や壁
- ・ 動物

■機能を使用してはいけない状況

次のような状況では渋滞時支援機能を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき

→P.222

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

→P.227

- 車線を検知できないおそれがあるとき

→P.228

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では渋滞時支援機能が正常に作動しないおそれがあります。必要に応じて運転者自身で操作してください。

- 水しぶきがかかったとき
- 外気温が高温または低温のとき

警告

- 自車の前方に割り込みがあったとき
- 合流してくる車線があるとき
- 見通しが悪い状況で走行しているとき
- 車両姿勢が変化しているとき
- タイヤの接地面の状態が、左右で著しく異なる場所を走行しているとき
- 中央分離帯がポール等で区切られている暫定供用区間や中央分離帯がない自動車専用道路を走行しているとき
- 自車と他車の速度差が大きいき
- 地図情報が正常に更新されていないとき

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

→P.224

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

→P.225

■ フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

→P.226

知識

■ 機能の作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- システムが車線および先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールおよびレーントレーシングアシストが作動しているとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急なカーブを走行していないとき

- 車線中央付近を走行しているとき
- ドライバーの前方監視状態を検知しているとき
- 高速道路・自動車専用道路の本線にて渋滞走行しており、車速が約 40km/h 以下であるとき（渋滞開始時など、一部条件下では、約 30km/h 以下で機能が開始します）
- 運転席ドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを締めている
- アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）のカスタマイズが OFF に設定されていないとき
- システムを構成する機能や部品が正常な状態であるとき
- PCS カスタマイズが OFF に設定されていないとき
- レーダークルーズコントロールの再発進可能時間延長カスタマイズが OFF に設定されていないとき

■ 機能の一時解除

- 機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
 - 機能作動中に作動条件が満たされなくなった場合、ブザー音と表示で一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。お知らせに対して運転者の反応がなかった場合、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。それぞれの表示の意味については以下をご覧ください。（→P.285）
- ### ■ 制御走行中の運転操作について
- アクセルペダル
- 通常走行と同様、アクセルペダルを踏むことで加速できます。約 10km/h 以上で走行中にアクセルペダルを踏んだときに

は、機能が解除されます。

● ブレーキペダル

通常走行と同様、ブレーキペダルを操作することができます。ただし、制御走行は解除されます。

● ハンドル

通常走行と同様、ハンドルを操作することができます。一定以上ハンドルを操作すると、制御走行が解除されることがあります。

■ ディスプレイに警告メッセージが表示されているとき

- “Advanced Drive 使用できません
販売店で点検”

渋滞時支援機能が正常に作動しなくなっ

ているおそれがあります。販売店で点検をうけてください。

- “Advanced Drive 使用できません
停車支援機能作動履歴有”

ドライバー異常時対応システムが作動したため、一時的にシステムが使用できません。使用するには、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしてください。

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）の設定を変更する

渋滞時支援機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.555）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

以下の表示を用いて渋滞運転支援システムの作動状態を示しています。

ディスプレイ表示	状態	対処
	渋滞時支援機能が作動中	—
 (灰色)	渋滞時支援機能終了を事前に告知	ハンドルを保持する
 (オレンジ)	渋滞時支援機能終了を告知	ハンドルを保持する
 (赤色)	レーダークルーズコントロール／LTAの両方、またはいずれかの作動が終了したことを通知	速やかに運転者自身でハンドルを保持し、運転操作を行う
 (黄色)	割り込みや周辺車両の動きに応じた運転操作が必要であることを告知	運転者自身で周辺環境に応じて、ハンドル・アクセル・ブレーキの操作を行う

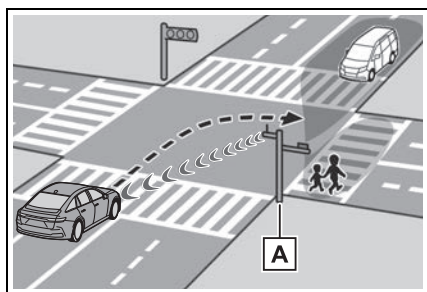
ITS Connect

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

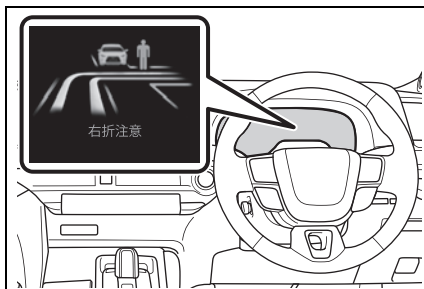
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



※ DSSS (Driving Safety Support Systems) とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P.273 を参照してください。

知識

■ ITS Connect 機器に関する情報

- 本製品は、トロンフォーラム (www.tron.org) の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1030
型式認定番号：10008
- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.290）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ ITS Connect について

- 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
 - ・ 交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
 - ・ 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき
- 交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.288）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

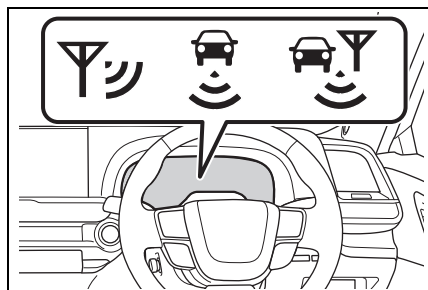
⚠ 注意

■ ITS Connect 機器取り扱いの注意

- ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。
- ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メーターに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

右折時注意喚起、赤信号注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示燈を点滅させて右折待ちをしているときに、

対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるときに、システムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点



▶ 対向車のみを感知する交差点



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

低速走行中でも、表示による注意

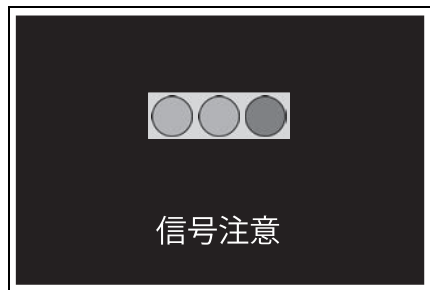
喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

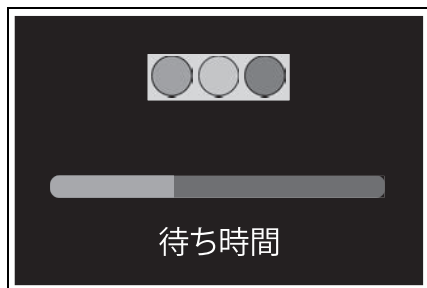


■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわ

ることを表します。



■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。



□ 知識

■ 交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
 - ・ トンネルや高架下を通過しているとき
 - ・ FC システムを始動してから、しばらく走行するまでの間
- 例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
 - ・ 通信を妨害する電波が発せられているとき
 - ・ DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
 - ・ DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
 - ・ 他車両の通信機が故障しているとき
- 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
 - ・ 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
 - ・ 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
 - ・ DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
 - ・ DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき

- ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
 - ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
 - ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・遅い速度で走行しているとき
 - ・停車しているとき
 - ・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
 - ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
 - ・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
 - ・停車していないとき
 - ・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
 - ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき

- ・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
- ・立体交差付近を走行しているとき
- ・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの車両設定から、次の機能の設定を変更することができます。(→P.103)

● 信号情報

次の機能の ON / OFF を切り替えることができます。^{※1} (初期設定：ON)

- ・赤信号注意喚起
- ・信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の ON / OFF を切り替えることができます。^{※1} (初期設定：ON)

- ・右折時注意喚起
- ・出会い頭注意喚起 ^{※2}

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON / OFF を切り替えることができます。(初期設定：ON)

● 通知感度

次の機能の通知感度（高い／低い）を切り替えることができます。^{※3, 4} (初期設定：高い)

- ・右折時注意喚起
- ・赤信号注意喚起

● クルーズ (ITS)

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON / OFF を切り替えることができます。(初期設定：ON)

^{※1}「信号情報」または「道路環境情報」に含まれる各機能を個別に ON /

OFF することはできません。

※²FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。

※³各機能の通知感度を個別に変更することはできません。

※⁴「高い」に設定すると通知タイミングが早くなり、「低い」に設定すると通知タイミングが遅くなります。



知識

■ 出会い頭注意喚起の通知感度について

出会い頭注意喚起の通知感度は、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

BSM (ブラインドスポットモニター)

ブラインドスポットモニターは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

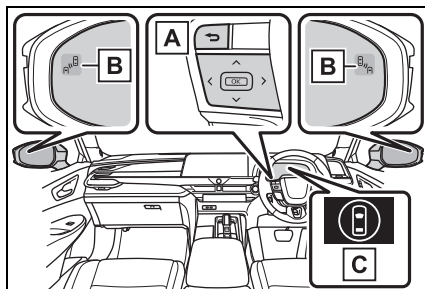
⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター(→P.90) が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーショ

ンディスプレイにメッセージが表示されます。

 知識**■ ドアミラーインジケーターの視認性について**

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がある場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.541)

■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



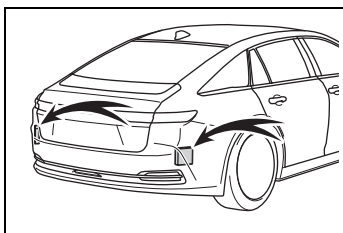
C5-000-1

 警告**■ システムを正しく作動させるために**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

警告

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.296）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
 - ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない

- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.541）

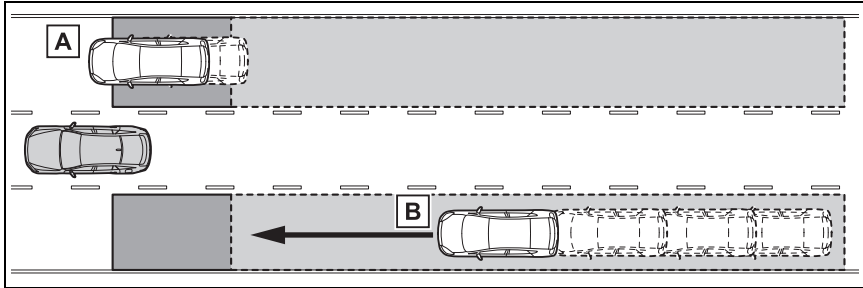
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯（→P.90）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

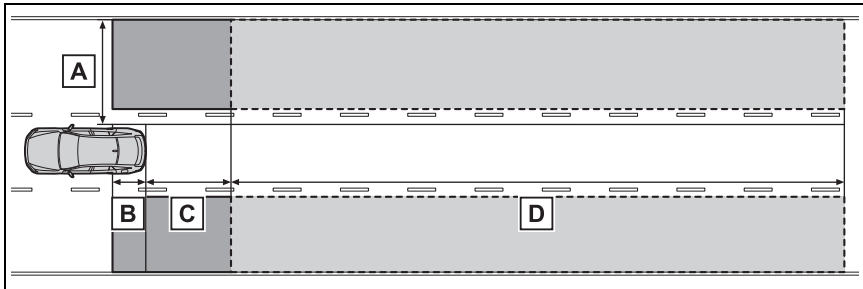
ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※¹
- B** リヤバンパーから約 1m 前方の領域 ※²
- C** リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- D** リヤバンパーから後方約 3m ～ 70m の領域 ※³

※¹ 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※² 自車が追いこされる場合には、リヤバンパーから約 3m 前方まで車両の検知を継続します。

※³ 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くに
いる状態で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細については P.250 を参照してください。

知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- ブラインドスポットモニターが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 10km/h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両な

どの静止物※

- 同じ車線を走行する後続車※
- 2 つ隣の車線を走行する他車※
- 大きい速度差で自車が追いこす他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもドアミラーインジケーターは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

- 方向指示レバーを継続して操作したまま、2 台目の車両を検知したとき
- 大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき※

※ 状況によってはブザーが鳴ることがあります。

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

- ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
 - ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
 - ・ けん引しているとき
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・ けん引しているとき

後方車両接近告知

後方車両接近告知は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

後方車両接近告知を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.293

A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。

B メーター操作スイッチ

後方車両接近告知の ON / OFF を切りかえます。

後方車両接近告知の ON / OFF を切りかえるには

後方車両接近告知の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.541)

知識

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

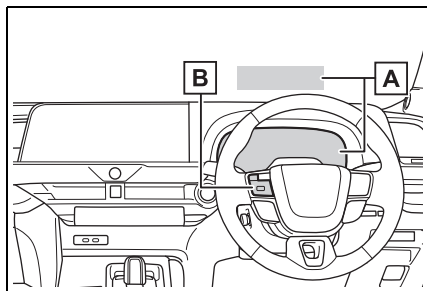
■カスタマイズ機能

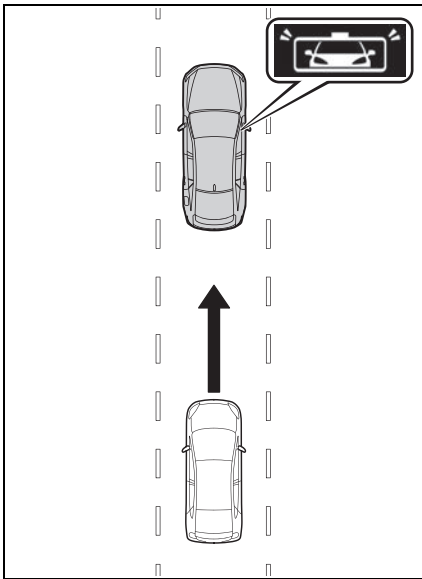
機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.541)

後方車両接近告知の作動

後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

システムの構成部品





知識

■ 後方車両接近告知の作動条件

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- 後方車両接近告知が ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 前回作動から約5分以上経過していること

■ センサーが車両を検知する条件

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

後方車両接近告知は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者な

ど※

- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

- 対向車

- 隣の車線を走行する他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ 後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
 - ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
 - ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
 - ・ 他車の前方に割り込んだとき
 - ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
 - ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
 - ・ 後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
 - ・ 後続車が自車から離れていくとき
 - ・ 後続車が自車を追いこそうとしているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 後続車の高さが自車と違いが大きいとき
- 特に次のような状況では、後続車の接

近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- ・ 自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
- ・ 後方車両が近距離から自車を追いついたとき
- ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・ 後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ カーブ中に隣接車両がいるとき
- ・ 他車の前方に割り込んだとき

周辺車両接近時サポート （録画機能、通報提案機能）

周辺車両接近時サポートは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。

ドライブレコーダー（前後方）※ が装着されている車両は、ドライブレコーダー（前後方）の録画機能を使用して、状況を自動で記録します。

※ 標準装備、メーカーオプションまたはメーカーパッケージオプションのドライブレコーダー（前後方）装着の場合に限ります。用品（販売店オプション）のドライブレコーダーではご利用になれません。

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

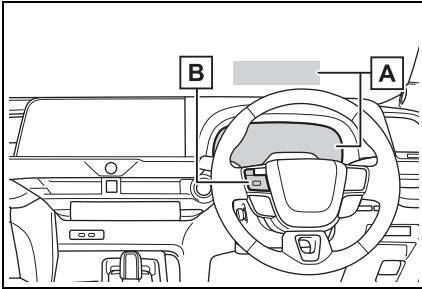
周辺車両接近時サポートを使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ システムを正しく作動させるために
→P.293

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。

B メーター操作スイッチ

周辺車両接近時サポートの ON / OFF を切りかえます。

周辺車両接近時サポートの ON / OFF を切りかえるには

周辺車両接近時サポートの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.541)

知識

■ 音声の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、音声が届かなくなる場合があります。

周辺車両接近時サポートの作動

後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。

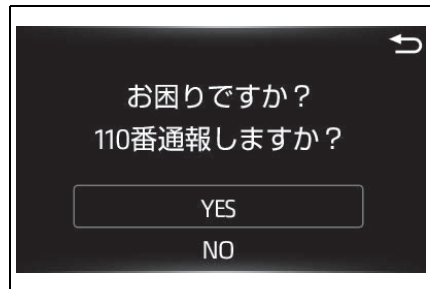
ドライブレコーダー装着車は、後方車両の映像を記録します。

■ 通報提案

携帯電話をマルチメディアとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイで“はい (YES)” を選択してください。

ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。

通報する場合は、ヘルプネットボタンを押してください。

ヘルプネットの詳細については、

別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ イベント録画（ドライブレコーダー【前後方】装着車）

車両後方の映像をイベント録画します。

ドライブレコーダー（前後方）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



知識

■ イベント録画の通知（ドライブレコーダー【前後方】装着車）

通報提案もヘルプネット接続提案もしない場合は、イベント録画が記録されたことを通知します。

■ 周辺車両接近時サポートの作動条件

周辺車両接近時サポートは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- 周辺車両接近時サポートが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 前回作動から約 10 分以上経過しているとき

■ 通報提案の作動条件

通報提案は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 携帯電話がマルチメディアと Bluetooth® でハンズフリー接続されているとき

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

- 携帯電話の電波が圏外でないとき
- 携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

■ ヘルプネット接続提案の作動条件

- 通報提案がされていないとき
- ヘルプネットの契約がされている

■ センサーが車両を検知する条件

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ 周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
 - ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
 - ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
 - ・ 他車の前方に割り込んだとき
 - ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
 - ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- 特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
 - ・ 自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
 - ・ 後方車両が近距離から自車を追いこしたとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車

両が検知範囲に入ったとき

- ・ 後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ カーブ中に隣接車両がいるとき
- ・ 他車の前方に割り込んだとき

後方車両への接近警報

後方車両への接近警報は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。

後方車両への接近警報を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

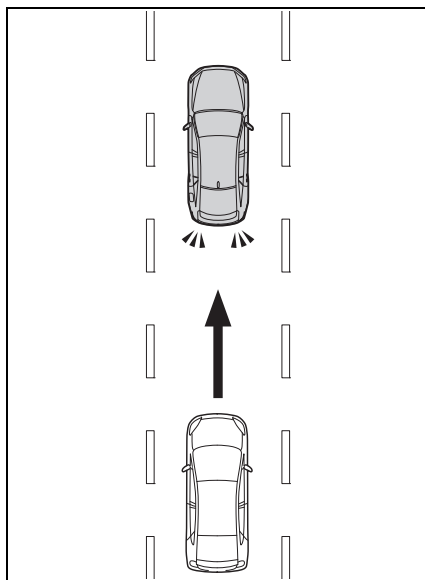
■システムを正しく作動させるために

→P.293

後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表

示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



📖 知識

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ~ 100km/h のあいだ
- 自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時にブレーキを踏んでいる

■センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車

両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ 後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車、または走行しているとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
 - ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
 - ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
 - ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
 - ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
 - ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- 特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそ

れがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- ・ 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
- ・ 道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
- ・ 後方車両が近距離から自車を追いついたとき
- ・ 後方車両が近距離まで急接近したとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。

！ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

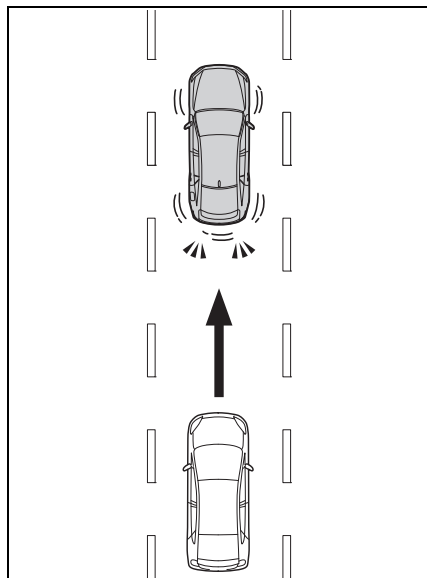
■システムを正しく作動させるために

→P.293

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ

（停車中後突対応）は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。



□ 知識

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき※
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 前回作動から約 7 分以上経過していること
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h のあいだ
- 自車の車速が約 0km/h のとき

※ シフトポジションがNのときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

■ センサーが車両を検知する条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ けん引しているとき

- ・ 停車した直後に後方車両が接近したとき
- ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
- ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
- ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
 - ・ 道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
 - ・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
 - ・ 後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
 - ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
 - ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
 - ・ 停車間際・発進直後に後方車両が接近したとき
 - ・ 走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき
 - ・ 洗車機で洗車しているとき

安心降車アシスト

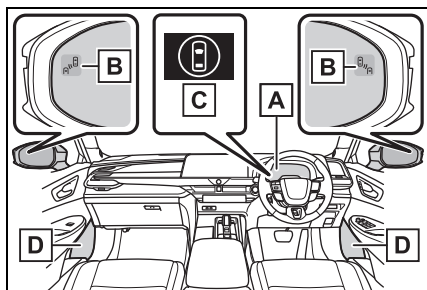
安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえます。

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケータが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

B ドアミラーインジケータ

開いたドアと衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケータ（→P.90）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケータが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

D スピーカー

ドアミラーインジケータが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

□ 知識

■ ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケータが見えづらことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がある場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ 音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施されません。

- 車内に乗員がいないと推定されるとき※
 - ドアを開いて乗車後、FC システムを始動するまで
 - FC システム停止後 3 分以上経過したとき
 - マルチメディアディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されているとき
 - 外部より全ドアが施錠されているとき
 - FC システム停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続しているとき
 - マルチメディアディスプレイの ACC カスタマイズ (→P.542) が ON の状態で、FC システムが停止しているとき
 - マルチメディアディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっているとき
- ※ 各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することがで

きます。(→P.541)

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.293

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.541)

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

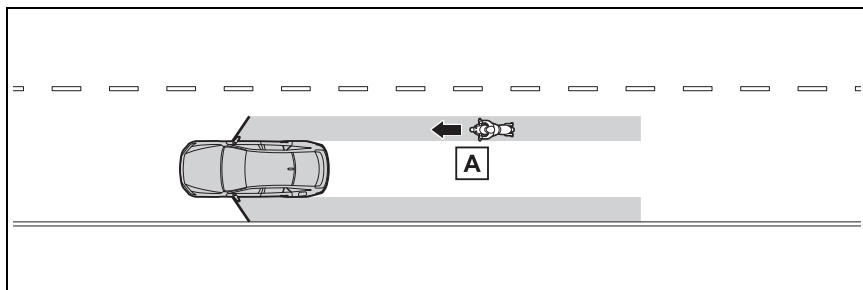
パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※ パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

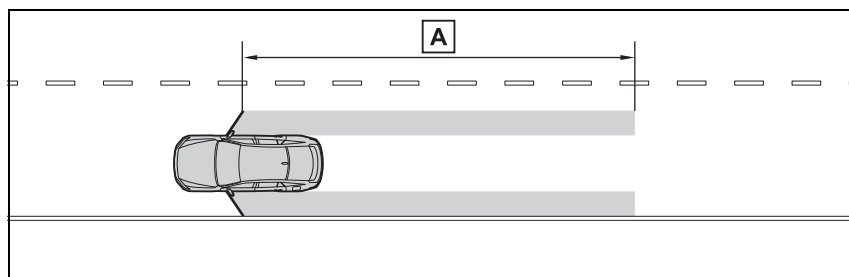
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



- A** ドアを開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



- A** フロントドアから後方約 45m の領域※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケータは車両・自転車がより遠くに在る状況で点灯・点滅します。

知識

■ 安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき、FC システム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）
- 安心降車アシストが ON のとき
- 停車中
- シフトポジションが R 以外のとき

■ センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドアを開けた範囲付近を通過するとき

■ システムが車両を検知しない条件

- 安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。
 - ・ 接近する車両・自転車の速度が遅いとき※
 - ・ ドアを開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車※

- ・真うしろから接近する車両・自転車※
- ・前方から接近する車両・自転車※
- ・ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- ・歩行者・動物など※

※状況によっては検知をすることがあります。

- 安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。
- ・FCシステムOFF後に3分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
- ・自車が完全に停車していないとき

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。
- ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
- ・隣の駐車車両に後続する車両や自転車
- ・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・発進した直後の車両や自転車
- ・トランクが開いているとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
- ・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・道路に対して傾いて停車しているとき
- ・接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
- ・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近して

いるとき

- ・車両や自転車が高速で接近するとき
- ・けん引しているとき
- ・急勾配の坂道に停車しているとき
- ・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

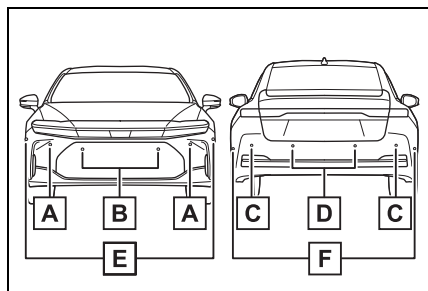
- ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
- ・道路に対して傾いて停車しているとき
- ・斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
- ・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・トランクが開いているとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
- ・車両や自転車が高速で接近するとき
- ・けん引しているとき
- ・急勾配の坂道に停車しているとき
- ・カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- ・隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディアディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

E フロントサイドセンサー

F リヤサイドセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディアディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

▶ マルチメディアディスプレイの表示



■ クリアランスソナー検知表示灯★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.312) が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON / OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.541)

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.90) が点灯します。

OFF (非作動) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場

合、再度、カスタマイズメニュー（→P.541）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグラмп・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。

● センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。

● 改造・分解・塗装をしないでください。

● ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。

● 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

● 純正品以外のサスペンションを取り付けしないでください。

■洗車時の注意

● 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

● スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
 - ・ シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが R にあるとき

● サイドセンサー：

- ・ FC システム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
- ・ シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- ・ シフトポジションが R のとき



- ・ マルチメディアディスプレイが表示されているとき
- ・ フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

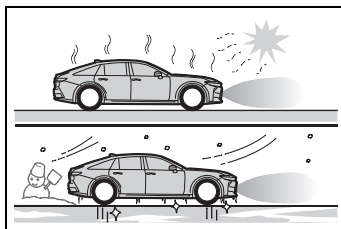
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



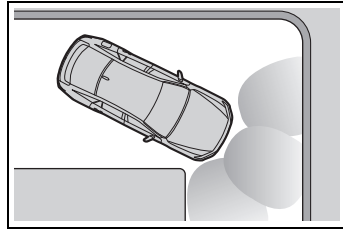
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車の

センサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

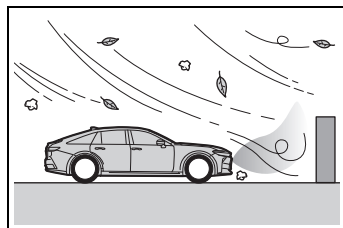
- 大雨や水しびぎがかかったとき
 - センサーに静止物が近付きすぎたとき
 - 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
 - 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
 - 風が強いとき
 - 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
 - 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
 - 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
 - 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
 - センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
 - 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
 - けん引しているとき
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき



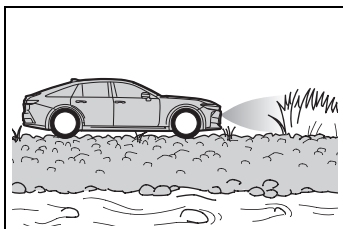
- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しびぎがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれた

とき

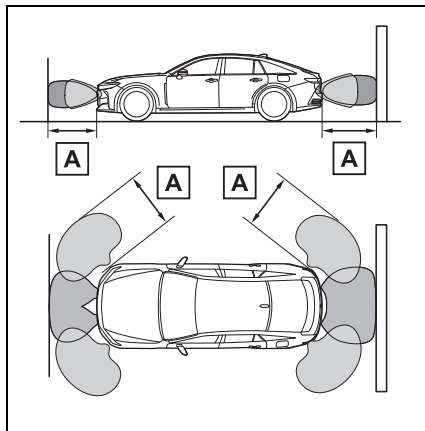
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ～ 100cm リヤセンターセンサー： 約 200cm ～ 150cm コーナーセンサー： 約 200cm ～ 60cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm [※] リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm [※]	断続音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロント／リヤセンサーセンサー、コーナーセンサー： 約 60cm ～ 45cm*	速い断続音
フロント／リヤセンサーセンサー、コーナーセンサー： 約 45cm ～ 30cm*	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

* 自動ミュート機能あり (→P.317)

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近付かない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)



知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。(→P.541)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチメディアディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時

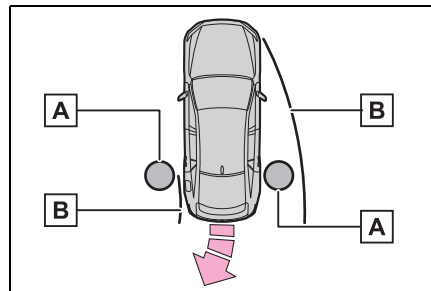
的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

- 次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
 - ・ シフトポジションを切りかえたとき
 - ・ 車速が一定値以上になったとき
 - ・ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
 - ・ 使用中の機能を OFF にしたとき
 - ・ パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能

サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



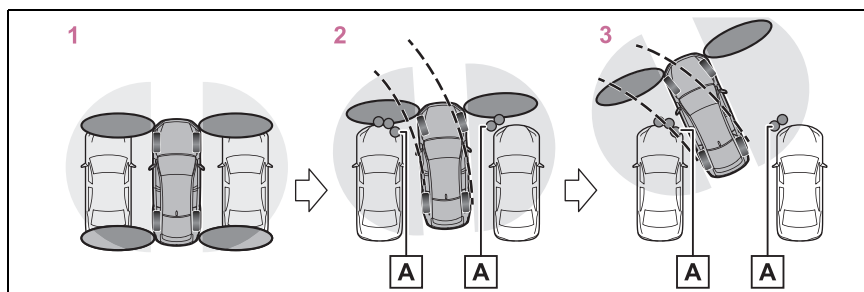
A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサ

イドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車

両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

- 1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。
- 2 車両移動中に静止物を検知
- 3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

■ 巻き込み警報機能の作動条件

- FC システム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションが R のとき
-  が押され、マルチメディアディスプレイが表示されているとき
- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■ サイドエリアの静止物の検知について

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセン

サーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

警告

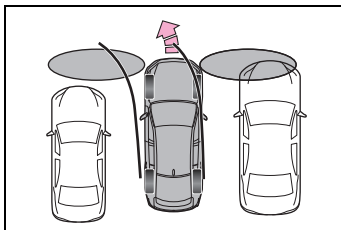
■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

⚠ 警告

- パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

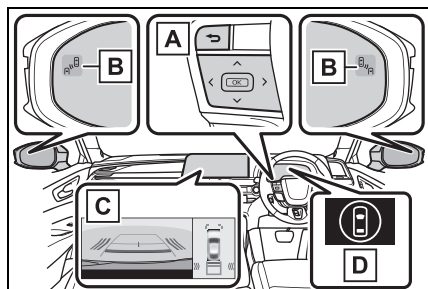
RCTA 機能を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.293

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター (→P.90) が点滅し、ブザーが鳴ります。

C マルチメディアディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイに検知した側の RCTA アイコン (→P.321) が点灯します。

イラスト※は両後方から車両が接近している例です。

※表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

D 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

マイズメニューから切りかえることができます。(→P.541)

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→P.90) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.293

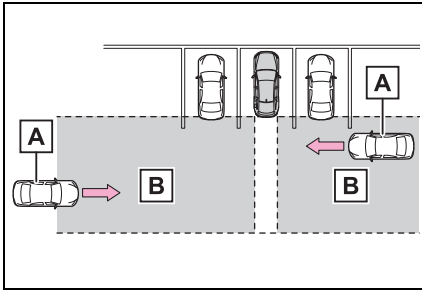
RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

設定のしかた

RCTA の ON / OFF は、カスタ



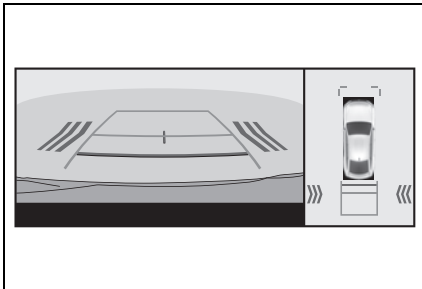
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

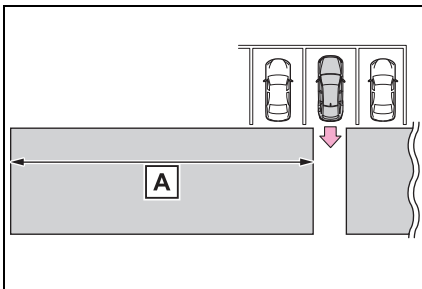
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

□ 知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

■ ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソーナ、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.541）

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

これを押すとクリアランスソーナ、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

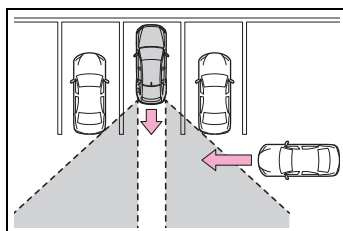
- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき

- パワースイッチを OFF にしたとき

■ システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両※
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

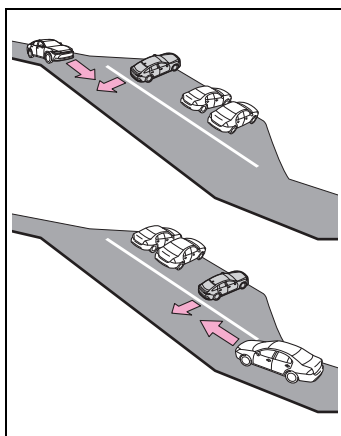
※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ システムが正常に作動しないおそれがある状況

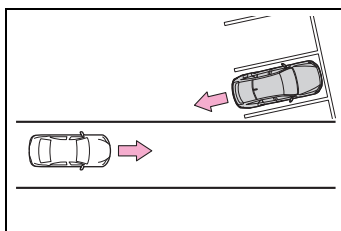
RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



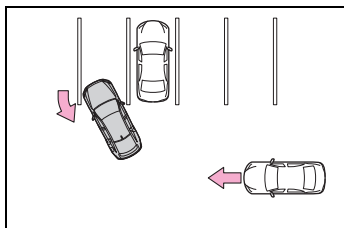
- 斜めの駐車場から出庫するとき



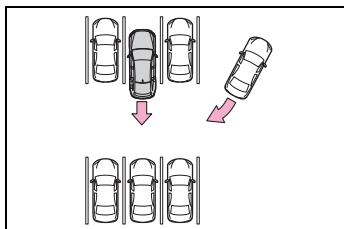
- RCTA 機能を ON にした直後
- RCTA 機能を ON にした状態で、FC システムを始動した直後
- 障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき
- けん引しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差

がありすぎるとき

- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



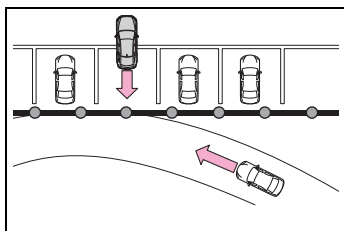
- 旋回しながら車両が近付いてきたとき



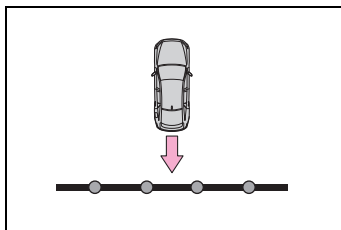
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

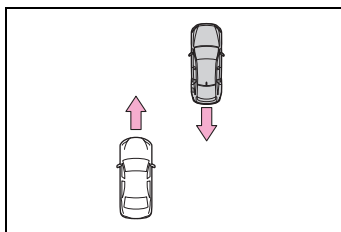
- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



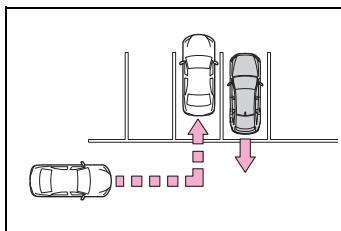
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時

- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディアディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリ・ステッカーを付けないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- トランクを完全に閉めてください。

警告

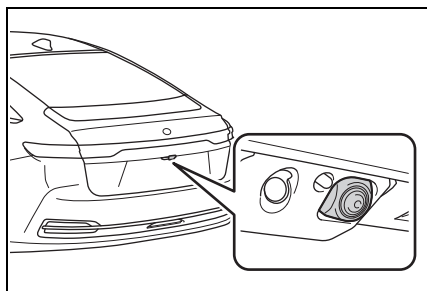
■ RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

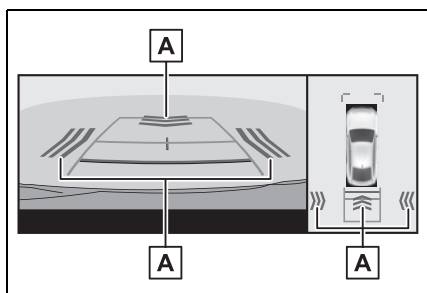
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



■ A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

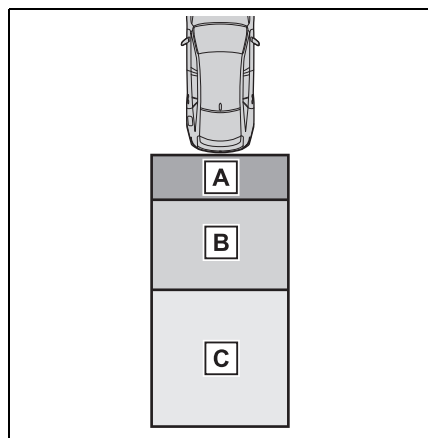
システムを作動させるには

RCD の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.541)

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯(→P.90)が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディアディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



■ A 歩行者が A エリアにいるとき
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

■ B 歩行者が B エリアにいるとき
ブザー（自車静止時）：3 回吹

鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

- C** **C** エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能性があるときシステムが判断したとき
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- アドバンストパークが作動中でないとき

■ ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.541）

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
 - ・ 寝転んでいる人
 - ・ 走っている人
 - ・ 自車や建物の影から突然現れる歩行者
 - ・ 自転車やスケートボードなどに乗っている人
 - ・ 合羽やロングスカートを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・ カートや荷物、傘などにより体の一部が隠れている歩行者
 - ・ 夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者
- 例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 悪天候（雨、雪、霧など）
 - ・ レンズに汚れ（泥、融雪剤など）や傷があるとき
 - ・ 強い光がカメラに直接あたっているとき
 - ・ 明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近など）
 - ・ 夜間（日没後）や薄暗い駐車場
 - ・ カメラの位置や向きがずれているとき
 - ・ けん引フックを取り付けているとき
 - ・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
 - ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
 - ・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
 - ・ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
 - ・ リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）

を取り付けているとき

- ・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
- ・ けん引しているとき

■ システムが作動するおそれがあるとき

● 例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- ・ 立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両など）
- ・ 移動物（通行車両、バイクなど）
- ・ 動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ・ 路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利など）
- ・ 金属のフタ（グレーチング）や側溝
- ・ 水たまりやぬれた路面への物体の映り込み
- ・ 影

● 例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- ・ 路肩や段差があるとき
- ・ 勾配変化があるとき
- ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- ・ リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
- ・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
- ・ カメラの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引フックを取り付けているとき
- ・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
- ・ カメラが汚れているとき（泥、融雪剤など）
- ・ 点滅する光源があるとき（ハザードランプなど）
- ・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修

理キットを使用しているとき

- ・ けん引しているとき

● 検知を妨げる状況

- ・ オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります
- ・ 高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）：→P.332
- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）：→P.335
- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）：→P.337
- パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）：→P.332

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

●故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

警告

- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.541）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.90）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

PKSB（パーキングサポートブ

レーキ）を OFF（非作動）にした場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.541）から ON（作動）にしないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディアディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● FC システム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディアディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● FC システム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディアディスプレイ表示例：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれています
ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

運転支援情報表示灯：点灯

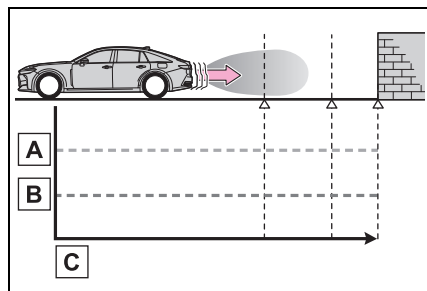
ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、FCシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（FCシステム出力抑制制御：図2）また、そのままアクセル

ペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図3）

● 図1（PKSB〔パーキングサポートブレーキ〕非作動時）

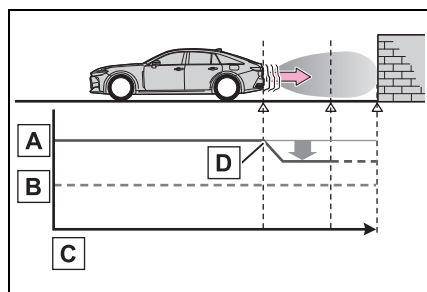


A FC システム出力

B 制動力

C 時間

● 図2（FCシステム出力抑制制御時）



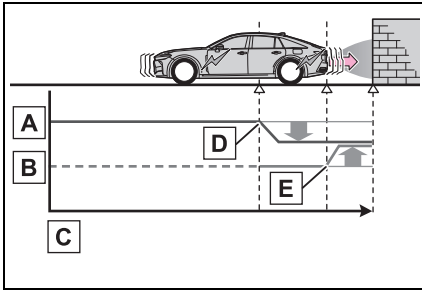
A FC システム出力

B 制動力

C 時間

D FC システム出力抑制制御開始
（作動対象と衝突の可能性がある
とシステムが判断したとき）

● 図3（FCシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



- A** FC システム出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** FC システム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性がある
とシステムが判断したとき)
- E** ブレーキ制御開始 (作動対象と
衝突の可能性が非常に高いとシ
ステムが判断したとき)

知識

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) 作動後の復帰について

システム作動により PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止したときに、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を復帰させたい場合は、再度 PKSB (パーキングサポートブレーキ) を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF

にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB (パーキングサポートブレーキ) が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。
(→P.90)

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■ クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON / OFF に関係なく (→P.312)、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を停止させていなければ (→P.329)、ブレーキ制御と FC システム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

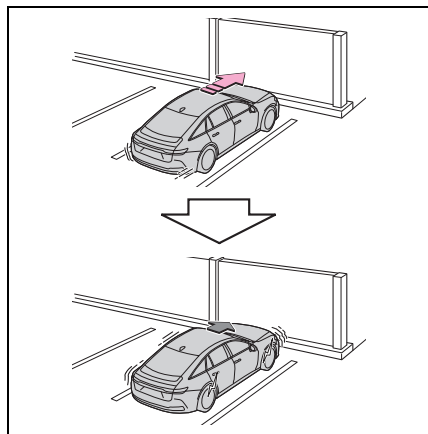
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

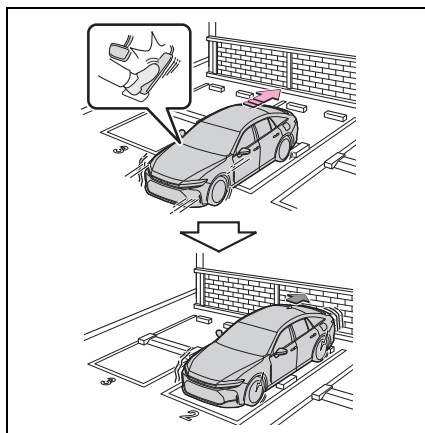
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

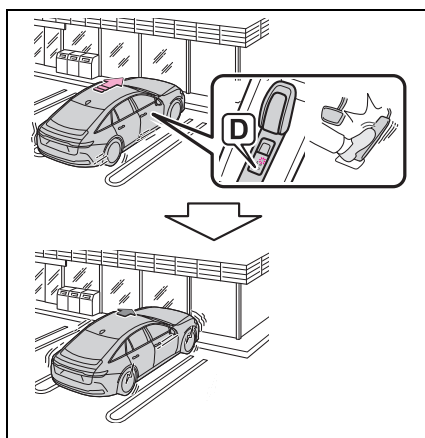
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



- アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



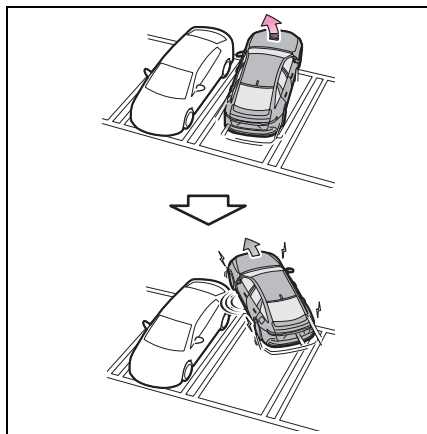
- 誤ってシフトポジションをDにして前進してしまったとき



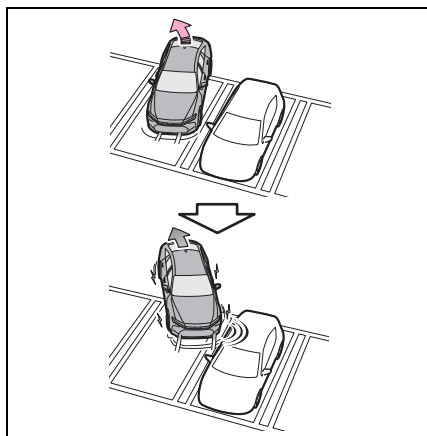
システム作動例（周囲静止物）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



センサーの種類

→P.312



警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.313

■ 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.331

■ 洗車時の注意

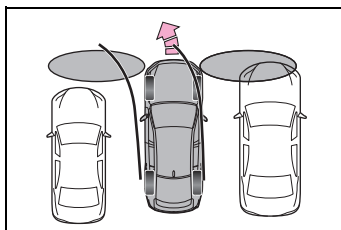
→P.313

■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

● パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動しません。



● サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき

● サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき

● ドアミラーが閉じられているとき

● 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

知識

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.88）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- FC システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ FC システム出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

- FC システム始動後、車両が約 7m 前進するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 前進するあいだ

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- FC システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先ま

で）

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.316）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.314

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.315

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）

- 前後方静止物の作動条件（→P.334）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しないおそれがあります。
- 縦列駐車時など側方の幅寄せするとき（→P.357）

■ サイドエリアの静止物の検知について

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を

計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出て検知している状態が継続します。

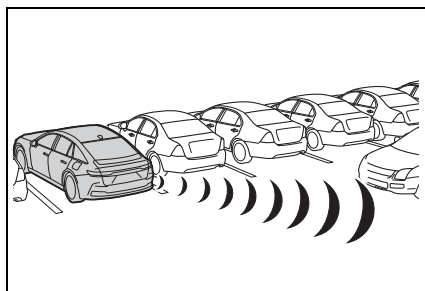
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

- 後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.293



警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.293



知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.88）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- FC システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
 - ・ シフトポジションが R のとき
 - ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

- ブレーキ制御
 - ・ FC システム出力抑制制御作動中
 - ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- FC システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき
- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.322

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

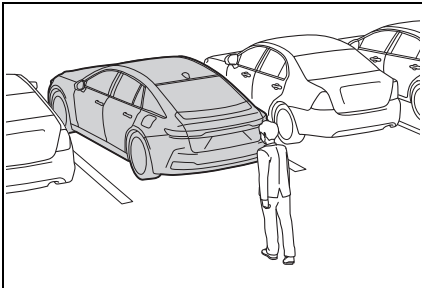
→P.323

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

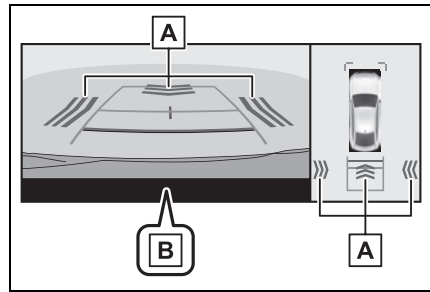
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディアディスプレイ上に表示され、ブレーキ操作を促します。



A 歩行者検知表示

B 例：“ブレーキ！”

警告

■ 万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.324

知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.88）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- FC システム出力抑制制御
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が 15km/h 以下
- ・ シフトポジションが R のとき
- ・ 自車後方に歩行者がいるとき
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ FC システム出力抑制制御作動中
- ・ 後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● FC システム出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・ 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.331

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.325）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.326

■ システムが作動するおそれがあるとき

→P.327

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。

プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ 機能の追加

- 急アクセル時加速抑制
- 音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

- DMS（ドライバーモニターシス

テム)

- LDA (レーンディパーチャーアラート)
- RSA (ロードサインアシスト)
- BSM (ブラインドスポットモニター)
- PDA (プロアクティブドライビングアシスト)
- PKSB (パーキングサポートブレーキ)
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー



知識

■ カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

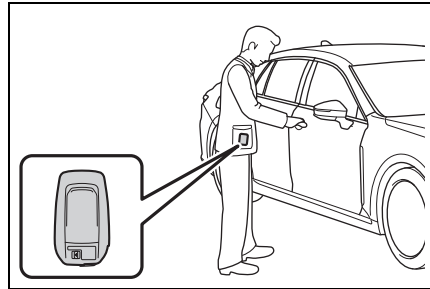
プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

- 1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する
(→P.118, 125)

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作

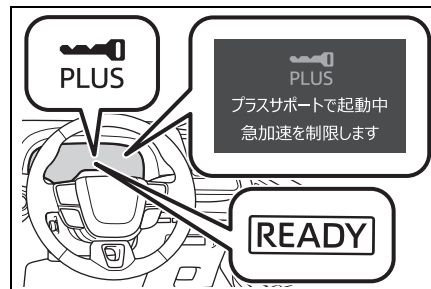
動可能になりません。



- 2 通常の手順で FC システムを開始する (→P.183)
- 3 「プラスサポートで起動中 急加速を制限します」というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

FC システムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



- 4 メーター操作スイッチの ➡ を押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、「プラスサポートで起動中 急加速を制限します」のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、FC システムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

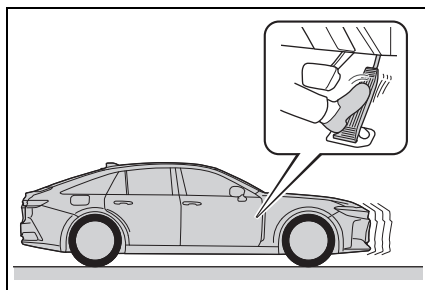
■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- FC システムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.90）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、FC システムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制

御します。



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにも FC システムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

警告

- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、FC システムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだまましていると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

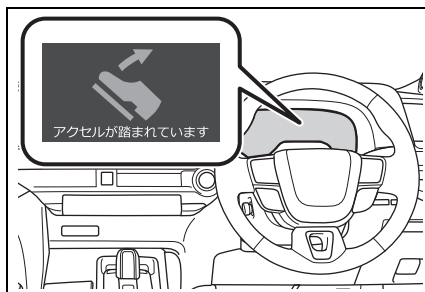
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制により FC システムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km/h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、FC システムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h[※]までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

[※] 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間（前進時）
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、ま

たはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間（前進時）

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両姿勢の変化

- ・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

- ・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両姿勢の変化

- ・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響

- ・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき

- ・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響

- ・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- ・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
- ・ETC ゲート通過後に急加速したとき
- ・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

トヨタチームメイト アドバンストパーク

機能概要

アドバンストパークは、画面表示や音声／ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全／安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。

また、パノラミックビューモニター※で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。

アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

駐車時の路面や自車の状況／目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

アドバンストパークは、その地域の道路交通法および規則に従ってご使用ください。

※パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ リモート機能

アドバンストパークのリモート機能は、車外からスマートフォンを操作することで、ハンドル、シフ

トポジション、アクセルとブレーキ操作を遠隔でアシストし、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助するシステムです。

前後移動機能を除き、アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

使用前のご準備：→P.370

機能一覧

■ 並列前向き／バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.353)

■ 並列前向き／バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.356)

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.357)

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.360)

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。(→P.362)

■ リモート機能

車外からスマートフォンを操作す

ることで、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助します。(→P.367)

知識

■ 商標について

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。
- 使用中は必要に応じてブレーキを踏んで車両を減速、停車させてください。リモート機能を使用している場合は、リモート機能用のスマートフォン専用アプリ（以降、専用アプリ）の操作をやめて車両を停車させてください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- 開始スイッチを押す前にブレーキペダルから足を離すと、アシストが開始されず車両が動いてしまう可能性があるためご注意ください。アシストが開始されるまでブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- 本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。
- 次のようなもの／場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。
リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
- ・ 細いもの（針金／フェンス／ロープ／ポールなど）や接近する角度によって細く見えるもの（看板／自転車など）
- ・ 音波を吸収しやすいもの（綿／雪など）
- ・ 鋭角的な形のもの（ブロック塀や柱、壁の角など）
- ・ 背の低いもの（縁石やブロック、階段、車止めなど）
- ・ 背が高く上部が張り出しているもの（梁など）
- ・ 地面に対し垂直でないもの

⚠ 警告

- ・ 障害物に対して斜めに接近するとき
- 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときや、車止めを乗り越えそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
- マルチメディアディスプレイだけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶついたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- 次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。
リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
- ・ 作動中に運転席のドアが開けられたとき

- ・ 作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき
- ・ 作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき
- ・ 作動中に故障が発生したとき
- 使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。
- ・ ネクタイ／スカーフ／腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。
- ・ 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
- ・ 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
- 使用中は窓から手を出さないでください。
- **アドバンストパークを正しく作動させるために**
必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 次のような状況では使用しないでください。
- ・ 駐車場以外の場所
- ・ 砂地／砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場
- ・ 傾斜／段差／穴／側溝のある平坦でない駐車場
- ・ 機械式駐車場
- ・ 車両下部に接触して固定する装置がある駐車場

 警告

- ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
- ・真夏の炎天下でアスファルトが溶けているようなとき
- ・車両周辺に障害物があるとき
- ・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
- ・人や車両などの通行量が多いとき
- ・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）
- ・カメラのレンズの汚れ／西日／影／雪などで画面が見にくいとき
- ・タイヤチェーン／応急用タイヤを使用しているとき
- ・ドアまたはトランクが完全に閉まっていないとき
- ・窓から手を出しているとき
- ・降雪や豪雨のとき
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。
- 次のような状況では、設定した位置にアシストできなかったり、システムが正常に作動しない場合があります。
 - ・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
 - ・極端に重いものを積んでいるとき
 - ・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

- ・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
- ・タイヤを縁石などに強くあてて、ホイールアライメントが正常でないとき
- ・アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき
- ・けん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- ・区画線と認識してしまうようなもの（光／建物の映り込み／段差／側溝／路面ペイント／引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■リモート機能を使用するとき

- リモート機能はアドバンストパークの関連機能です。リモート機能を公道で使用する場合は、その地域の道路交通法および規則に従ってください。
- 専用アプリの注意事項に同意いただいた方のみリモート機能がご利用いただけます。
- リモート機能は運転操作の一部です。必ず運転免許証を保有している運転者が操作してください。専用アプリ使用時は電子キーを必ず携帯してください。操作中は専用アプリ画面を注視せず、車両周辺を直接ご確認ください。緊急時には操作を中断し、車両を停止させてください。
- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。

 警告

- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。
- ボンネットが閉じていることをご確認の上、ご使用ください。
- リモート機能は、駐車や出庫の操作をスマートフォンによる遠隔操作でアシストするシステムです。リモート機能を使用するときは、運転者が電子キーとスマートフォンを保持した上で、車両周辺の安全確認を行ってください。
- リモート機能使用中はスマートフォンの操作をやめることで車両を停止することができます。また、専用アプリで停止操作を行うことや電子キーを使った解錠やドアを開けることでも車両を停止することができます。
- 障害物などに接触しそうなときは、スマートフォンの操作をやめて、必要に応じてリモート機能を中止してください。
- スマートフォンの操作方法によらずシステムで一定の速度となるように制御されます。
- スマートフォンの画面を注視して、車両を走行させることは絶対にしないでください。
- 走行時は必ず目視で周辺の安全を直接確認してください。
- 車内に人やペットが残っている状態でリモート機能を使用しないでください。
- 万一の時は電子キーのスイッチを操作するか、ドアを開けて車両を停止させてください。

- リモート機能を使用する際は、スマートフォンと最新の専用アプリが必要です。
アプリストアから、専用アプリをダウンロードしてください。
- 専用アプリへの車両登録時は車両と接続している他のアプリを OFF にしてください。
- リモート機能を使用する場合は、Apple CarPlay / Android Auto ™ の接続を OFF にしてください。
 - ・ Apple CarPlay は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
 - ・ Android Auto ™ は、Google LLC の商標です。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- リモート機能作動中は平坦ですべりにくい路面でのみ使用してください。駐車スペースが下り坂または上り坂にあるような場合では使わないでください。
- リモート機能使用中に故障またはシステムの限界が検知された場合は、以下の処理が自動的に行われます。
 - ・ アシストを中止する
 - ・ 車両を停止する
 - ・ シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかける
 - ・ パワースイッチを OFF にする（一部の故障ではパワースイッチを OFF にしない、またはできないことがあります。スマートフォン上のメッセージに従って乗車し、処置を実施してください。）
 - ・ 車両が施錠されたままになる

 警告

- リモート機能開始時は電子キーのワイヤレス機能で解錠操作をしてください。
- リモート機能使用中は、運転者は車両から約 3m 以上離れて立たないでください。それ以上離れると、リモート機能が中断され、メッセージがスマートフォン上に表示されます。車両に近付くとリモート機能を再開できます。
- 周囲が暗い場合はヘッドライトを自動で点灯します。
- 異常終了時は非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。非常点滅灯の消灯条件は以下項目です。
 - ・ ドアを開く
 - ・ 非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅開始から 3 分が経過
- 以下の車両状態からのみリモート機能を開始できます。
 - ・ FC システム始動中に、アシストモードを選択後
 - ・ パワースイッチが OFF の時

 注意**■ アドバンストパークをお使いいただくために**

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

■ リモート機能を使用するとき

- 使用前にスマートフォンの電池残量をご確認ください。リモート機能作動中にスマートフォンの電池が切れてしまうとアシストを中断します。また、開始時にスマートフォンの電池残量が 20%以上ない場合、リモート機能をご利用いただけません。
- 使用前にスマートフォンの Bluetooth® を ON にしてください。Bluetooth® 接続機能 OFF の状態ではリモート機能をご利用いただけません。
- 使用中にスマートフォンの Bluetooth® を OFF にしたり、マルチメディアシステムとの接続を OFF にしないでください。車両と Bluetooth® 接続できていない状態ではリモート機能を使用できません。
- リモート機能使用中に電話がかかってきた場合など、他のアプリが起動した場合は、リモート機能は中断します。3 分未満で専用アプリの利用を再開すれば、アシストを再開できます。3 分以上経過した場合は、アシストを中止します。
- リモート機能使用中にスマートフォンのホームボタンや電源ボタンを押して、画面ロック状態になった場合はリモート機能を中断します。3 分未満で専用アプリの利用を再開すれば、アシストを再開できます。3 分以上経過した場合は、アシストを中止します。
- リモート機能使用中に専用アプリを強制終了しないでください。強制終了した場合は、アシストを中止します。

⚠ 注意

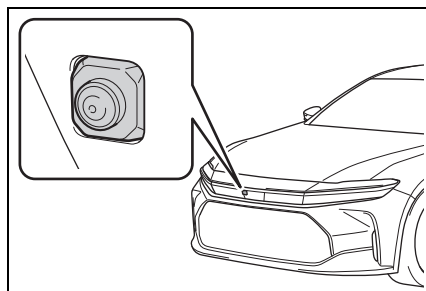
- 低温環境下では、補機バッテリー充電のため、システム開始までに時間がかかる場合があります。
- 補機バッテリーの電圧が低下した場合、アシストを中止します。
- 下り勾配では、平坦な道路に比べ、走行車速が遅くなり、障害物までの接近距離が遠くなります。
- システム異常時には、シフトポジションが P または、パーキングブレーキで車両を停車後、パワースイッチを OFF して、システムを中止することがあります。その場合は、トヨタ販売店で点検を実施してください。
- システム不調時には、一時的にアシストを中断する場合があります。システムが復帰すれば、再開できますので、スマートフォン画面の内容に従い、再開操作をしてください。
- リモートスタートが作動している場合はリモート機能が正常に作動しない場合があります。
- リモート機能終了時は、法規によりパーキングブレーキをロックします。凍結により、パーキングブレーキを解除できない場合がありますので、寒冷地でのご使用はお控えください。また、凍結した場合、パーキングブレーキ解除時に音がかかりますが、性能に問題はありません。
- 電池切れの電子キーではリモート機能を使用しないでください。

アドバンストパークで使用するカメラとセンサーの種類

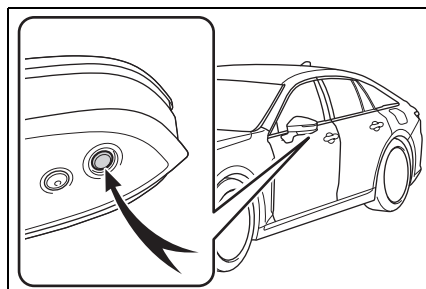
カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しや

すくします。

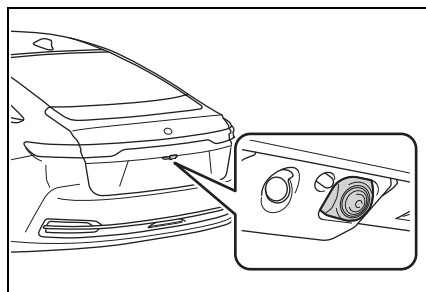
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.312

□ 知識

■ カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱説明書」のパノラミックビューモニターを参照してください。

- 画面の映る範囲について
- カメラについて
- 画面と実際の路面との誤差について
- 画面と実際の立体物との誤差について

■カメラとセンサーの検知範囲について

- 駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。
- 柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

- 次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。
 - ・区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
 - ・区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
 - ・路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
 - ・路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
 - ・夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
 - ・降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
 - ・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
 - ・積雪や融雪剤があるとき

- ・路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- ・路面の色や明るさが一様でないとき
- ・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- ・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
- ・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

- 次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。

- ・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
- ・降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
- ・車両周辺が暗いときや逆光のとき
- ・路面の色や明るさが一様でないとき
- ・勾配がついている駐車場
- ・ゼブラゾーンのある駐車スペース
- ・駐車車両の影響を受けてしまったとき（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
- ・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
- ・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- ・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

■センサーの検知について

→P.314

■センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.314

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.314

■衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.315

警告

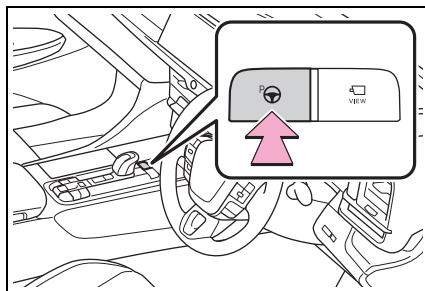
■カメラとセンサーの取り扱いについて

- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
- センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。(→P.313)
- 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
 - ・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けしないでください。

アドバンストパークの ON / OFF を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



知識

■アドバンストパークの作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

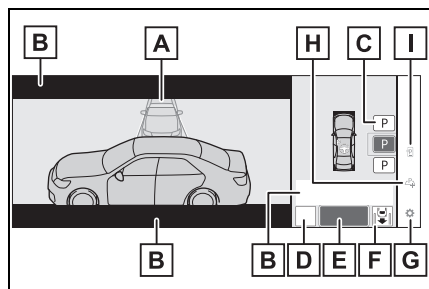
- ブレーキペダルを踏んでいる
- 停車している
- 運転席シートベルトを着用している
- ハンドルを操作していない
- アクセルペダルを踏んでいない
- ドアおよびトランクが閉まっている
- ドアミラーが格納されていない
- パーキングブレーキがかかっていない
- レーダークルーズコントロールが作動していない
- ABS / VSC / TRC / PCS / PKSB が作動していない
- けん引していない
- 急勾配でない
- TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、マルチメディアディスプレイのメッセージを確認してください。(→P.375)

アドバンストパークのガイド画面を使う

マルチメディアディスプレイに表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または **P**：他の駐車可能な位置に変更

P または **P**：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切りかえ

(P)：並列前向き／バック駐車機能への切りかえ

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえます。
（→P.364）

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

||：並列前向き駐車への切りかえ

||：並列バック駐車への切りかえ

G カスタマイズ設定スイッチ

アドバンストパークの設定画面に切りか

わります。（→P.373）

H 登録開始スイッチ

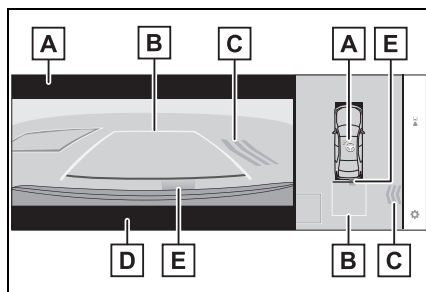
駐車スペースの登録を開始します。

I リモート機能開始スイッチ★

スマートフォン画面上で駐車をアシスト操作します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ガイド画面（後退時）



A 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離（黄色）※と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！”と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.312

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

知識

■ クリアランスソナーの割り込み表示について

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON / OFF (→P.312) に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■ アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

アドバンストパーク作動中は、衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したとき、FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■ アドバンストパーク作動中にマルチメディアディスプレイが黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度 FC システムを始動しても画面が正常に表示さ

れない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバンストパークの並列前向き／バック駐車機能を使う

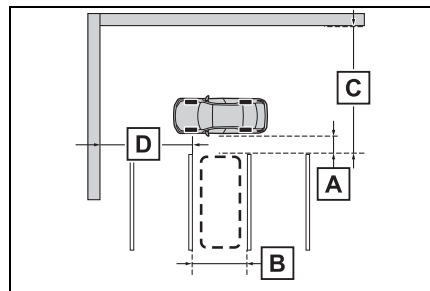
目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き／バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

アシストが開始されるまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。

▶ 区画線がある場合



A 約 1m ※

B 約 2.5m ※

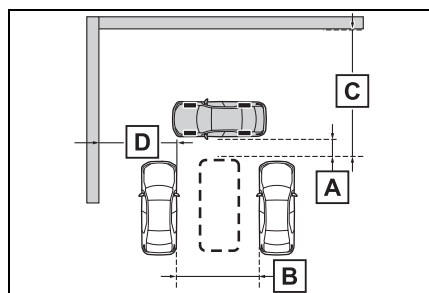
C 約 6m 以上 ※

D 約 5.5m 以上 ※

片側しか区画線がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m ※

B 約 3m 以上 ※

C 約 6m 以上 ※

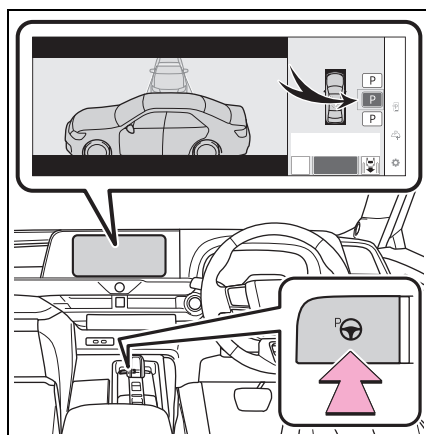
D 約 5.5m 以上 ※

片側しか隣接車両がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なス

ペースが表示されたことを確認する



● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、**(P)** にタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。

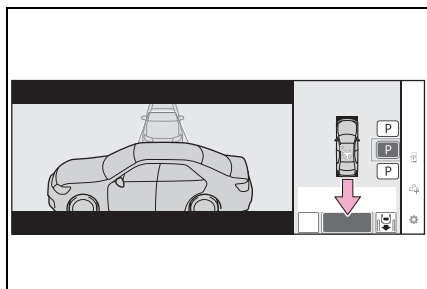
● 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、**(P)** もしくは **(P)** にタッチすると、駐車向きが変更できます。

● 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディアディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スwitchにタッチする

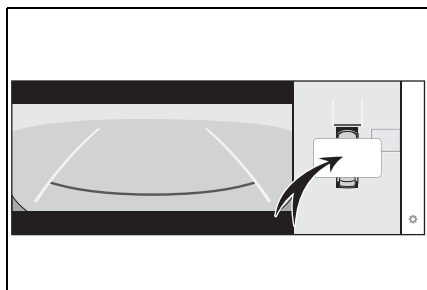
“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始

されます。



4 “発進するにはブレーキを離してください”の表示を確認してからブレーキペダルを離す

“前進します”または“後退します”の音声案内と表示が出たあと、前進／後退が始まります。



アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

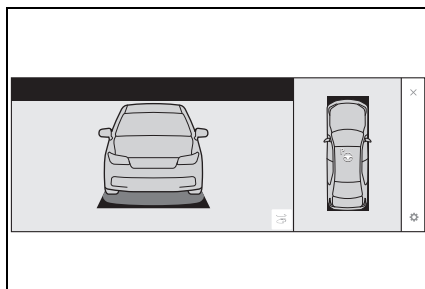
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.355

5 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディアディスプレイの  に

タッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディアディスプレイの“再開”スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

⚠ 注意

■並列前向き／バック駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

⚠ 注意

- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

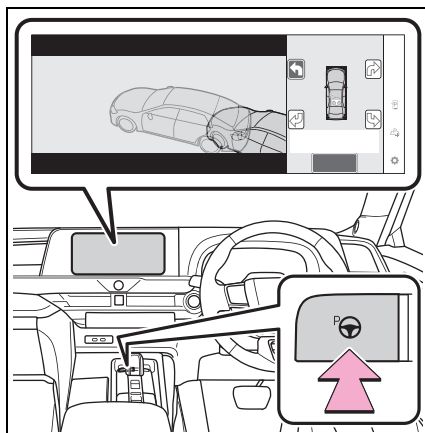
アドバンストパークの並列前向き／バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き／バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック出庫機能を使用して出庫する

- 1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイ

イが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

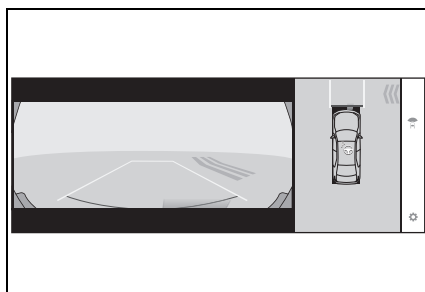


- 2 マルチメディアディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

- 3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

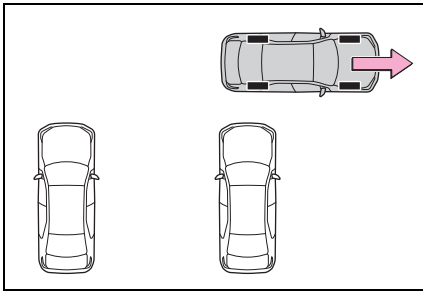


アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.355

4 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.355

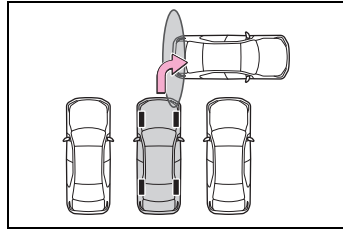
■並列前向き／バック出庫機能について

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き／バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

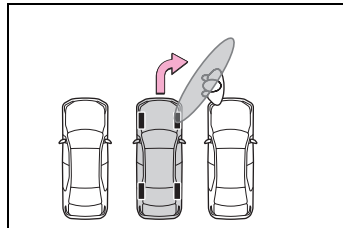
■並列前向き／バック出庫機能が作動しない状況

次のような状況では並列前向き／バック出庫は作動しません。

●出庫方向に駐車待ちの車両があるとき



●フロントまたはリアのセンター／コーナーセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



■ブレーキが作動したとき

→P.355

アドバンストパークの縦列駐車機能を使う

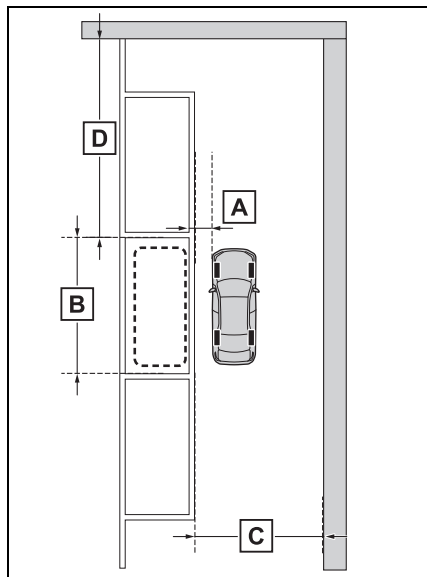
目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

アシストが開始されるまで、ブレーキペダルをしっかり踏み続けます。

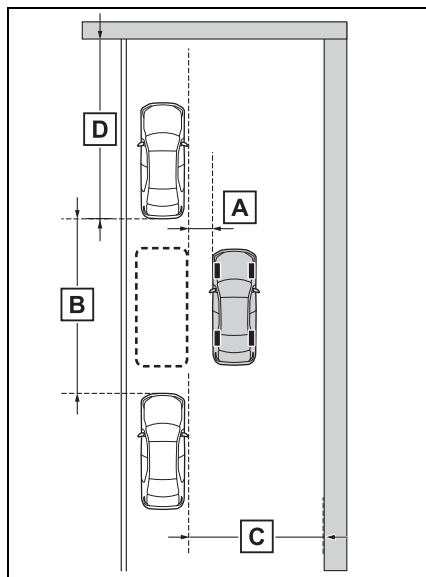
- ▶ 区画線がある場合



- A** 約 1m ※
- B** 約 6m ※
- C** 約 4.5m 以上 ※
- D** 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

- ▶ 駐車車両がある場合

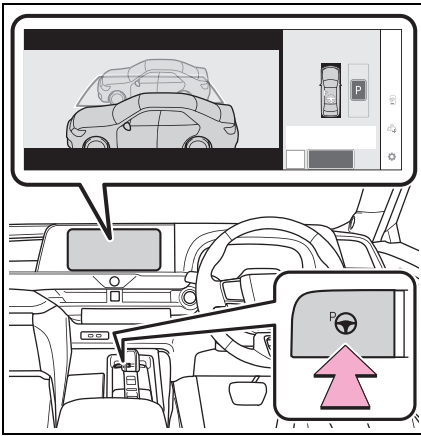


- A** 約 1m ※
- B** 約 7m 以上 ※
- C** 約 4.5m 以上 ※
- D** 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なス

ペースが表示されたことを確認
する

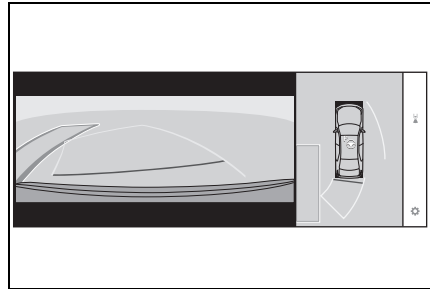


- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 並列前向き／バック駐車可能な場合、駐車スペースを選択して、**P** にタッチすると並列前向き／バック駐車機能に切りかわります。
- 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディアディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

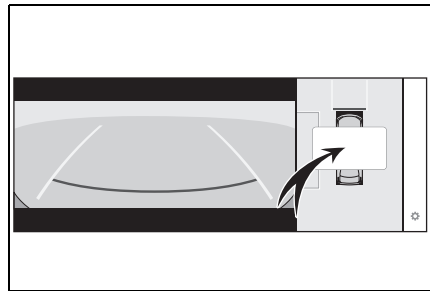
“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始

されます。



4 “発進するにはブレーキを離してください” の表示を確認してからブレーキペダルを離す

“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。



アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

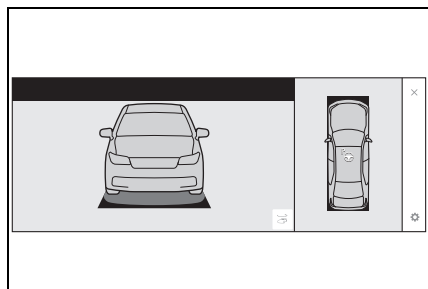
周囲の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.355

5 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディアディスプレイの  にタッチすると、駐車アシスト完了画面の

車両が回転します。



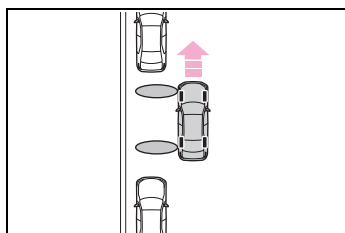
知識

■ 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.355

■ “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



■ ブレーキが作動したとき

→P.355



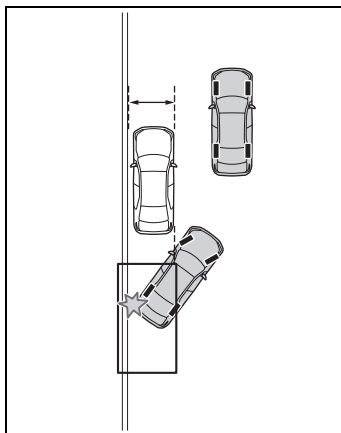
注意

■ 縦列駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断／中止されます。

- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

- 隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



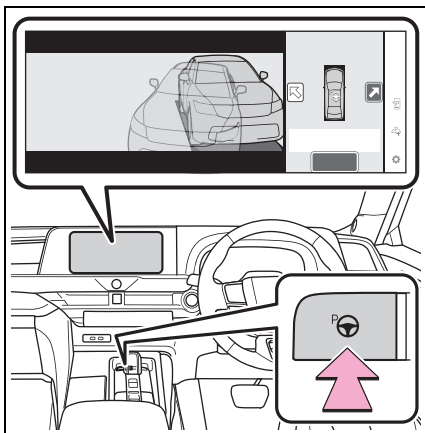
- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

アドバンストパークの縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

- 1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



- 2 マルチメディアディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

- 3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

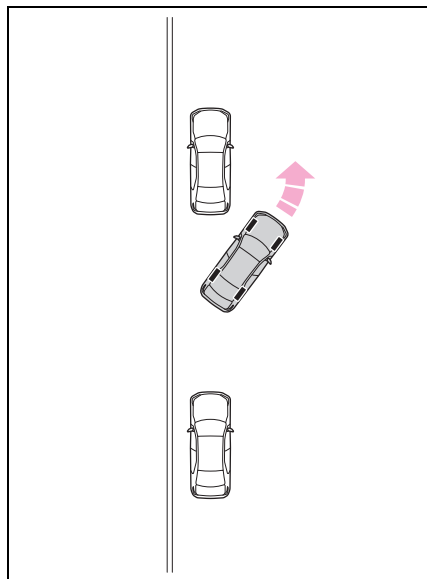
アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.355

- 4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

- 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.355

- 縦列出庫機能について

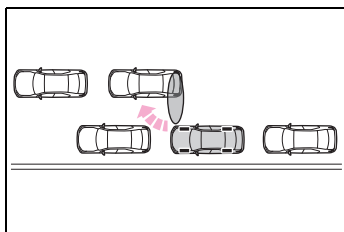
縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してし

まった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

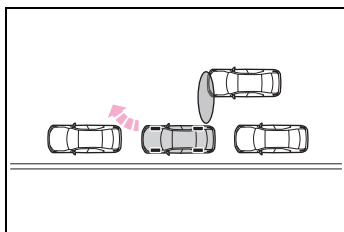
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

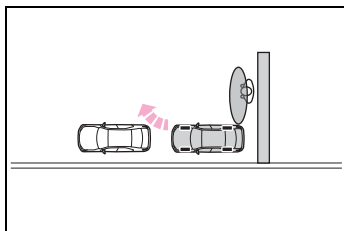
- 出庫方向に信号待ちの車両があるとき



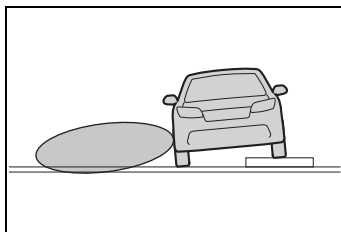
- 出庫方向の後方に車両が待っているとき



- フロントまたはリアのサイドセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



- 縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知しているとき



- 車両の前方に駐車車両がないとき
- 車両の前端と駐車車両との間隔がすぎているとき

■ブレーキが作動したとき

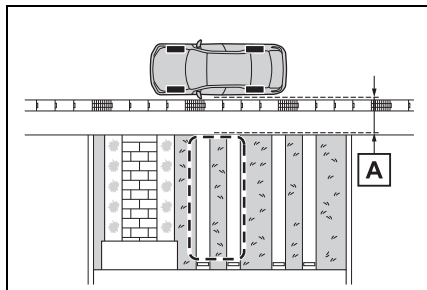
→P.355

アドバンストパークのメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。登録できる駐車スペースは3つです。

駐車スペースの登録

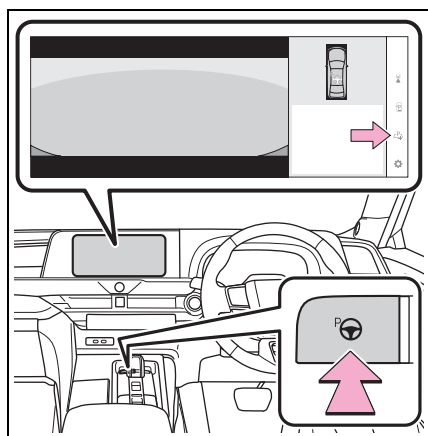
- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

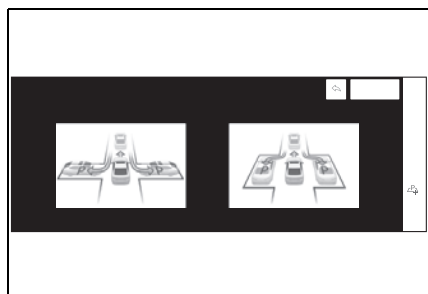
- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、 P_p にタッチする
区画線や隣接車両のいない駐車スペース

でアドバンストパークメインスイッチを
押した場合、“駐車できる場所が見つ
かりません”と表示されることがありま
すが、続けてPにタッチしてください。



3 並列（前向き／バック）駐車ま たは縦列駐車を選択する

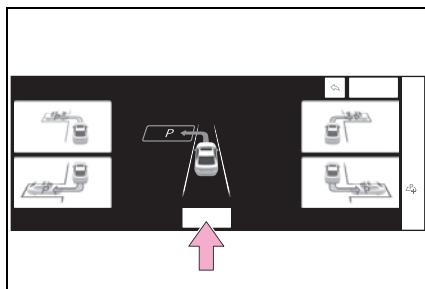
アシスト可能な駐車スペースのみが表示
されます。



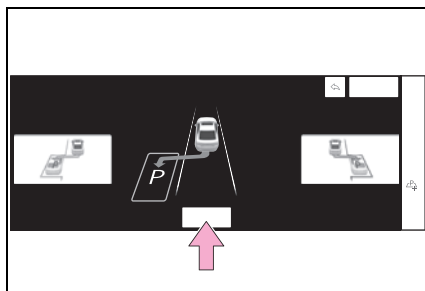
4 駐車向きを選択し、“次へ” スイッチにタッチする

手順3で並列（前向き／バック）駐車を

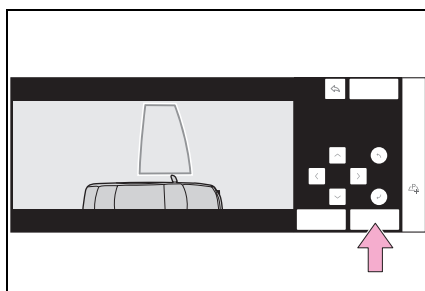
選択した場合：



手順3で縦列駐車を選択した場合：



5 登録する駐車スペースの位置を 方向キーで調整し、“設定完了” スイッチにタッチする



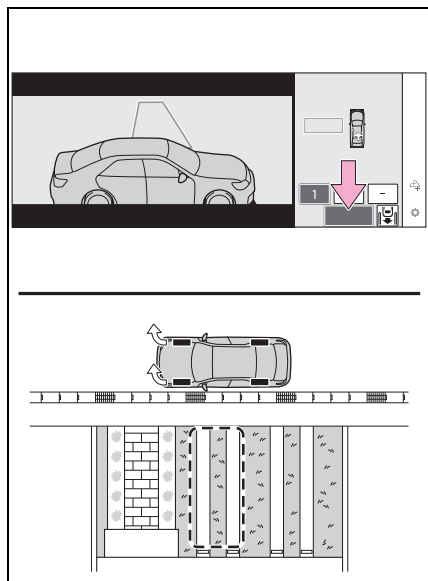
6 “開始”スイッチにタッチす る

“ピッ”という音が鳴り、マルチイン
フォメーションディスプレイに作動中の
メッセージを表示して、アシストが開始
されます。

ブレーキペダルを離すと、“前進しま
す”の音声案内と表示が出たあと、前進が

始まります。

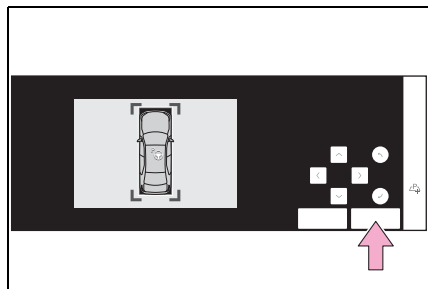
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.355



7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

8 車両が停車したら登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチにタッチする

マルチメディアディスプレイに“登録を完了しました”と表示されます。



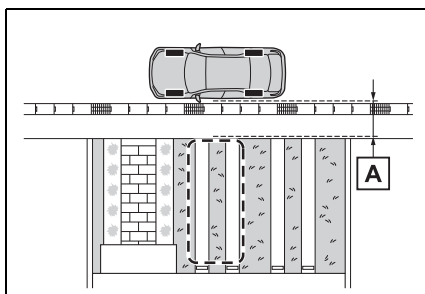
● 太枠内に障害物がない位置で登録してください。

● 調整できる範囲には限りがあります。

メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

アシストが開始されるまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。

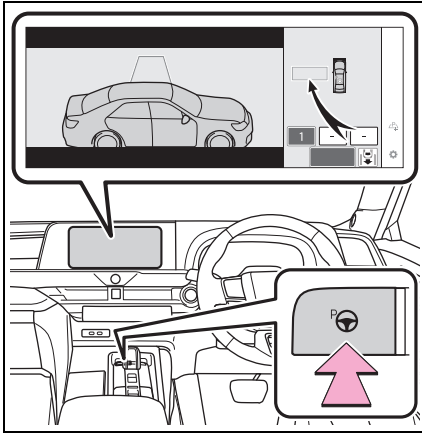


A 約 1m

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

“MODE” スイッチが表示されたときは、スイッチをタッチすることで、メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます

す。



3 駐車したいスペースを選択し、“開始”スイッチにタッチする

このあとの手順は、並列前向き／バック駐車機能の手順 3 以降と同じです。
(→P.353)

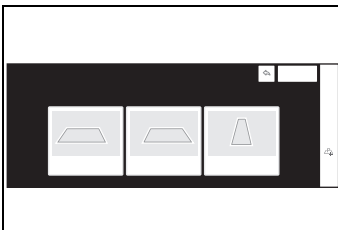
知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.355

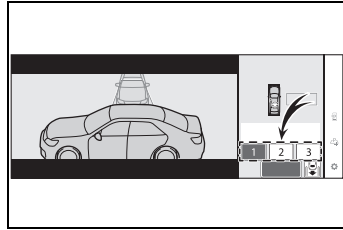
■登録した駐車スペースを上書きするとき

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で、Pにタッチすると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



■登録した駐車スペースが複数あるときは

駐車スペースを選択してから、“開始”にタッチします。



■ブレーキが作動したとき

→P.355

⚠ 注意

■メモリ機能を使用するときは (→P.355, 360)

●メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

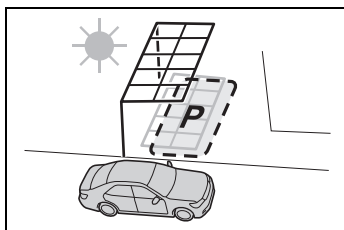
- ・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- ・雨雪が降っているとき
- ・夜間（周囲が暗いとき）

●次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。

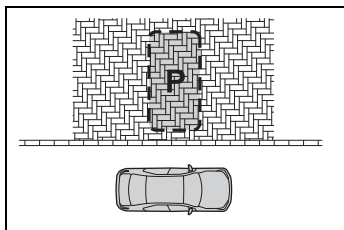
- ・道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場

注意

- ・ 駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場
- 次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。
- ・ 駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



- ・ 駐車スペースに落ち葉／ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



- 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
- ・ 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
- ・ 設定した駐車スペースに障害物があるとき
- ・ システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき

- ・ アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき
- ・ 輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォームなど）
- ・ 日照条件が登録したときと異なるとき（天気／時間帯）
- ・ 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- ・ 路面の色や明るさが一様でないとき
- ・ 駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき
- ・ 勾配がある駐車場
- ・ カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- ・ カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- ・ カメラの視界をさまたげるようなアクセサリを取り付けたとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

- メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な駐車目標が見つかりません”と表示されることがあります。
- メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

⚠ 注意

- カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。
- カメラ故障時／交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

アドバンストパークのリモート機能を使う

スマートフォン操作で駐車機能／出庫機能を遠隔操作することができます。またガレージなどへの前後移動も遠隔操作でアシストできます。

リモート機能を使用して駐車する

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作で駐車機能を遠隔操作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する（→P.353, 358）
- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する（→P.353, 358）

- 3  スイッチにタッチし、“並列駐車／縦列駐車”にタッチする
- 4 “設定完了”にタッチする
- 5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

障害物が進行方向に存在する場合は、先に障害物を移動させてください。障害物は降車後に移動させることもできます。

- 6 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

- 7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

- 8 駐車位置に到着すると、シフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されません。

知識

■障害物があっても駐車機能を使用できる場合

- 白線で構成される駐車スペースへの駐車機能を使用する場合、駐車スペース内に障害物があってもそのスペースを目標枠として設定できます。これは車いす用の駐車スペース内にパイロンが置かれているときであっても、車内で駐車スペース設定をし、降車後に障害物を移動することで支援を継続するための機能です。
- アドバンストパークでの並列駐車では片側 3 枠ずつの最大 6 枠の駐車枠を検出可能ですが、リモート機能では片側 1 枠ずつの検出となります。

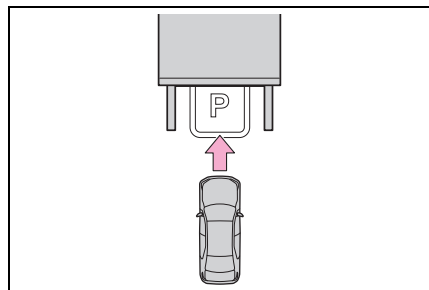
■ブレーキが作動したとき

→P.355

リモート機能を使用して前後移動する

停車後に前後移動機能を使用して、ガレージなどへの移動をアシストします。

- 1 アシストを開始したい場所に車両を停車する



- 2 アドバンストパークメインスイッチを押す

- 3 ④スイッチにタッチし、“前後に移動” にタッチする

- 4 必要に応じて方向キーで調整し、“設定完了” にタッチする

- 5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

- 6 車外でスマートフォン画面の進行方向を確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

- 7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、前後移動をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

- 8 スマートフォン画面で車両の電源をオフにする操作を行う

パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠されます。

知識

■進行方向の変更

前後移動機能では、アシスト中に進行方向を切りかえることができます。

後方に壁があるときなどに、スマート

フォン画面で進行方向の切りかえ操作を行って車両を少し前進させて荷物を入れたあと、もとの場所にもどすといった使い方ができます。

■ブレーキが作動したとき

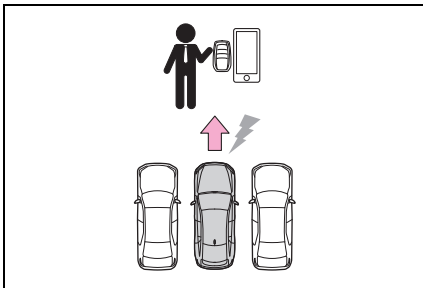
→P.355

リモート機能を使用して出庫する

パワースイッチが OFF の車両に対して、並列／縦列駐車した状態からの出庫をアシストできます。前後移動選択の際の移動距離は開始位置から進行方向に対して最大 7m で、スマートフォン操作で進行方向を切りかえることができます。

- 1 駐車中の車両に近付き、電子キーで解錠してから専用アプリを起動する

専用アプリが接続できない場合は、電子キーで再度解錠操作を行ってください。



- 2 スマートフォン画面で開始操作をする

車両のパワースイッチが ON になります。

- 3 出庫可能な方向が表示されたことを確認し、出庫したい方向を選択し、決定する

- 4 車両周辺の安全を確認し、スマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、出庫をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

- 5 アシスト完了位置まで移動し、電子キーを持って車両に乗り込む

途中でアシストを完了したい場合は、スマートフォンで途中終了操作をするか、車両に乗り込むことでアシストを終了できます。



知識

■ブレーキが作動したとき

→P.355

リモート機能とメモリ機能を使用して駐車する

メモリ機能で事前に登録した駐車スペースの真横で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作でメモリ機能を遠隔操作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する (→P.364)
- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なス

ペースが表示されたことを確認する (→P.364)

- 3**  スイッチにタッチし、“並列駐車／縦列駐車” にタッチする

- 4** “設定完了” にタッチする

“MODE” スイッチが表示されたときは、スイッチを押すことでメモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。

- 5** 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。パイロンなどの障害物が進行方向に存在する場合は、降車後に障害物を移動させてください。

- 6** 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

- 7** 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

- 8** 駐車位置に到着するとシフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

■ ブレーキが作動したとき

→P.355

リモート機能の使用前のご準備

■ 使用前のご準備

リモート機能を使用する際は、事前に以下の手順を行ってください。

- 1 アプリストアから専用アプリをダウンロードする
- 2 車両のパワースイッチを ON にし、マルチメディアシステムとスマートフォンのペアリング登録を実施する
- 3 専用アプリを立ち上げ、車両登録を実施する
- 4 ペアリング登録された車両がスマートフォン画面に表示されるため、車両を選択する

新規車両登録画面では、車両の名前や画像の変更が可能です。

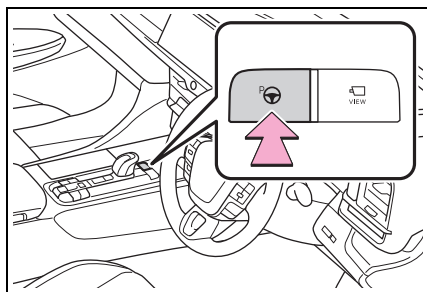
メニュー画面から車両を追加することも可能です。

■ リモート機能の ON / OFF

- 1 マルチメディアディスプレイの  にタッチして、“Advanced Park” にタッチする
- 2 “Remote Park” の ON / OFF を選択する（初期設定は ON）

3 アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



4 マルチメディアディスプレイに表示されるPスイッチにタッチする

⚠ 注意

■ リモート機能について

- 電子キーをポケットなどに携帯した状態で、リモート機能を使用してください。
- 電子キーとスマートフォンなどを重ねて持つと、電子キーが検知できない場合があります。
- デジタルキー設定車：デジタルキーのみの携帯ではリモート機能は使用できません。必ず運転者が電子キーを携帯してください。
- 車に乗り込んでリモート機能を終了する際は、キーが車内にあり全てのドアとトランクが閉まっていることを確認してください。
パワーイーザアクセスシステム設定車：車に乗り込んでリモート機能を終了した後は、シートベルトを着用するかブレーキを踏むとシートリターン制御が実施されます。

● リモート機能終了または中止によりパワースイッチを OFF した場合、自動でドアが施錠しますが、ドアが開いている場合など施錠できないことがあります。リモート機能終了後は車両の状態を確認してください。

● リモート機能終了または中止により自動でドアが施錠した際、車内に人がいた場合は警報が鳴る場合があります。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

- スマートエントリー & スタートシステムの機能が正常に働かないおそれのあるとき (→P.140)
- 近くにインバータ式蛍光灯があるとき

■ 電波が及ぼす影響について

→P.143

■ 電子キーの電池の消耗について

- リモート機能使用中は、電子キーと電波の送受信を行うため、電池を消耗します。
- 電池が切れたとき：→P.478

■ センサーが正常に作動しないおそれのある状況 (→P.314)

- リモート機能使用中は車両周辺の視界が制限されることがあります。リモート機能使用時は以下の確認を行ってください。
 - ・ 車両と車両の周囲が最もよく見えること
 - ・ 車両の進路に人／動物、または物体がないこと
 - ・ 車両との適切な距離を維持し、運転者も他の道路使用者も危険にさらされるおそれがないこと

注意

- ・ 車両の周囲には常に注意をして、危険の可能性がないこと
- ・ 必要に応じて、リモート機能を中止すること

アドバンストパークを中止／中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークメインスイッチを押した
- シフトポジションを P に変更した
- パーキングブレーキをかけた
- ドアまたはトランクを開けた
- 運転席シートベルトをはずした
- ドアミラーを格納した
- TRC / VSC を OFF にした
- TRC / VSC / ABS が作動した
- けん引している
- パワースイッチを押した
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
- システム異常
- 停止中にマルチメディアディスプレイ上で“中止”にタッチした

■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断します。

マルチメディアディスプレイの指示に従うことでアシストを再開できます。

また、アシストが中断されている時にブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままアシストを中止します。ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- シフトポジションを変更した
- 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した
- カメラスイッチを押した

■ リモート機能のアシストが中止されるとき

パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合はリモート機能が作動しない場合があります。

パワースイッチ OFF 後のご使用は、しばらく待ってから操作してください。

次のような状況のとき、リモート機能のアシストを中止します。

システムが解除されているため、

キーを持って車両に乗り込み、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークのアシスト中止条件を満たした場合、一部例外としてドアを開いた場合や運転席シートベルトをはずした場合は中断します。
- リモート機能を起動してから 5 分以上が経過したとき
- 何も操作をせずに 3 分が経過したとき
- スマートフォン画面で車両の走行操作をしても走行できずに、30 秒が経過したとき
- スマートフォン画面で車両の電源をオフにする操作を行ったとき
- 専用アプリが強制終了されたとき
- 急勾配のとき
- リモート機能中断中に車内で電子キーを検知したとき
- 外気温がマイナス 10℃ 以下のとき

■ リモート機能のアシストが中断されるとき

次のとき、アシストを中断します。

- スマートフォンとマルチメディアアシストとの Bluetooth® 通信が切断されたとき
- スマートフォンの操作が中断されたとき
- 専用アプリのバックグラウンド移行（電話ボタンやホームボタン押下など）

- 電子キーが検知できないとき
- 前後の移動先に障害物があるとき
- アシスト走行中に車両が操作されたとき
- 走行中に電子キーの操作があったとき
- 走行中にドアの解錠操作があったとき
- 走行中にドアを開いたとき

アドバンストパークの設定を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイの  にタッチして、“Advanced Park” にタッチします。

■ Remote Park

リモート機能の ON / OFF を設定できます。

■ 音声案内

音声案内の ON / OFF を設定できます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き / バック駐車と縦列駐

車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能なときに、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能なときに、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能なときに、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き／バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き／バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進すると

きの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の前向き完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の前向き完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。



注意

- 「駐車位置調整（前向き）」、「駐車位置調整（バック）」による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物／車止め／縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンスパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

専用アプリの設定を変更する

■ クリアランスソナー警告音の ON / OFF（スマートフォンでの設定）

専用アプリからクリアランスソナー警告音の ON / OFF を設定できます。

■ クリアランスソナー警告音の音量調整（スマートフォンでの設定）

専用アプリからクリアランスソナー警告音の音量を設定できます。

マルチメディアディスプレイに表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディアディスプレイに表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。



知識

■ “駐車できる場所が見つかりません” が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません” が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません” が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。

周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません” が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

■ “障害物を検知しました” が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディアディスプレイの“再開”スイッチにタッチしてください。

■ “登録に必要な駐車目標が見つかりません” が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で $P_{\rightarrow}$ にタッチしたときに表示されます。

システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.362）

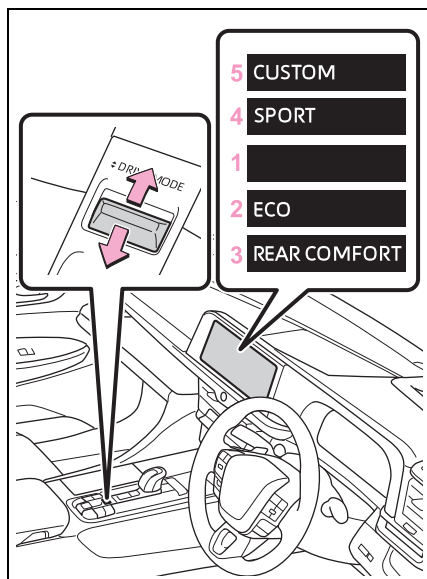
ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

ドライブモードセレクトスイッチを前後に操作し、走行モードを選択します。

しばらくのあいだ、現在の走行モード名がマルチメディアディスプレイに表示されます。(ノーマルモード選択時を除く)



1 ノーマルモード

燃費性能・静粛性・運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

2 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン(暖房/冷房)の作動を抑えます。燃費の向上を意識し

た走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

3 リヤコンフォートモード

サスペンションを制御することにより、後席の同乗者の乗り心地が最適になります。

リヤコンフォートモード表示灯が点灯します。

4 スポーツモード

アクセルレスポンスの向上による力強い加速が可能です。また、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード表示灯が点灯します。

5 カスタムモード

マルチメディアディスプレイを操作して、パワートレーン制御・ステアリング制御・サスペンション制御・エアコンの各作動内容を設定することで、お好みの設定内容で走行することができます。(→P.560)

カスタムモード表示灯が点灯します。

知識

■走行モードを切りかえたとき

エコドライブモードまたはスポーツモードを選択すると、マルチインフォメーションディスプレイの背景色が変わります。

■エコドライブモード時のエアコン作動について

走行モードをエコドライブモードにすると、自動でエコ空調モードに切りかわります。(→P.400)

エコ空調モードは、暖房/冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- 風量を調整する (→P.394)
- エコドライブモードを解除する
- エコ空調モードを OFF にする (→P.399)

■ 走行モードの自動解除

- 次のモードは、パワースイッチを OFF にすると自動で解除され、ノーマルモードにもどります。
 - ・ スポーツモード
 - ・ リヤコンフォートモード
 - ・ カスタムモード
- 次のモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。(パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません)
 - ・ ノーマルモード※
 - ・ エコドライブモード※

※ マイセッティングの登録内容によっては解除されることがあります。

■ カスタマイズ機能

カスタムモードの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.560)

スノーモード

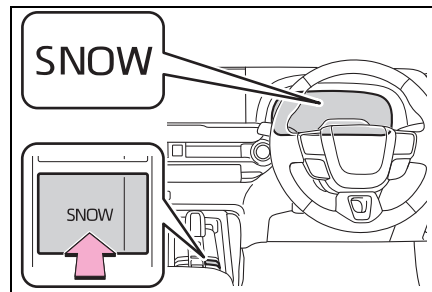
雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに適しているモードです。

スノーモードに切りかえるには

スノーモードスイッチを押す

スイッチを押すとスノーモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにスノーモード表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すと、スノーモードが解除されます。



知識

■ スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、FC システムを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシスト・ビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定

性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側にふくらむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ AVS（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定性の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。

また、ドライブモードセレクトスイッチで走行モードを選択することで、減衰力を切りかえることができます。（→P.376）

■ NAVI・AI-AVS（NAVI協調機能）

AVSに加えて、ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を

制御します。これにより、優れたコーナリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS を総合的に制御します。

すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・FCシステム出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

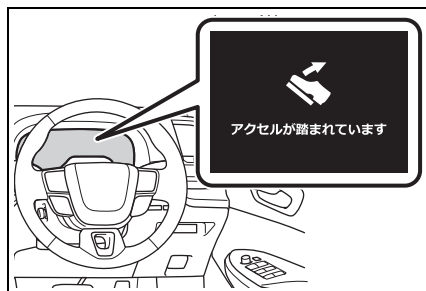
SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによる FC システム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーション

ディスプレイのメッセージでお知らせします。



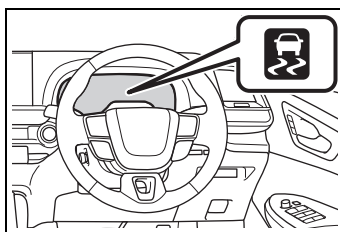
■ ブレーキ車両姿勢制御（ロール制御）

旋回開始時に後内輪にブレーキ制御をおこなうことで、急なロール姿勢の変化を抑え、快適な姿勢を保てるようにサポートします。

知識

■ TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

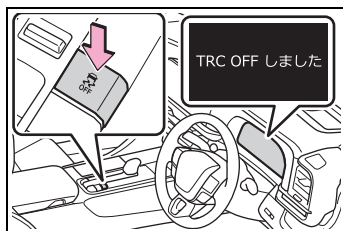


■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでも FC システムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す



マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。

もう一度  を押し、システム作動可能状態にもどります。

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に

 を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。※

もう一度  を押し、システム作動可能状態にもどります。

※ ブリクラッシュブレーキアシスト・ブリクラッシュブレーキの作動も停止します（衝突警報のみ作動可能状態になります）。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.236）

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトポジションが P または N 以外（前

進または後退での上り坂発進時）

- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- パワースイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトポジションを P または N にした
- アクセルペダルを踏んだ
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- パワースイッチを OFF にした

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- FC システム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、FC ユニットルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、FC ユニットルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”、“ウィーン”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方か

ら聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

- FC システム停止後 1 ～ 2 分経過時に、FC ユニットルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■ アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC ・ VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側にふくらんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない

■ EPS の効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、FC システムを停止してください。

10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■ セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■ セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

- 車速が約 0km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

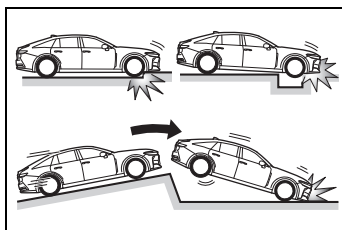
■ 衝突時の急加速抑制について

- 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
 - ・ 車速が約 60km/h 以下のとき
 - ・ SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
 - ・ 衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
 - ・ アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき
- ※ あとに衝突した、または衝突後にア

クセルペダルを速く強く踏み込んだ※とき

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

- 次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
 - ・ 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
 - ・ 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
 - ・ ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■ ブレーキ車両姿勢制御（ロール制御）の作動条件

次のときシステムが作動します。

- 車速が約 40km/h 以上 120km/h 未満
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 一定以上のハンドル操作をシステムが検出したとき
- スリップ表示灯が点灯、点滅していないとき（ABS や VSC、TRC など車両安定化制御中は作動しません）

■ ブレーキ車両姿勢制御（ロール制御）の解除条件

次のときシステムが解除されます。

- VSC/TRC が作動禁止状態
- ブレーキペダルを踏んでいる（レーダークルーズコントロールなどの自動ブレーキ中も作動しません）

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

 警告

- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSCを正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSCが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P.540）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- ウォッシャー液は外気温に適したものをお使いください。
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後 2 輪）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.456）



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキや Br モードの使用による急減速は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

 注意■ **タイヤチェーンの使用について**

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ **タイヤを修理・交換するとき**

トヨタ販売店へご依頼ください。タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。(タイヤについての詳しい説明はP.456を参照してください)

■ **タイヤチェーンの装着**

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドア

ガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

 知識■ **寒冷地用ワイパーブレードについて**

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 注意■ **ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

 知識■ **寒冷時のFCシステム始動について**

→P.183

駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードをOFFにしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結し

て解除できなくなるおそれがあります。

また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

- ・ ブレーキホールドシステム
- ・ アドバンストパーク（リモート機能付）

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め※をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

● パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトポジションを P にしたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→P.194）

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションを P にした状態でシフトポジションが動かないことを確認してください。

● 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



知識

■ 寒冷時の FC システム停止について

→P.186

■ 寒冷時の駐車中について

→P.186

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。（→P.213）

6-1. リヤマルチオペレーションパネル

リヤマルチオペレーションパネル
..... 390

6-2. エアコンの使い方

ALL AUTO 制御..... 393
オートエアコン 394
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーション
..... 402

6-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧..... 407

6-4. 収納装備

収納装備一覧..... 410
トランク内装備 414

6-5. その他の室内装備の使い方

電動サンシェード..... 415
その他の室内装備 417
アクセサリコンセント
(AC100V・1500W)・非常時給電システム 430
正常にアクセサリコンセント
(AC100V 1500W) または非常時給電システムが使用できないときは..... 438

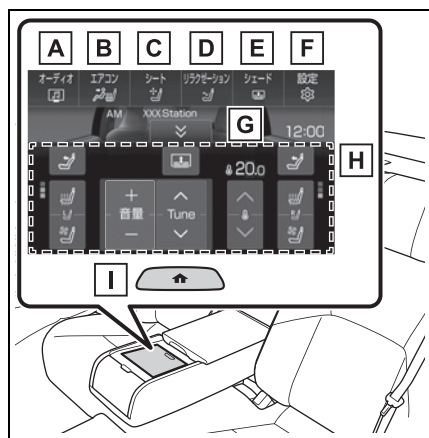
リヤマルチオペレーションパネル

リヤアームレスト内のオペレーションパネルを使って、オーディオ・エアコン・シート・リラクゼーションシート・シェードの操作をすることができます。

リヤマルチオペレーションパネルの操作について

■ HOME 画面

画面上のスイッチを操作することで各機能の操作画面や設定画面などを表示できます。



A オーディオ操作画面を表示する
詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

B リヤ席のエアコン操作画面を表示する
→P.396

C リヤシート操作画面を表示する
→P.145

D リヤのリラクゼーションシート操作画面を表示する
→P.146

E 電動サンシェード★・リヤサンシェード操作画面を表示する
→P.415、426

F リヤマルチオペレーションパネル設定画面を表示する
→P.390

G ショートカットスイッチ
押すごとに表示／非表示が切りかわります。

H ショートカット画面
次の機能を操作できます。
・ エアコンの温度設定
→P.396
・ リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーションの操作

→P.405
・ リヤシートの操作（背もたれを中立位置にもどす）
→P.145
・ リヤサンシェードの開閉
→P.426
・ オーディオの操作

詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

I  ボタン

HOME 画面を表示します。画面表示時は、押し続けると画面が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤマルチオペレーションパネル設定画面

画面の操作規制の設定や画面の明るさなどを調整できます。



A 画面を消す

画面 Off のときに ボタンを押すと、HOME 画面が表示されます。

B 画面の明るさを調整する

C 自動画面遷移設定（下記参照）

D 画面操作をロックする

■ 自動画面遷移設定画面

リヤマルチオペレーションパネルを一定時間操作しなかったときに自動で画面を切りかえるかどうか、また、切りかえ時の作動内容を設定できます。



A 自動画面遷移機能の On・Off を設定できます。

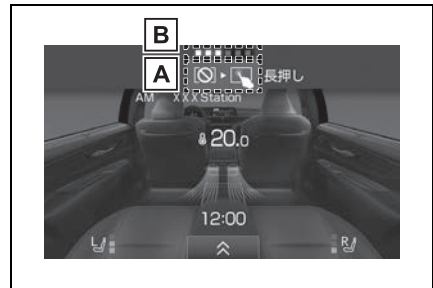
B 自動画面遷移機能が On のとき、HOME 画面に切りかえるか画面表示を消すかを選択できます。

C 自動画面遷移機能が On のとき、画面が切りかわるまでの時間を 4 種類から選択できます。

画面が自動で Off した場合、 ボタンを押すと消灯前の画面が表示されます。もう一度押すと、HOME 画面が表示されます。

■ 画面操作ロックについて

リヤマルチオペレーションパネル設定画面で にタッチすると画面がロックされ、スイッチ類を操作することができなくなります。ロックを解除したいときは、上部のステータス表示 (B) がすべて点灯するまで A を押し続けます。



□ 知識

■ リヤマルチオペレーションパネルの取扱いについて

- 操作は指で行ってください。爪やペン等では操作できません。
- 操作は一本の指で行ってください。他の指がふれていると操作できないことがあります。
- パワースイッチを ACC または ON にしたとき、パネル上に手やものが置かれていたり、水や異物が付着していると、誤作動を起こすことがあります。その

場合、それらを取り除き、30 秒ほど待ってから操作してください。万一、パネルの反応がもとにもどらない場合

は、 ボタンを押し続けて画面を OFF し、再度  ボタンを押してから操作を行ってください。

- 次の場合、リヤマルチオペレーションパネルが正しく反応しなかったり、誤作動することがあります。
 - ・ 手袋を着用しているとき
 - ・ ぬれた手で操作したとき
 - ・ パネル面にフィルムを貼ったり、塗装をしたとき
 - ・ パネル面に水分や汚れが付着しているとき
 - ・ 近くにテレビ塔・発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
 - ・ 無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- リヤマルチオペレーションパネルが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているときは、リヤマルチオペレーションパネルが反応しなかったり、誤作動することがあります。
 - ・ 小銭
 - ・ 鍵
 - ・ 財布や鞆の金属部品
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱やケース
 - ・ カイロ
 - ・ CD / DVD などのメディアや USB などのケーブル
 - ・ スマートフォンや携帯電話、タブレット端末などの機器
- リヤマルチオペレーションパネルが汚れていると、操作の反応が悪くなる場合があるため、定期的に清掃を行ってください。また、リヤマルチオペレー

ションパネルを清掃する際は、誤作動を防ぐため、画面を OFF にした状態で行ってください。

注意

■ リヤマルチオペレーションパネルの故障を防ぐために

- リヤマルチオペレーションパネルに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。
- リヤマルチオペレーションパネルの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。
- リヤマルチオペレーションパネルを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

ALL AUTO 制御

エアコンの設定温度・外気温・車室内温度などに応じて、フロント席のシートヒーターやシートベンチレーション・ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。

各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

ALL AUTO 制御を使用する

オプション画面 (→P.399) で

“All auto” を  (作動) にしているとき、エアコンをオート設定 (→P.399) で使用することで、ALL AUTO 制御を使用できます。

エアコン・フロント席のシートヒーター／シートベンチレーション・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作しても、操作した機能以外のオート設定は継続します。

各システムの作動について

■ エアコン (→P.394)

運転席および助手席の設定温度を別々に調整することができます。

■ フロント席のシートヒーター／シートベンチレーション (→P.402)

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。また、暖房・換気が OFF になることもあります。

助手席のシートヒーターやシートベンチレーションは、乗員を検知してオート設定で作動します。

■ ステアリングヒーター (→P.402)

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

知識

■ フロント席のシートヒーター／シートベンチレーションの作動について

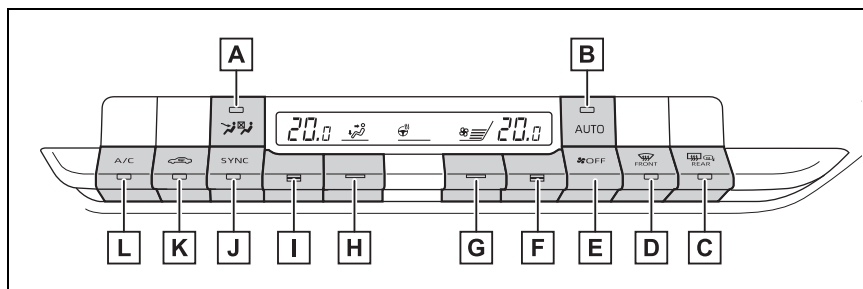
フロント席のシートヒーター／シートベンチレーションのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

一部の機能はマルチメディアディスプレイで操作することもできます。
(→P.398)

エアコン操作パネルのスイッチについて（フロント席）



- A** フロント席集中送風モード（S-FLOW）スイッチ
- B** AUTO スイッチ
- C** リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチ
- D** フロントデフロスタースイッチ
- E** OFF スイッチ
- F** 運転席側温度調整スイッチ
- G** 風量切りかえスイッチ
- H** 吹き出し口切りかえスイッチ
- I** 助手席側温度調整スイッチ
- J** SYNC スイッチ（各席の設定温度を連動するモード）
- K** 内外気切りかえスイッチ
- L** 冷房・除湿スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上、下げるときは下に操作する

冷房・除湿スイッチの表示灯が消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量切りかえ

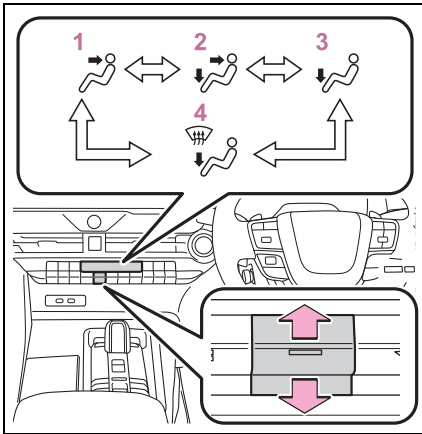
スイッチを上、減らすときは下に操作する

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作する

操作するたびに、吹き出し口が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、スイッチの表示灯が点灯します。

■ 冷房・除湿機能を使用する

冷房・除湿スイッチを押す

冷房・除湿機能が ON のときは、スイッ

チの作動表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

外気温が低いときは、フロントウィンドウガラスの霜を取るのに時間がかかる場合があります。

フロントデフロスターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチ

リヤウィンドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒーターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

リヤウィンドウデフォグガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

□ 知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

- 冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、エアコン設定に関わらず自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時または花粉除去モードが ON の時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動的に外気導入に切りかわることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■ 音声対話サービスについて★

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、エアコンを操作することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ エアコンフィルターについて

→P.473

■ カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.560)

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

FC システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

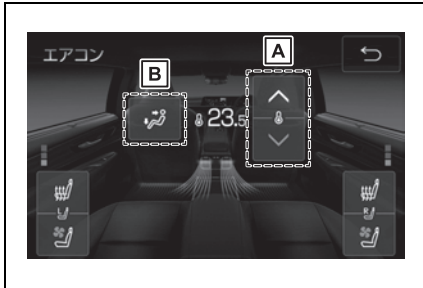
リヤマルチオペレーションパネルについて (リヤ席)

HOME 画面で“エアコン”にタッチすると、エアコン操作画面が表示されます。(→P.390)

また、ショートカット画面でも一部の機能を操作できます。

“画面操作ロック”が“LOCK”のときは、リヤマルチオペレーションパネルでは操作できません。(→P.390)

▶ エアコン操作画面



A リヤ席の温度を調整する

B リヤ席の吹き出し口を切りかえる

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

▶ ショートカット画面



A リヤ席の温度を調整する

オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、

AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

各席の設定温度を連動して設定する (SYNC モード)

SYNC モードを ON するには、SYNC スイッチを押す

運転席側温度調整スイッチで運転席・助手席・リヤ席の設定温度を調整できます。運転席・助手席・リヤ席の設定温度を別々に設定するには、助手席側温度調整スイッチまたはリヤ席温度調整スイッチ(→P.396)を操作するか、SYNC スイッチを押してください。

SYNC モードが ON のときは、SYNC スイッチの表示灯が点灯します。

フロント席集中送風モード (S-FLOW)

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない

- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない
- 花粉除去モードが作動していない

作動中は、が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

エアコン操作パネル（フロント席）のフロント席集中送風モード（S-FLOW）スイッチを押す、またはフロントエアコン操作画面

（→P.399）のにタッチして、送風を切りかえます。

- 表示灯／インジケーターが点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯／インジケーターが消灯：全席への送風

知識

■ 送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、FC システム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- FC システム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■ 送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りか

えた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■ 送風を自動制御にもどすには

- 1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。
- 2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

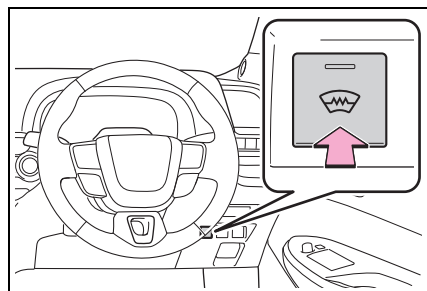
ウインドシールドデアイサー

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサースイッチを押す

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。



警告

■ ウインドシールドデアイサーが作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

エアコン操作画面について

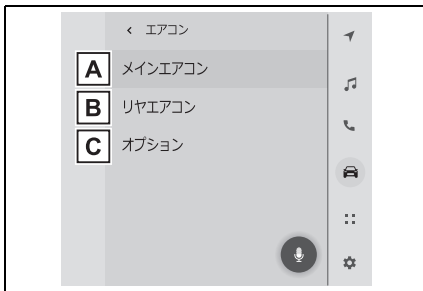
マルチメディアディスプレイで、

エアコンの一部の機能を操作することができます。

マルチメディアディスプレイの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

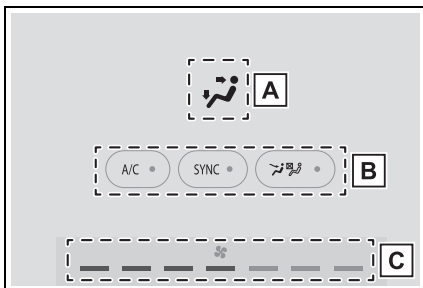
■ 表示のしかた

- 1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから  にタッチする
- 2 サブメニューの“エアコン”にタッチする
- 3 各画面を選択する



- A** フロントエアコン操作画面を表示する
- B** リヤエアコン操作画面を表示する
- C** オプション画面を表示する

■ フロントエアコン操作画面



- A** 吹き出し口を切りかえる

タッチするたびに、吹き出し口が切りかわります。

 : 上半身に送風

 : 上半身と足元に送風

 : 足元に送風

 : 足元に送風・ガラスの曇りを取る

B 各機能の ON / OFF を切りかえる

タッチするたびに、機能の ON / OFF が切りかわります。

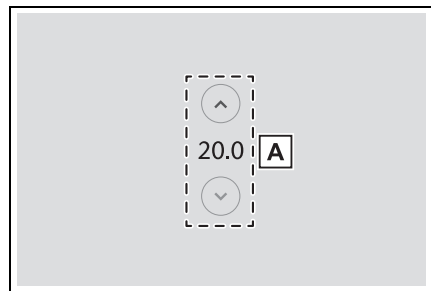
機能が ON のとき、インジケーターが点灯します。

- ・ “A/C” : 冷房・除湿機能 (→P.395)
- ・ “SYNC” : SYNC モード (→P.397)
- ・  : フロント席集中送風モード (S-FLOW) (→P.397)

C 風量表示

現在の風量が表示されます。

■ リヤエアコン操作画面

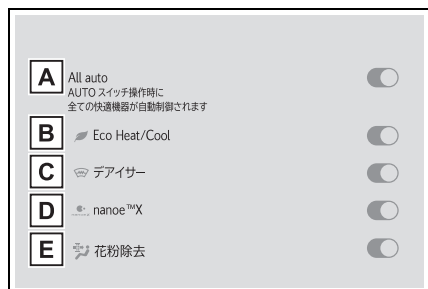


- A** 温度を調整する

■ オプション画面

各機能の  (作動) /  (非作)

動) を切りかえることができます。



A ALL AUTO 制御 (→P.393)

B エコ空調モード

C ウインドシールドデアイサー
(→P.398)

D ナノイー X

E 花粉を除去する (花粉除去モード)



知識

■エコ空調モードのエアコン作動について

- エコ空調モードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・FC システムやコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- エアコン操作画面のオプション画面からエコ空調モードの ON / OFF を切りかえることができます。(→P.399)
- 走行モードをエコドライブモードにすると、自動でエコ空調モードに切りかわります。(→P.376)
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・風量を調整する

- ・エコドライブモードを解除する (→P.376)
- ・エコ空調モードを OFF にする (→P.398)

■花粉除去モードについて

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

花粉除去モードは、しばらくすると自動的に OFF になります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する、または内気循環に切りかわらない場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ナノイー X※1,2 について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。

この装置は助手席外側の吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます ※3。

- ナノイー X が ON のとき、ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。
- ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。
 - ・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風のとき
 - ・助手席外側の吹き出し口が開いているとき
- ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
 - ・ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。

・ 作動直後は作動音が大きい場合があります。

※¹nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

※²ナノイー X は、ナノイーにくらべて、効果のもとである OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※³温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

⚠ 警告

■ ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

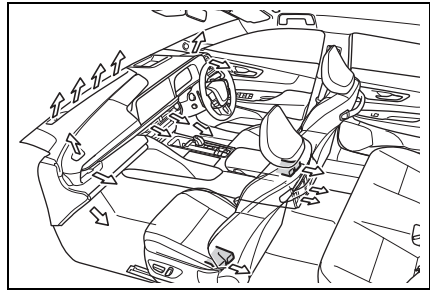
■ ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

助手席外側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に動かなくおそれがあります。

吹き出し口の配置・操作

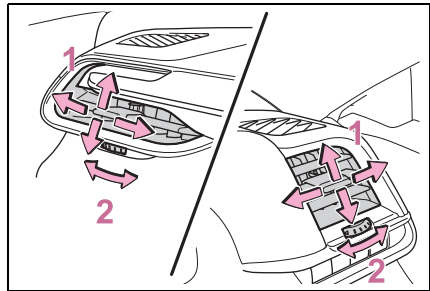
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

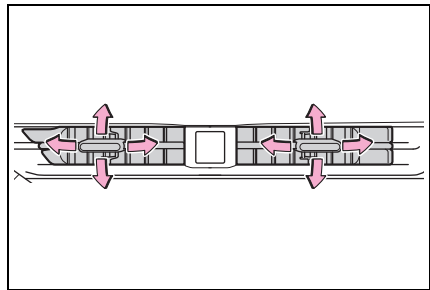
▶ フロントサイド



1 風向きを調整する

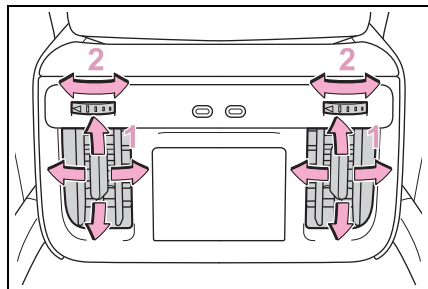
2 吹き出し口を開閉する

▶ フロントセンター



風向きを調整する

▶ リヤ

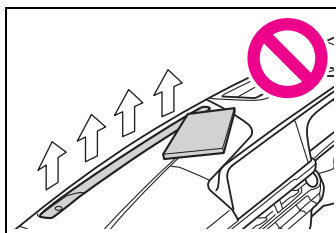


- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を開閉する

⚠ 警告

■ フロントウィンドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウィンドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーション

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーション

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

⚠ 警告

■ 異常過熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方



注意

■ シートヒーター／シートベンチレーションの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

FC システムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーターを使うには

■ エアコン操作パネルで操作するには

ステアリングヒータースイッチを押す

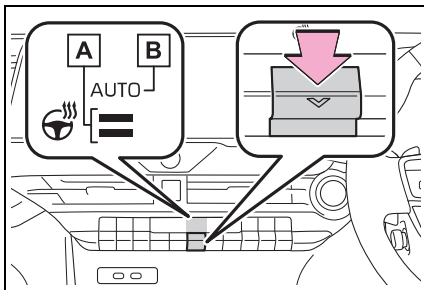
スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO → 強 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は、モニター部にレベルインジケーター **A** (黄) が点灯します。

AUTO 作動中はエアコンの設定温度、外気温などに応じてステアリングヒーターの作動状態が自動で切りかわります。

AUTO 作動中はモニター部に AUTO インジケーター **B** が点灯します。



■ マルチメディアディスプレイで操作するには

- 1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから にタッチする
- 2 サブメニューの “シート空調” にタッチする
- 3 ステアリングヒーターのスイッチにタッチする

スイッチにタッチするたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO → 強 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

AUTO 作動中はエアコンの設定温度、外気温などに応じてステアリングヒーターの作動状態が自動で切りかわります。



1 ステアリングヒーター ON/OFF の切りかえ

ステアリングヒーター作動中は、スイッチのまわりにあるレベルインジケーターが赤色に点灯します。

2 AUTO 作動 ON/OFF の切りかえ

マルチメディアディスプレイの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ AUTO 作動を選択したとき

エアコンの設定温度、外気温などに応じて、ステアリングヒーターの機能が OFF になることがあります。

■ 設定の記憶について

パワースイッチを ON にすると、記憶された設定が呼び出されます。

■ カスタマイズ機能

AUTO 作動時の温度を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.560)

フロントシートヒーター／フロントシートベンチレーションを使うには

■ エアコン操作パネルで操作するには

シートヒータースイッチ、またはシートベンチレーションスイッチを押す

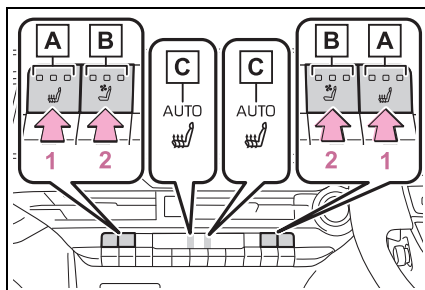
スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO → 強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

作動中はスイッチ上のレベルインジケーター **A** / **B** が点灯します。

AUTO 作動中はエアコンの設定温度、外気温などに応じてシートヒーター／シートベンチレーターの作動状態が自動で切りかわります。

AUTO 作動中はモニター部に AUTO インジケーター **C** が点灯します。



1 シートヒーター ON/OFF の切りかえ

シートヒーター作動中は、レベルインジケーター **A** が黄色に点灯します。

2 シートベンチレーション ON/OFF の切りかえ

シートベンチレーション作動中は、レベルインジケーター **B** が緑色に点灯します。

■ マルチメディアディスプレイで操作するには

1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから にタッチする

2 サブメニューの “シート空調” にタッチする

3 シートヒーターまたはシートベンチレーターのスイッチにタッチする

スイッチにタッチするたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO → 強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

AUTO 作動中はエアコンの設定温度、外気温などに応じてシートヒーター／シートベンチレーターの作動状態が自動で切

りかわります。



1 シートヒーター ON/OFF の切りかえ

シートヒーター作動中は、レベルインジケーターが黄色に点灯します。

2 シートベンチレーション ON/OFF の切りかえ

シートベンチレーション作動中は、レベルインジケーターが緑色に点灯します。

3 AUTO 作動 ON/OFF の切りかえ

AUTO 作動中はエアコンの設定温度、外気温などに応じてシートヒーター／シートベンチレーションの作動状態が自動で切りかわります。

マルチメディアディスプレイの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ AUTO 作動を選択したとき（フロント席）

エアコンの設定温度、外気温などに応じて、シートヒーター／シートベンチレーションの機能が OFF になることがあります。

■ 設定の記憶について

パワースイッチを ON にすると、記憶さ

れた設定が呼び出されます。

■ エアコン運動制御モードについて（フロントシートベンチレーション）

シートベンチレーターが強（AUTO 選択時）のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの作動状態が強くなります。

■ カスタマイズ機能

AUTO 作動時の温度を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.561）

リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーションを使うには

リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーションは、リヤマルチオペレーションパネルで操作します。

リヤアームレストを倒し、 ボタンを押す

HOME 画面で“エアコン”にタッチすると、エアコン操作画面が表示され、リヤシートヒーター／リヤシートベンチレーションを操作できます。（→P.390）

また、ショートカット画面でもリヤシートヒーター／リヤシートベンチレーションを操作できます。

“画面操作ロック”が“LOCK”のときは、リヤマルチオペレーションパネルでは操作できません。（→P.390）

■ エアコン操作画面



[A] リヤシートヒーターの温度を上げる

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

シートヒーター作動中は、レベルインジケーター[C] が橙色に点灯します。

[B] リヤシートベンチレーションの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

シートベンチレーション作動中は、レベルインジケーター[C] が青色に点灯します。

■ ショートカット画面



[A] リヤシートヒーターの温度を上

げる

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

シートヒーター作動中は、レベルインジケーター[C] が橙色に点灯します。

[B] リヤシートベンチレーションの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

シートベンチレーション作動中は、レベルインジケーター[C] が青色に点灯します。

□ 知識

■ 作動条件

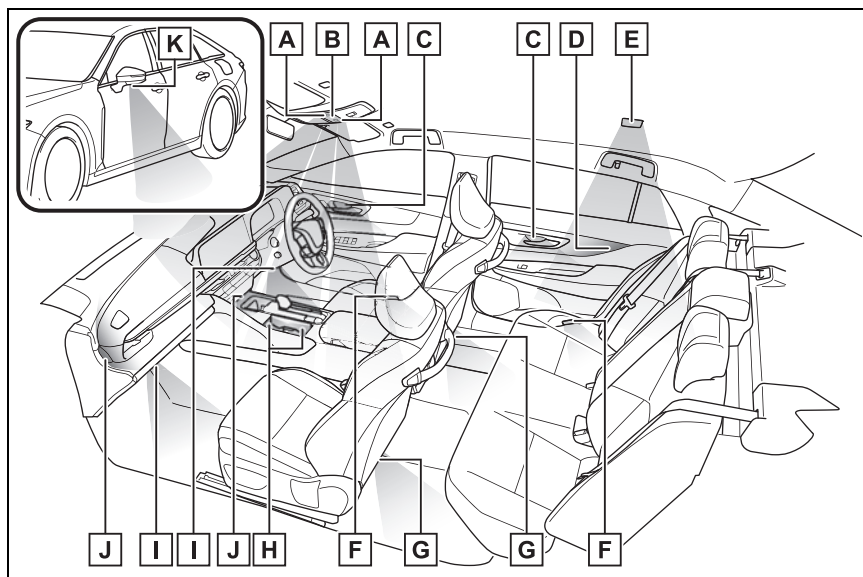
パワースイッチが ON のとき

■ リヤマルチオペレーションパネルの表示について

リヤシートヒーターの作動中は、画面上のリヤシートの表示色が赤色に、リヤシートベンチレーションの作動中は青色に変化します。また、作動状態の変化に従って、リヤシートの表示色の濃さが変化します。

室内灯一覧

室内灯の位置



- A** フロントパーソナルランプ (→P.409)
- B** インテリアランプ (→P.408)
- C** インサイドドアハンドル照明
- D** ドアトリム照明
- E** リヤパーソナルランプ (→P.409)
- F** ドアカーテシランプ
- G** リヤ足元照明
- H** フロントカップホルダー照明 (→P.409)
- I** フロント足元照明
- J** インstrumentパネルオーナメント照明
- K** ドアミラー足元照明

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 10 分後に自動消灯します。

■室内照明の減光について

次の照明は、シフトポジションを P から P 以外にすると減光されます。

- フロントインサイドドアハンドル照明
- フロントカップホルダー照明
- フロント足元照明
- リヤ足元照明

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります)

■インテリアランプとフロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- 濡れた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.561)

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

■ランプのレンズの取りはずしについて

インテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

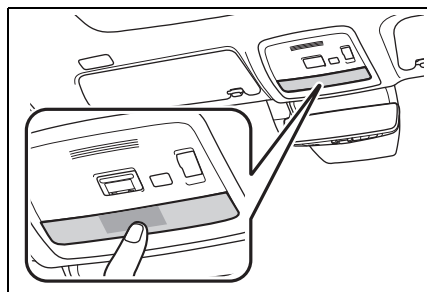
インテリアランプを操作するには

■インテリアランプを点灯・消灯する

ランプにタッチする

インテリアランプに連動してリヤパーソナルランプも点灯・消灯します。

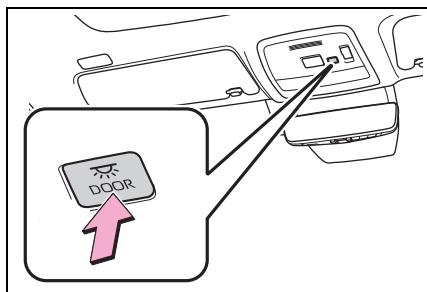
ただ、リヤパーソナルランプが点灯している状態でインテリアランプを操作しても連動しません。



■ドアポジション（ドア連動）を ON にする

ドア連動スイッチを押す

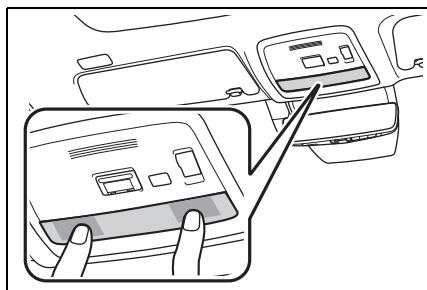
ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。



フロントパーソナルランプ・リヤパーソナルランプを操作するには

■ フロントパーソナルランプを点灯・消灯する

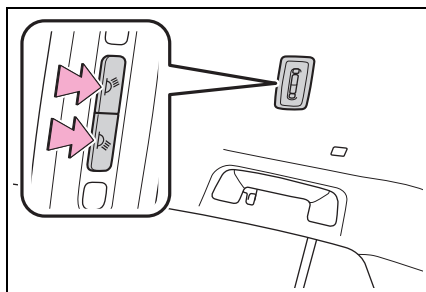
ランプにタッチする



■ リヤパーソナルランプを点灯・消灯する

ランプにタッチする

インテリアランプに連動してランプが点灯・消灯します。インテリアランプに連動して点灯している場合は、スイッチをタッチしても消灯しません。



照明の色を変更するには

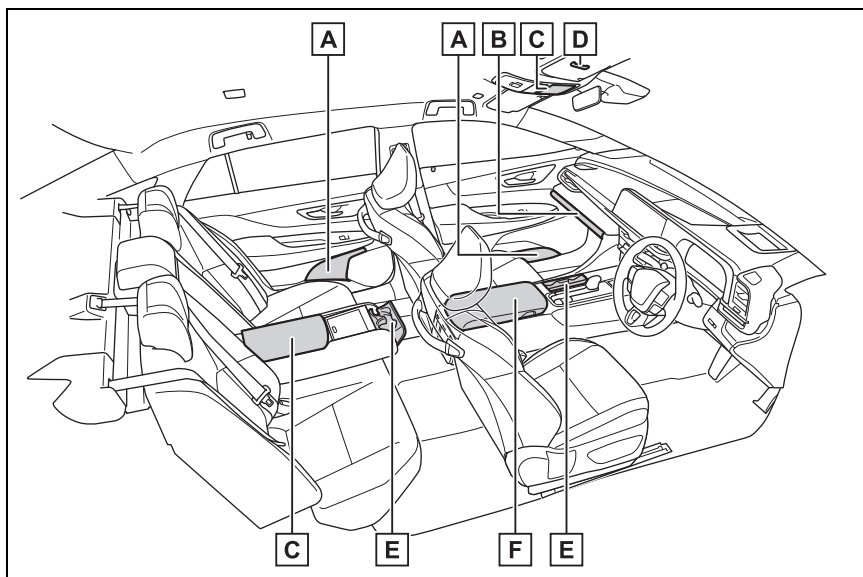
マルチメディアディスプレイを操作して、次の照明の色を変更することができます。

- インサイドドアハンドル照明
- ドアトリム照明
- フロントカップホルダー照明
- インstrumentパネルオーナメント照明
- フロント足元照明
- リヤ足元照明

- 1 マルチメディアディスプレイの  にタッチする
- 2 「車両カスタマイズ」にタッチする
- 3 「ランプ／照明」にタッチする
- 4 「カラー」にタッチする
- 5 お好みの色を選択する

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** ボトルホルダー (→P.412)
- B** グローブボックス (→P.411)
- C** 小物入れ (→P.413)
- D** チケットホルダー (→P.413)
- E** カップホルダー (→P.411)
- F** コンソールボックス (→P.411)

警告

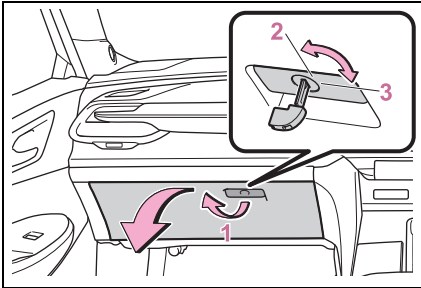
■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックスを使うには



- 1 開ける（レバーを引く）
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠



知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

■トランクオープナーメインスイッチ

→P.137



警告

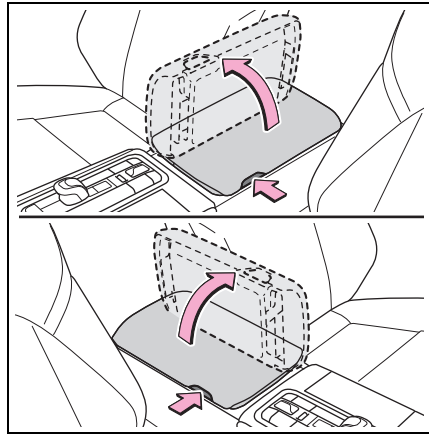
■グローブボックスを使用しないとき
グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

コンソールボックスを使うには

ボタンを押してフタを開ける

左右どちらからでも開けることができます。



警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

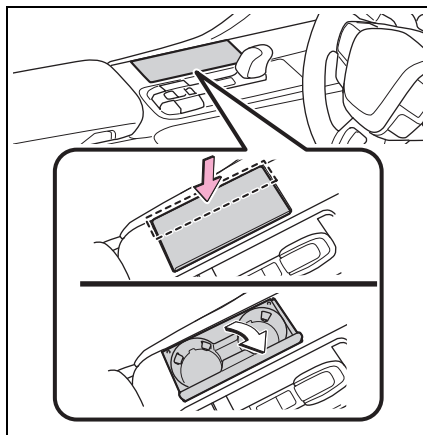
■コンソールボックスの損傷を防ぐために

- コンソールボックスが開いた状態で、開いている方向に無理な力をかけないでください。
- フタを開けるときは、左右のボタンを同時に押して両側からフタを開けようとするなど、無理な力をかけないでください。

カップホルダーを使うには

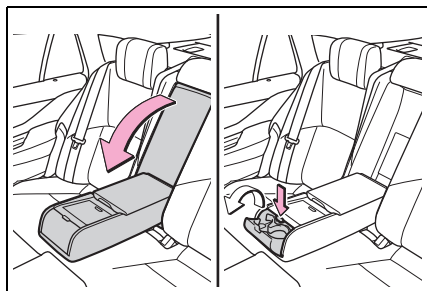
■フロント

カップホルダーのフタの端（助手席側）を押して開ける



■ リヤ

リアアームレストを手前に倒しボタンを押して開ける



⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。また、リアカップホルダーのフタを閉じているときでも、リアカップホルダーにものを収納しないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ リヤカップホルダーを使用しないとき

フタを必ず閉じてください。走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

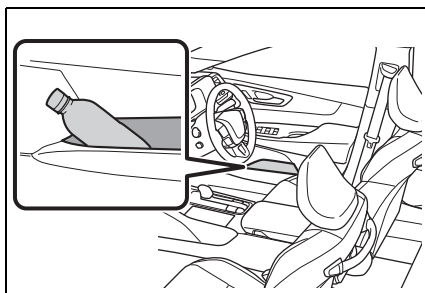
⚠ 注意

■ 損傷を防ぐために

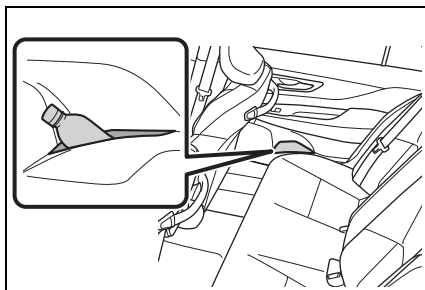
リアカップホルダーが出ている状態で、リアアームレストを格納しないでください。

ボトルホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ



□ 知識

■ ボトルホルダーについて

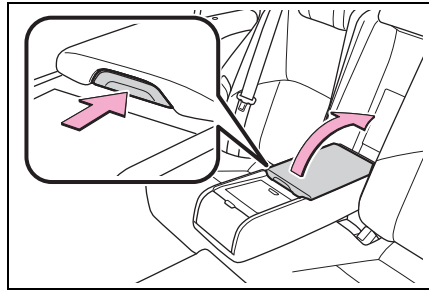
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。



⚠ 警告

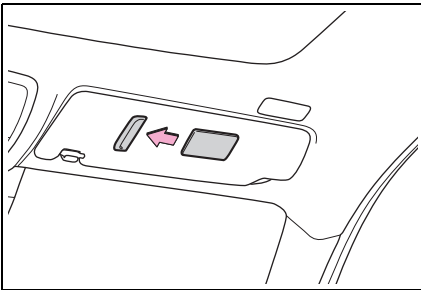
■ 小物入れを使用しないとき

フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 天井の小物入れに収納してはいけないもの（電動サンシェード非装着車）

小物入れには 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、フタが開き収納されているものが飛び出して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

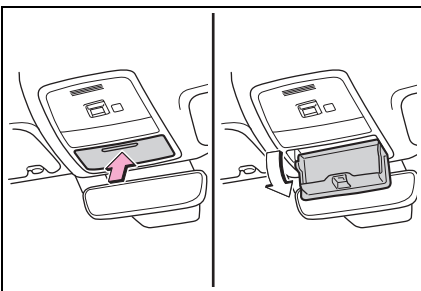
チケットホルダーを使うには



小物入れ

■ 天井（電動サンシェード非装着車）

フタを押して開ける



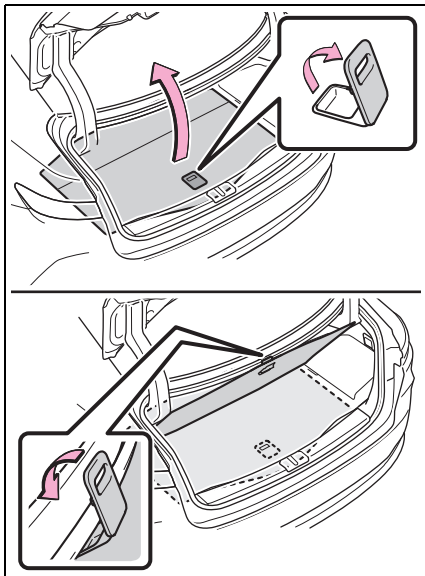
■ リヤ

リヤアームレストを手前に倒しノブを押して開ける

トランク内装備

ラゲージマット

フックを持ってラゲージマットを持ち上げ、フックをトランク開口部の上端にかける



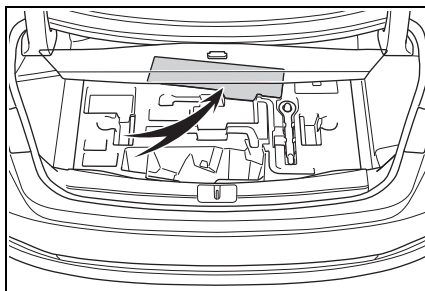
⚠ 注意

■ トランクを閉めるとき

ラゲージマットのフックをトランクの上端にかけたままにしないでください。ラゲージマットが破損するおそれがあります。

停止表示板収納スペース

ラゲージマットの下に、停止表示板の収納スペースがあります。



□ 知識

■ 停止表示板について

- 停止表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。
- ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

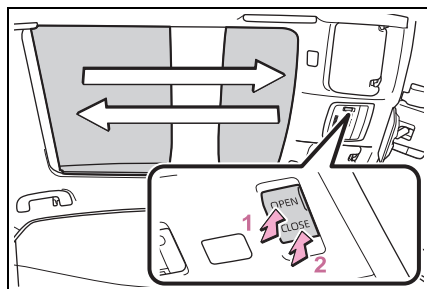
電動サンシェード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチまたはリヤマルチオペレーションパネルで電動サンシェードを操作ができます。

電動サンシェードを操作するには

■ フロント席からの操作



1 開ける

スイッチを押し続けると、自動で全開します。※

2 閉める

スイッチを押し続けると、自動で全閉します。※

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

■ リヤ席からの操作

リヤマルチオペレーションパネルのHOME画面で“シェード”にタッチする（→P.390）



1 開ける

ボタンにタッチし続けると、自動で全開します。※

2 閉める

ボタンにタッチし続けると、自動で全閉します。※

※途中で停止するときは、ボタンに軽くタッチします。

知識

■ 作動条件

パワースイッチがON のとき

■ 音声通話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、電動サンシェードの開閉をすることができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 挟み込み防止機能

●電動サンシェードを閉めるとき、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

●挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの“CLOSE”側を押しても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。

●電動サンシェードは、周囲の状況や走

行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

■過負荷停止機能

電動サンシェードを開けるときに障害物が接触するなど、一定以上の負荷がかかると作動が停止します。

■電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の手順で初期化を行ってください。

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける

全閉付近の位置まで閉じ、停止します。
その後、全閉位置まで閉じて停止します。

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

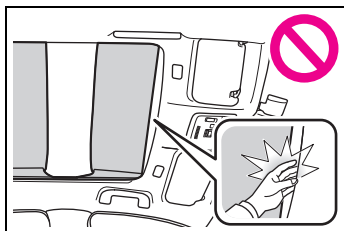
以上の操作を行っても自動全開／自動全閉機能が作動しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するとき

- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

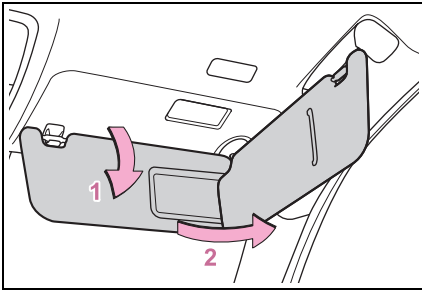
■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードのすき間にはふれないでください。

手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

その他の室内装備

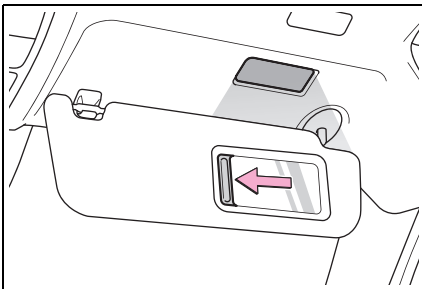
サンバイザーを使うには



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける
カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■自動消灯について

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 10 分後に自動消灯します。

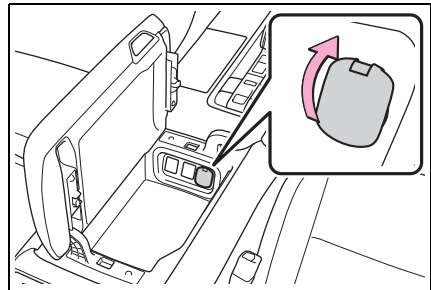
⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために
FC システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリソケットを使うには

DC12V/10A (消費電力 120W) 未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

コンソールボックスを開け (→P.411)、フタを開けて使用する



知識

■作動条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■FC システムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、FC システムが正常に停止しなくなる場合があります。

⚠ 注意

■ アクセサリーソケットを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがこぼったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

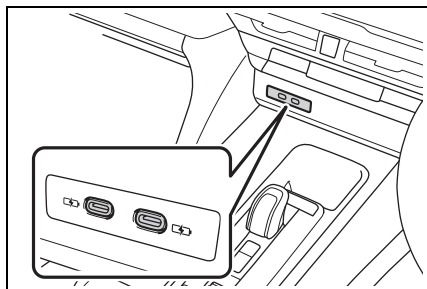
FC システムが停止した状態で、アクセサリソケットを使用しないでください。

充電用 USB Type-C 端子

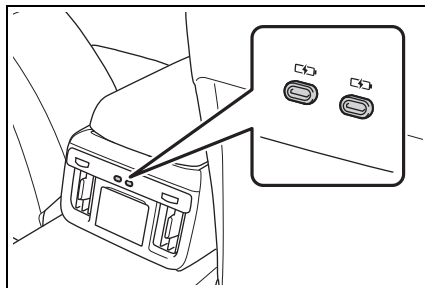
DC5V/3.0A（消費電力 15W）の電源としてお使いください。この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ フロントコンソール



■ コンソールボックス背面



□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3.0A（消費電力 15W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 注意

■ 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

⚠ 注意

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因になります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

FC システムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）を使うには

ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。

ご使用になる携帯機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

■ 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の商標です。

“Qi” ID : 21011

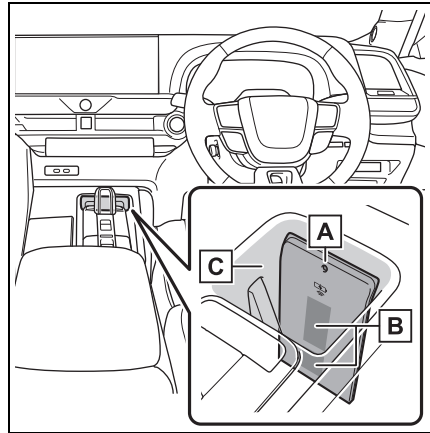


■ 「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 充電エリア

C 充電トレイ

■ 充電する

携帯機器を置く

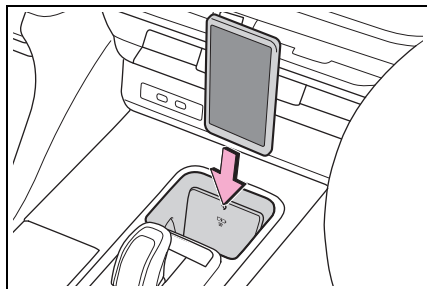
携帯機器の充電面が充電トレイに接するように置いてください。

充電中はワイヤレス充電器側の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が開始されない場合は、P.423 を参照してください。

充電が完了するとワイヤレス充電器側の

作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

■ 急速充電機能

- 急速充電に対応した携帯機器については、P.422 を参照してください。
- 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	マルチメディア電源が OFF のとき又は、ACC OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）※ ¹
	充電完了時 ※ ²
橙（点灯）	充電中
橙 2 回点滅後、点灯	充電周波数切替

※¹待機中でも充電用の電力を微少に出力しています。この状態で金属製のものを充電エリアに置くと反応してエラー状態になります。加熱されることはありませんが、充電機能は安全のため停止します。

※²携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯	想定される原因・対処方法
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	車両とワイヤレス充電器の通信不良 → ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC のときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。（→P.183）

作動表示灯	想定される原因・対処方法
緑（点灯）	スマートエントリー&スタートシステムが電子キーの検出を行っている → 電子キーの検出が完了するのをお待ちください。
	異物検知： ① 充電前に充電エリア内に金属製の異物があり、異物検知機能が働いた → 充電エリア内にある異物を取り除いてください。 ② Qi2 や MagSafe の金属 Ring の付いたケースを装着していて、充電が停止した → ケースを取り外す
	携帯機器のすれ： 携帯機器の充電用コイルが充電エリアからはずれた、レンズの凸量が大きい、又はケースが厚いため、充電用コイルの異常過熱防止機能が働いた → 携帯機器を充電トレイから取り出し、少なくとも 5 秒待ってから、機器の底部が充電トレイの底辺に揃うように再度置いてください。ケースやカバーを使用している場合は取りはずしてください。
	携帯機器のバッテリー保護機能： 満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した → 携帯機器の仕様のため、設定を確認してください。
	電子キーの検出状態が継続： 車両カスタマイズによってマルチメディア機能を利用しているとき、電子キーが確定されず検出状態が継続された → パワースイッチ押下により ACC または IG ON し、キーを確定させてください。
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	Qi 非対応端末： 置いても、緑点灯のまま変わらない → ご使用の端末が Qi の BPP 又は EPP に対応しているか WPC のホームページをご確認ください。
	ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止 → いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

 知識

■ 使用条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器 (Qi2 の MPP 仕様は除く) を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 及び 2.0.0 より後の規格に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものではありません。
- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。
- ただし、次の携帯機器に対しては、5W をこえる充電に対応しています。
 - ・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
 - ・ Galaxy は、Galaxy 独自の充電規格に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。
 - ・ WPC 規格の Ver2.0.0 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、15W 以下の充電に対応しています。

■ スマートエントリー&スタートシステムの使用について

キー検知機能および FC システムの始動／停止を優先するため、充電が一時的に停止する場合があります。

室内で電子キーが検知できない場合、充電は行われません。

充電中スマートエントリー&スタートシステムが電子キーを検知すると、充電が一時的に停止する場合があります。

次のような場合に、電子キーの検知が行われます。

- 電子キーを車外に持ち出した場合

- ドアを開閉した場合

- 外部給電中

■ 携帯機器にカバーやアクセサリを付けたときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリの種類によっては充電できない場合があります。また、本ワイヤレス充電器は Qi2 に対応していないため、Qi2 対応のカバーやアクセサリを装着した機器では充電ができない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いて充電が行われなときは、カバーやアクセサリをはずしてください。

■ 充電中に AM ラジオに干渉音が聞こえる場合

AM ラジオの干渉を低減するために、以下の手順を実行してワイヤレス充電器の周波数を変更してください。

- 1 充電中の携帯機器を充電トレイから取り外します。
- 2 作動表示灯が緑に変わり、ノイズが消えたことを確認します。
- 3 携帯機器を充電トレイに置き、作動表示灯がオレンジで 2 回点滅後、点灯することを確認します。

表示灯が 2 回点滅しない場合、またはノイズが消えない場合は、最初から手順を繰り返してください。

■ 充電中についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがあります

が、異常ではありません。

■清掃について

→P.448

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35℃以上になっているとき
- 折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアから外れているとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、次のようなものが挟まれているとき
 - ・厚みがあるケースやカバー
 - ・厚みがあるデコレーション
 - ・指リング（ポップソケット含む）やストラップなどのアクセサリ
 - ・レンズ部に凸形状があるケースやカバー
 - ・レンズ面を保護するカバー
 - ・滑り止めマット
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード

- ・アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・金属製の財布やかばん
- ・小銭
- ・カイロ
- ・CD や DVD などのメディア
- ・金属製のデコレーション（含む MagSafe / Qi2 用の金属性リングシール）
- ・金属製のケースやカバー（含む MagSafe / Qi2 用の金属性リングが付いたもの）
- ・携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース
- 機器のカメラ側がトレイの底面にくるように置かれている
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 2つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS を更新すると、充電仕様が変更ことがあります。機種のバッテリー保護機能が強化され、スマートフォンの内部温度に応じて充電が制限される場合があります。

また、WPC（Wireless Power Consortium）互換バージョンが変更されると、急速充電が利用できなくなることがあります。詳細は各スマートフォンメーカーのホームページをご確認ください。

■商標について

- iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

なお、iPhone の商標はアイホン株式会社

のライセンスにもとづき使用されています。

MagSafe は Apple Inc. の商標または登録商標です。

● Galaxy は、Samsung Electronics Co.,Ltd. の商標または登録商標です。

警告

■ 運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電トレイと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電トレイにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない

MagSafe / Qi2 用の後付用金属製リング及び、純正品以外のケースも発熱する危険性があるため、ご使用を控えて下さい

- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

注意

■ 持ち込み機器等の故障やデータ破損を防止するために

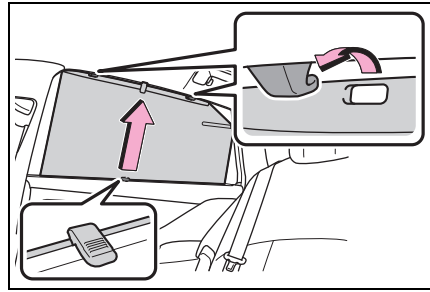
- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。
携帯機器の充電面と充電エリアの間に、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを収納できるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようご注意ください。
- 充電中に、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれるおそれがありますので、近付けないでください。

⚠ 注意

- 携帯機器やスマートフォンを車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、内蔵電池の故障の原因になります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。



⚠ 注意

■ 正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- リヤドアサンシェードにものを貼らない
- リヤドアサンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない
- リヤドアが開閉しているときは、リヤドアサンシェードを操作しない
- 収納するときに傾けた状態で収納しない
傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

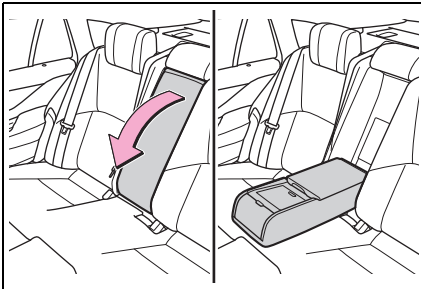
■ リヤドアサンシェードの破損を防止するために

次のことをお守りください。

- フックが片方はずれた状態で使用しない
リヤドアを開閉するときにリヤドアサンシェードが破損するおそれがあります。
- フックにかけた状態でスクリーン部をひっぱらない
スクリーン部が破損するおそれがあります。

リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用します。



⚠ 注意

■ リヤアームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

リヤドアサンシェードを使うには

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

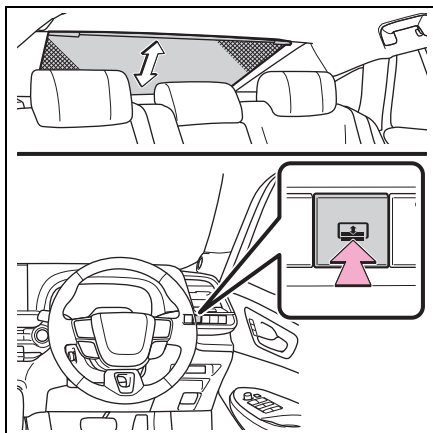
もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくり収納します。

リヤサンシェードを上昇／下降するには

スイッチ操作でリヤサンシェードが上昇／下降します。

■ フロント席からの操作

スイッチを押す（上昇／下降）



■ リヤ席からの操作

▶ リヤシェード操作画面

1 リヤマルチオペレーションパネルのHOME画面で「シェード」にタッチする（→P.390）

2 操作ボタンにタッチする

サンシェードが上昇／下降します。



▶ ショートカット画面

操作ボタンにタッチする

サンシェードが上昇／下降します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ FC システム停止後の作動

パワースイッチを OFF にしたあとでも、約 1 分間はリヤサンシェードをリヤ席から操作できます。

■ リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトポジションを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、次のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す ※
- シフトポジションを P にする
- シフトポジションを R 以外にし、15km/h 以上で走行する

リバース連動機能により、リヤサンシェードが下降した状態で FC システムを停止した場合は、再び FC システムを始動させて 15km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

※ スイッチ操作後はリバース連動機能が作動しない場合があります。作動可能状態にするには、再度上記の操作を行ってください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.562)

⚠ 警告

■ リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードが作動しているとき、リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。

巻き込まれてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

FC システムが停止しているときは、リヤサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるために

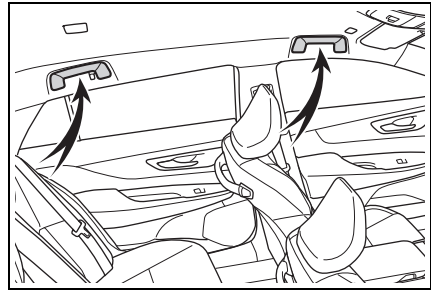
次のことをお守りください。

- リヤサンシェードのモーターや他の部分に負荷をかけすぎない
- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- リヤサンシェードにものを貼らない
- 溝をきれいに保つ
- 長時間リヤサンシェードの操作を続けない

アシストグリップを使うには

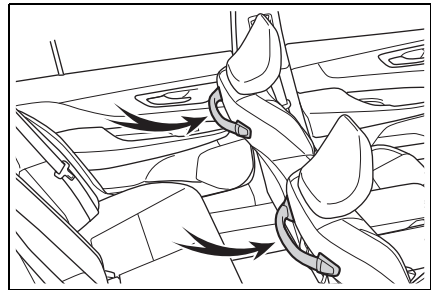
▶ 回転式

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



▶ 固定式

乗車時には、フロントシートに取り付けられているアシストグリップをお使いください。



⚠ 警告

■ アシストグリップについて（回転式）

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

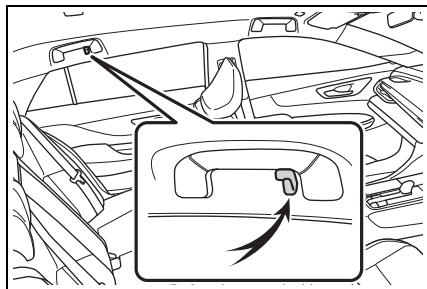
■ アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

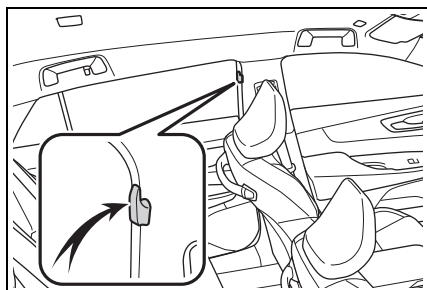
コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。

▶ A タイプ



▶ B タイプ



警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

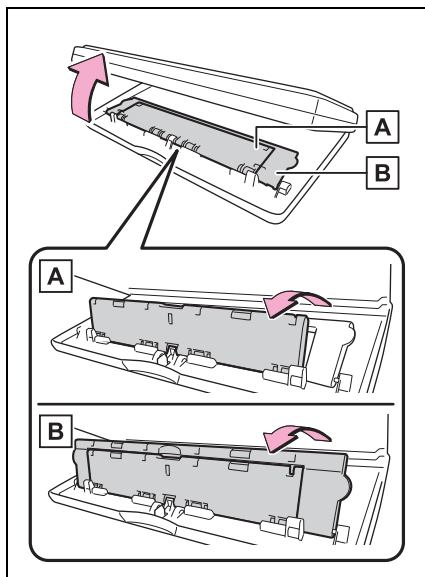
フットレストを使用するには

使用するときには、次の要領でリヤ席の足元に設置してください。

- 1 収納袋からフットレストを取り出す
- 2 フットレストを開き、2 つあるうちのいずれかのフラップを引き上げる

使用する側により、フットレストの傾き

がかわります。お好みに合う側のフラップをご使用ください。

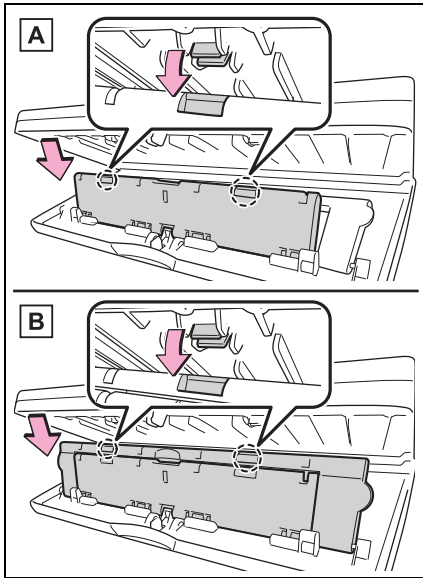


A フットレストの傾きが小さい

B フットレストの傾きが大きい

3 フラップの端にある切り欠き部（2 か所）とフットレスト裏面にある受け部が合うようにし

て、フットレストを降ろします。



A 傾きが小さい状態で使用するとき

B 傾きが大きい状態で使用するとき

4 フットレストをリヤ席の足元に置く

知識

■フットレストを設置するときは

リヤ足元の吹き出し口（→P.401）をふさがないように設置してください。

■清掃するときは

泥・砂・ほこりなどを取り除いてから、水またはぬるま湯を含ませた布を使って表面の汚れをふき取ります。

■フットレストを使用しないときは

収納袋に入れ、ラゲージスペースに収納してください。

警告

■フットレストを使用するとき

フットレストはリヤ席専用です。絶対にフロント席では使用しないでください。

運転操作や乗車姿勢などに悪影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあります。

■フットレストを折りたたむとき

フットレストに指などを挟まないように注意してください。

注意

■フットレストの破損を防ぐために

●フットレストを置いた状態でフロントシートを操作するときは、フットレストが干渉していないことを必ず確認してください。干渉しているときは、必ずフットレストの設置位置を調整してから、フロントシートを操作してください。

●フットレストは、必ずリヤシートに着座した状態でご使用ください。フットレストの上に直接乗ると、破損するおそれがあります。

アクセサリーコンセント (AC100V・1500W)・ 非常時給電システム

● アクセサリーコンセント

車内において、AC100Vで消費電力の合計が1500Wの電気製品を使用することができるシステムです。(→P.431)

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。(→P.432)

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用することができます。(→P.432)

燃料残量警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

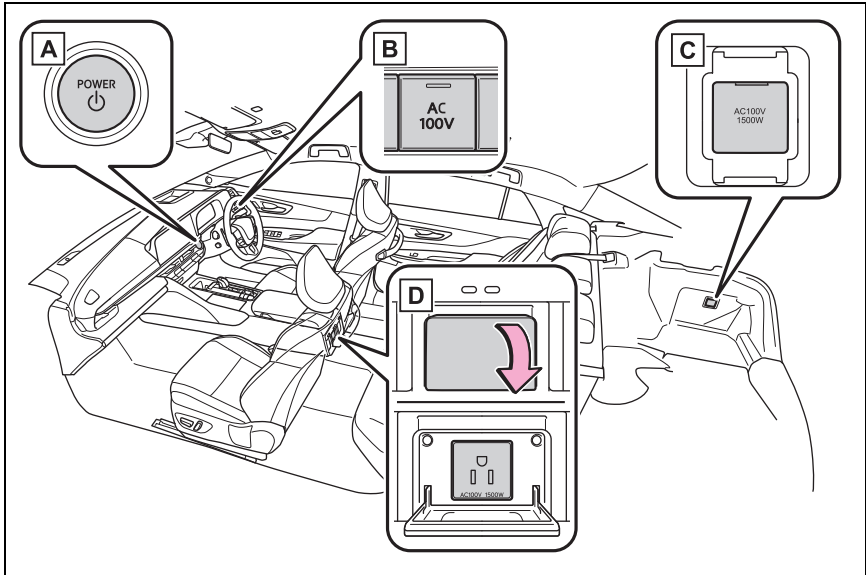
- システム作動中はFCシステムが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

す。

- ボンネットが閉まっていること
 - 燃料充てん扉が閉まっていること
 - パーキングブレーキがかかっていること
 - シフトポジションがPになっていること
 - パワースイッチがOFFになっていること
 - 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やトランク内に貴重品などを放置しないこと
- 非常時給電システムを使用するときには次の点についてもご確認ください。
- DC外部給電を行っていないこと

各部の名称



- A** パワースイッチ (→P.183)
- B** AC100V スイッチ
- C** トランク内コンセント (運転席側)
- D** 室内コンセント (コンソールボックス後方)

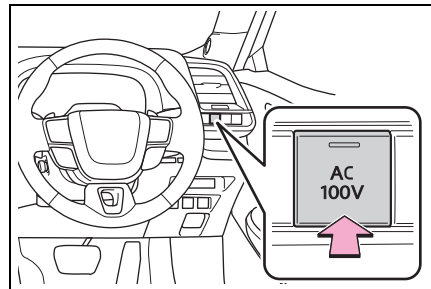
アクセサリコンセントを使用するには

■ コンセントを ON するとき

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押す (→P.183)
- 2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON / OFF が切りかわります。



- 3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む (→P.433)

■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める

非常時給電システムを使用するには

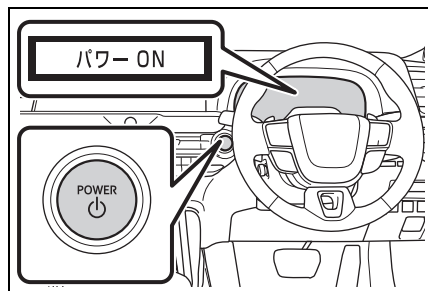
■ 非常時給電システムを起動するとき

- 1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする (→P.187) (パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す ※)

※ ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。(→P.187)

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。



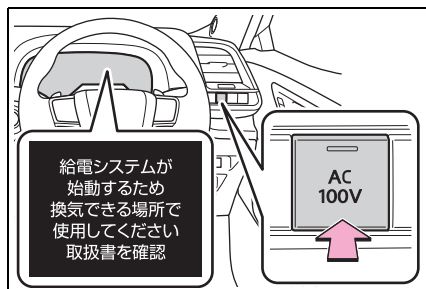
- 2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、

AC100V スイッチを 3 回連続で押す

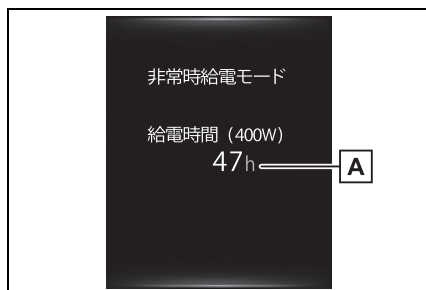
AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



- 3 マルチインフォメーションディスプレイに給電状態が表示されます



- A** 400W 消費の電気製品を接続した場合に給電可能なおよその時間

表示される時間は 400W 消費時の目安

であり、使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

- 4 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む(→P.433)

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める
- 5 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

- 1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

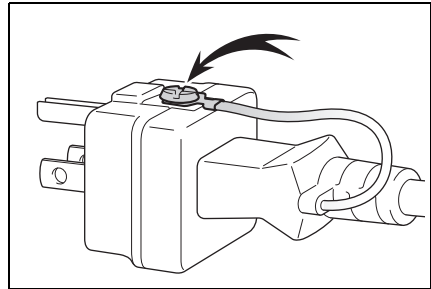
次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

● 電源プラグが大きくコンセント

の奥までしっかり挿し込めない

● 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。



■ 車外にコードを引いて使用するとき

付属の外部給電アタッチメントを後席ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。外部給電アタッチメントは、ラゲージスペースに搭載されています。

□ 知識

■ アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製

品と併用しないでください。

- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用時、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が1500Wをこえることがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用時、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用時、リヤ席付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。
- 非常時給電システムの使用時は、燃料残量警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■駐車中または停車中に使用するとき

- スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- メカニカルキー（→P.525）でドアの施錠・解錠することができます。

- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません キーの所在を確認してください」と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプについては、P.202を参照してください。

■非常時給電システムを使用するとき

DC 外部給電はできません。

⚠ 警告

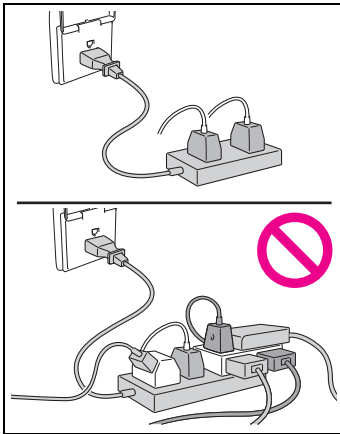
■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があります、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
- ・ コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- ・ コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す
- アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでゆめるときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■ アクセサリーコンセント、非常時給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではならず、ほかの方をお願いしてください。

- 給電中は車内にとどまらないでください。

給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。

給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

警告

- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。

- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

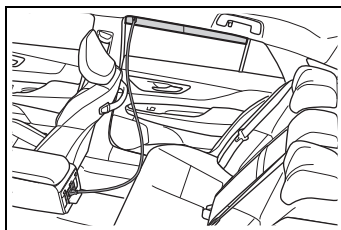
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

- ・ 雨水の浸入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
- ・ コードを窓やドアで挟まない
- ・ たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



- ・ 誤って車両を発進させない
- 燃料充てんや洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
- 排気排水管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。

警告

●FC ユニットルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。

●腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

●発電時に酸素を消費します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

■走行中に使用するとき

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合

・落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合

・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）

・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

注意**■ショートや故障を防ぐために**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■駐車中または停車中に使用するとき

●給電中に排気排水管から水が出てありますが、異常ではありません。



注意

■ 非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してから FC システムを始動してください。

正常にアクセサリコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正しい手順に従って作業してもアクセサリコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ アクセサリコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなり、駆動用電池の残量が不足している	燃料を充てん後、しばらく走行するなどして駆動用電池の残量を回復させてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池などが高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。

考えられる原因	対処法
特に外気温が低いときなど、駆動用電池などが低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯しない場合は、一度パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。

考えられる原因	対処法
消費電力の合計が 1500W をこえている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 ・ ピンなどの異物が挿さっていないか ・ 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。 (→P.187) マルチインフォメーションディスプレイに「パワー ON」と表示されていることを確認してください。
AC100V スイッチを押す間隔が長すぎる、または AC100V スイッチを 3 回よりも多く押している	AC100V スイッチは 1 秒以上間隔をあけずに 3 回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池などが高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

考えられる原因	対処法
特に外気温が低いときなど、駆動用電池などが低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W をこえている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

考えられる原因	対処法
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか
燃料充てん扉が開いている	燃料充てん扉を閉じて、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
DC 外部給電を実施している	DC 外部給電を終了し、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

■「燃料の残量低下により給電停止しました」と表示されたとき

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなった	燃料を充てん後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

■「水素充填口開検知 安全な場所に停車して閉じてください」と表示されたとき

考えられる原因	対処法
燃料充てん扉が開いた	燃料充てん扉を閉じて、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた

7

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 444

内装の手入れ 447

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 450

ガレージジャッキ 452

FC ユニットルームカバー 453

ウォッシャー液の補充 455

タイヤについて 456

タイヤの交換 466

タイヤ空気圧について 472

エアコンフィルターの交換 473

駆動用電池冷却用吸入口の清掃
..... 475

電子キーの電池交換 478

ヒューズの点検・交換 480

外装のランプの交換 483

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワートランクリッドを停止する

車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にも

どしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- Nポジションに保持したままにする必要があるときは、P.192 を参照してください。

■高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部に近付けすぎないでください。近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する
（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.140）

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない

- ・ 硬いブラシを使用しない
- ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水にぬれた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部分のお手入れについて

メッキ部分の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

■ワイパーを立てるとき

→P.213

⚠ 警告

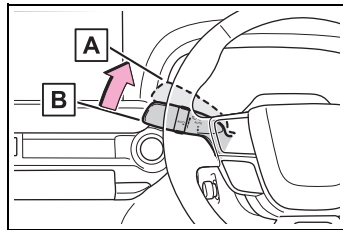
■洗車をするとき

FC ユニットルーム内に水をかけないでください。電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウィンドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウィンドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウィンドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

⚠ 警告

■ フロントバンパー・リヤバンパーについて

フロントバンパーまたはリヤバンパーの塗装に傷が付くと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- Toyota Safety Sense
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- 後方車両への接近通報
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- 安心降車アシスト
- 後方車両接近告知
- 周辺車両接近時サポート
- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- クリアランスソナー

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。

高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

□ 知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラスについて

- フロントサイドドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- フロントサイドドアガラスの汚れがひどいときは、フロントサイドドアガラ

スの開閉をくり返さないでください。

■デジタルインナーミラーのお手入れについて

→P.157

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 床・リヤ席・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.72)
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→P.32)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電（ワイヤレス充電器）(→P.419) をぬらさないでください。
発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・シート・デジタルインナーミラー・ハンドル以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・シート・デジタルインナーミラー：シンナー・ベンジン・アルコール・その他の酸性やアルカリ性の溶剤
 - ・ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.223)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

 注意

- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパー UV カットガラスを清掃するとき

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

 知識

■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% にうすめて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

 注意

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

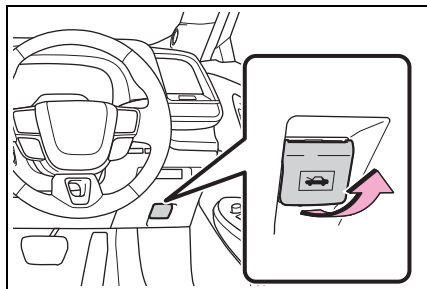
合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

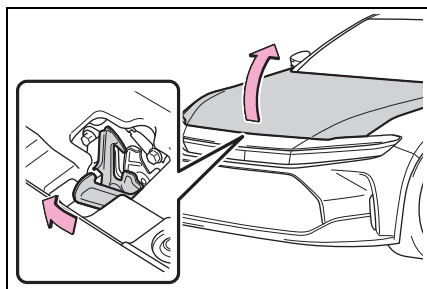
ボンネット

ボンネットを開けるには

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



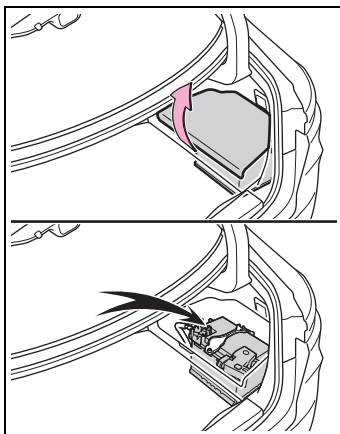
- 2 レバーを引いてボンネットを開ける



知識

■補機バッテリーについて

- この車両の補機バッテリーはトランク（運転席側）のカバー内にあり、FCユニットルームには搭載されていません。



- 補機バッテリーがあがってしまったときは、FCユニットルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P.527）

⚠警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

走行後のFCユニットルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

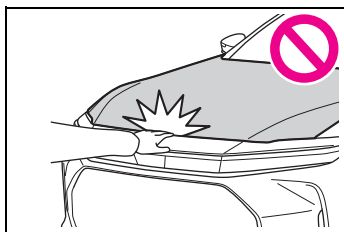
■ FC ユニットルーム点検後の確認

FC ユニットルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをFC ユニットルーム内に置き忘れておくと、故障の原因になったり、また、FC ユニットルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ 補機バッテリーの取り扱いについて

→P.530

- ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ・ ロッド部を軍手などでふれない
- ・ ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

⚠ 注意

■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

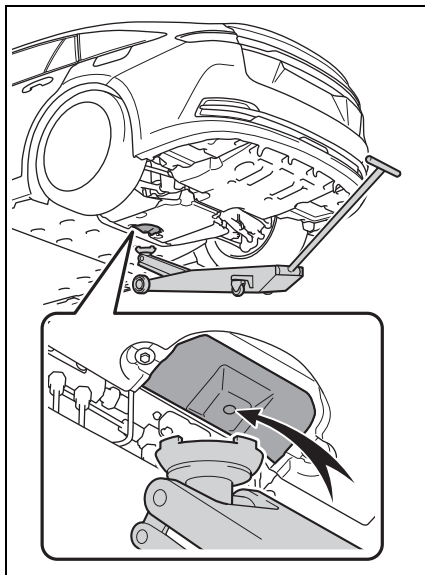
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをすることがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



■ リヤ側



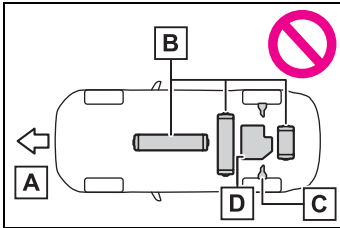
⚠ 警告

■ 車両を持ち上げるとき

- ガレージジャッキを使用するときに、誤った位置でセットし車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

⚠ 警告

- 水素タンク、電気モーター（駆動モーター）やリヤサスペンション部などでジャッキアップしない



- A** フロント
- B** 水素タンク
- C** サスペンション部
- D** 電気モーター（駆動モーター）

FC ユニトルームカバー

ヒューズの交換・点検などを行うときに取りはずします。

⚠ 警告**■ けがを防ぐために**

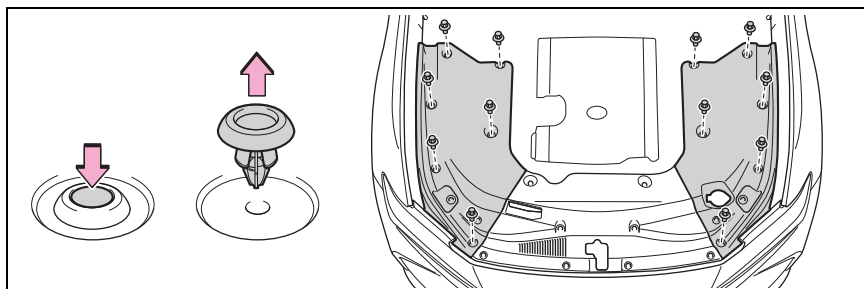
カバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意**■ カバー取り付け後の確認**

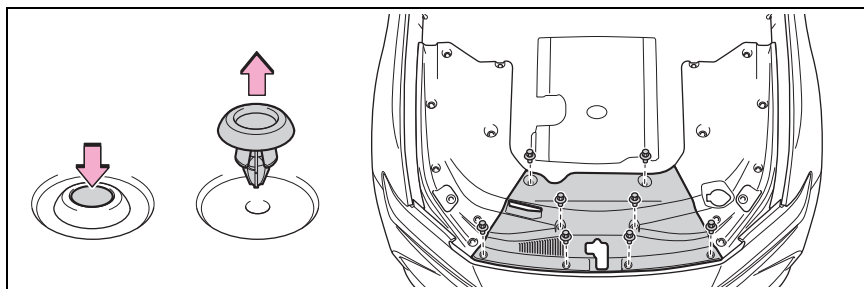
もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

FC ユニットルームカバーの取りはずし

▶ 外側

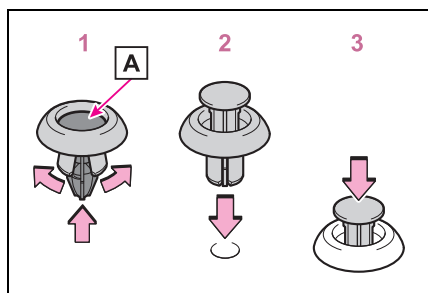


▶ 前側



外側の FC ユニットルームカバーを取りはずしてから、前側の FC ユニットルームカバーを取りはずしてください。

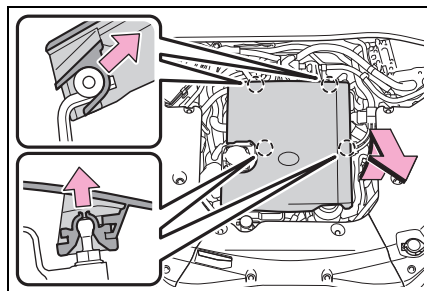
クリップの取り付け



- 1 クリップの中央部分 **A** を押し上げる
- 2 挿し込む
- 3 クリップ中央部分を押し下げる

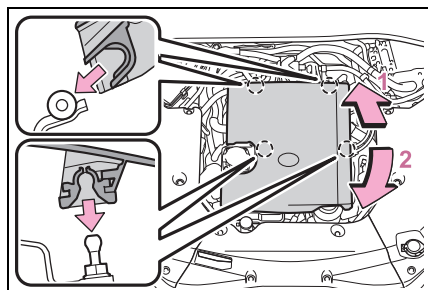
FC スタックカバーの取りはずし

FC スタックカバーを取りはずす



FC スタックカバーの取り付け

FC スタックカバーを取り付ける

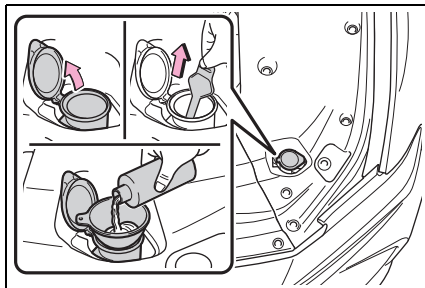


- 1 FC スタックカバーのうしろ側のフックを取り付ける
- 2 FC スタックカバーの前側をピンに挿し込む

ウォッシャー液の補充

補充するには

液面が LOW の位置まで低下したら、ウォッシャー液を補充してください。

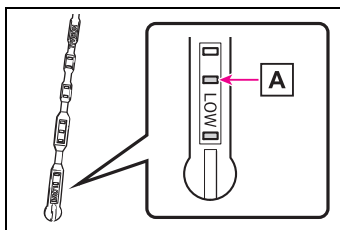


知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



A 現在の液量

 警告**■ウォッシャー液を補充するとき**

FC システムが熱いときや FC システムが作動しているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、FC システムなどにかかるると出火するおそれがあり危険です。

 注意**■ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液がなくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

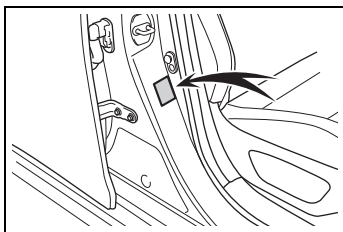
● タイヤの亀裂・損傷の有無**● タイヤの溝の深さ****● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無** **知識****■タイヤ空気圧の数値**

前輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

後輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けボルトを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

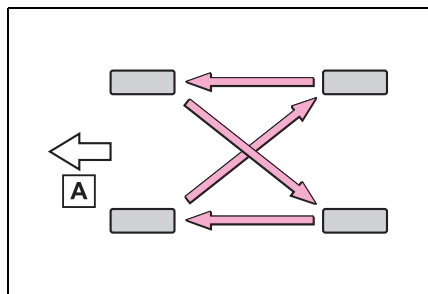
タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタ

イヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムへタイヤ位置の登録の操作を確実に行ってください。(→P.460)



A 前側

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

タイヤ空気圧警報システムは状況に応じて 2 種類の警報とタイヤ空気圧警告灯、ブザーでお知らせをします。(→P.499, 502)

- マルチインフォメーションディスプレイに「空気圧を調整してください」が表示されたとき

通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイに「すみやかに安全な場所でタイヤ点検」が表示されたとき

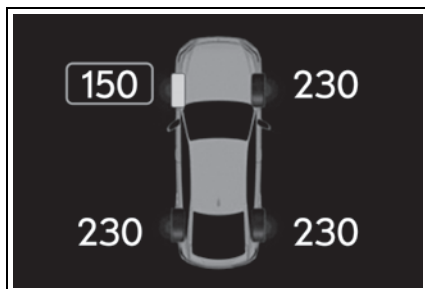
急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

ただし、このシステムはパンク等を検出

できない場合があります。

- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。(→P.98)

表示される単位を変更することができません。(→P.103)



知識

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧表示について

- パワースイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで約 3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 3 分かかります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき
 - ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき

- ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
 - ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいます
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき
 - 電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。
 - 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
 - タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してくだ

さい。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用のIDコードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.462）

知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機のIDコードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約10分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅、その後点灯します。

注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアーマールの原因となります。

注意

● バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ パンク補修液を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤ位置を登録するには

■ タイヤ位置の登録が必要なとき

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります。

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ タイヤ位置の登録のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、15分以上FCシステムを停止する

2 FCシステムを始動する

車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

3 マルチインフォメーションディスプレイのを選択する
(→P.103)

4 を選択する

5 「TPWS 設定」を選択する

6 「タイヤローテーション」を選択する

7 「はい」を選択する

マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ位置登録中のメッセージが表示されます。タイヤ空気圧表示が「---」になり、タイヤの位置判定を開始します。

8 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧の表示と登録完了のメッセージが表示され、タイヤ位置の登録が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも長時間運転すると登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録ができない場合は、パワースイッチは ON のまま、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。

知識

■ タイヤ位置を登録するとき

● 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。

● 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

■ タイヤ位置登録の操作について

● タイヤ位置登録中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的にタイヤ位置判定処理が再開されるため、あらためて登録し直す必要はありません。

● タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ タイヤ位置登録がうまくいかないとき

● 次の場合は、タイヤ位置の登録に時間がかかる場合や、登録ができない場合があります。

- ・ 約 40km/h 以上で走行していない
- ・ 未舗装の場所を走行した
- 1 時間以上走行しても登録が完了できない場合は、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。
- タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定するには

■ タイヤ空気圧の設定が必要なとき

次のような場合は、タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。
(→P.461)

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。(→P.461)

■ 指定空気圧での設定のしかた

1 FC システムを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

2 マルチインフォメーションディスプレイの⚙️を選択する
(→P.103)

3 ⚙️を選択する

4 「TPWS 設定」を選択する

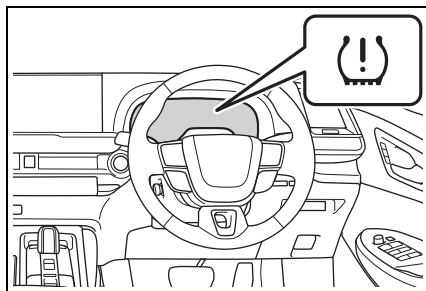
5 「タイヤ空気圧設定」を選択する

6 「指定空気圧で設定」を選択し、フロントタイヤとリヤタイヤの空気圧を選択する

7 「はい」を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



■ 現在の空気圧での設定のしかた

1 タイヤの空気圧を適切な値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。

2 FC システムを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

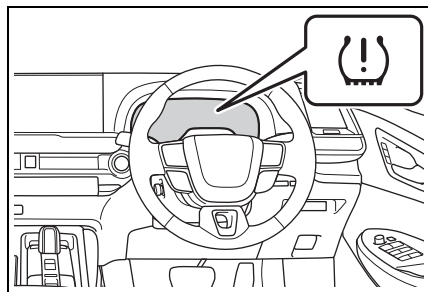
3 マルチインフォメーションディスプレイの⚙️を選択する
(→P.103)

4 ⚙️を選択する

- 5 「TPWS 設定」を選択する
- 6 「タイヤ空気圧設定」を選択する
- 7 「現在空気圧で設定」を選択する
- 8 「はい」を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり3回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに設定中のメッセージが表示されます。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



知識

■ タイヤ空気圧警報システムの警報精度について（現在の空気圧で設定するとき）

- 現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。
- 必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

■ 空気圧設定の操作について（現在の空気圧で設定するとき）

- 空気圧設定中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。
- 空気圧設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。

■ タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき

- 現在の空気圧で設定をする場合、通常約3分で終了します。
- 空気圧設定操作時に警告灯が3回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ 現在の空気圧で設定するとき

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されている

ため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コードの登録のしかた

登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

- 1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上 FC システムを停止する
- 2 FC システムを始動する

車両が動いているときは、ID コードの登録操作ができません。

- 3 マルチインフォメーションディスプレイの  を選択する
(→P.103)

- 4  を選択する

- 5 「TPWS 設定」を選択する

- 6 「タイヤ交換」を選択する

- 7 「新規タイヤ登録」を選択する

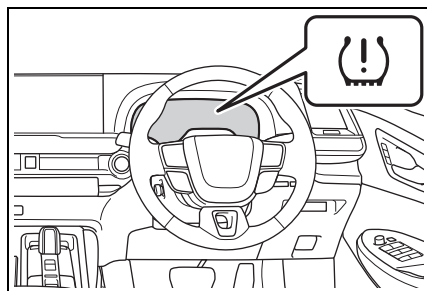
- 8 登録したいセット（「タイヤセット 1」または「タイヤセット 2」）を選択する

- 9 「はい」を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。ID コードの切りかえが中止され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧

表示が「---」になります。



- 10 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

- 11 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する
(→P.461)

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

知識

■ ID コードの登録をするとき

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録

が完了するまでに時間がかかる場合があります。

- すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえを行うと短い時間で切りかえることができます。(→P.464)

■ ID コードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかったり、登録できなかったりすることがあります。
 - ・走行前に約 15 分以上駐車していない
 - ・約 40km/h 以上で走行していない
 - ・未舗装の場所を走行した
 - ・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録操作時に警告灯が点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合は、トヨタ販売店にご依頼ください。

ID コードの登録を中止するには

ID コードの登録を中止するには、マルチインフォメーションディスプレイの「新規タイヤ登録」を再度選択します。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、

ID コードの登録が正常に中止できていません。正しく中止するためには、再度、「新規タイヤ登録」を選択し、警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえるには

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくことで便利です。

- この機能は 2 セット目のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。

ID コードの登録はお客様自身で登録することができます。(→P.462)

- ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。
- ID コード登録中は、正常に ID コードの切りかえができないおそれがあります。ID コードの登録を中止してから切りかえを行ってください。

■ ID コードの切りかえかた

- 1 切りかえをしたいタイヤセットに交換する
- 2 マルチインフォメーションディスプレイの  を選択する (→P.103)
- 3  を選択する
- 4 「TPWS 設定」を選択する
- 5 「タイヤ交換」を選択する

6 「登録済みタイヤ切替」を選択する

7 登録したいセット（「タイヤセット 1」または「タイヤセット 2」）を選択する

8 「はい」を選択する

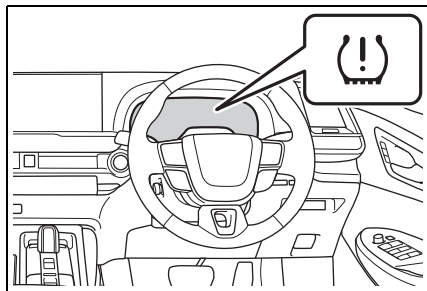
タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、ID コードの切りかえを開始します。

ID コードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、切りかえ中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「---」になります。

約 2 分後に ID コードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションに登録完了のメッセージが表示されます。

約 4 分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。

装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。



9 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する
(→P.461)

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

10 タイヤの位置を登録する
(→P.460)

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するとき
は、工具とジャッキをご準備く
ださい。

この車両はホイールボルトを使
用しています。

工場出荷時に装着されたホイ
ールを使用する場合は、専用の
トヨタ純正ホイールボルトを使
用する必要があります。

ご自身でのタイヤの交換に不安
がある場合は、トヨタ販売店に
ご相談ください。

- ジャッキハンドル
- ガイドピン
- ホイールボルトソケット

ジャッキで車体を持ち上げる前 に

- 地面が固く平らで安全な場所に
移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- FC システムを停止する
- パワートランクリッドの設定を
OFF にする (→P.137)

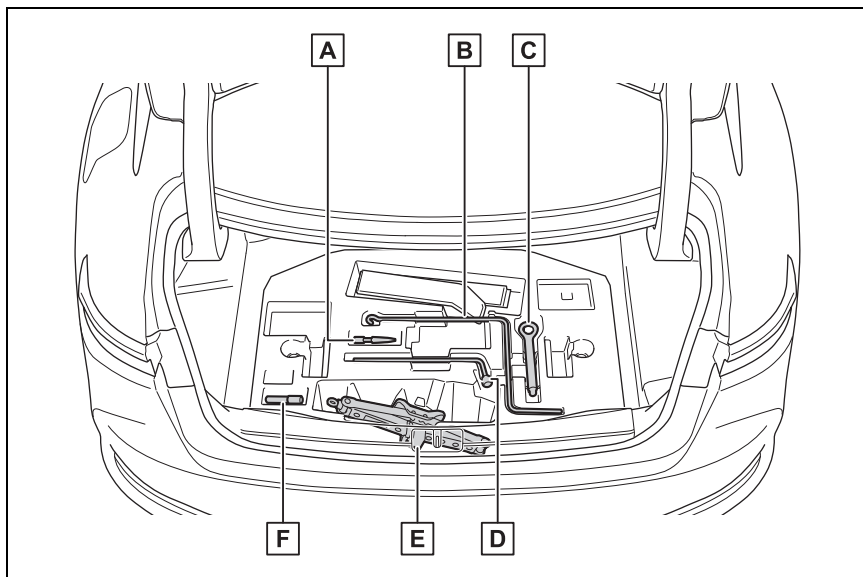


知識

■ 工具について

お客様の車にはタイヤパンク応急修理
キットが標準装着のため、タイヤ交換に
使用する以下の工具は搭載されていま
せん。工具はトヨタ販売店で購入するこ
とができます。

- 輪止め
- ホイールボルトレンチ
- ジャッキ

工具とジャッキの位置

- A** ガイドピン ※
- B** ジャッキハンドル ※
- C** けん引フック
- D** ホイールボルトレンチ ※
- E** ジャッキ ※
- F** ホイールボルトソケット ※

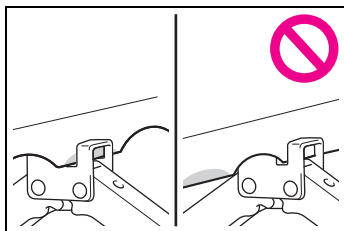
※ ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールボルトレンチ、ガイドピン、ホイールボルトソケットは工場出荷時には搭載されていませんが、トヨタ販売店で購入することができます。詳しくはトヨタ販売店におたずねください。

警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける



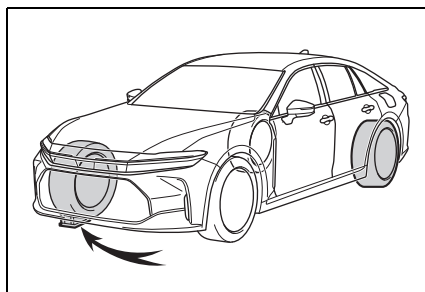
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、FC システムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

■ タイヤ交換時のパワートランクリッドの設定

タイヤ交換などをする際は、パワートランクリッドの作動を停止してください。停止しないと、誤ってパワートランクリッドを作動させたときにトランクが動き、指や手を挟んでけがをすることがあります。

タイヤの取りはずし

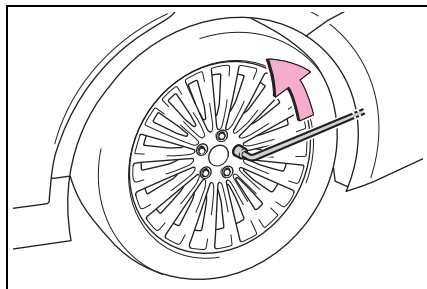
1 輪止め※をする



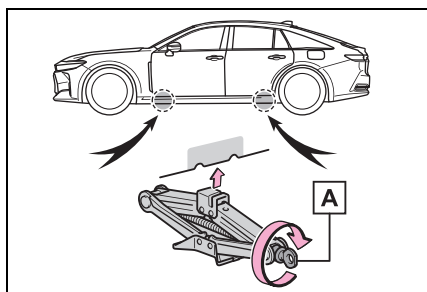
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

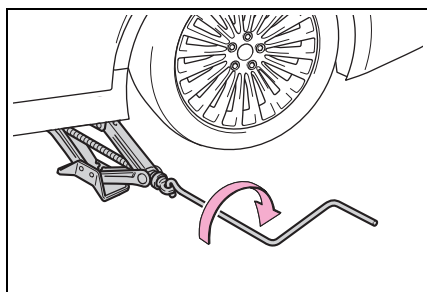
- 2 ホイールボルトレンチを使用し、すべてのホイールボルトを少し（約 1 回転）ゆるめる



- 3 ジャッキの[A]部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける



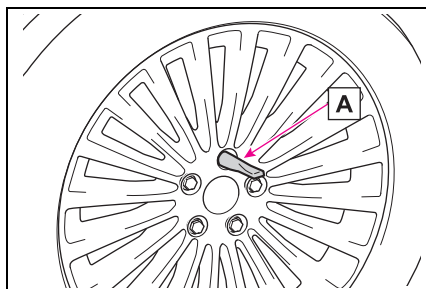
- 4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 5 最上部にあるホイールボルト 1 本を取りはずし、ガイドピン [A] を手で締め付ける

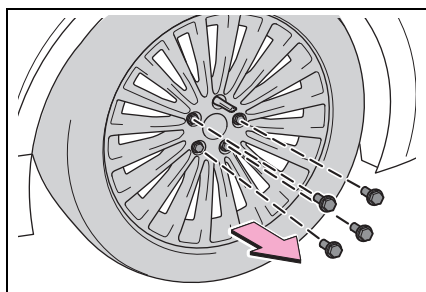
時計まわりにまわらなくなるまで締め付

けます。



- 6 ホイールボルトすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



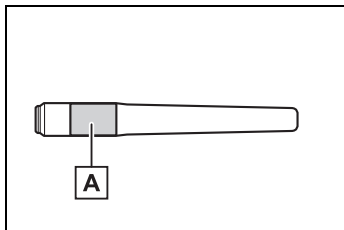
警告

■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

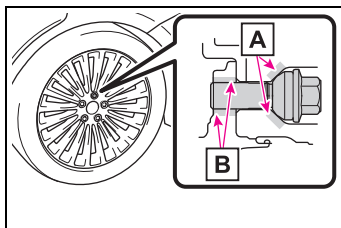
警告

- タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。また、ガイドピンは樹脂製のため **A** 部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。



- 次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ ホイールとホイールボルトの接触面は、嵌合するように設計されています。工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のトヨタ純正ホイールボルトを使用してください。なおトヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式・型式のホイールボルトは使用しないでください。また、工場出荷時に装着されたホイールボルトがすべてのホイールに適合するわけではありません。工場出荷時に装着されたホイール以外を取り付けるときは、ホイールの購入先にお問い合わせください。

- ・ ホイールボルトとホイールの球面座部 **A** にオイルやグリースを塗らないでください。ホイールボルトを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじ **B** が破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ホイールボルトを取り付けるときに、オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。



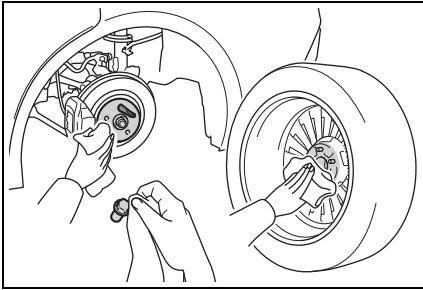
- ・ タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ・ ホイールボルトのめねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ホイールボルトを締め付けるときは、ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブのめねじが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面とホイールボルトの汚れをふき取る

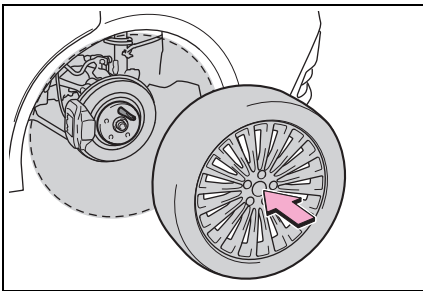
汚れていると、走行中にホイールボルトがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがある

ります。



2 ホイールの穴にガイドピンを通し、タイヤを取り付ける

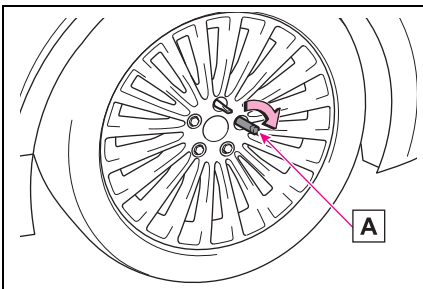
ホイールセンタ穴とハブセンタが嵌合し、ホイールが接触面にあたるまで、しっかり取り付けてください。



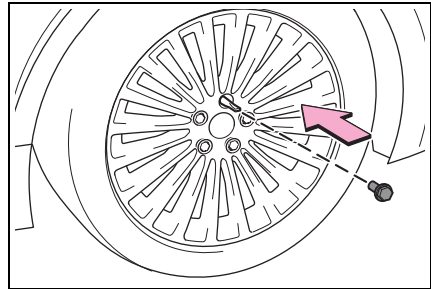
3 手または、ホイールボルトソケット[A]を使用し、ホイールボルトを軽く締め付ける

スペアタイヤが落下しないように押さえてください。

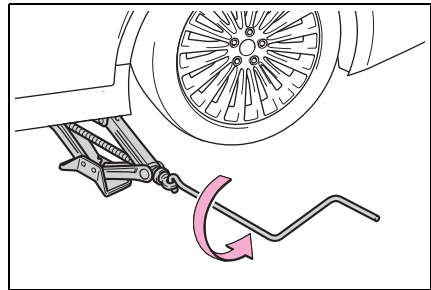
ホイールボルトソケットは手による仮締め以外に使用しないでください。



4 ガイドピンを取りはずし、ホイールボルトを手順3同様に軽く締め付ける

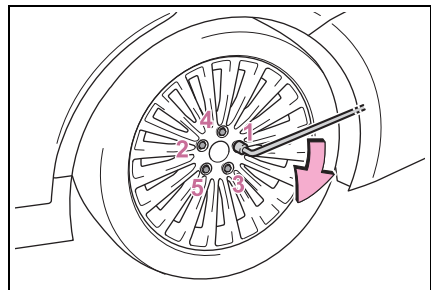


5 車体を下げる



6 ホイールボルトレンチを使用し、図の番号順でホイールボルトを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
140N・m (1428kgf・cm)



7 すべての工具を収納する

 警告**■ 工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換**

→P.459

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。

 知識**■ タイヤ空気圧が適正でない場合**

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告**■タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

注意**■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

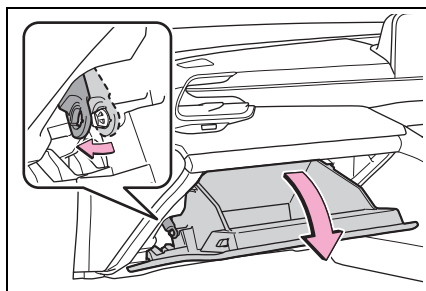
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

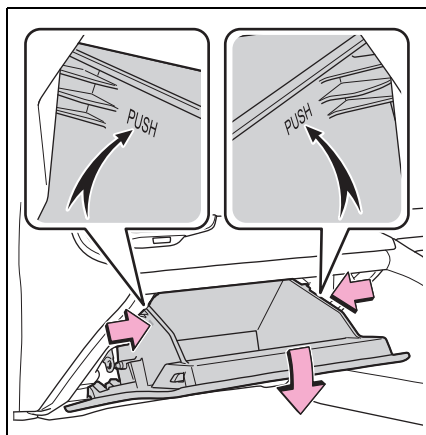
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーステアのピンをはずす



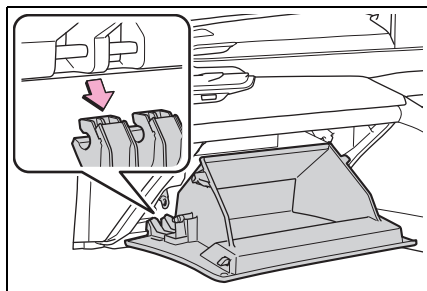
- 3 グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



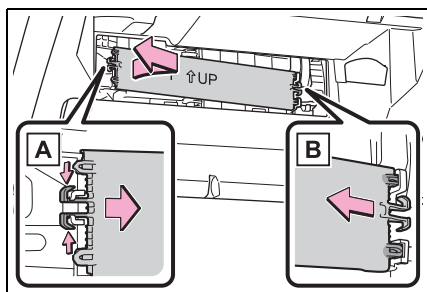
- 4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持

ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

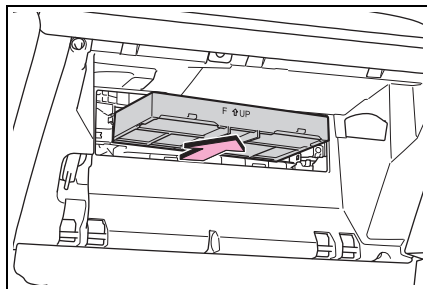
軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



- 5** フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィルターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす

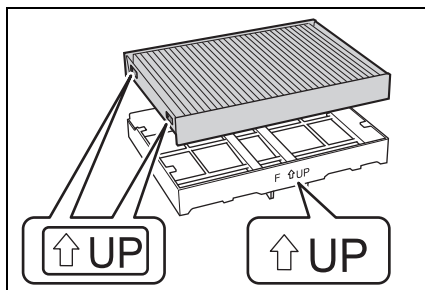


- 6** フィルターケースを取りはずす



- 7** フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



- 8** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km[7500km※¹]ごと、ただし12ヶ月をこえないこと ※²

※¹ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※² 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりましたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

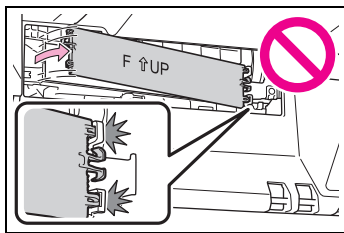
- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→P.473）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずしないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。

ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

□ 知識

■ 定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000kmごとを目安にフィルターを清掃してください。

■ 吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

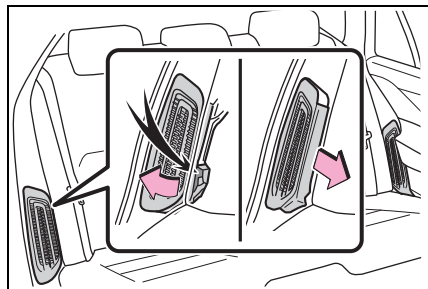
すみやかに清掃してください。警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

清掃のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

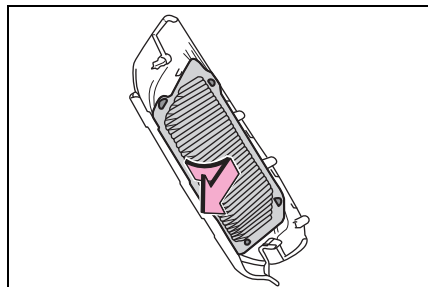
2 吸入口カバーを取りはずす

助手席側にも吸入口があります。



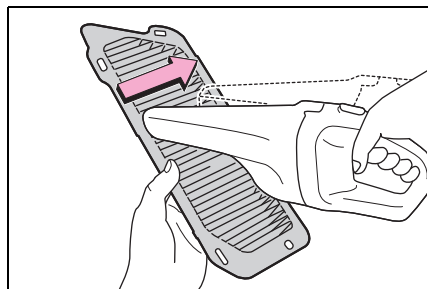
3 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

吸入口カバーにほこりがたまっているときは、掃除機などで取り除いてください。



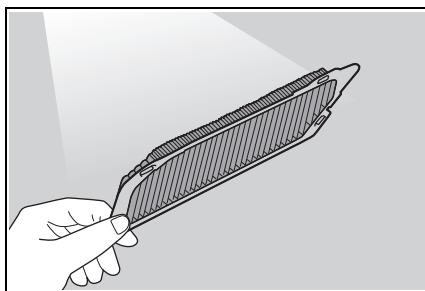
4 フィルターからほこりや砂などを取り除く

掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。



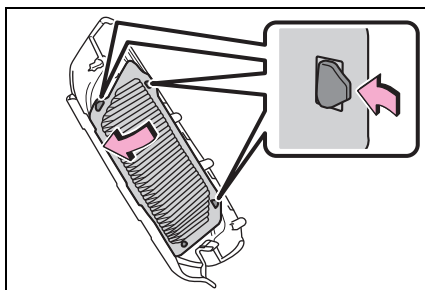
5 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。



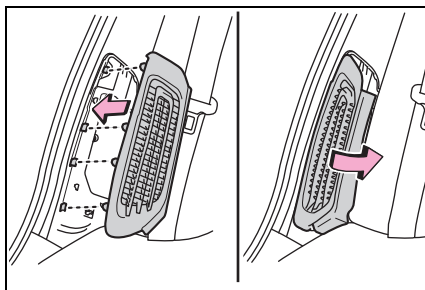
6 吸入口カバーにフィルターをもと通りに取り付ける

フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。



7 吸入口カバーを取り付ける

吸入口カバーのガイド（4ヶ所）を挿し込み、吸入口カバーのシート側を押し付けてください。



- ▶ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」と表示されていたとき

8 FC システムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

警告

■ 吸入口の清掃をするときは

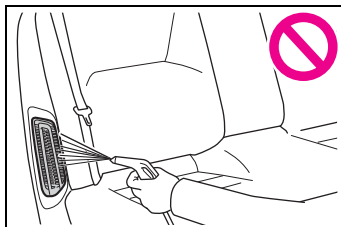
- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを OFF にして FC システムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。

ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



■ 車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■ フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

- エアブローなどを使用しない
- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。



■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

電池交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：

CR2450 (A タイプ)

CR2032 (B タイプ)



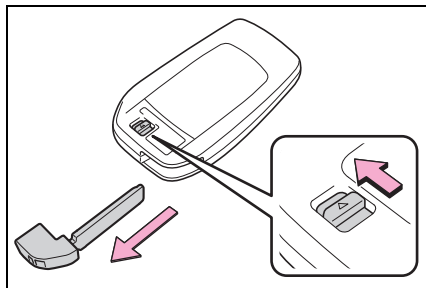
■ リチウム電池 CR2450 (A タイプ)、CR2032 (B タイプ) の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

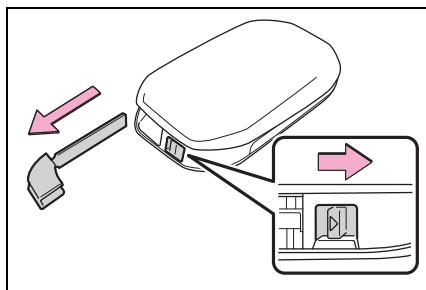
電池を交換するには

- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く

▶ A タイプ



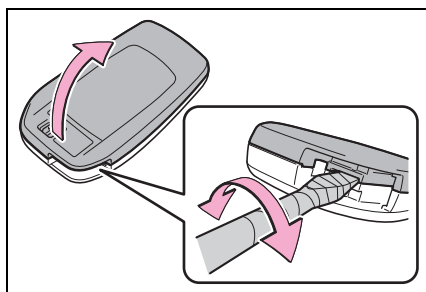
▶ B タイプ



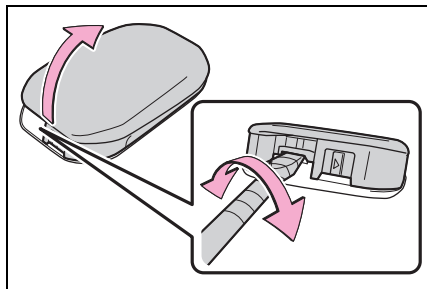
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

▶ A タイプ



▶ B タイプ

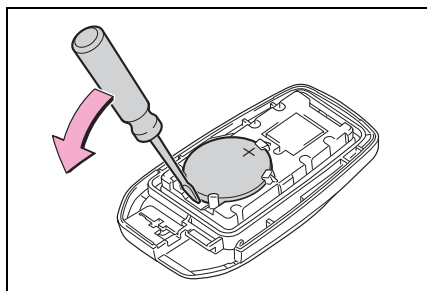


3 消耗した電池を取り出す

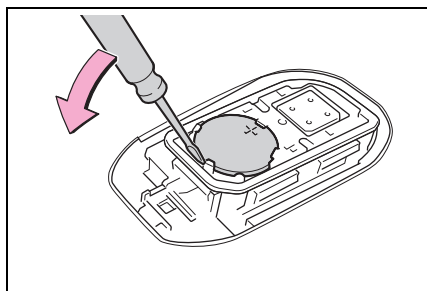
カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。

▶ A タイプ



▶ B タイプ



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠ 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために
- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

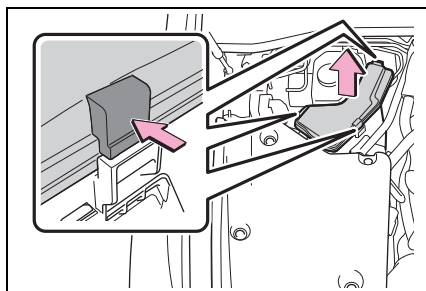
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 ヒューズボックスを開ける

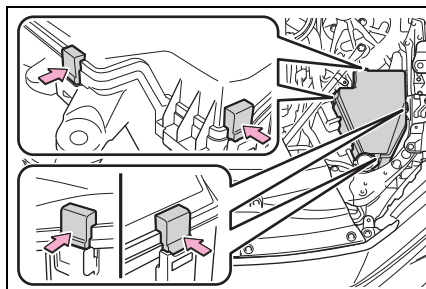
▶ FC ユニットルーム（運転席側）

ツメを押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



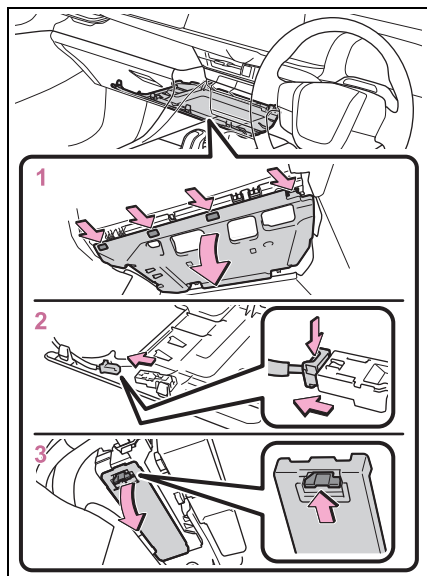
▶ FC ユニットルーム（助手席側）

FC ユニットルームカバーを取りはずし（→P.453）、ツメを押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



▶ 助手席足元（インストルメントパネル）

足元のカバーを取りはずします。

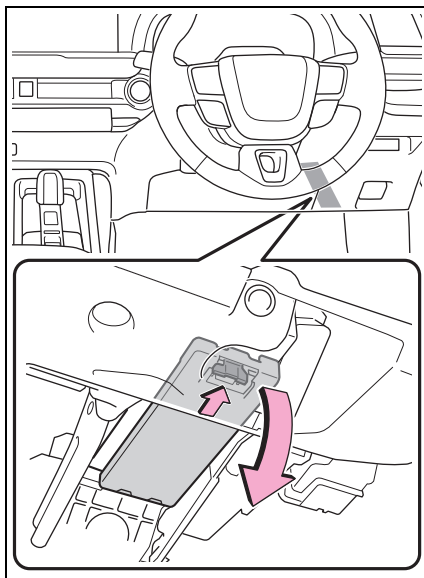


- 1 ツメを押してアンダーカバーを取りはずします。
- 2 ツメを押してコネクターを取りはずします。
- 3 ツメを押してロックをはずし、カバーを取りはずします。

▶ 運転席足元

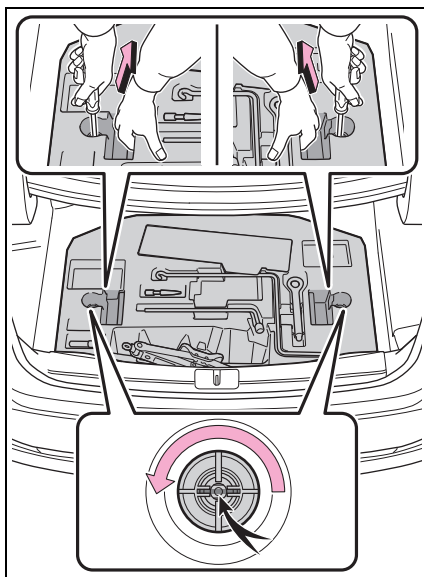
ツメを押しながら、カバーを取りはずします。

取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

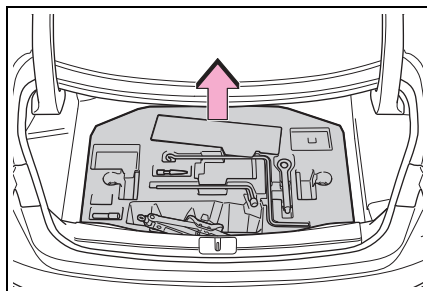


▶ トランク内

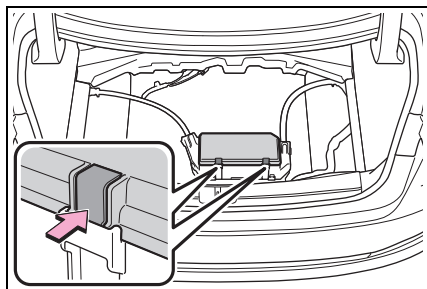
ラゲージマットを取りはずし、小物入れを持ちあげながらマイナスドライバーを使ってクリップを取りはずす。



小物入れを取りはずします。

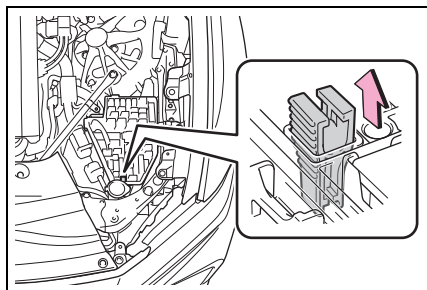


ツメを押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



3 ヒューズを引き抜く

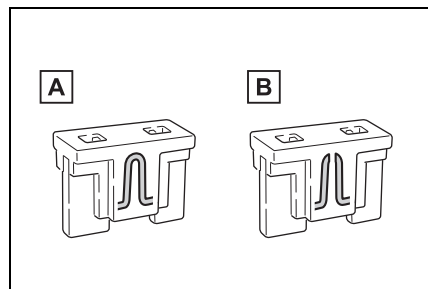
ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容

量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、ランプを交換してください。
(→P.483)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ランプなどの電装部品を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電装部品は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■FC ユニットルームのヒューズボックスの損傷を防ぐために

ヒューズボックスを開けるときは、ツメのロックを完全にはずしてからカバーを持ち上げてください。ツメが損傷するおそれがあります。

外装のランプの交換

外装のランプが点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

 知識**■LED ランプについて**

すべてのランプは、数個のLED で構成されています。もしLED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ランプなどの電装部品を交換するとき

→P.482

8-1. まず初めに

故障したときは	486
非常点滅灯（ハザードランプ）	487
発炎筒	487
車両を緊急停止するには	488
水没・冠水したときは	489
車中泊が必要なときは	490

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	491
警告灯がついたときは	496
警告メッセージが表示されたときは	504
パンクしたときは	513
FC システムが始動できないときは	523
キーをなくしたときは	524
電子キーが正常に働かないときは	525
補機バッテリーがあがったときは	527
オーバーヒートしたときは	532
スタックしたときは	536

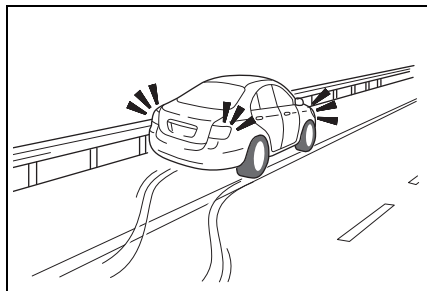
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

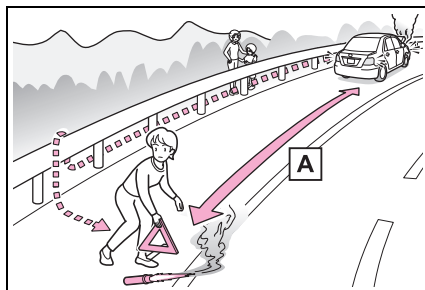
- 非常点滅灯（→P.487）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
 - 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m以上後方（**A**）に発炎筒（→P.487）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

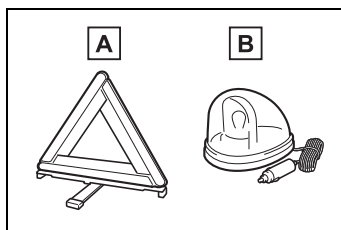
- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

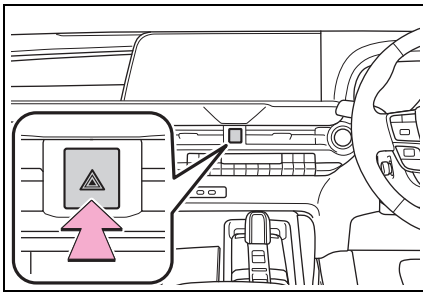
故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。



 知識

■非常点滅灯について

- FC システム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

発炎筒

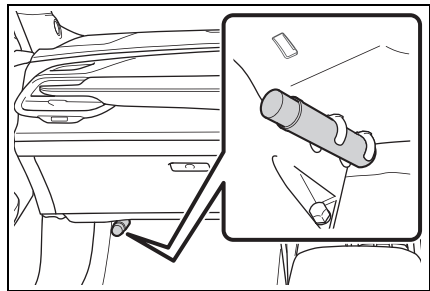
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。

（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）

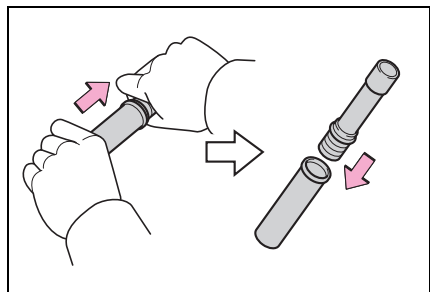
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



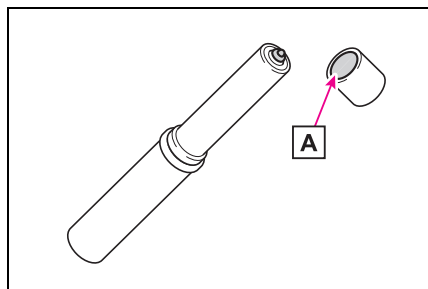
3 先端のフタを取り、すり薬

- A** で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。



警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

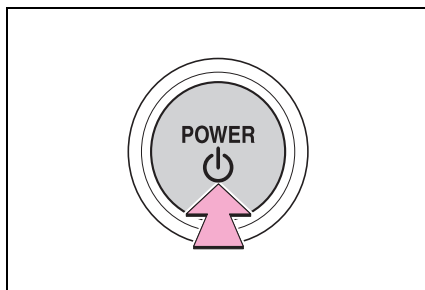
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 FC システムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押して FC システムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 知識

■ 緊急停止したときは

補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

 警告

■ 走行中にやむを得ずFCシステムを停止するとき

走行中にFCシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。FCシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

■ レスキュー時などの緊急時にシステム停止したい場合は

→P.186

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分をこえると、水圧で車内からドアを開けることができません。

 知識

■ 水位がフロアをこえると

水位がフロアをこえて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、FCシステムやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

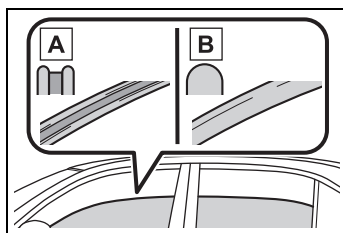
この車両のフロントウインドウガラスとフロントサイドドアガラスには合わせガラスが使用されております。

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。



A 合わせガラス

B 強化ガラス

⚠ 警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 注意

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

● 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

URL : https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。



注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効が悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより後輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください

- シフト制御システムに異常があるとき (→P.186, 505)
- イモビライザーシステムに異常があるとき (→P.55)
- スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき (→P.525)
- 補機バッテリーがあがったとき (→P.527)

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

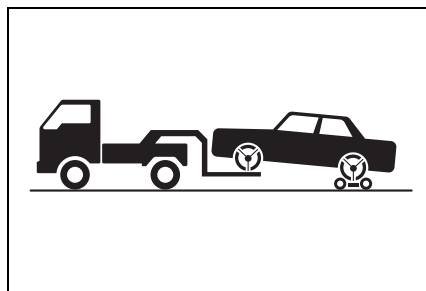
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または

専門業者へご連絡ください。

- FC システムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

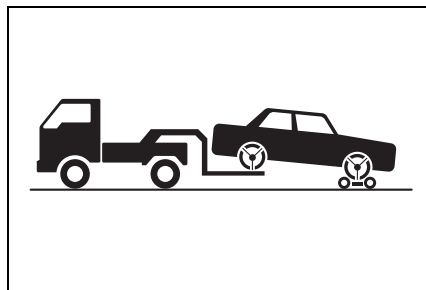
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる



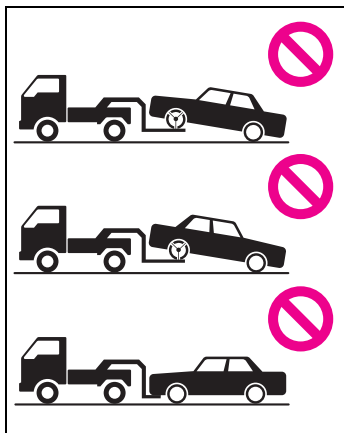
警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ レッカー車でけん引するとき

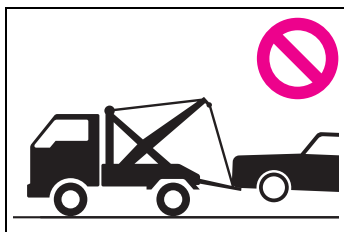
必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。また、モーターが回転して発電し、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



⚠ 注意

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、タイヤ固縛ベルトを使用します。タイヤの固縛方法は、車両運搬車の取扱説明書を確認してください。

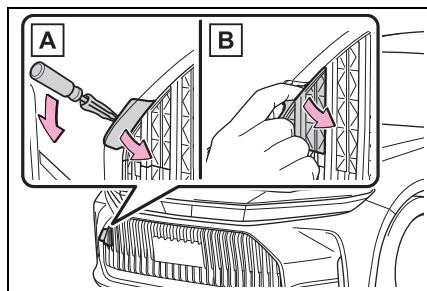
運搬中の車両の揺れを抑えるため、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを OFF にしてください。

他車にけん引してもらうとき

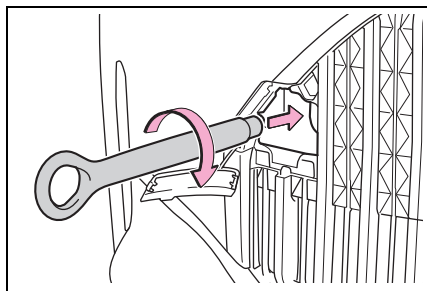
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- 1 トランク内のけん引フックを取り出す (→P.514)
- 2 マイナスドライバーを使って
A のフタを外してから B のフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

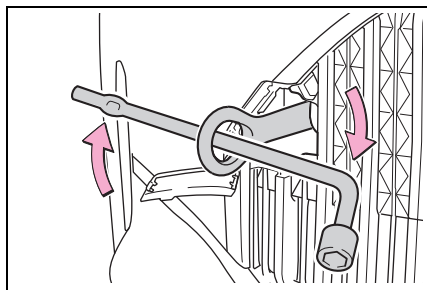


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールボルトレンチ※や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※ トヨタ販売店で購入することができます。



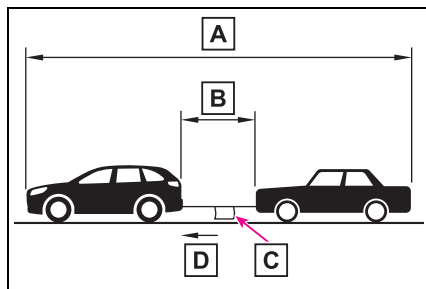
5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：0.3m 平方（30cm ×

30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、FC システムを始動する

FC システムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.195）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

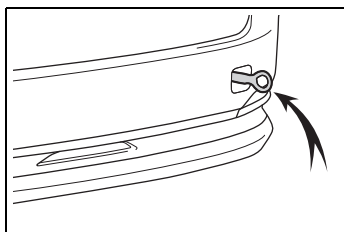
FC システムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールボルトレンチについて

トヨタ販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

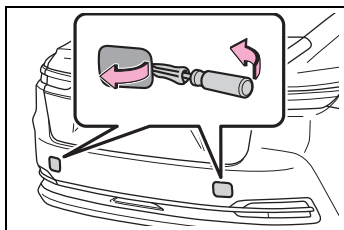


■緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

- 1 トランク内のけん引フックを取り出す (→P.514)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める
- 4 ホイールボルトレンチ ※ や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※ トヨタ販売店で購入することができます。

■氷点下地域へ輸送、けん引する前に

FC システムが、凍結により始動ができなくなる場合があります。直前にウォーターリリースを実施してください。
(→P.199)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パーキングロックにより後輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください
 - ・ 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
 - ・ パワースイッチを OFF にする

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかりと付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

**注意****■車両の損傷を防ぐために**

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ H₂ 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	水素ガスもれを検知したときに、ブザーと共に点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P.72

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 高水温警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.532）に従ってください。

■ 充電警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ FC システム過熱警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	FC システムの過熱 → 安全な場所に停車し、対処方法（→P.532）に従ってください。

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ポップアップフード警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ポップアップフードが作動した → ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。 トヨタ販売店で交換してください。 ポップアップフードの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ペダル誤操作警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料残量計が約 12% 以下になった → 燃料を充てんする

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
 	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間継続的に鳴ります。

■ タイヤ空気圧警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が点灯し、ブザーが鳴った場合： ●自然要因 → タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。 ●タイヤのパンク → ただちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。 警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯し、ブザーが鳴らなかった場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 → トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	クルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） ●後方車両への接近警報 ●後方車両接近告知 ●セカンダリーコリジヨンブレーキ（停車中後突対応） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 次のシステムのいずれかが異常、または停止しています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション） ●BSM（ブラインドスポットモニター） ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ●安心降車アシスト → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.508）

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

□ 知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.513

パンクしていないときは：

パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

数分たっても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が適切な値であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの空気圧設定を行ってください。（→P.461）

空気圧設定を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧

警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ **タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況**

→P.458

 警告

■ **警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき**

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **パワーステアリング警告灯が点灯したときは**

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ **タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤを修理してください。

- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ **タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合**

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

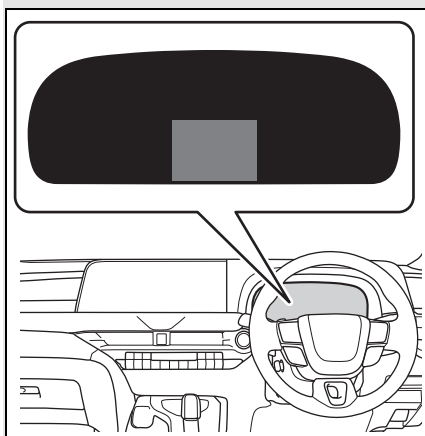
 注意

■ **タイヤ空気圧警報システムについて**

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。販売店で点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー ※	警告内容
—	あり	・ 走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 ・ 車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	・ 電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 ・ 車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

→P.502

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 各部の操作に関するメッセージが表示されたときは

- アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたときは

- ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロールなどの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。
- ・ ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→P.176）
- ・ ドライブスタートコントロールが作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.180）。画面の指示に従って対処してください。
- パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたときは
正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。

画面の指示に従って操作し直してください。

- シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

- 各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■ 取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
 - ・ “冷却水高温” (→P.532)
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・ “スマートエントリー&スタートシステム故障”
 - ・ “FCシステム故障”
 - ・ “バッテリー系故障”
 - ・ “アクセル系故障”
 - ・ “シフトシステム故障 駐車時はパーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
 - ・ “Pスイッチ故障 駐車時はパーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
 - ・ “シフトシステム不動作 駐車時パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
 - ・ “シフトシステム故障 取扱書確認”
 - ・ “シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”
 - ・ “バッテリー充電不足 シフト切りかえ

できません 取扱書確認”

- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続ける と危険です。
 - ・ “故障のためブレーキ力が低下”
 - ・ “充電システム故障”
 - ・ “水素漏れにより システム停止 安全な場所に 停車して 取扱書を 確認”
- “FCシステム停止”が表示されたときは、燃料の残量が少なくなっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、燃料の残量が少ない場合は 充てんしてください。(→P.66)
- “補機バッテリー(始動用)充電不足”が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。
 - ・ 数秒後※に表示が消えたときは：FCシステムが作動した状態を約15分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。
 - ・ 表示が消えないときは：「補機バッテリーがあがったときは」(→P.527)の手順でFCシステムを始動してください。

※ 約6秒間表示されます。

- “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要”が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。

駆動用電池冷却用吸入口を清掃する
(→P.475)

駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “イオンフィルタ交換時期販売店で交換”が表示されたときは

イオンフィルタの交換が必要です。

トヨタ販売店へご連絡ください。

■ “FCシステム高温出力制限中” または
“高負荷継続のため出力制限中” が表示されたときは

- 1 安全を確認しながら、速度を低下させ数分間走行をする
- 2 表示が消えた場合は一時的な過熱のため、そのまま走行可能です

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

■ “大幅に出力制限中” が表示されたときは

FCシステムの出力を大幅に制限しています。頻繁に表示されるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “凍結によりFCシステム停止安全な場所に停車して取扱書を確認” が表示されたときは

FCシステムが凍結し、始動できない状態となっています。トヨタ販売店に連絡してください。

■ “安全な場所に停車してPスイッチを押してください” が表示されたときは

FCシステムの異常、またはシフトポジションが長時間 N になっていることが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、表示が消えるまでシフトポジションを P にしてください。表示が消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “FCシステム停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にFCシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりを持ち、通常より強く操作してください。

■ “FCシステムが高温になるため停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとFCシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください” が表示されたときは

駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されることがあります。

車両を動かす場合は、シフトポジションを P にして、FCシステムを再始動してください。

■ “駐車時はPレンジに入れてください” が表示されたときは

シフトポジションが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時は P にしてください。

■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■ “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車” または
“シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回 FC システム始動時に、約 5 分間 FC システムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “アクセルを戻してください” が表示されたときは

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- ・ドライブスタートコントロール
(→P.180)
- ・プラスサポート（販売店装着オプション）(→P.338)

■ “機能停止 ソナーに水滴、雪等が付着しています” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  RCD（リヤカメラディテクション）

-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

■ “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  LCA（レーンチェンジアシスト）
-  AHS（アダプティブハイビームシステム）
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
-  BSM（ブラインドスポットモニター）
-  RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
-  後方車両接近告知
-  セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）
-  後方車両への接近警報
-  周辺車両接近時サポート

-  安心降車アシスト
-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）
-  RCD（リアカメラディテクション）

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  LCA（レーンチェンジアシスト）
-  AHS（アダプティブハイビームシステム）
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
-  BSM（ブラインドスポットモニター）
-  RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
-  後方車両接近告知
-  セカンダリーコリジョンブレーキ

（停車中後突対応）

-  後方車両への接近警報
-  周辺車両接近時サポート
-  安心降車アシスト
- クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）
-  RCD（リアカメラディテクション）

次の対処法に従ってください。

- ・ 補機バッテリー電圧を確認する
- ・ Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.223）
- ・ トランクが開いていないか確認してください。
- ・ BSM（ブラインドスポットモニター）、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）、後方車両接近告知、セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）、後方車両への接近警報、周辺車両接近時サポート、安心降車アシストで使用するセンサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。（→P.296, 322）
- ・ クリアランスソナー、PKSB（パーキングサポートブレーキ）、RCD（リアカメラディテクション）で使用するセンサーとカメラに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.326）

センサーが正しく作動していないおそれがあります。（→P.227, 296, 311, 314, 322, 326, 334）

地図情報取得の妨げとなる製品を取り付けている場合は取り除いてください。（例：TV キャンセラーなど）

- ・ センサーが正しく作動しなくなる状況

が解決すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LDA (レーンディパーチャアラート)
-  LTA (レーントレーシングアシスト)
-  LCA (レーンチェンジアシスト)
-  AHS (アダプティブハイビームシステム)
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA (ロードサインアシスト)
-  発進遅れ告知
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・ワイパー機能を使って、フロントウィンドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
- ・エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。
- ・ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)

-  LDA (レーンディパーチャアラート)
-  LTA (レーントレーシングアシスト)
-  LCA (レーンチェンジアシスト)
-  AHS (アダプティブハイビームシステム)
-  レーダークルーズコントロール
-  RSA (ロードサインアシスト)
-  発進遅れ告知
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
- ・特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウィンドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
- ・極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■ “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LDA (レーンディパーチャアラート)
-  LTA (レーントレーシングアシスト)
-  LCA (レーンチェンジアシスト)

-  AHS（アダプティブハイビームシステム）
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

- ・ レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.224）
- ・ 砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  LCA（レーンチェンジアシスト）
-  AHS（アダプティブハイビームシステム）
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  LCA（レーンチェンジアシスト）
-  AHS（アダプティブハイビームシステム）
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

- ・ レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.224）
- ・ レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ “ドライバーモニター作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- ドライバーモニター
 - アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）
- ドライバーモニターカメラの温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ち

ちください。

- “条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認” が表示されたときは

 LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。(→P.246)

すべての作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。

- “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。走行支援スイッチを短く確実に押してください。

- “ドライバーモニター使用できません 確認ください” が表示されたときは

ドライバーモニターカメラのレンズが汚れている可能性があります。

レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布で汚れをふき取ってください。

警告

- 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは

→P.503

注意

- “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください” がひんばんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

- “駆動用電池の点検を販売店で受けてください” が表示されたとき

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、FC システムを始動することができなくなります。
- 万一、FC システムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールボルトレンチ、ホイールボルトソケット、ガイドピンが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。(→P.513)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

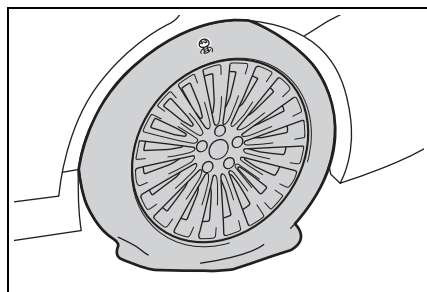
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションをPにする
- FC システムを停止する

- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

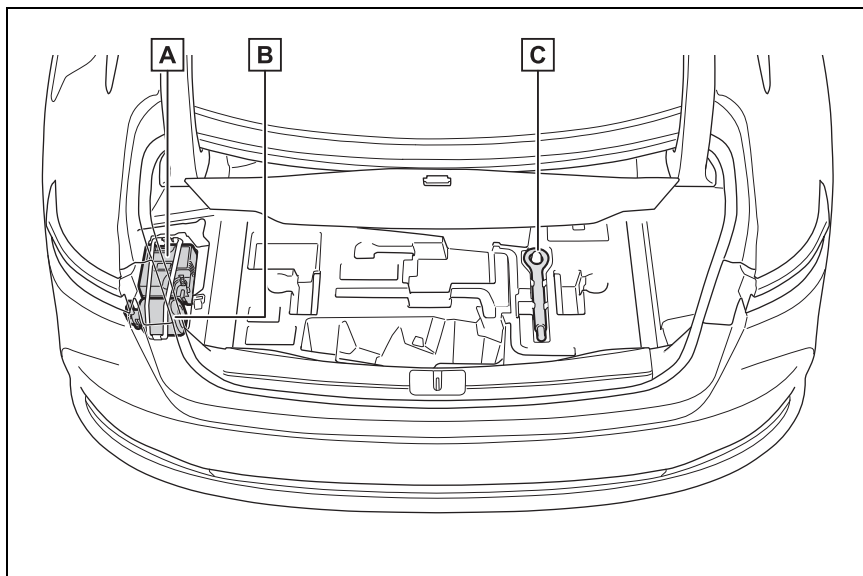
■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき

- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置

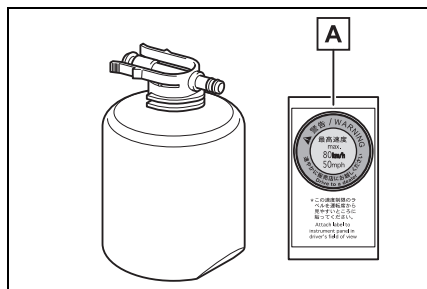


- A** タイヤパンク応急修理キット（コンプレッサー）
- B** タイヤパンク応急修理キット（ボトル）
- C** けん引フック

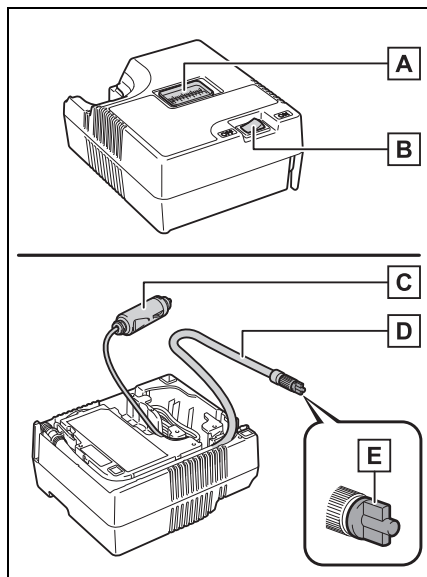
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

- A** 速度制限ラベル

■ ボトル



■ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ



知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が -40°C ～ 60°C のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

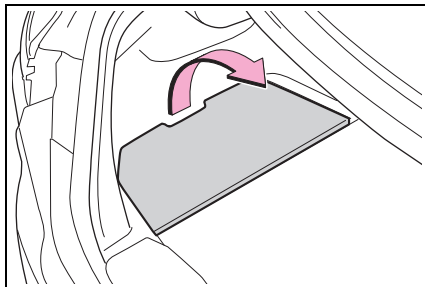
■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

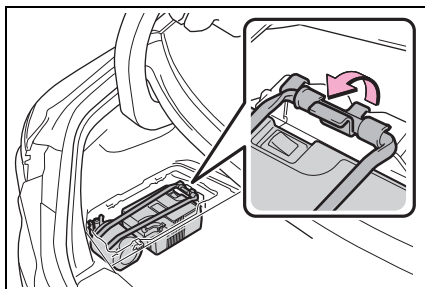
応急修理キットを取り出すには

1 トランクを開ける

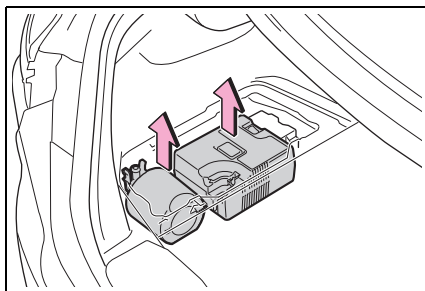
2 助手席側のカバーを取りはずす



3 固定用バンドを取りはずす



4 応急修理キットを取り出す

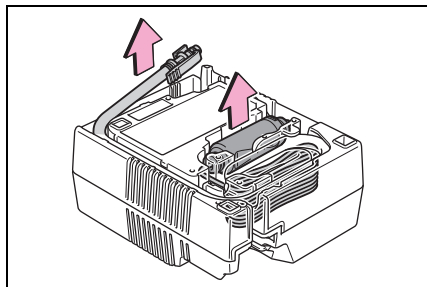


応急修理をするには

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

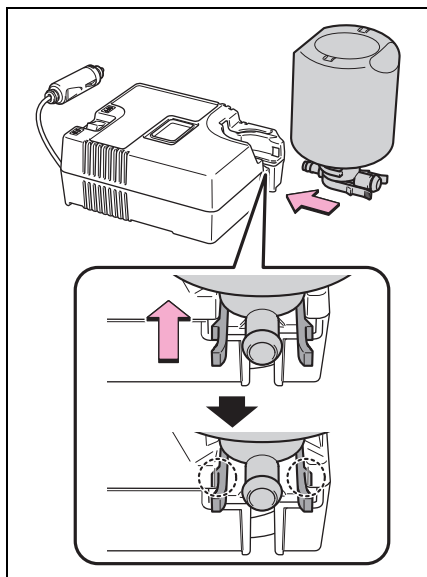
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

- 2** コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



- 3** ボトルをコンプレッサーに接続する

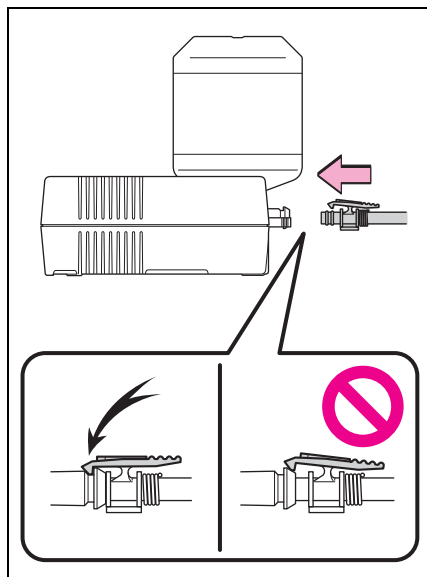
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。



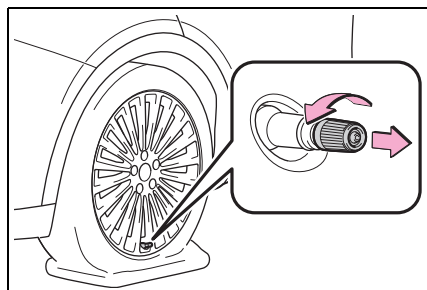
- 4** ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり

接続しているか確認してください。

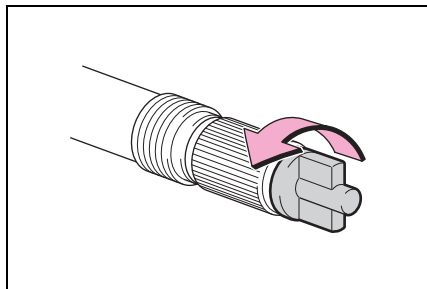


- 5** パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



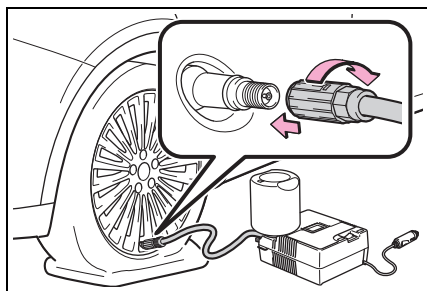
- 6** ホースをのばし、ホースから空気逃がしキャップを取りはずす
空気逃がしキャップは再度使用するため、

なくさないように保管してください。

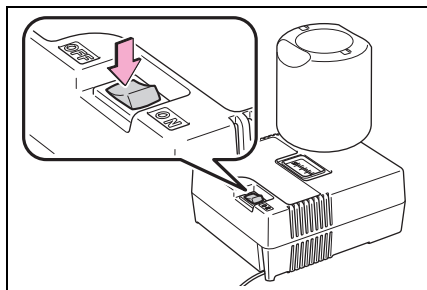


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

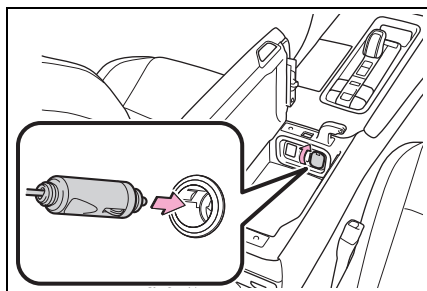
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



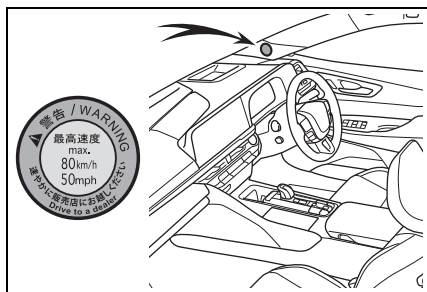
8 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに挿し込む

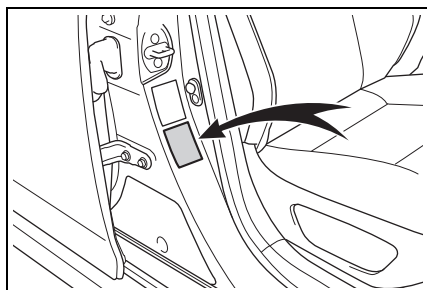


10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



11 タイヤの指定空気圧を確認する

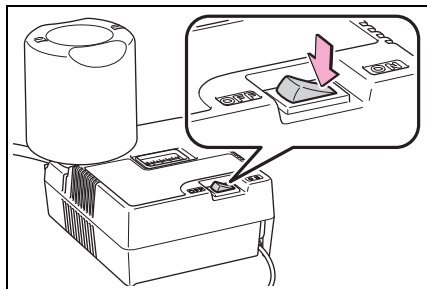
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P.540)



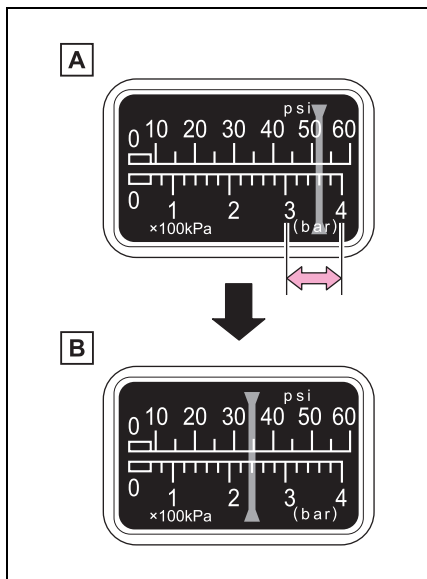
12 FC システムを始動する

(→P.183)

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。

B スwitchを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッ

サーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ~ 20 分です (外気温により異なります)。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

(→P.540)

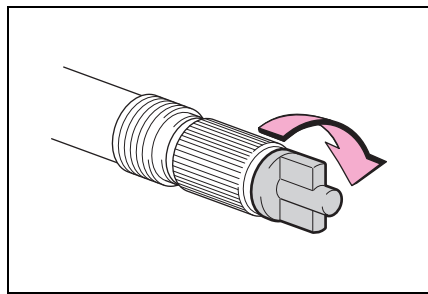
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースocketから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

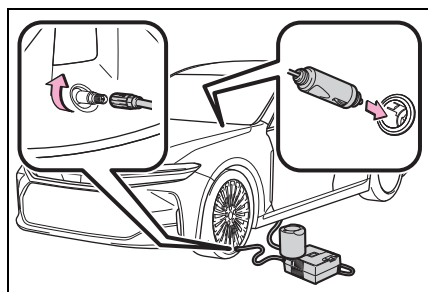


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランク内に収納する

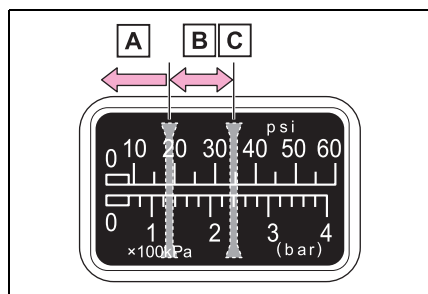
19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

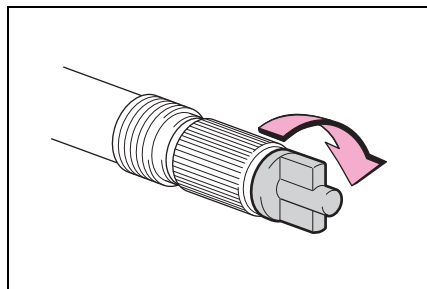
C 空気圧が指定空気圧

(→P.540) の場合：手順 **23** へ

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランク内に収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ売店にご相談ください。

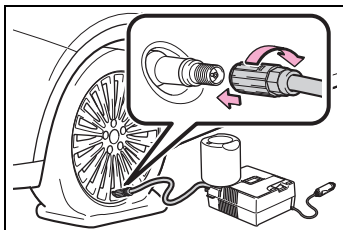
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理キットを使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ/送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

⚠ 警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

- 空気充填中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

- 作業手順に従って応急修理を行ってください。

手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

 警告**■ 補修液を均等に広げるための運転について**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■ 応急修理をするときは**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

FC システムが始動できないときは

FC システムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しい FC システムの始動方法に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。(→P.525)
- 燃料が入っていない可能性があります。燃料を充てんしてください。
- 燃料充てん扉が開いている可能性があります。(→P.216)
- 外部給電アウトレットに外部給電コネクタが接続されている可能性があります。(→P.81)
- 外部給電アウトレットのキャップが開いている可能性があります。(→P.81)
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→P.55)
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※(→P.186)
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、FC システムを一時的な処置で始動することができ

ます。(→P.523)

- 駆動用電池の温度が著しく低い(およそ 30℃以下)可能性があります。(→P.68, 183)
 - FC システムが凍結した可能性があります。(→P.183)
- ※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.527)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。(→P.450)

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.527)
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。(→P.450)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても FC システムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常の FC システム始動操作で FC システムが始動しないときは、次の手順で FC システムが始動する

場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.194）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 パワースイッチを ACC※¹ にする ※²
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法で FC システムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※¹ カスタマイズメニューで ON / OFF を切りかえることができます。（→P.542）

※² ACC がいない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P.140)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、FCシステムを始動したりすることができます。

知識

■ 電子キーが正常に働かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→P.546)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P.140)
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。(→P.140)

注意

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

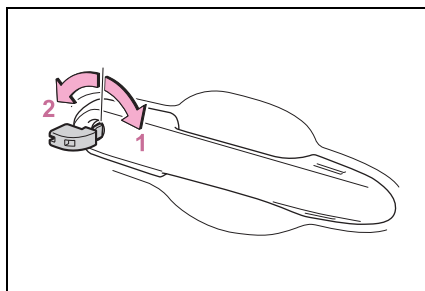
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠

メカニカルキー (→P.120) を使って次の操作ができます。(運転

席ドアのみ)

■ ドアの施錠・解錠

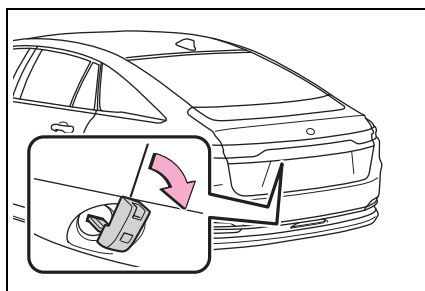


1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

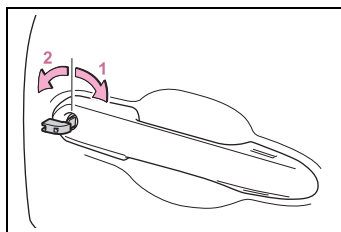
■ トランクの解錠

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける



知識

■ キー連動機能



1 ドアガラスが閉まる (まわし続ける) ※

2 ドアガラスが開く (まわし続ける) ※

※ トヨタ販売店ででの設定が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

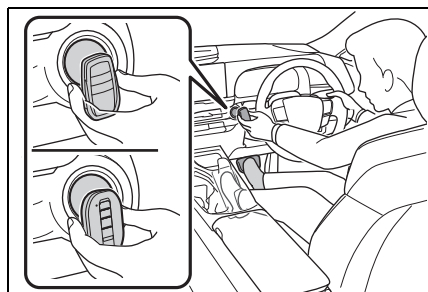
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

FCシステムを始動するには

- 1 シフトポジションがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 図のように、スイッチが付いている側を表にして、電子キーでパワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつACCカスタマイズがONのときは、ACCへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  と

メッセージが表示されていることを確認する

- 4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■FCシステムの停止方法

通常のFCシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてパワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているFCシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.478)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.56)

■パワースイッチのモードの切りかえ

FCシステム始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、FCシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.187)

補機バッテリーがあがったときは

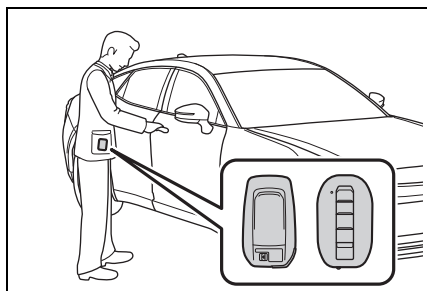
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でFCシステムを始動することができます。

FCシステムを再始動するには

ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、FCシステムを始動させることができます。

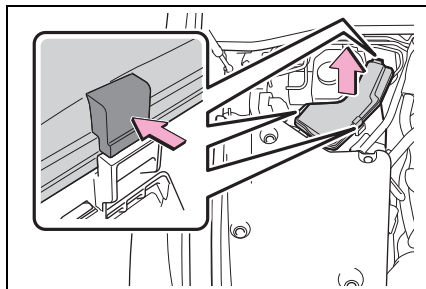
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.57)

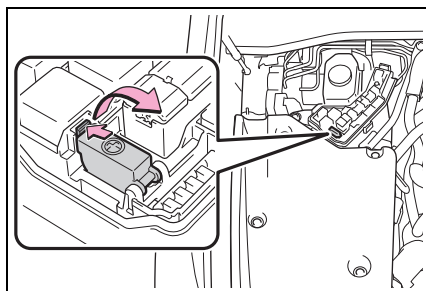


2 ボンネットを開けて(→P.450)、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げる



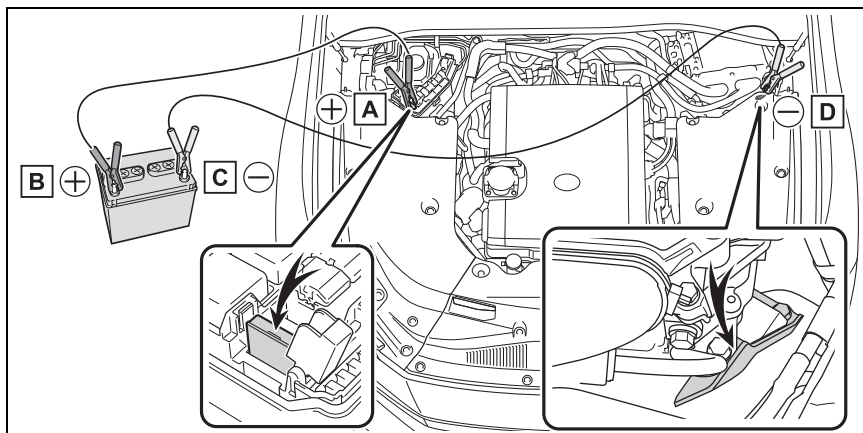
3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



4 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ

金属部[D]につなぐときは、周囲を確認してから作業をしてください。また、近くの部品と一緒に挟まないようにつないでください。

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A 救援用端子（自車）

B バッテリーの+端子（救援車）

C バッテリーの-端子（救援車）

D 図に示す金属部

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてから FC システムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 FC システムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

FC システムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてくだ

さい。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ACC カスタマイズが OFF のときは、パワースイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されません。
- FC システムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。
(→P.564)

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→P.450

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってFCシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはFCシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではFCシステムが始動できないことがあります。異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。補機バッテリー脱着時、車両は補機バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際

は、パワースイッチをOFFにしてから行ってください。

補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

- 補機バッテリーがあがった場合は、Pから他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、後輪が固定されているため、後輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
- 氷点下地域で、補機バッテリーを取りはずして放置する場合、FCシステムが凍結により始動ができなくなる場合があります。補機バッテリーを取りはずす前にウォーターリリースを実施してください。(→P.199)

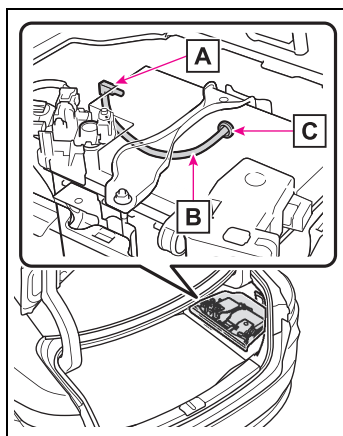
■補機バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ(LN2)、20時間率容量(20HR)が同等(55Ah)以上、かつ性能基準値(CCA)が同等(345A)以上の補機バッテリーを使用してください。
- ・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
- ・適切な補機バッテリーをご使用いただかない場合は、補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはFCシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- ・20時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、FCシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- 一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。
- 取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
- 取っ手が付いていない補機バッテリー

を使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

- 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
 - ・ 排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。(交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります)

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。



- A** 排気穴
- B** 排気ホース
- C** 車両穴部

警告

■ 補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

⚠ 警告

- 誤って補機バッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあっておく
- 誤って補機バッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、補機バッテリー液（酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について

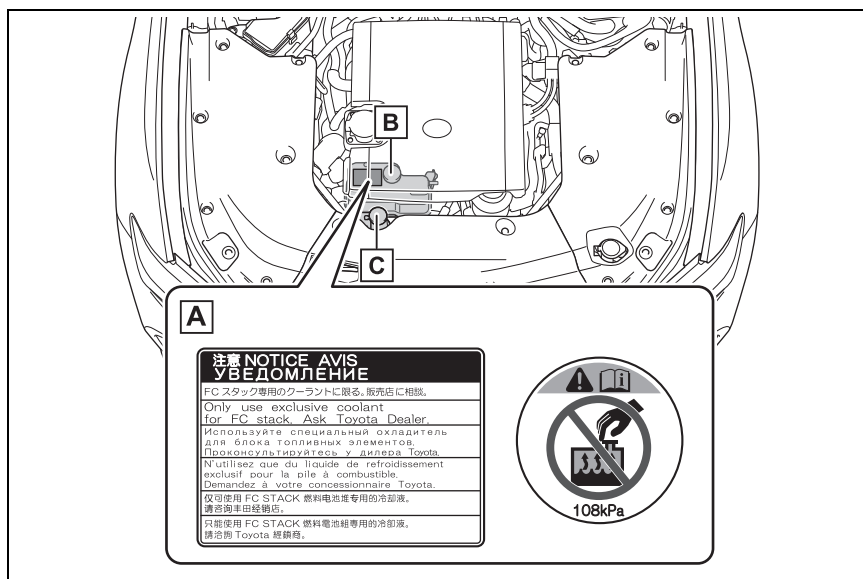
この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯 (→P.496) が点滅または点灯したり、FC システムの出力が低下する (スピードが出ないなど)
- FC システム過熱警告灯 (→P.497) が点滅または点灯したとき
- FC ユニットルームから蒸気が出る

冷却部品の各部名称



A ラベル

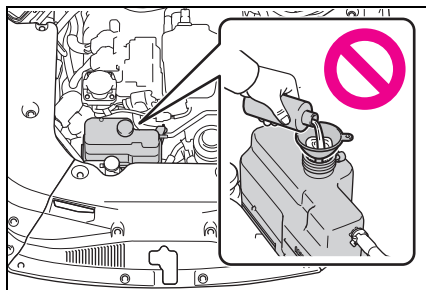
B FC スタック用リザーバータンク

C インバーター用リザーバータンク

注意

■ FC スタック用冷却水

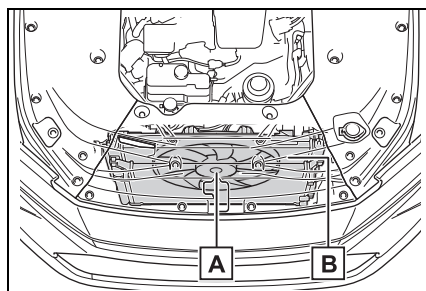
FC スタックの冷却水は、FC スタック専用品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。FC スタック用冷却水が不足している場合は、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。



対処方法

- ▶ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、FC システムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 FC システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱

部）やホースなどからの冷却水もれを点検する



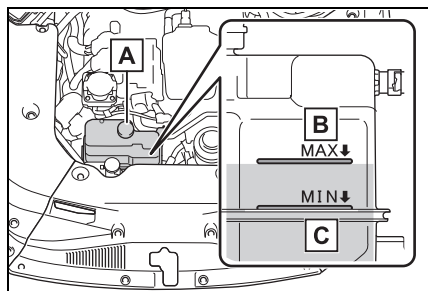
A ファン

B ラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- 4 FC スタックカバーを取りはずす（→P.454）
- 5 FC スタック用冷却水の量が FC スタック用リザーバータンクの「MAX」（上限）と「MIN」（下

限)のあいだにあるかを点検する



A FC スタック用リザーバタンク

B MAX (上限)

C MIN (下限)

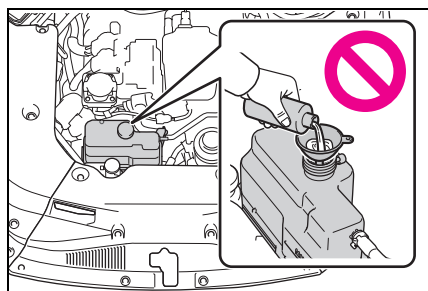
FC スタック用冷却水量が減っている場合：

トヨタ販売店に連絡する

FC スタック用冷却水量が減っていない場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

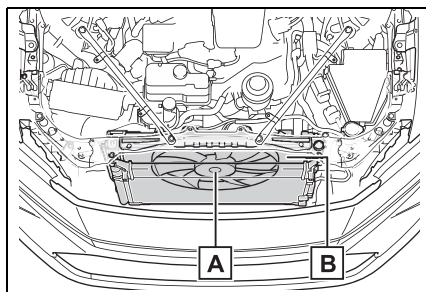
FC スタック用冷却水が減っていても絶対に補充しないでください。



▶ FC システム過熱警告灯が点滅または点灯したとき

- 1 安全な場所に停車する
- 2 FC システムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 FC システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部(放熱部)やホースなどからの冷却水もれを点検する

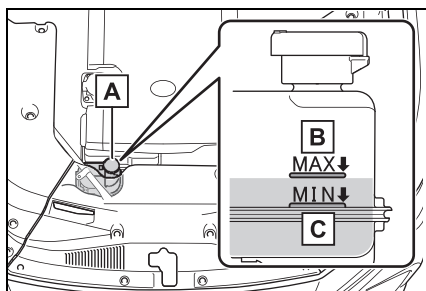


A ファン

B ラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 インバーター用冷却水の量がインバーター用リザーバタンクの「MAX」(上限)と「MIN」(下限)のあいだにあるかを点検する



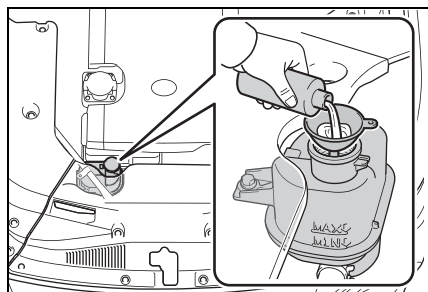
A インバーター用リザーバタンク

B MAX (上限)

C MIN (下限)

5 インバーター用冷却水が不足している場合は、FC ユニット

ルームカバーを取りはずし、インバーター用冷却水を補給する
インバーター用冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 FC システムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

FC システムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

ファンが作動していない場合：
すぐに FC システムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■ FC ユニットルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

● FC ユニットルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。FC ユニットルーム内が高温になっています。

● FC システムが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。
冷却ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● FC システムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップや EV リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ インバーター用冷却水を入れるとき

FC システムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

FC システムが熱いときに急に冷たいインバーター用冷却水を入れると、FC システムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- インバーター用冷却水に冷却水用添加剤を使用しない
- FC スタック用冷却水の補充は、トヨタ販売店におまかせください。
- FC スタック用冷却水には、水や他の冷却水を補充しないでください。また、冷却水用添加剤は使用しないでください。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトポジションをPにして、FCシステムを停止する
- 2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 4 FCシステムを再始動する
- 5 シフトポジションを確実にDまたはRにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

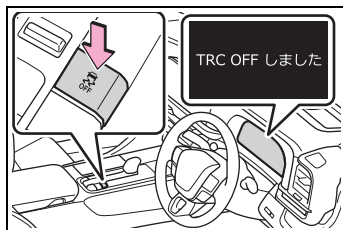


知識

■脱出しにくいとき



スイッチを押してTRCをOFFにしてください。



⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もいないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスアクスルやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） 538

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧
..... 541

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 564

9-4. フリー／オープンソフトウェア

フリー／オープンソフトウェア情報
..... 565

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用する液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

トヨタ車には、最も適したトヨタ純正液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
圧縮水素ガス	142.2L（約 5.7kg）

※ 水素タンク容量は 142.2L で、約 5.7kg の圧縮水素ガスが貯蔵可能です。
ただし、ステーションの充填圧力により実際の充填量は異なります。

※ 下記品質基準に適合した水素ガスを充てんすること
EN 17124 (European standard for EU27 countries)
ISO 14687 Grade D (European standard)
SAE J2719 (US standard)

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
トヨタ純正 FC スタッククーラント 凍結保証温度 濃度 50% -35℃	FC スタック	16.4
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50% -35℃	インバーター	3.9

■ FC スタック用冷却水について

- 高電圧である FC スタックを安全に冷却するために、FC スタック用冷却水は絶縁性の高い専用品です
- 水や他の種類の冷却水は故障の原因になりますので、絶対に入れないでください
- 冷却水の交換は不要です

- ラジエーターから抜き取った冷却水は、再使用しないでください
- 冷却水は無色です
- FC スタック用冷却水の補充・交換は、トヨタ販売店にご相談ください



注意

■ FC スタック用冷却水について

→P.533

トランスアクスル

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)
トヨタ純正オートフルード WS	5.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください



注意

■ トランスアクスルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル ※¹

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※ ²	100

※¹ ブレーキペダルの点検に併せて、READY インジケーターが点灯している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.496 を参照してください）

※² READY インジケーターが点灯している状態で 500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.496 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているとき の空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
235/55R19 101V	19 × 8J	230 (2.3)	230 (2.3)
245/45ZR20 103Y	20 × 8 1/2J	230 (2.3)	230 (2.3)

■ ホイールボルト締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]
140 (1428)

車両仕様

名称	型式	電動機型式	駆動方式
CROWN	KZSM30	3KM	後輪駆動

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ・マルチメディアディスプレイ・リヤマルチオペレーションパネルの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。(→P.170)

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

■ マルチメディアディスプレイで設定するには

- ▶ メインメニューの  から設定する
- 1 メインメニューの  にタッチする
- 2 サブメニューの “車両カスタマイズ” にタッチする
- 3 設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、

 (作動)・ (非作動) を選択しま

す。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

- ▶ メインメニューの  から設定する
- 1 メインメニューの  にタッチする
- 2 サブメニューの “カスタマイズ” にタッチする
- 3 設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、

 (作動)・ (非作動) を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

- ▶ アドバンストパークの設定を変更する

- 1 アドバンストパークメインスイッチを押す
- 2 マルチメディアディスプレイの  にタッチし、“Advanced Park” にタッチする

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

メーター操作スイッチを使ってカスタマイズ設定を変更します。(→P.99)

- 1 メーター操作スイッチを操作して  を選択する (→P.103)

- 2 スイッチを操作して設定変更したい項目を選択する
- 3 画面の表示に従って機能の作動内容を選択する

前の画面にもどったり設定を終了したりする場合は、メーター操作スイッチの  を押します。

■ リヤマルチオペレーションパネルで設定するには

- 1 リヤマルチオペレーションパネルの HOME 画面で “シート” にタッチする
- 2 “左席” または “右席” にタッチする
- 3  にタッチする

- 4 ボタンにタッチして設定を変更する

 知識

■ カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、FC システムが作動している状態で操作を行ってください。

 注意

■ カスタマイズ設定を行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に FC システムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- A** マルチメディアディスプレイで設定変更可能
- B** マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- C** リヤマルチオペレーションパネルで設定変更可能
- D** トヨタ販売店で設定変更可能

■ オートアラーム (→P.56)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	●あり ●なし	—	—	—	○

■ 先読みエコドライブ (→P.63)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
先読みエコドライブ	●する ●しない	○	—	—	—

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ (→P.93, 98)

機能の内容 ※1	カスタマイズ設定	A	B	C	D
言語 ※2	●日本語 ●英語 ●中国語 ●韓国語	—	○	—	—
メータータイプ ※2	● ● ※3 ● ※3	—	○	—	—
メーターデザイン ※2	●スマート ●カジュアル ●タフ ●スポーティー	—	○	—	—
アナログメーター切りかえ ※2	●FC システムインジケーター ※4 ●スピードメーター ※4	—	○	—	—
燃費グラフ	●リセット間平均燃費 ●始動後平均燃費	—	○	—	—
アクセルガイド (エコアクセルガイド) ※2	●あり ●なし	—	○	—	—
ドライブインフォ項目選択 (上段) ※5	●走行距離 ●平均車速 ●走行時間	—	○	—	—
ドライブインフォ項目選択 (下段) ※5	●走行時間 ●平均車速 ●走行距離	—	○	—	—
TRIP A 項目選択 (上段) ※2, 5	●走行距離 ●平均車速 ●走行時間	—	○	—	—

機能の内容 ※ ¹	カスタマイズ設定	A	B	C	D
TRIP A 項目選択（下段）※ ^{2, 5}	●走行時間 ●平均車速 ●走行距離	—	○	—	—
TRIP B 項目選択（上段）※ ^{2, 5}	●走行距離 ●平均車速 ●走行時間	—	○	—	—
TRIP B 項目選択（下段）※ ^{2, 5}	●走行時間 ●平均車速 ●走行距離	—	○	—	—
割込表示 ※ ²	●あり ●なし	—	○	—	—
メーター輝度調整	●任意の輝度	—	○	—	—
ストップランプ（制動灯表示灯の表示／非表示）	●あり ●なし	—	○	—	—
提案サービス ※ ²	●あり ●あり（停車中のみ） ●なし	○	—	—	○

※¹機能についての詳しい説明は P.103 を参照してください

※²マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※³ウィジェット表示の表示／非表示も選択できます。

※⁴メータータイプによっては、設定項目が表示されないことがあります。

※⁵上段と下段ともに同じ項目を表示させることはできません。

■ ヘッドアップディスプレイ（HUD）（→P.108）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
ヘッドアップディスプレイ表示 ※	●あり ●なし	—	○	—	—
ヘッドアップディスプレイ表示タイプ ※	●ミニマム ●スタンダード ●フル	—	○	—	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
ヘッドアップディスプレイの明るさ	●任意の明るさ	—	○	—	—
ヘッドアップディスプレイの表示位置	●任意の位置	—	○	—	—
ヘッドアップディスプレイの傾き調整	●任意の傾き	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ワイヤレスドアロック (→P.118, 125, 131)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
解錠時の操作 ※	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	—	○
トランク解錠時の操作	●1 回押し続ける (短) ●1 回押し ●2 回押し ●1 回押し続ける (長) ●非作動	—	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアロック (→P.125, 131, 525)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
メカニカルキーによる解錠	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	—	○
車速感応オートドアロック ※	●あり ●なし	○	—	—	○
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック) ※	●あり ●なし	○	—	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
シフトポジションをPにしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）※	●あり ●なし	○	—	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）※	●あり ●なし	○	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 （→P.125, 138）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
作動の合図（ブザー音量調整）※	●レベル0（なし）～レベル7	○	—	—	○
作動の合図（非常点滅灯）※	●あり ●なし	○	—	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間※	●30 秒 ●60 秒 ●120 秒	—	—	—	○
半ドア警告ブザー	●あり ●なし	—	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P.125, 138）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
スマートエントリー&スタートシステム	●あり ●なし	○	—	—	○
解錠されるドアの選択※ ¹	●全席解錠 ●運転席のみ解錠	○	—	—	—
連続ロック操作の有効回数	●2 回 ●無制限	—	—	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
全席解錠までのドアハンド ル保持時間 ※ ²	●1.5 秒 ●2.0 秒 ●2.5 秒 ●非作動	—	—	—	○
降車オートロック機能	●あり ●なし	—	—	—	○
接近時オートアンロック	●あり ●なし	—	—	—	○
パワースイッチ文字照明	●あり ●なし	—	—	—	○

※¹ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※² 解錠されるドアの選択を「運転席のみ解錠」にしたときに設定できます。

■ リヤシートリマインダー (→P.127)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
リヤシートリマインダー ※	●あり ●なし	—	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ハンズフリーパワートランクリッド (ハンズフリー PTL) (→P.131)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
ハンズフリー PTL (キック センサー) 機能 ※	●あり ●なし	—	○	—	—
パワースイッチが ACC また は ON 時のハンズフリー PTL (キックセンサー) の 停止機能 ※	●あり ●なし	—	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワーリヤシート (→P.145)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
自動シート作動（ドア連動 シートリターン機能）	●あり ●なし	—	—	○	—

■ ドアミラー (→P.162)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
オート電動格納作動	●ドアの施錠・解錠と連動 ●パワースイッチと連動 ●OFF	—	—	—	○

■ パワーウインドウ (→P.164)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
メカニカルキー連動開機能	●あり ●なし	—	—	—	○
メカニカルキー連動閉機能	●あり ●なし	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開機能	●あり ●なし	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動閉機能	●あり ●なし	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開 閉作動の合図（ブザー）	●あり ●なし	—	—	—	○
窓開警告制御	●あり ●なし	—	—	—	○

■ パワーイージーアクセスシステム (→P.167)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
降車時の運転席シート前後移動量 *	●少ない ●標準 ●OFF	○	—	—	○
降車時のハンドルの作動 *	●上下のみ ●前後のみ ●全て作動 ●なし	○	—	—	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドライブスタートコントロール (→P.180)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
後退速度の抑制制御	●あり ●なし *	—	○	—	—

* “なし” に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに “あり” に戻ります。

■ パワースイッチ (→P.187)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
ACC カスタマイズ ACC の ON / OFF を切りかえる	●ON ●OFF	○	—	—	○

■ FC システム (→P.199)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
ナビ連動排水機能 *	●あり ●なし	—	○	—	—

* ナビゲーションシステムで自宅の設定をした場合にのみ、設定が可能になります。

■ ランプ (→P.201)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
LED デイライト	●あり ●なし	—	—	—	○
おむかえ照明機能の制御	●あり ●なし	—	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.202)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
ライトセンサーの感度調整 (コンライト点灯照度) *	●より明るい ●明るい ●標準 ●暗い ●より暗い	○	—	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	●パワースイッチを OFF にする ●運転席ドアを開ける	—	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ 点灯機能	●あり ●なし	—	—	—	○

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ AHS (アダプティブハイビームシステム) (→P.204)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
アダプティブハイビームシステム	●ON ●OFF※ ¹	—	—	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整 ※ ²	●約 15km/h ●約 30km/h ●約 40km/h	—	—	—	○
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす ※ ²	●ON ●OFF	—	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整 ※ ²	●ON ●OFF	—	—	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
雨天時用のハイビーム配光制御 ※2	●ON ●OFF	—	—	—	○
市街地用の配光制御 ※2	●ON ●OFF	—	—	—	○

※1 “OFF” に変更しても、ハイビームとロービームが自動的に切りかわります。
(→P.563)

※2 “アダプティブハイビームシステム” の作動を “OFF” に変更すると、連動して “OFF” に変更されます。

■ ワイパー (→P.211)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
雨滴感知オート機能	●あり ●なし	—	—	—	○

■ ドライバーモニター (→P.230)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
注意喚起 ※	●ON ●OFF	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.232)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
プリクラッシュセーフティ	●ON ●OFF	—	○	—	—
警報タイミング ※	●遅い ●標準 ●早い	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ LCA (レーンチェンジアシスト) (→P.246)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
レーンチェンジアシスト ※	●ON ●OFF	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 休憩提案 (→P.250)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
休憩提案	●ON ●OFF	—	○	—	—

■ LDA (レーンディパーチャアラート) (→P.250)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
レーンディパーチャアラート ※	●ON ●OFF	—	○	—	—
警報タイミング ※	●標準 ●早い	—	○	—	—
警報手段 ※	●ハンドル振動 ●ブザー	—	○	—	—
低車速支援 ※	●ON ●OFF	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.255)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
プロアクティブドライビングアシスト (PDA) ※	●ON ●OFF	—	○	—	—
支援感度 ※	●低い ●中間 ●高い	—	○	—	—
操舵アシスト (SA) ※	●ON ●OFF	—	○	—	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
減速アシスト (DA)※	●ON ●OFF	—	○	—	—
障害物先読みアシスト (OAA)※	●ON ●OFF	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ FCTA (フロントクロストラフィックアラート) (→P.260)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
フロントクロストラフィックアラート	●ON ●OFF	—	○	—	—
注意喚起タイミング ※	●早い ●標準 ●遅い	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 発進遅れ告知機能 (→P.262)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
先行車 ※	●ON ●OFF	—	○	—	—
信号 ※	●ON ●OFF	—	○	—	—
告知タイミング ※	●早い ●標準 ●遅い	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.264）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
ロードサインアシスト ※	☐ ON ☐ OFF	—	○	—	—
速度標識超過告知方法 ※	☐ 表示 ☐ 表示とブザー ☐ 無	—	○	—	—
その他の告知方法 ※	☐ 表示 ☐ 表示とブザー ☐ 無	—	○	—	—
速度超過告知車速 ※	☐ 2 km/h ☐ 5 km/h ☐ 10 km/h	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーダークルーズコントロール（→P.267）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
再発進可能時間延長 ※	☐ ON ☐ OFF	—	○	—	—
加速度設定 ※	☐ 弱 ☐ 中 ☐ 強	—	○	—	—
速度設定（短押し） ※	☐ 1km/h ☐ 5km/h ☐ 10km/h	—	○	—	—
速度設定（長押し） ※	☐ 1km/h ☐ 5km/h ☐ 10km/h	—	○	—	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
ガイド文言表示 ※	●ON ●OFF	—	○	—	—
カーブ速度抑制 ※	●OFF ●弱 ●中 ●強	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）（→P.282）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
アドバンスト ドライブ ※	●ON ●OFF	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ITS Connect（→P.286）

機能の内容 ※	カスタマイズ設定	A	B	C	D
支援タイミング	●遅い ●早い	—	○	—	—
信号情報	●ON ●OFF	—	○	—	—
道路環境情報	●ON ●OFF	—	○	—	—
緊急車両通知	●ON ●OFF	—	○	—	—
クルーズ（ITS）	●ON ●OFF	—	○	—	—

※ 機能についての詳しい説明は P.291 を参照してください。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.292）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
ブラインドスポットモニター機能	●あり ●なし	—	○	—	—
ドアミラーインジケータの明るさ ※	●暗い ●明るい	—	○	—	—
接近車両を知らせるタイミング（感度） ※	●遅い ●標準 ●早い	—	○	—	—
ブザー警報 ※	●あり ●なし	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 後方車両接近告知（→P.298）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
後方車両接近告知機能 ※	●あり ●なし	—	○	—	—
接近車両を知らせるタイミング（感度） ※	●遅い ●標準 ●早い	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 周辺車両接近時サポート（→P.300）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
周辺車両接近時サポート機能 ※	●あり ●なし	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 安心降車アシスト (→P.308)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
安心降車アシスト機能	●On ●Off	—	○	—	—
ドアミラーインジケーター表示 ※	●あり ●なし	—	○	—	—
接近車両検知の感度 ※	●低い ●中間 ●高い	—	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ クリアランスソナー (→P.312)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
クリアランスソナー機能 ※ ¹	●あり ●なし	—	○	—	—
ブザー音量 ※ ^{1,2}	●小 ●中 ●大	—	○	—	—
フロントセンサーセンサの検知開始距離 ※ ³	●近い ●標準	○	—	—	—
リヤセンサーセンサの検知開始距離 ※ ³	●近い ●標準	○	—	—	—

※¹ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※² クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

※³ パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更できます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.319）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
リヤクロストラフィックアラート機能	●On ●Off	—	○	—	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	—	○	—	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ RCD（リヤカメラディテクション）（→P.324）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
RCD（リヤカメラディテクション）機能	●ON ●OFF	—	○	—	—

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.328）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能 ※	●ON ●OFF	—	○	—	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ トヨタチームメイト アドバンストパーク（→P.343）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
Remote Park	●あり ●なし	○	—	—	—
音声案内	●あり ●なし	○	—	—	—
速度モード	●遅め ●標準 ●速め	○	—	—	—
障害物回避距離	●標準 ●遠い	○	—	—	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
優先駐車方法	●並列 ●縦列	○	—	—	—
優先駐車向き	●前向き ●バック	○	—	—	—
優先出庫方向（並列）	●左 ●右	○	—	—	—
優先出庫方向（縦列）	●左 ●右	○	—	—	—
駐車時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—	—	—
出庫時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—	—	—
駐車進路調整	●－ 3（内側）～＋ 3（外側）	○	—	—	—
道幅調整	●狭い ●やや狭い ●標準	○	—	—	—
駐車位置調整（前向き）	●－ 3（後）～＋ 3（前）	○	—	—	—
駐車位置調整（バック）	●－ 3（後）～＋ 3（前）	○	—	—	—
後部取付部品設定	●10cm ●20cm ●30cm ●40cm ●取付なし	○	—	—	—
登録した場所の消去	●—	○	—	—	—

■ ドライブモードセレクトスイッチ (→P.376)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
カスタムモード時のパワー トレイン制御	●ECO ●NORMAL ●SPORT	○	—	—	—
カスタムモード時のステア リング制御	●NORMAL ●SPORT	○	—	—	—
カスタムモード時のサスペ ンション制御	●NORMAL ●SPORT ●REAR COMFORT	○	—	—	—
カスタムモード時のエアコ ン作動	●ECO ●NORMAL	○	—	—	—

■ オートエアコン (→P.394)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
AUTO スイッチが ON のと き、連動して外気導入と内 気循環を自動的に切りかえ る ※	●する ●しない	○	—	—	○
AUTO スイッチを ON にし たとき、A/C スイッチが連 動して ON になる ※	●する ●しない	○	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ステアリングヒーター (→P.402)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整 ※1, 2	●- 2 (低め) ~ + 2 (高め)	○	—	—	○

※¹ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※² マルチメディアディスプレイには “ 作動時間 ” と表示される場合がありますが、温度調整の設定項目になります。

■ シートヒーター／シートベンチレーション (→P.402)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整 ※	●- 2 (涼しめ) ~ + 2 (暖かめ)	○	—	—	○
助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整 ※	●- 2 (涼しめ) ~ + 2 (暖かめ)	○	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ イルミネーション (→P.407)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
車室内照明の消灯までの時間 ※	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF	○	—	—	○
パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	●あり ●なし	—	—	—	○
解錠時の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	—	○
接近時の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	—	○
車室内足元照明の点灯	●あり ●なし	—	—	—	○
カップホルダー照明・インサイドハンドル照明の点灯	●あり ●なし	—	—	—	○
インサイドドアハンドル照明・ドアトリム照明・フロントカップホルダー照明・インストルメントパネルオーナメント照明・足元照明の照明色	●お好みの色	○	—	—	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
車室外照明の消灯までの時間 ※	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF	○	—	—	○
接近時の室外足元照明の点灯	●あり ●なし	—	—	—	○
解錠時の室外足元照明の点灯	●あり ●なし	—	—	—	○
ドアを開けたときの室外足元照明の点灯	●あり ●なし	—	—	—	○
室内足元照明・カップホルダー照明・フロントインサイドハンドル照明・リヤインサイドハンドル照明のお見送り点灯	●あり ●なし	—	—	—	○
全てのエリア：カップホルダー照明・インサイドハンドル照明・室内足元照明などの照度 ※	●任意の照度	○	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ リヤサンシェード (→P.426)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C	D
リバーズ連動機能	●あり ●なし	—	—	—	○
リバーズ連動機能が作動するまでの時間	●約 0 秒 ●約 0.7 秒 ●約 0.9 秒 ●約 1.2 秒	—	—	—	○



知識

■ 車両カスタマイズについて

- “車速感应オートドアロック” と “シ

フトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）” を両方とも “あり” にした場合、次のように作動します。

- ・ シフトポジションを P 以外にすると全

ドアが施錠されます。

- ・ 全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感应式自動ドアロックは作動しません。
- ・ 発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感应オートドアロックが作動します。
- “スマートエントリー&スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）” ・ “作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

■ “アダプティブハイビームシステム” の作動を “OFF” にしたとき

- アダプティブハイビームシステムスイッチが ON で、次の条件をすべて満たすと、ロービームからハイビームに自動的に切りかわります。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- アダプティブハイビームシステムスイッチが ON で、次の条件のいずれかのときはロービームに自動的に切りかわります。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワートランクリッド	・ 補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時	P.137
パワーウインドウ	正常に動かないとき	P.164
電動サンシェード		P.416

フリー／オープンソフトウェア情報

メーターディスプレイ

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.yazaki-group.com/rdtech/oss/889>

デジタルキー

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/>

ITS Connect

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/>

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	568
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）	570
燃料電池車さくいん	573
アルファベット順さくいん	575
五十音順さくいん	577

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.524）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.524）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.478）
- パワースイッチが ON になっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.187）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に

働いていない可能性があります。（→P.140）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.130）



誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→P.136）

故障かな？と思ったら



FC システムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.183）
- シフトポジションは P になっていますか？（→P.188）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.139）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法で FC システムを始動することができます。（→P.523）

- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.527）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.166）



パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON (FC システムが作動していない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.187）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.570）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.496、504 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.513）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.536）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.56
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.504
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.56
	後方から自動車・自転車が接近している	P.308
パワースイッチをOFFにしたとき	リヤシートリマインダー機能が作動した	P.127
トランクを開めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P.136
FCシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.118
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.127
	電子キーを車内に置き忘れている	P.139

※ ドアまたはトランクを解錠するか、パワースイッチをACCまたはONにするか、FCシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P.129
	パーキングブレーキが解除されていない	P.196
	シートベルトを着用していない※1	P.498
シフトポジションを変更しようとしたとき	無効なシフト操作をした※2	P.190
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.178
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.272
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.232

状況	原因	詳細
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.241
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.250
車線変更時、後方から車が接近しているとき	LCA（レーンチェンジアシスト）を使用している	P.246
低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知したとき	FCTA（フロントクロストラフィックアラート）が作動した	P.260
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.262
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.264
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.279

状況	原因	詳細
自車の後方から接近してくる車両を検知したとき	後方車両接近告知が作動した	P.298
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.312
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.319
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）が作動した	P.324
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect が作動した	P.286
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		

※¹ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

※² シフトポジションの切り替えが無効に

なるときや、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

燃料電池車さくいん

燃料電池車についての解説

■ 燃料電池車の特徴

→P.60

燃料電池車についての注意事項

■ 水素関係部位

→P.64

■ 高電圧部位・高電圧配線・高温部位

→P.64

■ 駆動用電池冷却用吸入口

→P.72

燃料充てんについて

■ 充てんする前に

→P.215

■ 燃料充てん口の開け方

→P.216

■ 燃料充てん口の閉め方

→P.216

運転のしかた

■ 運転にあたって

→P.175

■ FC システムの始動方法

→P.183

■ シフトポジション

→P.188

DC 外部給電システム

■ DC 外部給電作業をする前に

→P.76

■ DC 外部給電を開始する

→P.76

■ 給電状態表示

→P.80

■ DC 外部給電を停止する

→P.81

環境に配慮した経済的な運転

■ 燃料電池車運転のアドバイス

→P.73

事故が起きたときは

■ 事故が発生したときの警告

→P.70

燃料電池車特有の説明がある項目

■ 燃料電池車特有の音と振動

→P.61

■ 車両接近通報装置

→P.62

■ 水素ガスもれやその他の異常に気付いたとき

→P.69

■ 警告灯／表示灯

→P.88

■ 計器類

→P.93

■ ドライブインフォメーション

→P.102

■ ウォーターリリース (H₂O スイッチ)

→P.199

■ 寒冷時について

→P.385

■ ボンネット

→P.450

■ 発炎筒

→P.487

■ けん引について

→P.491

■ 警告メッセージ

→P.504

■ FC システムが始動できないときは

→P.523

■ 補機バッテリーがあがったときは

→P.527

■ オーバーヒートしたときは

→P.532

アルファベット順さくいん

- A/C**
(エアコン) 394
- ABS**
(アンチロックブレーキシステム)
..... 378
- ACA**
(アクティブコーナリングアシスト)
..... 378
- ACC**..... 187
- AHB**
(オートマチックハイビーム) .. 207
- AHS**
(アダプティブハイビームシステム)
..... 204
- ALL AUTO**..... 393
- BSM**
(ブラインドスポットモニター)
..... 292
- DC 外部給電**..... 75
給電口..... 76
給電後に FC システムが始動できなくなったときは 81
正常に給電できないときは 83
- DC 外部電源供給システム**..... 75
- ECB**
(エレクトロニカルリーコントロール
ドブレーキシステム) 378
- EDR**
(イベントデータレコーダー) 8
- EPS**
(エレクトリックパワーステアリン
グ) 378
- FCTA**
(フロントクロストラフィックア
ラート) 260
- FC システム**
エネルギーモニター 112
オーバーヒート 532
緊急始動機能 523
- 緊急時の停止方法 488
始動できないときは 523
始動方法 183
パワースイッチ 183
補機バッテリーがあがった 527
- FC システムインジケータ-95, 112**
- FC スタック**
ボンネット 450
- FC ユニット**
FC ユニットルームカバー 453
- FC ユニットルーム**..... 450, 453
FC ユニットルームカバー 453
FC ユニットルームから蒸気が出て
いる 532
- HUD**
(ヘッドアップディスプレイ) .. 108
- ISOFIX**
(アイソフィックス/イソフィッ
ク) 42
- ITS Connect** 286
- LCA**
(レーンチェンジアシスト) 246
- LED**
(ライトエミッティングダイオード)
..... 483
- LTA**
(レーントレーシングアシスト)
..... 241
- PCS**
(プリクラッシュセーフティ) .. 232
- PDA**
(プロアクティブドライビングアシ
スト) 255
- PKSB**
(パーキングサポートブレーキ)
..... 328
- RCD**
(リヤカメラディテクション) .. 324
- RCTA**

(リヤクロストラフィックアラート)	319	VDIM	(ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント).....	379
RSA		VSC	(ビークルスタビリティコントロール)	378
(ロードサインアシスト).....	264			
S-FLOW				
(フロント集中送風モード).....	397			
SRS				
(サブリメンタルレストレイントシステム).....	32			
Toyota Safety Sense	222			
AHB (オートマチックハイビーム)	207			
AHS (アダプティブハイビームシステム).....	204			
FCTA (フロントクロストラフィックアラート).....	260			
LCA (レーンチェンジアシスト)	246			
LDA (レーンディパーチャーアラート).....	250			
LTA (レーントレーシングアシスト).....	241			
PCS (プリクラッシュセーフティ)	232			
PDA (プロアクティブドライビングアシスト).....	255			
RSA (ロードサインアシスト)	264			
クルーズコントロール.....	276			
ソフトウェアアップデートを確認する	219			
トヨタセーフティーセンス.....	222			
ドライバーモニター	230			
ドライバー異常時対応システム	279			
レーダークルーズコントロール	267			
発進遅れ告知機能	262			
TRC				
(トラクションコントロール) ..	378			

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	527
アームレスト.....	425
アウターミラー（ドアミラー）.....	162
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	319
安心降車アシスト.....	308
格納のしかた.....	163
操作.....	162
BSM（ブラインドスポットモニター）.....	292
ポジションメモリー.....	167
ミラーヒーター.....	395
リバース連動機能.....	163
アクセサリーコンセント.....	430
アクセサリーソケット.....	417
アクティブコーナリングアシスト （ACA）.....	378
アシストグリップ.....	427
足元照明.....	407
アダプティブハイビームシステム （AHS）.....	204
アドバンスドドライブ（渋滞時支援）	282
ソフトウェアアップデートを確認する.....	219
アドバンストパーク	
縦列出庫機能.....	360
縦列駐車機能.....	357
設定変更.....	351
中止／中断.....	372
（トヨタ チームメイトアドバンスドパーク）	343
並列前向き／バック出庫機能.....	356
並列前向き／バック駐車機能.....	353
メモリー機能.....	362
リモート機能.....	367
アラーム	

オートアラーム.....	56
音さくいん.....	570
警告ブザー.....	496
安心降車アシスト.....	308
アンチロックブレーキシステム（ABS）	378
アンテナ	
スマートエントリー&スタートシステム	138

い

イージークローザー	
トランク.....	135
リヤドア.....	129
イオンフィルタ.....	67
位置交換（タイヤローテーション）.....	457
イベントデータレコーダー（EDR）.....	8
イモビライザーシステム.....	55
イルミネーテッドエントリーシステム	408
インサイドドアハンドル照明.....	407
インジケーター（表示灯）.....	90
インストルメントパネル照度調整スイッ チ.....	97
インテリアランプ（室内灯）.....	407
インナーミラー	
リヤカメラウォッシャー.....	211

う

ウインカー（方向指示灯）.....	193
方向指示レバー.....	193
ランプの交換.....	483
ウインドウ	
ウォッシャー.....	211
パワーウインドウ.....	164
リヤウインドウデフォグガー.....	395
ウインドウロックスイッチ.....	166

ウォッシャー	211
液の補充	455
スイッチ	211
タンク容量	540
冬の前の準備・点検	385
動けなくなったときは（スタック）	536
雨滴感知式ワイパー	211
運転	
雨の日の運転	175
運転にあたって	175
運転を補助する装置	378
寒冷時の運転	385
正しい運転姿勢	27
手順	175
燃料電池車運転のアドバイス	73
運転支援システム情報表示	102
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	498

え

エアコン	394
ALL AUTO 制御	393
エコ空調モード	400
オートエアコン	394
曇り取り（フロントガラス）	395
曇り取り（リヤウインドウ）	395
ナノイーX	400
フィルターの交換	473
フロント席集中送風モード（S-FLOW）	397
エアバッグ	32
SRS エアバッグ警告灯	497
改造・廃棄	37
警告ブザー	497
作動条件	33
正しい姿勢	27
配置	32
H2O スイッチ	199

エネルギーモニター	112
FC システム	60
運転のアドバイス	73
駆動用電池冷却用吸入口	72
高電圧部位	64
サービスプラグ	64
車両接近通報装置	62
水素関連部位	64
注意	64
特徴	60
FC スタック	60, 64
LDA	
（レーンディパーチャーアラート）	250
エレクトリックパワーステアリング	
（EPS）	378
機能	378
パワーステアリング警告灯	498

お

応急用タイヤ	
空気圧	540
オーディオシステム連携表示	102
オートアラーム	56
オートドアロック・アンロック機能	130
オートマチックハイビーム（AHB）	207
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）	203
オーバーヒート	532
オープナー	
トランク	133
燃料充てん口	216
ボンネット	450
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）	419
お子さまを乗せるとき	41
ウインドウロックスイッチ	166
お子さまの安全のために	41
キーの電池	479
シートヒーターに関する警告	402

シートベルトの着用	30
チャイルドシート	42
チャイルドシートの取り付け	42
チャイルドプロテクター	130
電動サンシェードに関する警告	416
発炎筒の取り扱いに関する警告	488
パワーウインドウに関する警告	165
補機バッテリーに関する警告	530
オドメーター／トリップメーターディスプレイ	96
ODO TRIP スイッチ	96
表示項目	96

か

カーテシランプ	407
カーテンシールドエアバッグ	32
カーベット	
洗浄	447
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示	93
回生ブレーキ	62
外装のランプ	483
カスタマイズ機能	541
型式	540
カップホルダー	411
カメラ	
サイドカメラ	349
前方カメラ	223
デジタルインナーミラー	157
ドライバーモニター	230
フロントカメラ	349
リヤカメラ	349
ガラスの曇り取り	
前方カメラ取り付け部	226
フロントウインドウガラス	395
リヤウインドウガラス	395
ガレージジャッキ	452

冠水路走行	180
寒冷時の運転	385

き

キー	118
FC システムが始動できない	523
キーナンバープレート	118
キーの構成	118
キーレスエントリー	120, 138
キーをなくした	524
正常に動かない	525
施錠・解錠ができない	525
電子キー	118
電池が切れた	478
メカニカルキー	120
ワイヤレスリモコン	120
キーレスエントリー	
スマートエントリー&スタートシステム	138
ワイヤレスドアロック	120
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）..	178
キックセンサー（ハンズフリーパワートランクリッド）	134
給油	
メンテナンスデータ	538
緊急時シートベルト固定機構	30
緊急始動機能（FC システム）	523
緊急時の対処	
FC システムが始動できない	523
オーバーヒートした	532
キーの電池が切れた	478, 525
キーをなくした	524
警告灯がついた	496
警告メッセージが表示された	504
けん引	491
故障した	486
車中泊が必要なときは	490

車両を緊急停止する	488
水没・冠水した	489
スタックした	536
電子キーが正常に動かない	525
発炎筒	487
パンクした	513
補機バッテリーがあがった	527
緊急停止システム	71
緊急ブレーキシグナル	379

く

空気圧 (タイヤ)	540
タイヤ空気圧警報システム	458
区間距離計 (トリップメーター)	96
駆動用電池	64
充電について	62
搭載位置	64
冷却用吸入口	72
曇り取り	
前方カメラ取り付け部	226
フロントデフロスター	395
ミラーヒーター	395
リヤウインドウデフォグガー	395
クラクション (ホーン)	152
クリアランスソナー	312
巻き込み警報機能	317
クリアランスランプ (車幅灯)	201
スイッチ	201
ランプの交換	483
クリップ	
フロアマット	26
クルーズコントロール	
クルーズコントロール	276
レーダークルーズコントロール	267
グローブボックス	411

け

警告器 (ホーン)	152
計器類 (メーター)	93
警告灯	496
FC システム過熱	497
運転支援情報表示灯	501
H2	496
ABS & ブレーキアシスト	497
SRS エアバッグ	497
LTA 表示灯	499
LDA 表示灯	500
クリアランスソナー OFF 表示灯	501
クルーズコントロール表示灯	500
高水温	496
シートベルト非着用	498, 499
充電	497
スリップ表示灯	501
燃料残量	498
パーキングブレーキ表示灯	502
パワーステアリング	498
PCS	499
PDA 表示灯	500
プリテンショナー	497
ブレーキ	496
ブレーキホールド作動表示灯	502
ペダル誤操作	498
ポップアップフード	497
レーダークルーズコントロール表示灯	500
警告ブザー	
FC システム過熱	497
H2	496
ABS & ブレーキアシスト	497
SRS エアバッグ	497
LTA	499
LDA	500
クリアランスソナー OFF	501
クルーズコントロール	500

高水温	496
シートベルト非着用	498, 499
車線逸脱警報 (LDA)	250
衝突警報 (PCS)	232
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	272
手放し運転警告 (LDA)	252
手放し運転警告 (PDA)	259
ドライブスタートコントロール	498
トランク開	129
パワーステアリング	498
半ドア	127
半ドア走行時	129
PCS	499
PDA	500
プリテンショナー	497
ブレーキ	496
ブレーキオーバーライドシステム	498
ブレーキホールド	502
ポップアップフード	497
ボンネット開	129
リバース	191
レーダークルーズコントロール	500
警告メッセージ	504
化粧ミラー (バニティミラー)	417
けん引	491
けん引のしかた	491
フックの搭載場所	467, 514
フックの取り付け	492

こ

交換

エアコンフィルター	473
外装のランプ	483
電子キーの電池	478
ヒューズ	480
工具 (ツール)	467, 514

降車オートロック機能	125
航続可能距離	95, 114
後退速度の抑制制御 (ドライブスタートコントロール)	180
後退灯 (バックアップランプ)	
ランプの交換	483
高電圧部位	64
後方車両接近告知	298
作動条件	299
後方車両への接近警報	304
コーションラベル	64
コートフック	427
小物入れ	413
コンセント	
アクセサリコンセント	430
コンソールボックス	411
コンライト (自動点灯・消灯装置)	201

さ

サービスプラグ	64
サイドエアバッグ	32
サイド方向指示灯	193
方向指示レバー	193
ランプの交換	483
サイドミラー (ドアミラー)	162
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	319
安心降車アシスト	308
格納のしかた	163
操作	162
BSM (ブラインドスポットモニター)	292
ポジションメモリー	167
ミラーヒーター	395
リバース連動機能	163
先読みエコドライブ	63
サスペンションコントロール (PCS)	234

三角表示板（停止表示板）収納スペース	414
サンシェード	
リヤ	426
サンバイザー	417

し

シート	144, 145
シートヒーター	404
正しい運転姿勢	27
チャイルドシート	42
調整	144, 145
手入れ	447
パワーイージーアクセスシステム	167
ヘッドレスト	148
ポジションメモリー	167
メモリーコール機能	169
リヤシートリラクゼーションシステム	146
シートヒーター	402
ALL AUTO 制御	393
シートベルト	29
お子さまの着用	30
緊急時シートベルト固定機構	30
高さ調整	31
正しく着用するには	30
着け方・はずし方	30
手入れ	447
妊娠中の方の着用	29
非着用警告灯	498, 499
シートベルト非着用警告灯 ...	498, 499
シートベルトプリテンショナー	31
機能	31
プリテンショナー警告灯	497
シートベンチレーション（シートベンチレーター）	402
ALL AUTO 制御	393
室内灯	407

始動のしかた	183
シフトポジション	188
シフトレバー	188
シフトポジションの切りかえ	189
操作	189
車中泊が必要なときは	490
ジャッキ	
ガレージジャッキ	452
車載ジャッキ	467
ジャッキハンドル	467
車幅灯	201
ランプスイッチ	201
ランプの交換	483
車両型式	540
車両仕様（スペック）	538
車両接近通報装置	62
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	488
充てん	
充てんのしかた	215
充電用 USB Type-C 端子	418
周辺車両接近時サポート	300
作動条件	302
瞬間燃費	100, 114
仕様（車両仕様）	538
衝撃感知ドアロック解除システム ...	127
衝突時の急加速抑制	379
初期化	564
パワーウインドウ	164
初期設定	564
電動サンシェード	416
パワーウインドウ	164
助手席シートベルト非着用警告灯 ...	498
信号切替り告知機能	262

す

水温計	93
-----------	----

水素関連部位	60, 64	方向指示レバー	193
水素タンク	66	ホーン（警音器）	152
搭載位置	60, 64	ポジションメモリー	168
水素ディテクタ	67	メーター操作	99
スイッチ		ランプ	201
ODO TRIP	96	リヤウインドウデフォグガー	394
アダプティブハイビームシステム	205	リヤフォグランプ	210
インストルメントパネル照度調整	97	レーダークルーズコントロール	269
ウインドウロック	166	ワイパー	211
ウインドシールドデアイサー	398	スタック	536
ウォッシャー	211	ステアリングヒーター	402
H2O スイッチ	199	ALL AUTO 制御	393
LTA	243	ステアリングホイール（ハンドル）	152
オートマチックハイビーム	207	位置調整	152
クルーズコントロール	276	ステアリングヒーター	402
シート調整	144	パワーイージーアクセスシステム	167
シートヒーター	404	ポジションメモリー	168
車間距離切りかえ（レーダークルーズコン トロール）	269	メーター操作スイッチ	99
ステアリングヒーター	403	ストップランプ（制動灯）	
スノーモード	377	制動灯表示灯	92
TRC OFF	379	ランプの交換	483
デジタルインナーミラー	153	スノータイヤ（冬用タイヤ）	385
電動サンシェード	415	スノーモード	377
ドアミラー	162	スピードメーター	93
ドアロック	128	スペアタイヤ（応急用タイヤ）	
ドライブモードセレクト	376	空気圧	540
トランクオープナー	133	スペック（車両仕様）	538
トランクオープナーメイン	137	スマートエントリー&スタートシステム	138
トランククローザー	135	FC システムの始動	183
パーキングブレーキ	194	アンテナの位置	138
ハザードランプ	487	カスタマイズ設定	541
パワー	183	緊急始動機能	523
パワーウインドウ	164	作動範囲	139
ハンドル位置調整	152	正常に働かないとき	525
非常点滅灯（ハザードランプ）	487	節電機能	139
VSC OFF	380	電波がおよぼす影響について	143
ブレーキホールド	197	ドアの解錠・施錠	125

トランクを開く.....	134
スモールランプ（車幅灯）.....	201
ランプスイッチ.....	201
ランプの交換.....	483
スリップ表示灯.....	379

せ

清掃.....	444, 447
外装.....	444
シートベルト.....	447
内装.....	447
ホイール・ホイールキャップ.....	444
レーダーセンサー.....	224, 293
制動灯	
表示灯.....	92
ランプの交換.....	483
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車 中後突対応）.....	306
セカンダリーコリジョンブレーキ...379	
積算距離計（オドメーター）.....	96
セキュリティインジケター.....	55, 56
接近警報（レーダークルーズコントロー ル）.....	272
接近時オートアンロック機能.....	126
先行車発進告知機能.....	262
センサー	
雨滴感知センサー.....	212
後側方レーダー.....	223
前側方レーダー.....	223
前方カメラ.....	223
前方レーダー.....	223
デジタルインナーミラー.....	157
ドライバーモニターカメラ.....	224
ライトセンサー.....	202
洗車.....	444
前照灯（ヘッドランプ）.....	201
オートレベリングシステム.....	203
ライトセンサー.....	202

ランプ消し忘れ防止機能.....	203
ランプスイッチ.....	201
ランプの交換.....	483

そ

走行モード（ドライブモード）.....	376
送信機（タイヤ空気圧警報システム）	458
速度計（スピードメーター）.....	93

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	193
方向指示レバー.....	193
ランプの交換.....	483
タイヤ.....	456
空気圧.....	472, 540
チェーン.....	385
点検.....	456
パンクしたときは.....	513
パンク応急修理キット.....	513
冬用タイヤ.....	385
ホイールサイズ.....	540
ローテーション（位置交換）.....	457
タイヤが空まわりする（スタックした）	536
タイヤ空気圧警報システム	
ID コードの切りかえ.....	464
ID コードの登録.....	462
機能について.....	458
空気圧バルブ／送信機について.....	459
空気圧表示画面.....	458
タイヤ位置の登録.....	460
タイヤ空気圧の設定.....	461
タイヤチェーン.....	385

ち

チェーン (タイヤチェーン)	385
チケットホルダー	413
チャイルドシート	42
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	52
シートベルトでの固定	51
選択方法	42
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	194
警告メッセージ	195
操作	194
冬季の注意	386
パーキングブレーキ表示灯	502
ブレーキ警告灯	496
未解除走行時警告ブザー	196
メンテナンスデータ	540

つ

通信利用型レーダークルーズコントロー ル	273
ツール (工具)	467, 514

て

提案サービス機能	107
停止表示板	414
ディスプレイ	
ヘッドアップディスプレイ	108
マルチインフォメーションディスプレイ	98
デイルイト	202
手入れ	444, 447
外装	444
シートベルト	447
デジタルインナーミラー	157
内装	447
ホイール・ホイールキャップ	444

レーダーセンサー	224, 293
テールランプ (尾灯)	201
ランプスイッチ	201
ランプの交換	483
デジタルインナーミラー	153
リヤカメラウォッシャー	211
デジタルキー	122
デフォグガー (リヤウインドウデフォッ ガー)	395
電気モーター	60, 64
点検基準値 (メンテナンスデータ)	538
電子キー	118
作動範囲	139
正常に働かないとき	525
節電機能	140
電池が切れた	525
電池交換	478
電池交換 (キー)	478
電動サンシェード	415
閉めることができないときは	416
挟み込み防止機能	415

と

ドア	125
イージークローザー	129
オートドアロック・アンロック機能	130
降車オートロック機能	125
衝撃感知ドアロック解除システム	127
スマートエントリー&スタートシステム	138
チャイルドプロテクター	130
ドアガラス	164
ドアロックスイッチ	128
ドアロックボタン	128
ワイヤレスリモコン	125
ドアカーテシランプ	407
ドアミラー	162
RCTA	319

安心降車アシスト	308
格納のしかた	163
操作	162
ドアミラー足元照明	407
BSM	292
ポジションメモリー	167
ミラーヒーター	395
リバース連動機能	163
盗難防止装置	
イモビライザーシステム	55
オートアラーム	56
時計	93
トッテザーアンカレッジ	54
トヨタチームメイトアドバンストパーク	343
ドライバー異常時対応システム	279
ドライバーモニター	230
ドライビングポジション	167
パワーイージーアクセスシステム	167
ポジションメモリー	168
メモリーコール機能	169
ドライブインフォメーション	102
ドライブスタートコントロール	180
急発進の抑制制御	180
後退速度の抑制制御	180
ドライブモードセレクトスイッチ ...	376
トラクションコントロール (TRC) ..	378
トランク	131
イージークローザー	135
オープナー	133
キー閉じ込み防止機能	136
クローザースイッチ	135
警告ブザー	129
電子キーが正常に働かないとき	525
トランクオープナーを使用できなくするに	137
トランク内装備	414
パワートランクリッド	131

ハンズフリーパワートランクリッド ...	134
メインスイッチ	137
トランクランプ	135
トランスミッション	188
操作	189
メンテナンスデータ	539
トリップメーター	96

な

内装

収納装備	410
手入れ	447
ナノイー X	400
ナビゲーションシステム連携表示 ..	102, 111

に

ニーエアバッグ	32
荷物	
積むときの注意	181
トランク	131

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	536
------------------------------	-----

ね

燃費

エネルギーモニター	112
瞬間燃費	100, 114
燃費情報	100, 114
平均燃費	100, 114

燃料

充てん	215
種類	538
燃料計	93
燃料残量警告灯	498

容量.....	538
燃料切れになったとき.....	66
燃料計.....	93
燃料充てん口	
充てんのしかた.....	215
燃料充てん口（補給口）.....	215
燃料電池車	
運転のアドバイス.....	73
回生ブレーキ.....	62
寒冷時.....	183
緊急停止システム.....	71
駆動用電池冷却用吸入口.....	72
高電圧部位.....	64
サービスプラグ.....	64
事故が発生したとき.....	70
車両接近通報装置.....	62
充電について.....	62
出力制限.....	67
水素安全.....	68
水素ガス.....	68
水素関連部位.....	64
注意.....	64
特徴.....	60
特有の音と振動.....	61
燃料切れになったとき.....	66
メンテナンス・修理・廃車するとき.....	61

は

パーキングサポートブレーキ（PKSB）	
.....	328
後方接近車両.....	335
後方歩行者.....	337
前後方静止物／周囲静止物.....	332
パーキングブレーキ.....	194
警告メッセージ.....	195
操作.....	194
冬季の注意.....	386
パーキングブレーキ表示灯.....	502

ブレーキ警告灯.....	496
未解除走行時警告ブザー.....	196
メンテナンスデータ.....	540
パーソナルランプ.....	409
排気排水管.....	67
ハイビーム（ヘッドランプ）.....	204
AHB（オートマチックハイビーム）.....	207
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....	204
ランプスイッチ.....	204
ランプの交換.....	483
ハイマウントストップランプ	
ランプの交換.....	483
ハザードランプ（非常点滅灯）.....	487
緊急ブレーキシグナル.....	379
スイッチ.....	487
ランプの交換.....	483
挟み込み防止機能	
パワーイージーアクセスシステム.....	167
パワーウィンドウ.....	164
パワートランクリッド.....	136
ポジションメモリー.....	168
メモリーコール機能.....	170
発炎筒.....	487
バックアップランプ（後退灯）	
ランプの交換.....	483
バッテリー（駆動用電池）	
搭載位置.....	64
冷却用吸入口.....	72
バッテリー（補機バッテリー）	
警告灯.....	497
搭載位置.....	450
補機バッテリーがあがった.....	527
補機バッテリーを交換するとき.....	529
バニティ（化粧用）ミラー.....	417
バニティミラーランプ.....	417
パワーイージーアクセスシステム... ..	167
パワーウィンドウ.....	164

ウインドウロックスイッチ	166
閉めることができないときは	164
初期化	164
操作	164
ドアロック連動ドアガラス開閉機能	165
挟み込み防止機能	164
巻き込み防止	164
パワーコントロールユニット	64
パワースイッチ	183
FC システム始動のしかた	183
自動電源 OFF 機能	187
車両を緊急停止するには	488
モードの切りかえ	187
パワーステアリング (エレクトリックパ ワーステアリング)	378
機能	378
警告灯	498
パワートランクリッド	131
パンクした	513
番号灯 (ライセンスプレートランプ)	201
ランプスイッチ	201
ランプの交換	483
ハンズフリーパワートランクリッド	134
ハンドル (ステアリングホイール)	152
位置調整	152
ステアリングヒーター	402
パワーイーザーアクセスシステム	167
ポジションメモリー	168
メーター操作スイッチ	99

ひ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	378
ビークルダイナミクスインテグレイテッ ドマネージメント (VDIM)	379
ヒーター エアコン・デフォグガー	394

シートヒーター	402
ステアリングヒーター	402
前方カメラ	226
ミラーヒーター	395
レーダー専用カバー	225
非常時給電システム	430
非常点滅灯 (ハザードランプ)	487
緊急ブレーキシグナル	379
スイッチ	487
ランプの交換	483
尾灯 (テールランプ)	201
ランプスイッチ	201
ランプの交換	483
ヒューズ	480
表示灯	90
日よけ サンバイザー	417
リヤサンシェード	426
ヒルスタートアシストコントロール	378

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	527
フード (ボンネット)	450
警告ブザー	129
フォグランプ (リヤフォグランプ)	210
スイッチ	210
ランプの交換	483
フォグランプ	210
スイッチ	210
ブザー RCD (リヤカメラディテクション)	325
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	320
FCTA (フロントクロストラフィックア ラート)	260
音さくいん	570
休憩提案機能 (LDA)	251
クリアランスソナー	316

シートベルト非着用警告	498, 499	パーキングブレーキ	194
車線逸脱警報機能 (LDA)	250	ブレーキホールド	197
衝突警報 (PCS)	232	メンテナンスデータ	539
スマートエントリー&スタートシステム	139	ブレーキアシスト	378
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	272	ブレーキフルード	539
手放し運転警告 (LDA)	252	ブレーキホールド	197
手放し運転警告 (PDA)	259	プロアクティブドライビングアシスト (PDA)	255
ドライバー異常時対応システム	279	フロアマット	26
ドライバーモニター	230	フロントクロスストラフィックアラート (FCTA)	260
パーキングブレーキ未解除走行時警告	196	フロントシート	144
発進遅れ告知機能	262	シートヒーター	404
パワーステアリング	502	正しい運転姿勢	27
半ドア走行時警告	129	調整	144
BSM (ブラインドスポットモニター)	292	手入れ	447
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	329	パワーウィンドウアクセスシステム	167
ブレーキ警告	496	ヘッドレスト	148
リバース警告	191	ポジションメモリー	168
フック		メモリーコール機能	169
けん引フック	491	フロント方向指示灯	193
コートフック	427	方向指示レバー	193
フロアマット固定フック	26	ランプの交換	483
フットレスト	428		
フューエルメーター	93	平均車速	102, 114
冬の前の準備 (寒冷時の運転)	385	平均燃費	100, 114
冬用タイヤ	385	ヘッドアップディスプレイ	108
ブラインドスポットモニター (BSM)	292	FC システムインジケーター	112
プラスサポート	338	運転支援システム表示	110
プリクラッシュセーフティ (PCS)	232	設定	110
機能	232	走行状況表示	108
PCS 警告灯	499	ナビゲーションシステム連携	108
ブレーキ		ポジションメモリー	168
回生ブレーキ	62	割り込み表示	111
緊急ブレーキシグナル	379	ヘッドランプ	201
警告灯	496	ライトセンサー	202
		ランプ消し忘れ防止機能	203

ランプスイッチ	201
ランプの交換	483
ヘッドランプオートレベリングシステム	203
ヘッドレスト	148
ベンチレーション（シートベンチレーション）	402

ほ

ホイール	
メンテナンスデータ	540
ホイールボルトレンチ	467
方向指示灯	193
方向指示レバー	193
ランプの交換	483
ホーン（警音器）	152
補機バッテリー	450
交換するとき	529
搭載位置	450
補機バッテリーがあがった	527
ポジションメモリー	167
保証	10
ポップアップフード	38
ボトルホルダー	412
ボンネット	450
開け方	450
警告表示	129
ポップアップフード	38

ま

マイセッティング	170
マルチインフォメーションディスプレイ	98
運転支援システム情報	102
エコアクセルガイド	100
エコジャッジ	100
エネルギーモニター	112

オーディオシステム連携	102
警告メッセージ	504
設定	103
タイヤ空気圧	458
地図表示	102
提案サービス機能	107
ドライブレインフォメーション	102
ナビゲーションシステム連携	102
燃費グラフ	100
メーター操作スイッチ	99

み

ミラー	
デジタルインナーミラー	153
ドアミラー	162
パニティミラー	417
ミラーヒーター	395
リヤカメラウォッシャー	211

め

メーター（計器類）	93
FC システムインジケーター	95
計器類	93
警告灯	496
警告メッセージ	504
照度調整	97
設定	103
時計	93
表示灯	90
マルチインフォメーションディスプレイ	98
メーター操作スイッチ	99
メカニカルキー	120
メモリーコール機能	169
メンテナンスデータ	538

も

モーター（電気モーター）.....64

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....541

雪道ですべて動けない（スタックした）
.....536

油脂類.....538

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
.....201

ランプスイッチ.....201

ランプの交換.....483

ラゲージマット.....414

ラゲージルーム（トランク）.....414

ラジエーター

オーバーヒート.....532

メンテナンスデータ.....538

ランプ

AHB（オートマチックハイビーム）.....207

AHS（アダプティブハイビームシステム）
.....204

外装のランプの交換.....483

室内灯.....407

非常点滅灯（ハザードランプ）.....487

ヘッドランプ（前照灯）.....201

方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウイ
ンカー）.....193

ライトセンサー.....202

ランプ消し忘れ防止機能.....203

リヤフォグランプ.....210

ランプ消し忘れ防止機能.....203

り

リヤアームレスト.....425

リヤウィンドウデフォグガー.....395

リヤカメラデテクション（RCD）...324

リヤサンシェード.....426

リヤシート.....145

調整.....145

リラクゼーションシステム.....146

リヤシートリマインダー機能.....127

リヤ席シートベルト非着用警告灯...499

リヤフォグランプ

ランプの交換.....483

リヤ方向指示灯.....193

方向指示レバー.....193

ランプの交換.....483

リヤマルチオペレーションパネル...390

る

ルームミラー（インナーミラー）

リヤカメラウォッシャー.....211

ルームランプ.....408

れ

冷却水.....538

メンテナンスデータ.....538

冷却装置（ラジエーター）.....538

オーバーヒート.....532

メンテナンスデータ.....538

レーダークルーズコントロール.....267

接近警報.....272

レーダー.....223

レーンチェンジアシスト（LCA）...246

レーンディパーチャーアラート（LDA）
.....250

レーントレーシングアシスト（LTA）
.....241

レバー

シフト.....188

方向指示.....193

ボンネット解除.....	450
ワイパー	211

・ドライブレコーダー

ろ

ロードサインアシスト (RSA)	264
------------------------	-----

ロック

ウインドウロック	166
スマートエントリー&スタートシステム	138
チャイルドプロテクター	130
ドア	125
ワイヤレスリモコン	120

わ

ワイパー&ウォッシャー.....	211
ウォッシャー液の補充.....	455
ワイパーブレード (寒冷地用)	386
ワイヤレス充電器 (おくだけ充電) .	419
ワイヤレスリモコン	120
作動の合図	127
操作	120
電池の交換	478
半ドア警告ブザー	127
ワックス.....	444

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

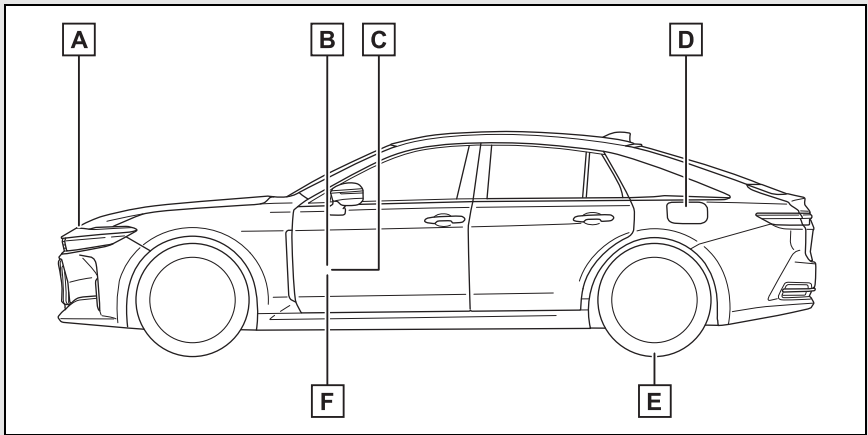
- ・音声対話サービス
- ・ナビゲーションシステム
- ・オーディオ
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect
- ・パノラミックビューモニター
- ・ETC2.0 システム





水素ステーションでの情報

燃料充てんなどの際に必要になる項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.450)
- B** 燃料充てん扉オープナー (→P.216)
- C** トランクオープナースイッチ (→P.133)
- D** 燃料充てん扉 (→P.216)
- E** タイヤ空気圧 (→P.540)
- F** ボンネット解除レバー (→P.450)

燃料の種類	圧縮水素ガス	P.538
燃料の容量 (参考値)	142.2L (約 5.7kg) ※ ※ 水素タンク容量は 142.2L で、約 5.7kg の圧縮水素ガスが貯蔵可能です。 ただし、ステーションの充填圧力により実際の充填量は異なります。	
タイヤが冷えているときの空気圧		P.540

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証） をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

